清須市
男女共同参画に関する
市民意識調査結果報告書

令和３年10月

愛知県清須市

目　次

第１章　調査実施の概要 1
1　調査の目的 1
2　調査の実施方法 1
3　調査票の回収状況 1
4　報告書の見方について 1
5　調査結果からみた分析 2
第2章　アンケート調査結果 7
1　回答者の属性 7
2　男女平等感について 9
（１）家庭生活 9
（２）職場 12
（３）学校教育の場 15
（４）地域活動の場 18
（５）政治の場 21
（６）法律や制度の上 24
（７）社会通念・習慣・しきたりなど 27
（８）社会全体として 30
3　家庭生活について 33
（１）夫婦の役割 33
（２）家事の分担 40
（３）家事、子育て、介護、地域活動への男性の積極的な参加 49
（４）生活における優先順位 51
（５）家事・育児・介護に携わる時間 55
4　地域や社会との関わり 57
（１）地域活動における役割分担 57
（２）地域活動における男女共同参画 64
5　仕事について 76
（１）仕事に対する意識 76
（２）職場における制度の認知状況 80
（３）職場における制度の利用状況 89
（４）新型コロナウイルスの影響 98
6　女性の社会進出 99

（１）女性の職業 99
（２）女性の離職 105
7　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について 109
（１）ＤＶに関する認知状況 109
（２）ＤＶの経験とその対応 118
8　ハラスメントについて 122
9　性の多様性（ＳＯＧＩＥ（ソジー））について 124
10　男女共同参画全般 128
（１）男女共同参画社会の認知状況 128
（２）この10年間の男女共同参画の進展 130
（３）男女共同参画社会の実現に向けて 133
資料編 141
（１）調査票 141

第１章
調査実施の概要

第１章　調査実施の概要

1　調査の目的

清須市では、令和４年度を初年度とする「第２次清須市男女共同参画プラン」を策定するにあたって、満20歳以上の市民を対象に、男女共同参画に関する意識や実態などを把握するためのアンケートを実施しました。

2　調査の実施方法

調査の実施方法は、以下のとおりです。

■調査の実施方法

調査票「男女共同参画に関する市民意識調査」	
調査対象者	本市に居住する満20歳以上の市民
調査票配布数	2,000人
調査期間	令和３年７月１日～令和３年７月16日
調査票の配布・回収	郵送

3　調査票の回収状況

調査票の回収状況は、以下のとおりです。

■調査票の回収状況

単位：件、％

	配布数	回収数	回収率
調査票「男女共同参画に関する市民意識調査」	2, 000	789	39. 5

4　報告書の見方について

- 調査結果の数値については小数点第２位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100.0%にならない場合があります。また、標本の大きさ（データの個数）を「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。
- 「ｎ」（母数）が10人以下のデータについては、コメントを省略しています。
- 国・県との比較分析では、「令和元年度 男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）及び「令和元年度 男女共同参画社会の実現に向けて〔調査票報告書〕」(愛知県)の調査データを使用しています。
- 経年比較グラフで使用している「H25調査」とは、平成25年度に清須市が実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」の調査結果を指します。また、「R３調査」は今回実施した調査結果を指します。

5　調査結果からみた分析

課題１　男女平等感について

男女の平等感では、学校教育の場では平等と感じている人が多いものの、職場、政治の場、社会通念・慣習・しきたりなどにおいては、男性が優遇されていると感じている人が多くなっています。また、職場環境と家庭生活においては、平等と感じる人の割合が平成25年の前回調査より増加したものの、それ以外の場面では平等と感じる人の割合が減少しており、依然として多くの場面で平等感が希薄な状況です。

男女が互いにその人権を尊重し責任を分かち合い、あらゆる分野において、その個性と能力を十分に発揮しながら、いきいきと生活するためには、固定的な性別役割分担意識等の存在に気づき、市民がそれを改めていくための意識の醸成を図る必要があります。また、こうした固定的な性別役割分担意識が次の世代へと習慣化することのないよう、学校など教育の場においては、子どもたちが、性別にとらわれない自主性を尊重した自立意識を育み、個人の可能性を発揮できるような教育が求められます。

課題２　家庭生活における役割の状況

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、「賛成」の割合は前回調査に比べ大きく減少しています。また、「反対」の理由としては、「家事、育児、介護は妻だけの役割ではないから」の割合が最も高く、固定観念にとらわれない人が増加しています。

一方、既婚者（事実婚を含む）の家庭における家事や子育て、介護の分担状況では、主に妻が担っている状況がみられました。また、平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間においても女性の約８割が「１時間～５時間以上」に対して、男性は９割が「まったく関わっていない～３時間未満」となり、性別での差が大きくみられました。

今後さらに高齢化が進み、介護を担う家庭も増えていくことが推測されることから、家庭的責任を男女で分かち合い、仕事と子育て、介護が両立できるように各種支援サービスの充実を図るなど、環境の整備が重要となります。

課題３　地域や社会との関わり

地域活動に参加している人が、活動の中で男女不平等であると感じることは、「役職者には男性が就き、女性は補助的な役割であることが多い」が最も高く、実際に地域活動における役割分担をみると、主に女性が担う役割は「集会などでのお茶くみ、調理」の割合が高く、男性では「会長などの役職」、「集会などの運営、取り仕切り」が高い状況です。さらに、女性が地域活動のリーダーとなるために必要なことは、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が高くなっており、意識改革が必要と感じる反面、固定的な性別役割分担の意識が依然として根付いていることがうかがえます。

男女共同参画社会の実現のためには、固定的な性別役割分担意識の解消に向けて、正しい知識を持ち、その必要性を理解することが大切です。市民が男女共同参画の意識を高めるためにも、効果的な広報啓発活動を進めていく必要があります。

課題４　仕事、女性の社会進出について

仕事を選ぶ際に重視すること、またはしたいことでは、「勤務時間、勤務場所の条件が良い」、「職場の雰囲気が良い」が５割を超え、「育児や介護への理解や制度が整っている」は２割程度にとどまっています。

「育児休業制度」の認知度は８割を超えています。実際に利用した割合は12.6%で、特に男性では１割未満と少ない状況であるものの、平成25年の前回調査と比較すると5.8%から6.8ポイントの増加がみられ、年代別においても40代では「取りたかったが、取ったことはない」が「取ったことがある」を上回っているが、30代では逆転していることから、年々取得しやすい環境へと変化していることがうかがえます。

一方、その他「子の介護休暇制度」「介護休業制度」「介護休暇制度」については、８割近くの人が「内容を知らない」もしくは「制度名を知らない」状況で、平成25年の前回調査と比較しても大きな変化はみられません。

また、女性が職業をもつことについて、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」と考える『中断なし就業』支持が、平成25年の前回調査より男女ともに大幅に増えており、女性が働き続けるためには、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が求められています。

さらに、離職した女性の社会での再活動の仕方では、男女ともに「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」、「これまでの知識・経験を活かして働けることを重視し、正社員として再就職する」の割合が高く、『正社員』として復職することへの希望や期待が高い状況です。

女性が離職せずに働き続けることができるよう、環境の整備を図るとともに、「女性活躍推進法」の内容も踏まえた、就業の場における女性の活躍をより一層促進していく必要があります。

課題５　DV（ドメスティック・バイオレンス）について

ＤＶの被害者は男女ともに１割未満となっているものの、ＤＶの被害経験者のうち、「相談していない」と回答した割合が半数以上を占めており、表面化している以上に潜在的な被害が多いことが予想されます。また、ＤＶの相談窓口の認知度も５割程度に留まっています。

暴力は潜在化しやすい問題ですが、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であるとともに、子どもが見ている前での夫婦間の暴力は子どもへの心理的虐待にもあたります。

被害の当事者だけでなく、ＤＶや虐待等の発見時の通報義務なども含め、広く市民に知識を普及していく必要があります。

課題６　ハラスメントについて

この３年間にハラスメントと思う行為を受けた経験の有無をみると、「受けたことがある」は全体で17.1%、性別では女性が18.5%、男性が14.7%となっています。また、受けたハラスメントは、女性では「モラル・ハラスメント」、男性では「パワー・ハラスメント」が最も高くなっています。

ハラスメントは、さまざまな関係性の中で起こりうると考えられており、また、日々のストレスや自信喪失、能力が発揮できない、モチベーションの低下など受ける側への影響が大

きいだけでなく、その周りにいる人々にも影響を及ぼします。職場や学校、家庭、地域など様々な場において、ハラスメント防止の周知・啓発を行い、市民一人ひとりの意識を高めていく必要があります。

課題７　性の多様性について

ＳＯＧＩＥ（ソジー）の認知状況をみると、「言葉の意味を知っている」は全体では7.9%、年代別では、「言葉の意味を知っている」は60代で10.4%、70代で10.1%と１割を超えるものの、20代で1.9%となり、年代が下がるほど認知度が低い状況です。

一方、ＬＧＢＴＱ（性的少数者）の認知状況をみると、「言葉の意味を知っている」は全体では39.4%、年代別では、「言葉の意味を知っている」は20～40代で５割を超える一方、80代で9.6%となり、年代が上がるほど認知度が低い状況です。

また、ＬＧＢＴＱ（性的少数者）などの人たちが暮らしやすい社会にするためには、「幼少期からの教育の充実」や「性的少数者の人が相談できる窓口の設置」が求められています。

近年、性の多様性への意識は高まりつつあるものの、自らの性のあり方に悩み、受け入れられたいと思った時にも、依然として周囲からの理解不足による差別的扱いを受けるなど、課題解決には至っていません。言葉の意味を知るだけでなく、ＬＧＢＴＱの人たち自身や立場、考え方を理解し、お互いに認め合うことが大切です。そのためには、職場や学校、家庭、地域など様々な場において、理解を深めるための啓発活動や教育を充実させる必要があります。

課題８　男女共同参画社会の実現に向けた取組について

この10年間の「家庭生活」「職場」「地域」における男女共同参画の進展状況では、「家庭生活」で進展したと思う割合が最も高く、「地域」が最も低くなっています。また、男女共同参画の推進のために、今後市民が取り組めることとしては「様々な人の個性や生き方を認める」、「男性が育児・介護休業制度を利用することに理解を示す」、「女性が働くことを応援する」が約５割で高くなっています。また、企業に求めることは「仕事と家庭を両立するための制度（育児・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる」の割合が最も高く、市に求めることでは「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」、「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が高くなっており、働き方や職場環境に対する男女共同参画の促進が強く求められています。

市民のニーズをとらえ、施策の見直しや取り組みを強化していくことは重要です。今回の調査からは「働き方」や「職場環境」に対するニーズが高まっていることが分かりました。これらについては、前述した課題２，４，５と同様に、仕事と育児や介護が両立できるように各種支援サービスの充実、女性が働き続けることができる、職場環境の整備が重要となります。

第２章
アンケート調査結果

第２章　アンケート調査結果

１　回答者の属性

設問と選択肢（いずれも単数回答）	令和３年度調査		平成25年度
	人数（人）	割合（%）	割合（%）
問１　性別			
全体	789	100.0	100.0
女性	455	57.7	54.5
男性	327	41.4	41.1
回答したくない、わからない、その他	3	0.4	***
無回答	4	0.5	4.5
問２　年齢			
全体	789	100.0	100.0
20代	52	6.6	11.5
30代	114	14.4	15.5
40代	146	18.5	15.8
50代	110	13.9	14.8
60代	134	17.0	19.1
70代	149	18.9	22.2
80代	73	9.3	
90歳以上	8	1.0	
無回答	3	0.4	1.1
問３　職業			
全体	789	100.0	100.0
会社員・公務員（会社役員等を含む）	262	33.2	29.9
派遣・契約社員	22	2.8	2.2
パート・アルバイト	136	17.2	15.1
自営業・農漁業（家族従事者を含む）	59	7.5	7.1
自由業（医師・弁護士・芸術家など）	13	1.6	1.0
家事専業（主婦・主夫）	128	16.2	18.6
無職	151	19.1	20.9
学生	5	0.6	2.0
その他	11	1.4	2.4
無回答	2	0.3	0.8
問４　婚姻状況			
全体	789	100.0	100.0
既婚（事実婚を含む）	575	72.9	71.1
離別	39	4.9	10.9
死別	72	9.1	
未婚	94	11.9	15.2
無回答	9	1.1	2.8

設問と選択肢（いずれも単数回答）	令和３年度		平成25年度
	人数（人）	割合（%）	割合（%）
問４－１　共働きしているか　※問４で「既婚（事実婚を含む）」と回答した方のみ			
全体	575	100.0	100.0
している	300	52.2	41.1
していない	272	47.3	49.3
無回答	3	0.5	9.6
問５　子どもの有無			
全体	789	100.0	100.0
同居している子どもがいる	418	53.0	55.0
子どもはいるが同居していない	188	23.8	20.5
子どもはいない	167	21.2	23.7
無回答	16	2.0	0.7
問６　家族構成			
全体	789	100.0	100.0
ひとり暮らし（単身世帯）	88	11.2	5.7
夫婦（パートナー）のみ（１世代世帯）	216	27.4	23.7
親と子（２世代世帯）	378	47.9	51.8
親と子と孫（３世代世帯）	76	9.6	14.5
その他	21	2.7	2.9
無回答	10	1.3	1.3
問７　お住まいの地区（小学校区）			
全体	789	100.0	100.0
西枇杷島小学校区	106	13.4	18.9
古城小学校区	80	10.1	7.8
清洲小学校区	163	20.7	21.2
清洲東小学校区	86	10.9	9.6
新川小学校区	107	13.6	12.3
星の宮小学校区	40	5.1	6.3
桃栄小学校区	48	6.1	9.2
春日小学校区	94	11.9	9.5
わからない	51	6.5	4.5
無回答	14	1.8	0.7

2　男女平等感について

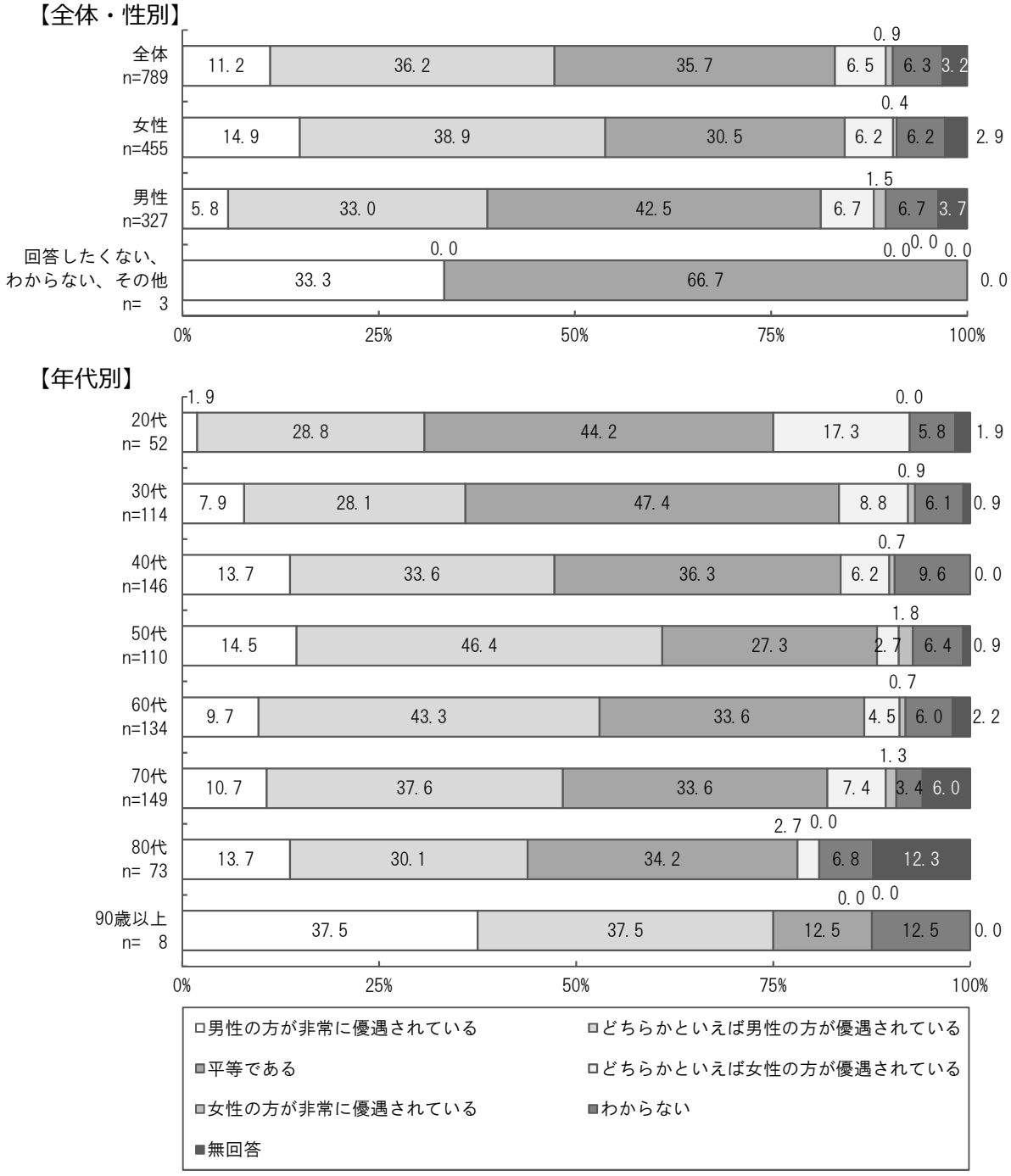
（１）家庭生活

○家庭生活において、『男性優遇』は全体で47.4%となっています。女性は53.8%、男性は38.8%となり、女性が15.0ポイント上回っています。一方、「平等である」は男性が42.5%、女性が30.5%となり、男性が12.0ポイント上回っています。

○年代別では、50代・60代で『男性優遇』が５割を超えています。また、20代・30代では４割以上が『平等である』と回答しています。

※『男性優遇』:「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
『女性優遇』:「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

問８-Ａ　家庭生活における男女平等感

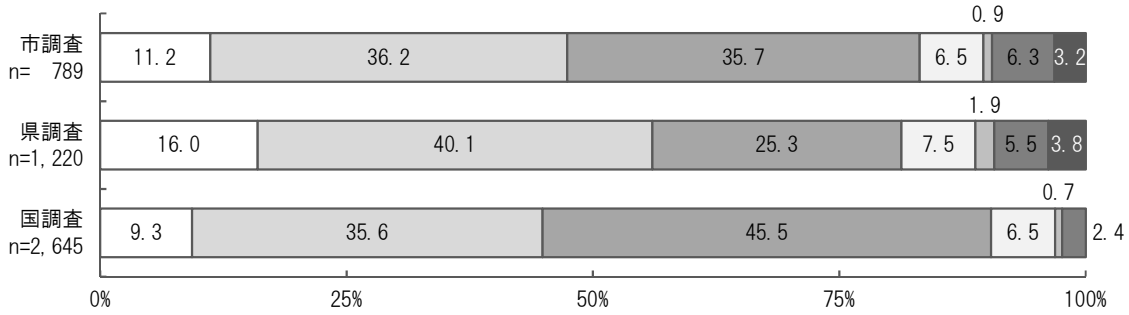


○県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性・男性いずれも低くなっています。一方、『平等である』は市調査がいずれも高く、女性は11.2ポイント上回っています。

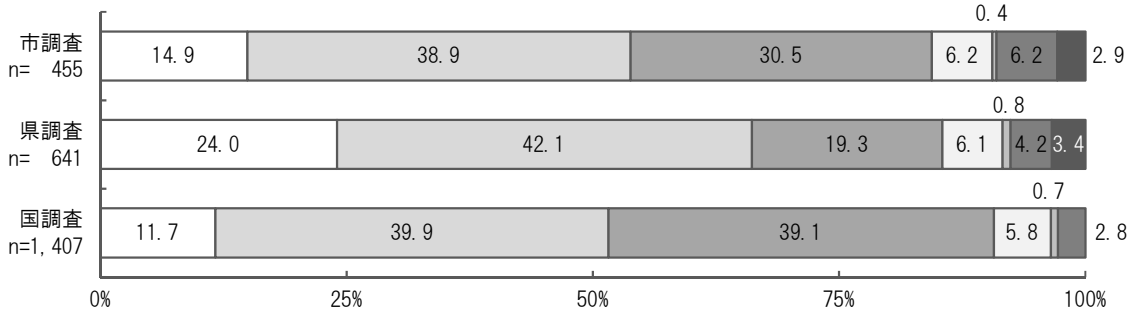
○国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性・男性いずれも高くなっています。一方、『平等である』は市調査がいずれも低く、男性は10.2ポイント下回っています。

問８-Ａ　家庭生活における男女平等感（県調査及び国調査との比較）

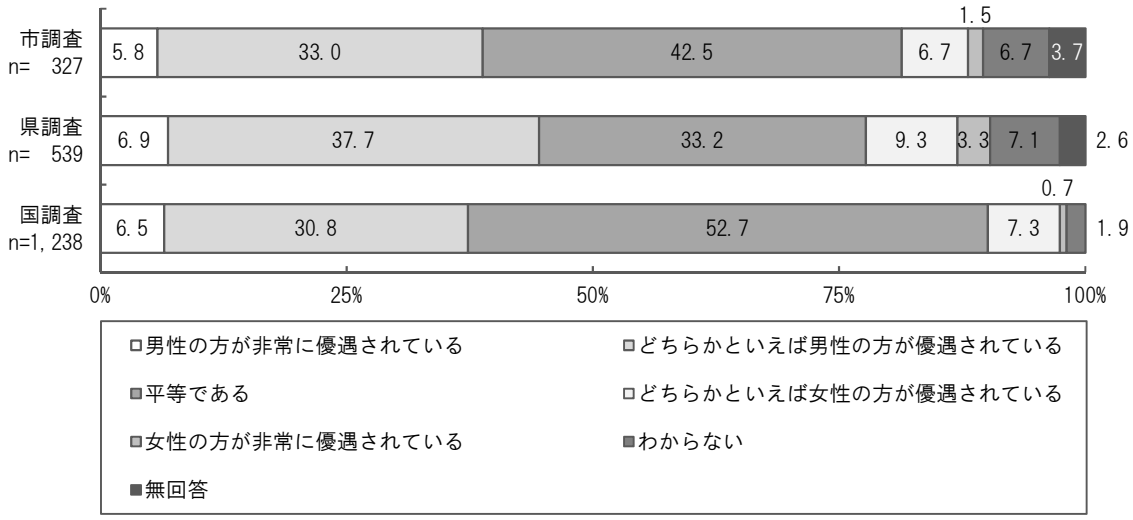
【全体】



【女性】



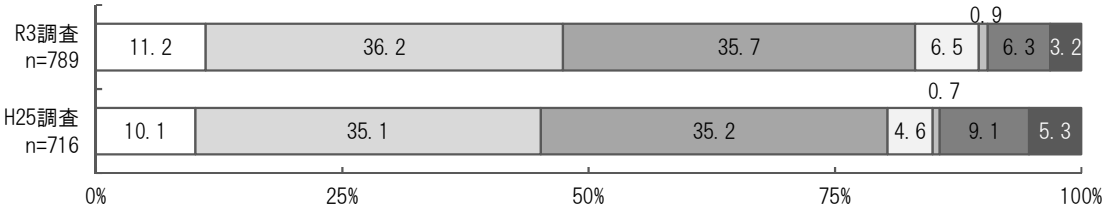
【男性】



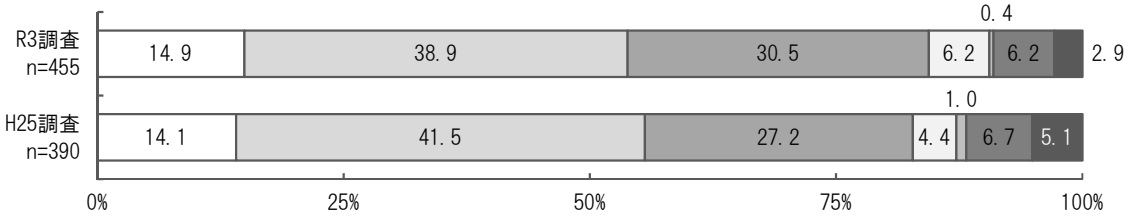
○H25調査と比較すると、R3調査では、全体の『男性優遇』『平等である』『女性優遇』がやや高くなっています。
『男性優遇』は女性で53.8%と５割を超えているものの、前回調査よりやや低くなり、『平等である』『女性優遇』がやや高くなっています。

問８-Ａ　家庭生活における男女平等感（経年比較）

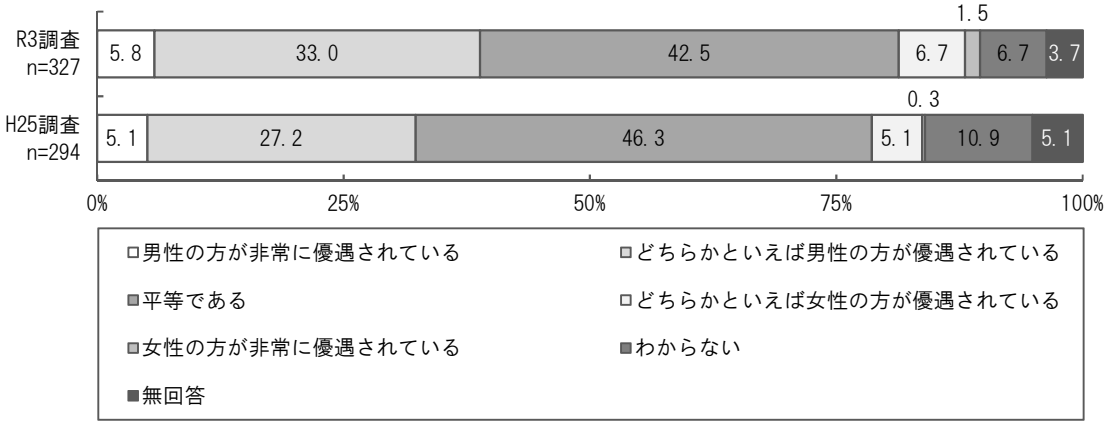
【全体】



【女性】



【男性】



※国調査では「無回答」はありません。（以下同様）

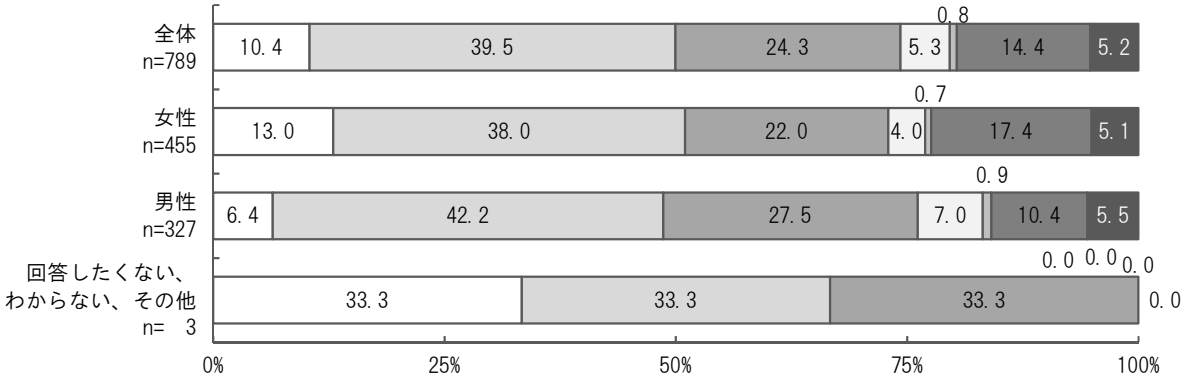
（２）職場

○職場において、『男性優遇』は全体で49.9%、女性は51.0%、男性は48.6%といずれも５割前後となっています。

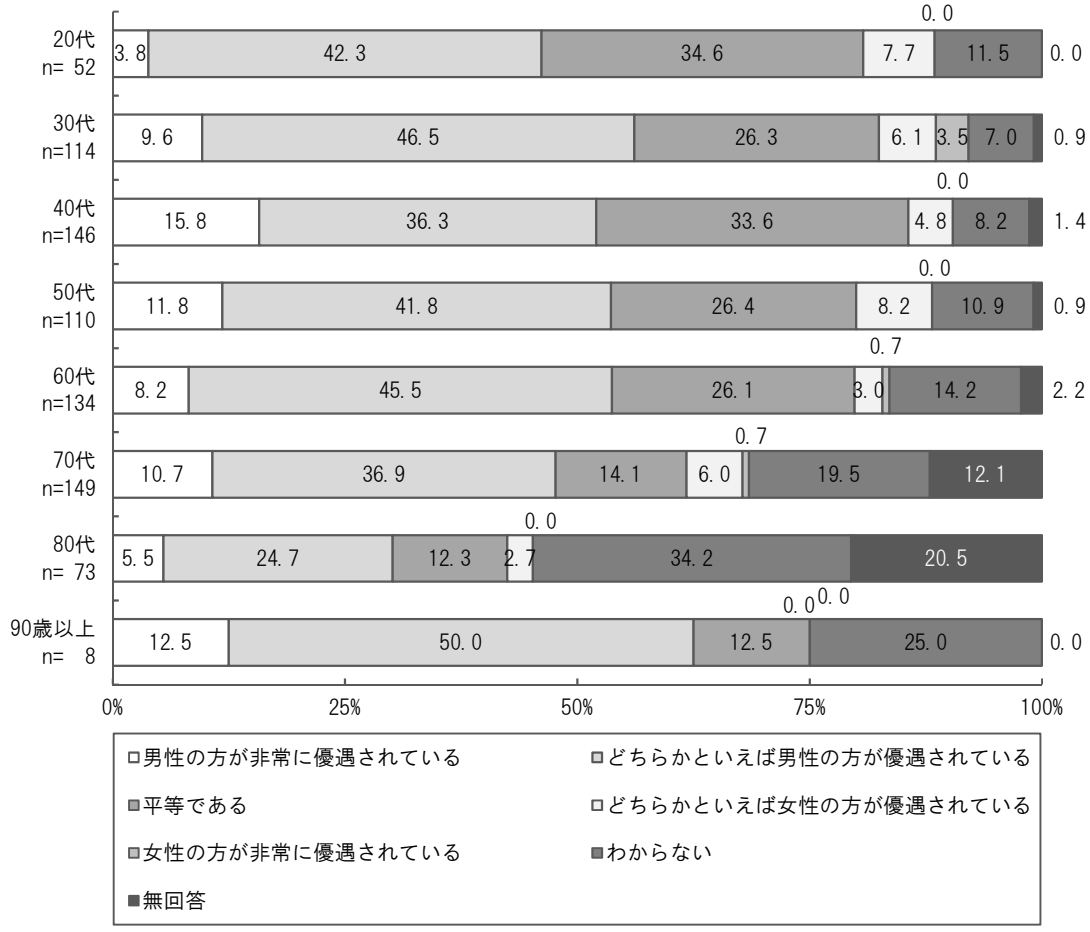
○年代別では、『男性優遇』が30～60代で５割を超えています。また、20代・40代では３割以上が『平等である』と回答しています。

問８-Ｂ　職場における男女平等感

【全体・性別】



【年代別】

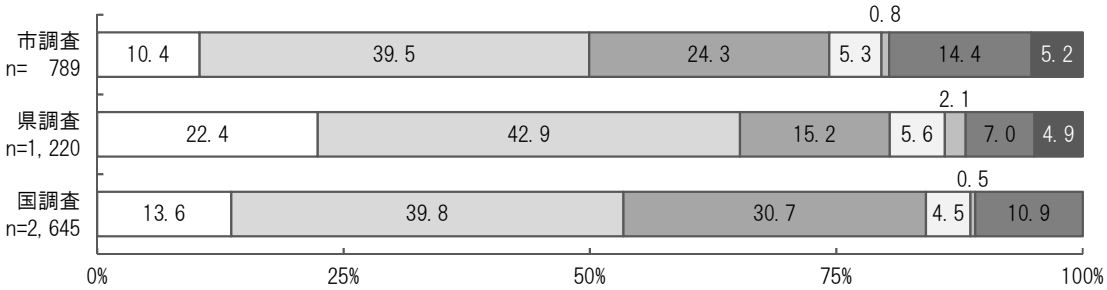


○県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性・男性いずれも低く、女性では18.7ポイント下回っています。一方、『平等である』は市調査がいずれも高くなっています。

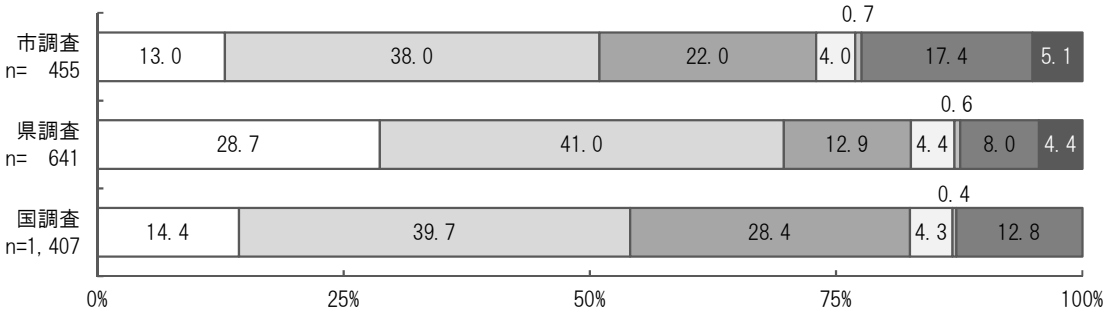
○国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』『平等である』は、全体・女性・男性いずれも低くなっています。

問８-Ｂ　職場における男女平等感（県調査及び国調査との比較）

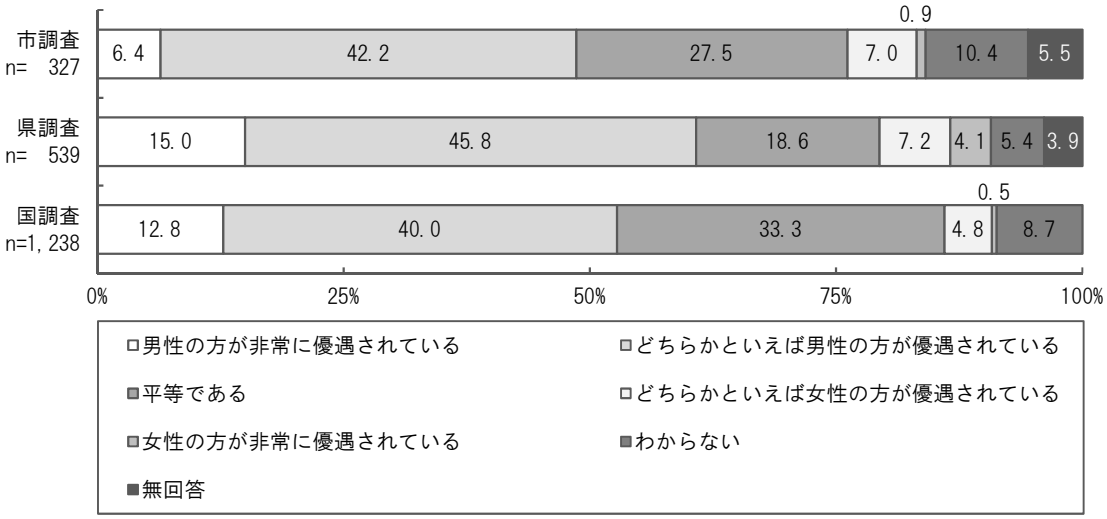
【全体】



【女性】



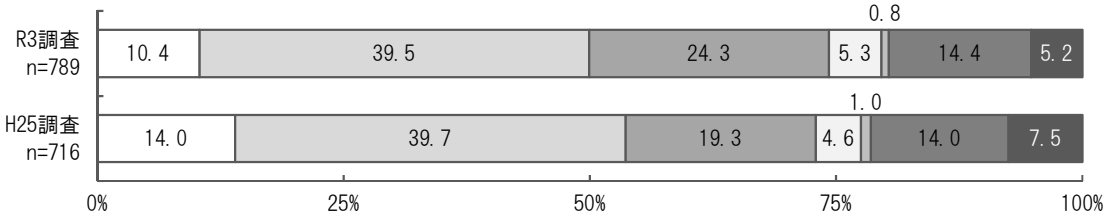
【男性】



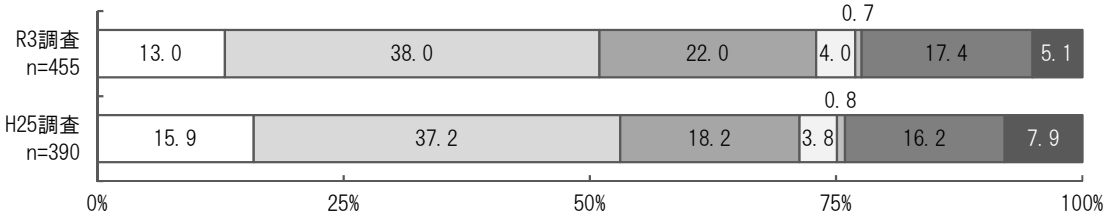
○H25調査と比較すると、R3調査では『男性優遇』が全体・女性・男性いずれも低くなっています。一方、『平等である』はいずれも高くなっています。

問８-Ｂ　職場における男女平等感（経年比較）

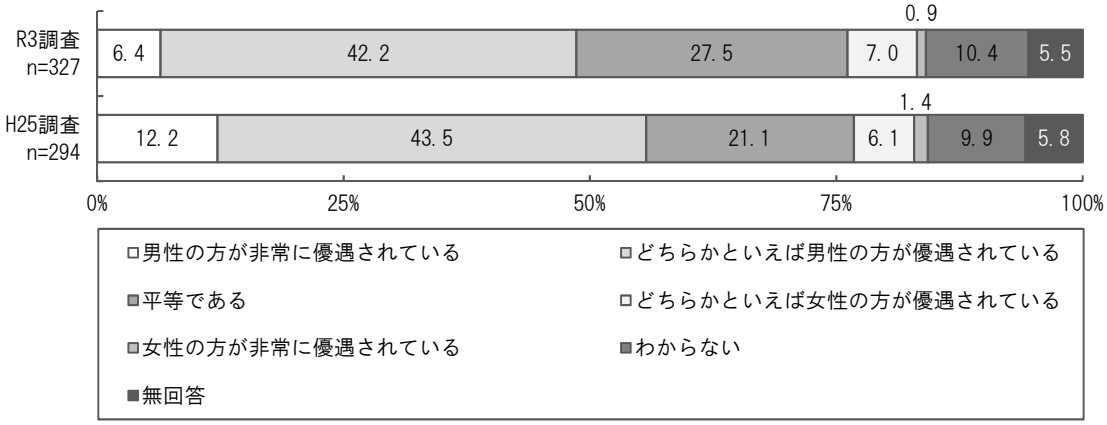
【全体】



【女性】



【男性】



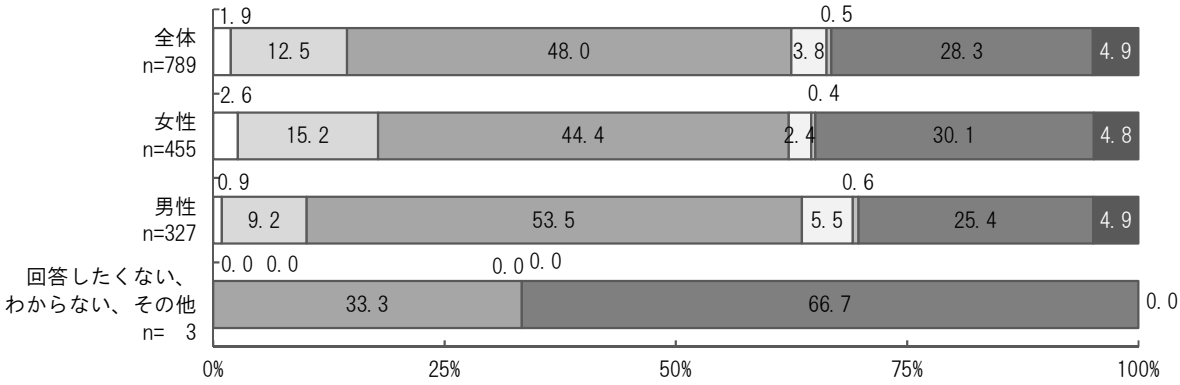
（３）学校教育の場

○学校教育の場において、『平等である』は全体で48.0%、女性は44.4%、男性は53.5%となっています。

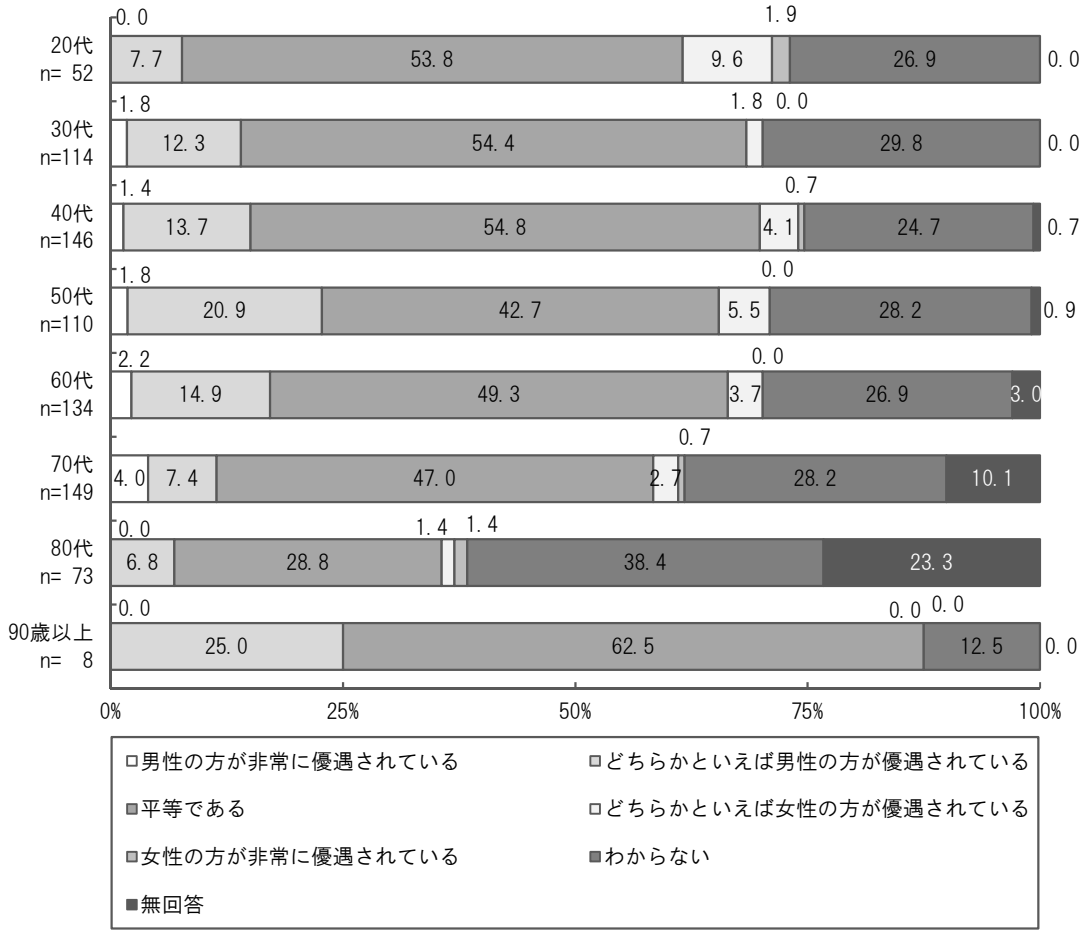
○年代別では、『平等である』が20～40代で５割、50～70代で４割を超えています。

問８-Ｃ　学校教育の場における男女平等感

【全体・性別】



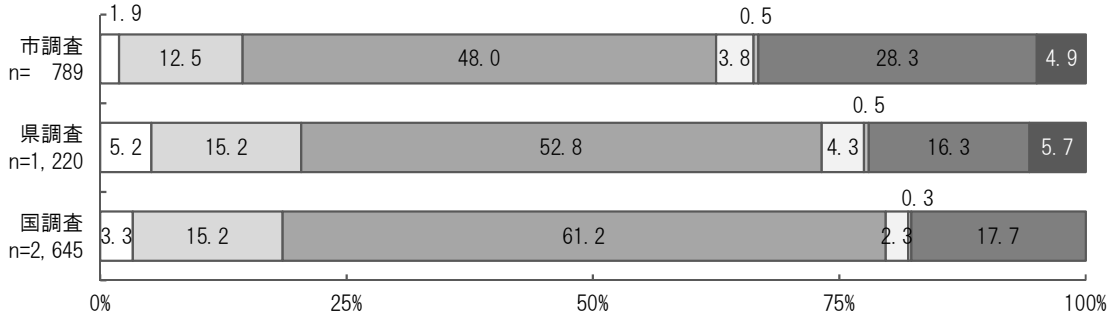
【年代別】



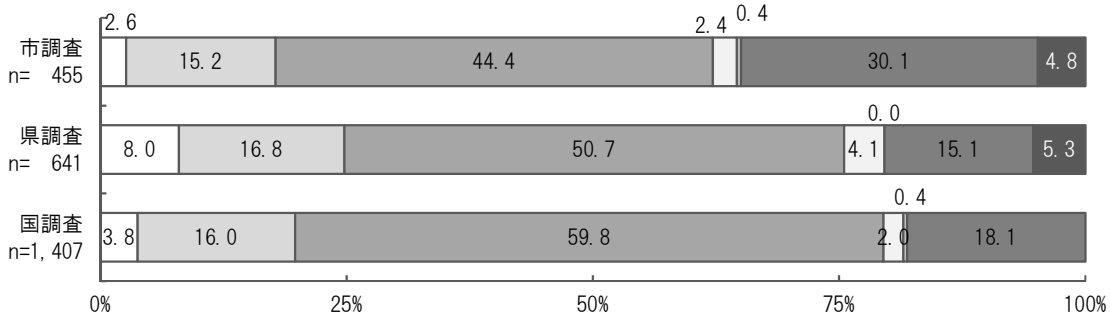
○県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』『平等である』は、全体・女性・男性いずれも低くなっています。
○国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性・男性いずれも低くなっています。また、『平等である』は全体・女性・男性いずれも低く、特に女性は15.4ポイント下回っています。

問８-Ｃ　学校教育の場における男女平等感（県調査及び国調査との比較）

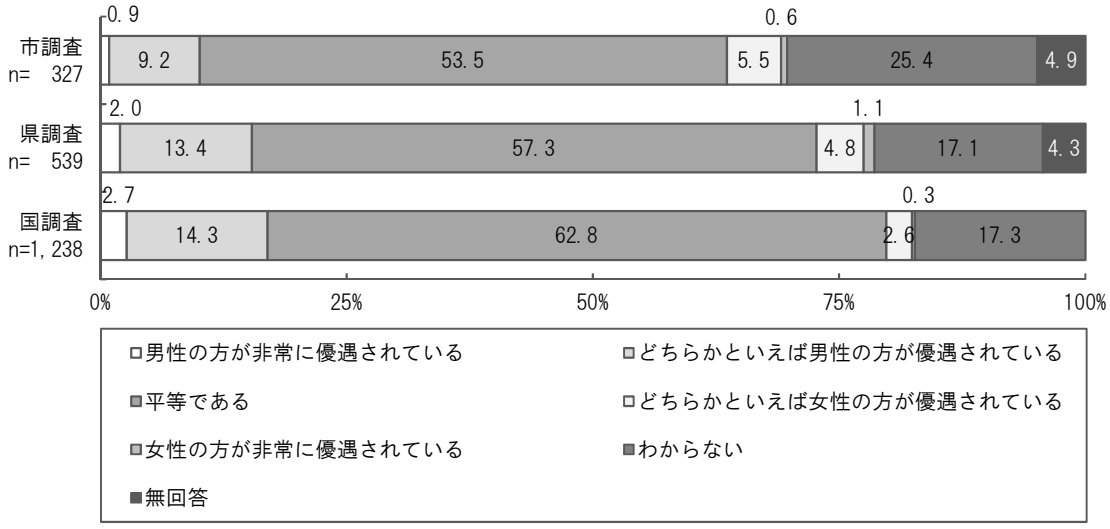
【全体】



【女性】



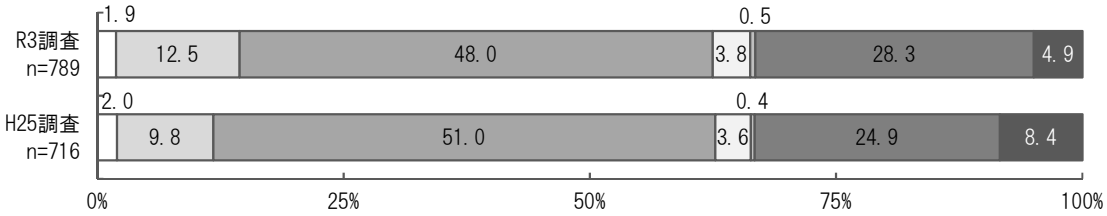
【男性】



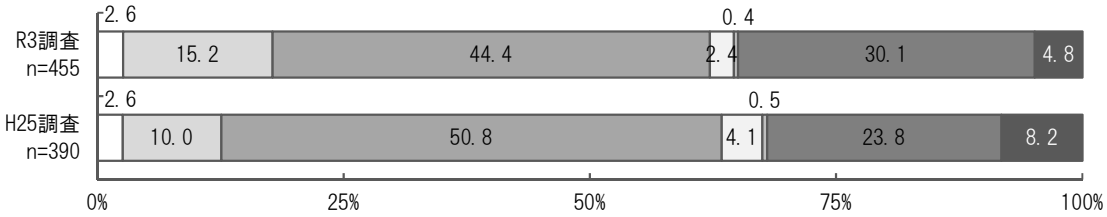
○H25調査と比較すると、R3調査では『男性優遇』が全体・女性で高くなり、男性で低くなっています。一方、『平等である』が全体・女性で低くなり、男性で高くなっています。

問８-Ｃ　学校教育の場における男女平等感（経年比較）

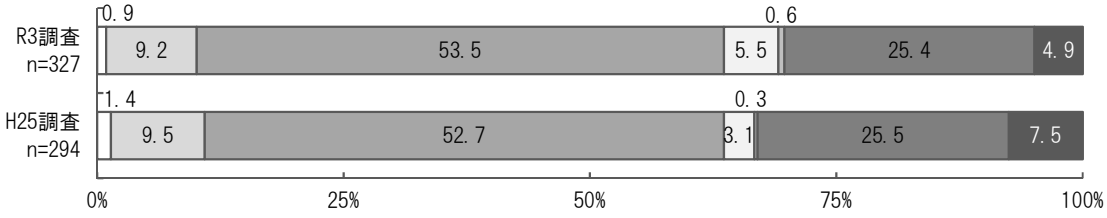
【全体】

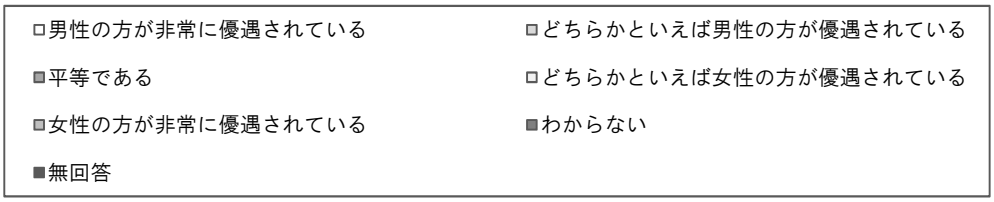


【女性】



【男性】





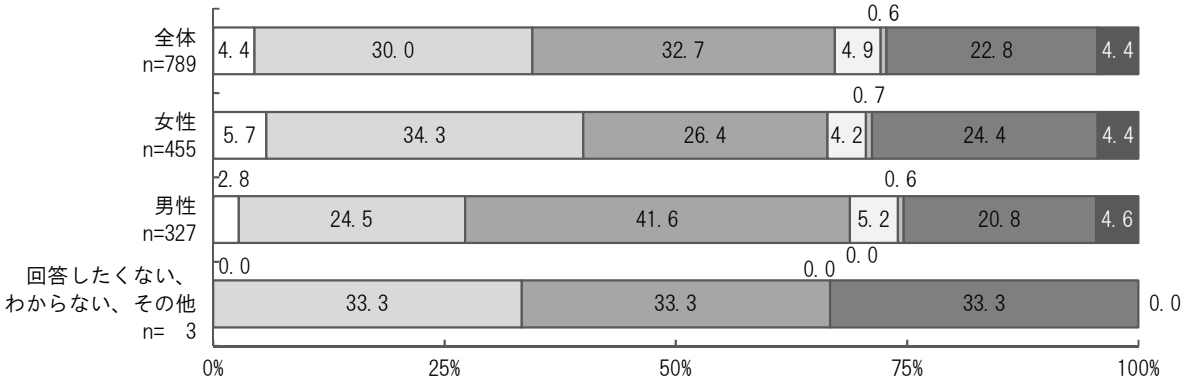
（４）地域活動の場

○地域活動の場において、『男性優遇』は全体で34.4%、女性は40.0%、男性は27.3%となり、女性が男性より12.7ポイント上回っています。一方、『平等である』は全体で32.7%、女性は26.4%、男性は41.6%となり、男性が女性より15.2ポイント上回っています。

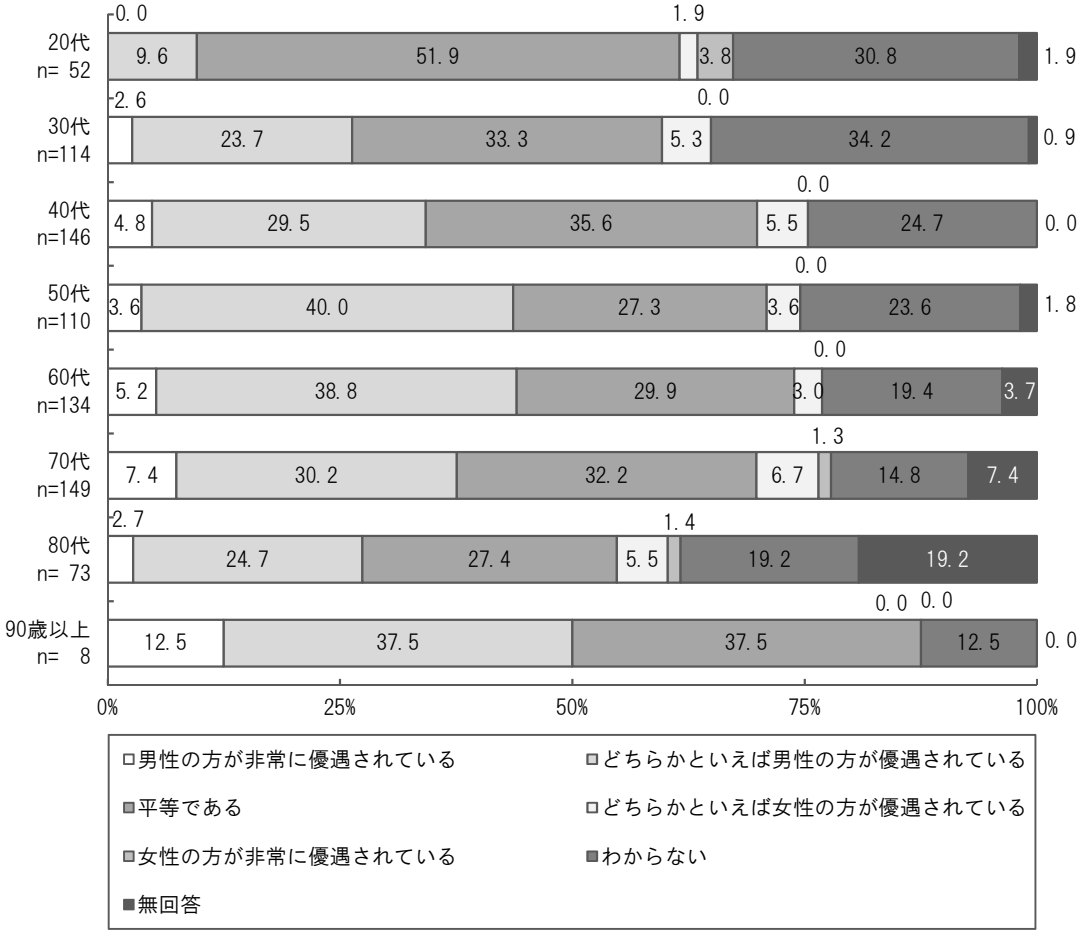
○年代別では、『平等である』が20代で51.9%と５割を超えています。50～70代は『平等である』より『男性優遇』が高くなっています。

問８-Ｄ　地域活動の場における男女平等感

【全体・性別】



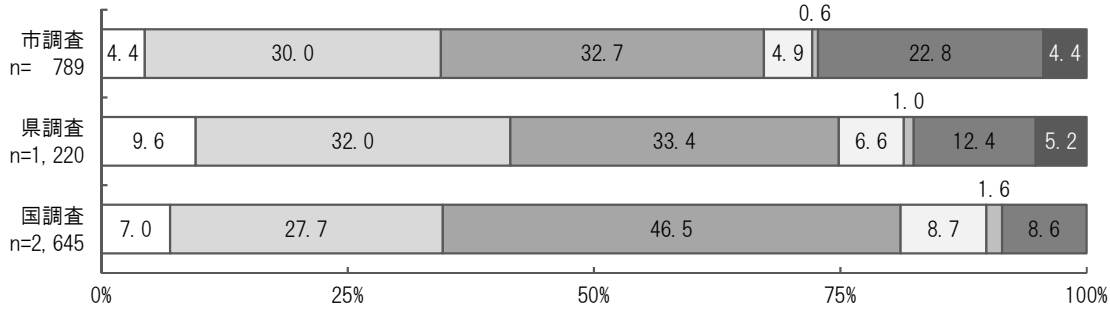
【年代別】



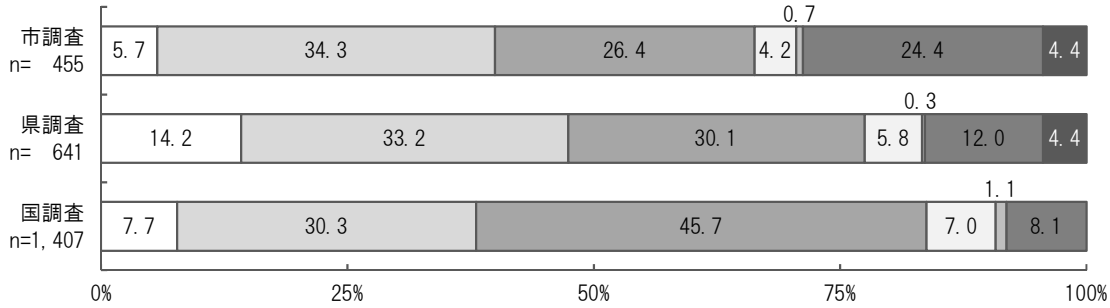
○県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性・男性いずれも低くなっています。また、市調査の『平等である』は、男性がやや高くなっています。
○国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・男性で低くなっています。また、市調査の『平等である』は、全体・女性・男性いずれも低く、特に女性は19.3ポイント下回っています。

問８-Ｄ　地域活動の場における男女平等感（県調査及び国調査との比較）

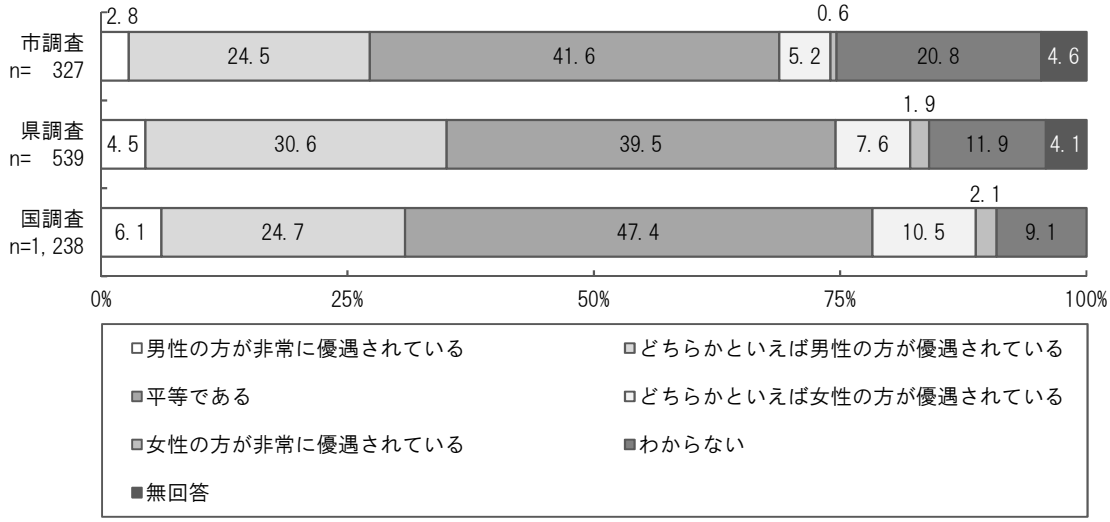
【全体】



【女性】



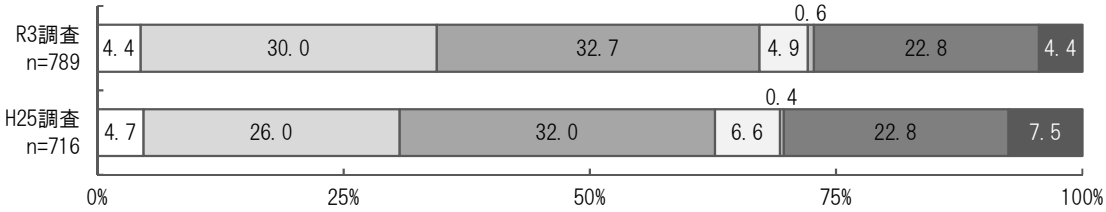
【男性】



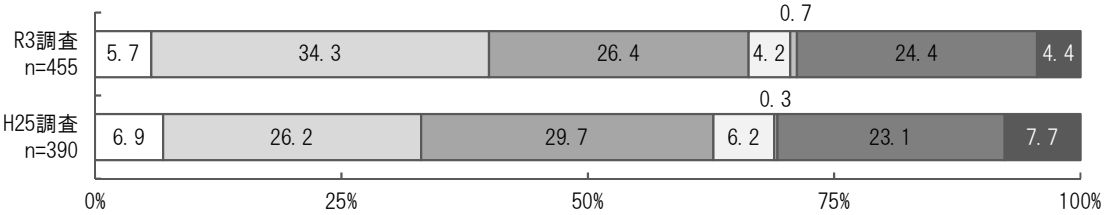
○H25調査と比較すると、R3調査の『男性優遇』は全体・女性で高く、男性で低くなっています。一方、『平等である』は女性で低く、全体・男性で高くなっています。特に男性では6.9ポイント上回っています。

問８-Ｄ　地域活動の場における男女平等感（経年比較）

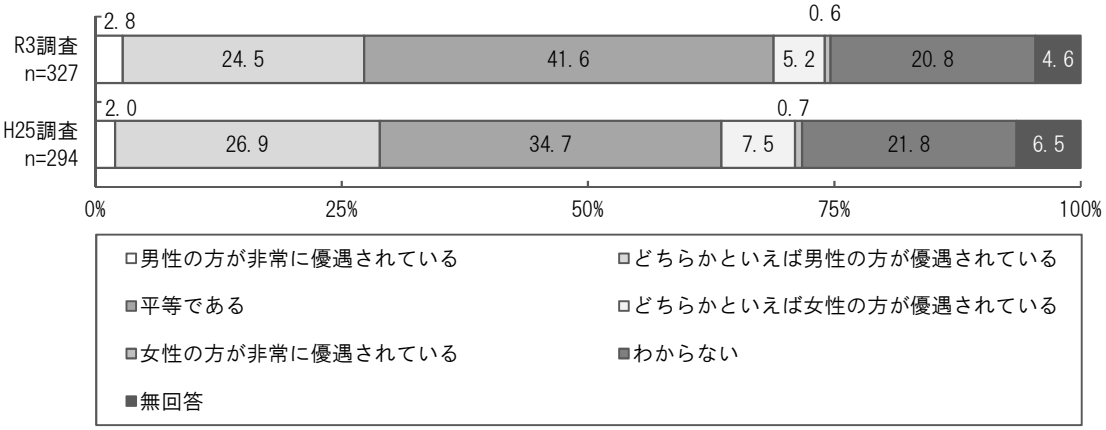
【全体】



【女性】



【男性】



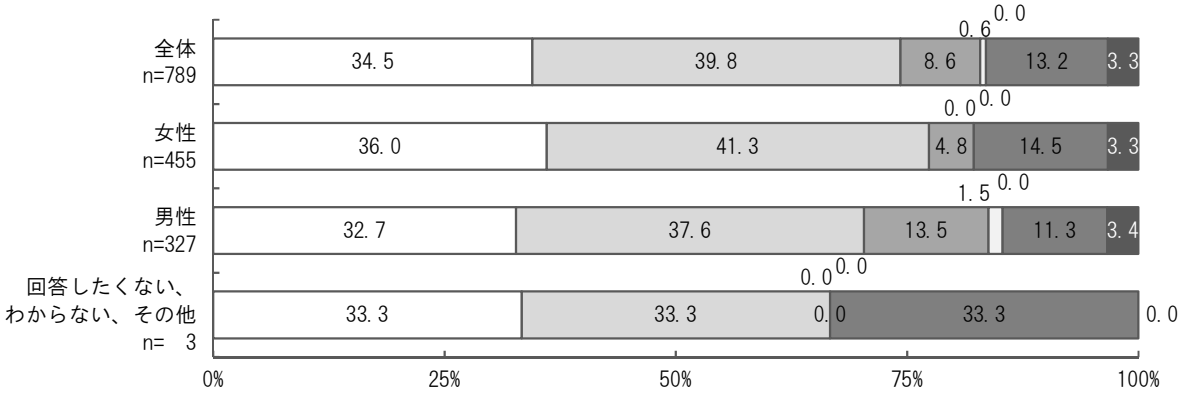
（５）政治の場

○政治の場において、『男性優遇』は全体で74.3%、女性は77.3%、男性は70.3%となり、いずれも７割を超えています。一方、『平等である』は全体で8.6%、女性は4.8%、男性は13.5%となり、さらに『女性優遇』は女性で0.0%となっています。

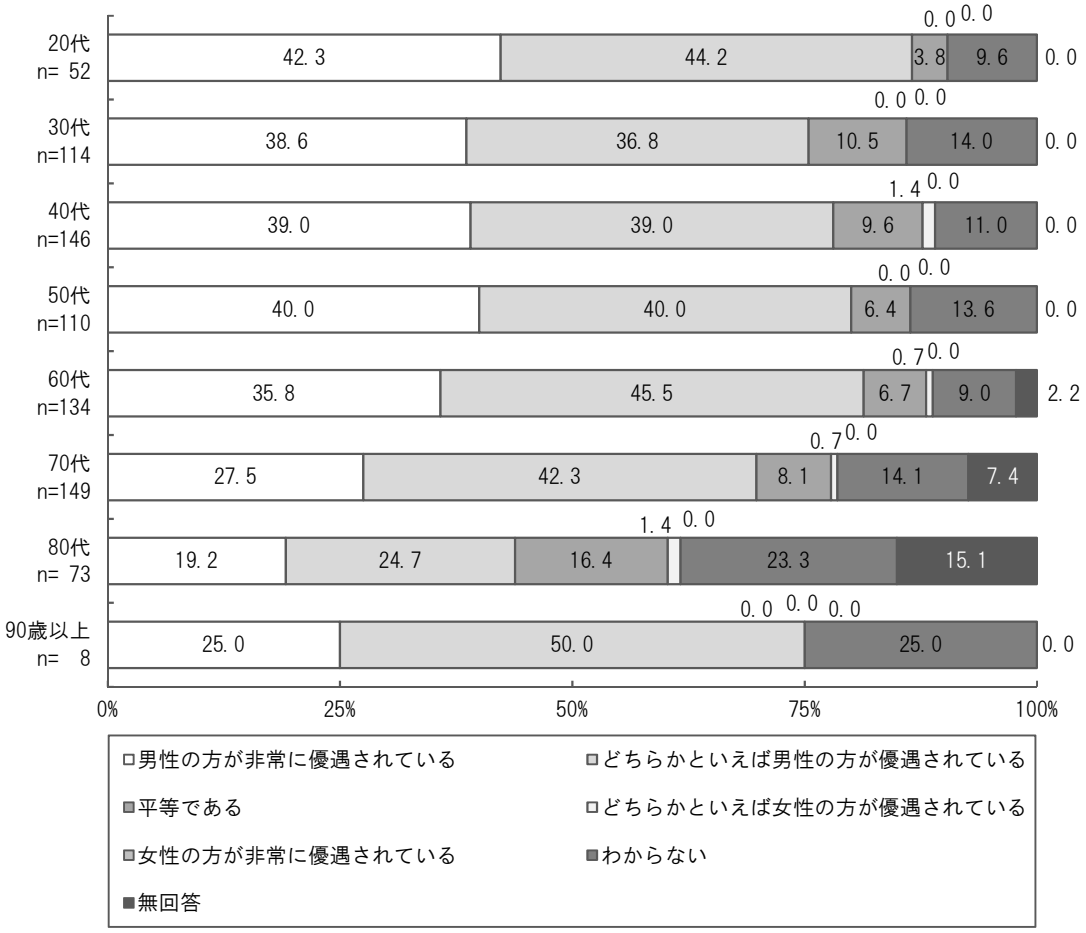
○年代別では、『男性優遇』は20代で86.5%と最も高くなっています。また、『女性優遇』は20代・30代・50代で0.0%となっています。

問８-Ｅ　政治の場における男女平等感

【全体・性別】



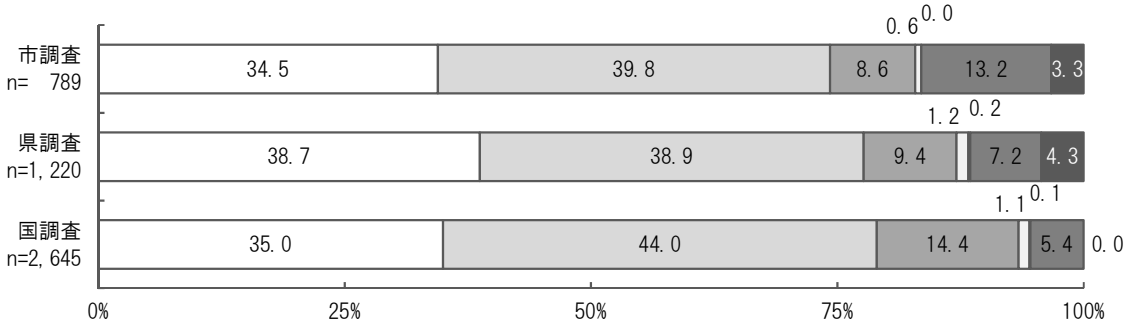
【年代別】



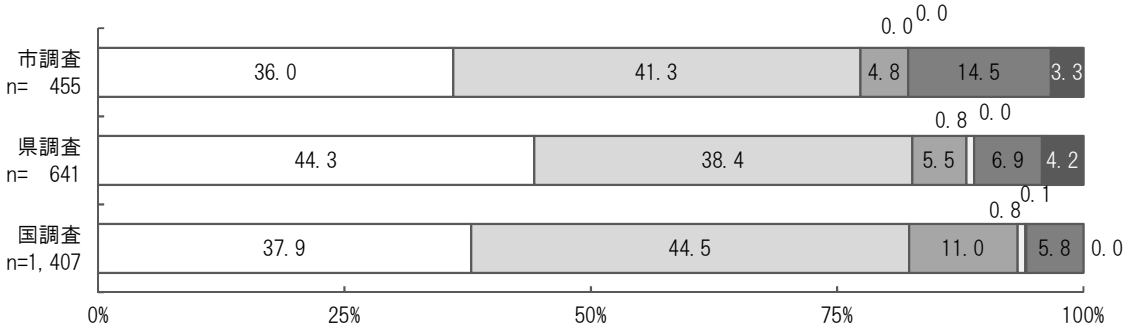
○県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性・男性いずれも低くなっています。また、市調査の『平等である』も同様に県調査より低い状況です。
○国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性・男性いずれも低くなっています。また、市調査の『平等である』も同様に県調査より低い状況です。

問８-Ｅ　政治の場における男女平等感（県調査及び国調査との比較）

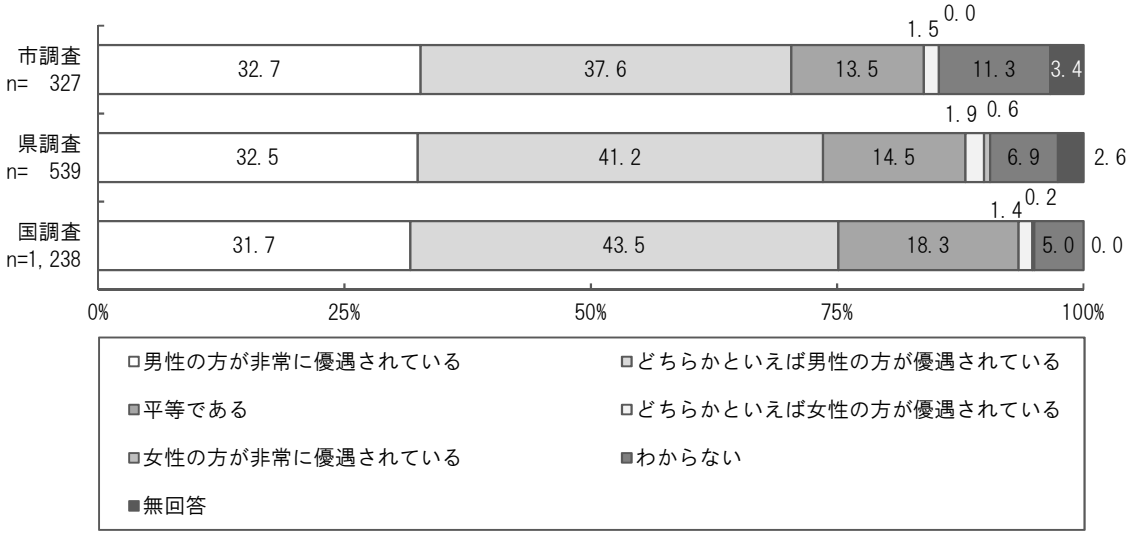
【全体】



【女性】



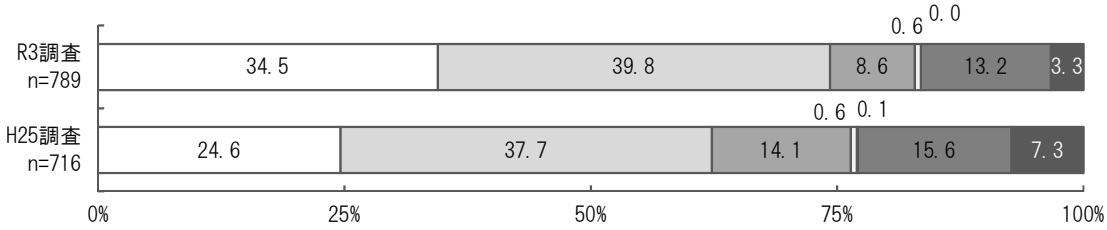
【男性】



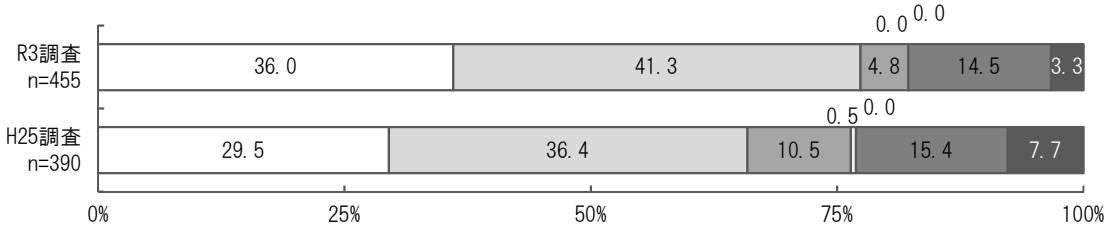
○H25調査と比較すると、R3調査の『男性優遇』は全体・女性・男性いずれも高く、全体で12.0ポイント上回っています。一方、『平等である』は全体・女性・男性いずれも低くなっています。

問８-Ｅ　政治の場における男女平等感（経年比較）

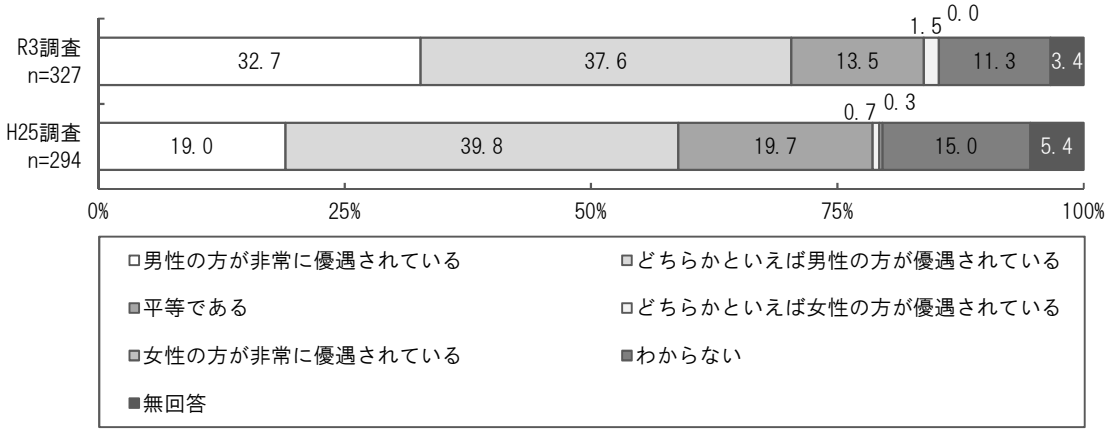
【全体】



【女性】



【男性】



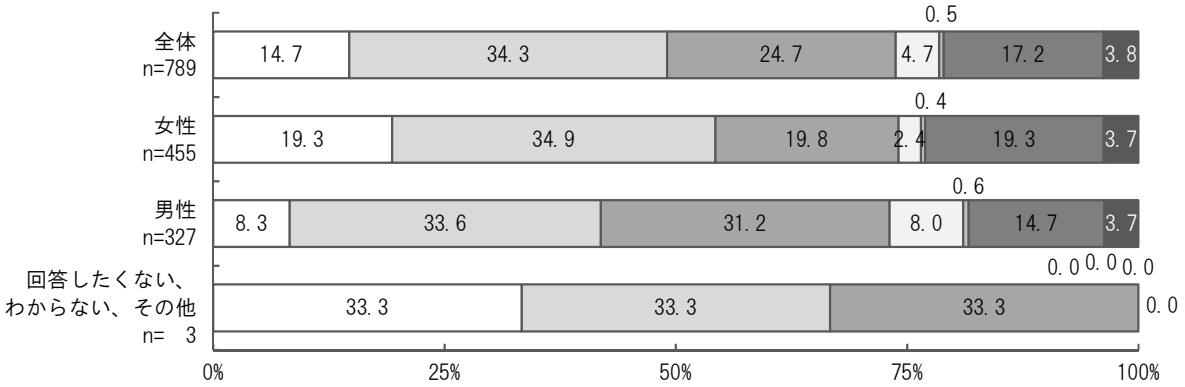
（６）法律や制度の上

○法律や制度の上において、『男性優遇』は全体で49.0%、女性は54.2%、男性は41.9%となり、女性が男性より12.3ポイント上回っています。一方、『平等である』は全体で24.7%、女性は19.8%、男性は31.2%となり、男性が女性より11.4ポイント上回っています。

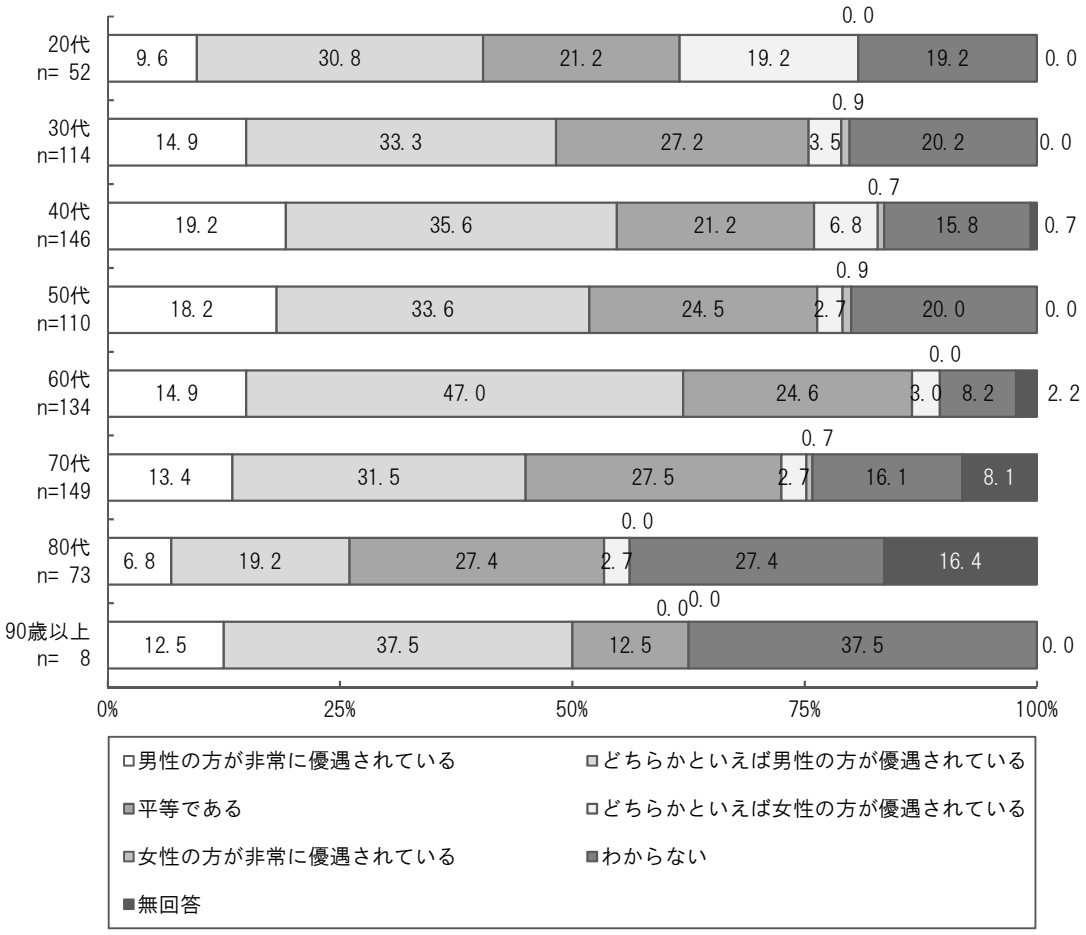
○年代別では、『男性優遇』は60代で61.9%と最も高くなっています。

問８-Ｆ　法律や制度の上における男女平等感

【全体・性別】



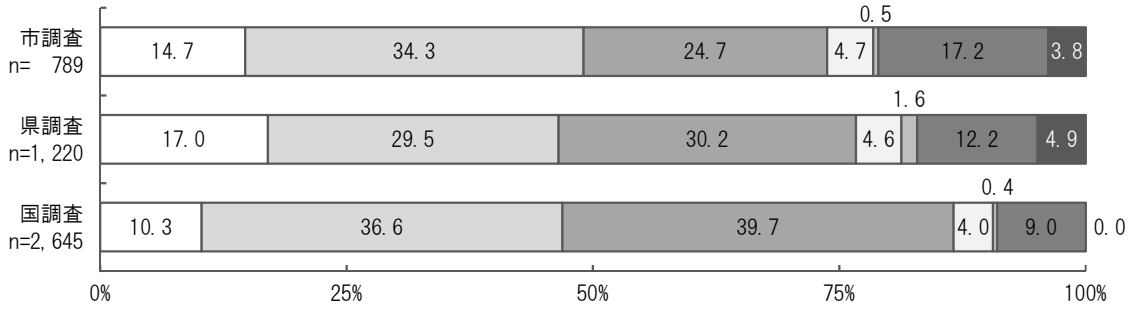
【年代別】



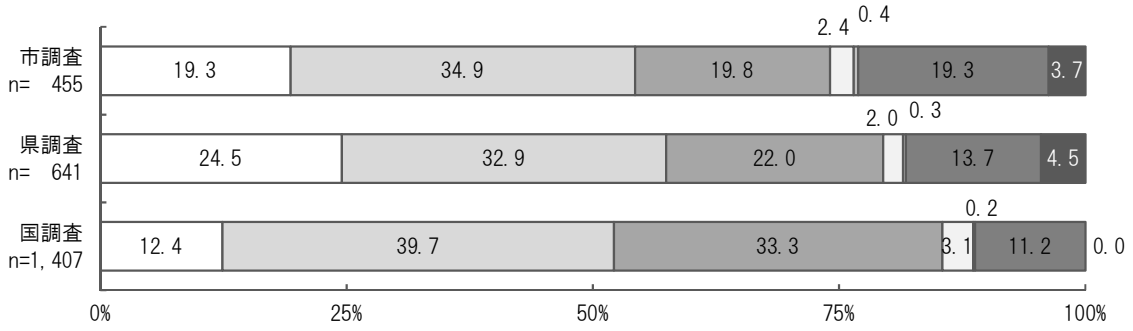
○県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・男性で高く、女性で低くなっています。市調査の『平等である』は、全体・女性・男性いずれも低くなっています。
○国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性・男性いずれも高くなっています。市調査の『平等である』は、全体・女性・男性いずれも低く、特に男性では国調査より15.6ポイント下回っています。

問８-Ｆ　法律や制度の上における男女平等感（県調査及び国調査との比較）

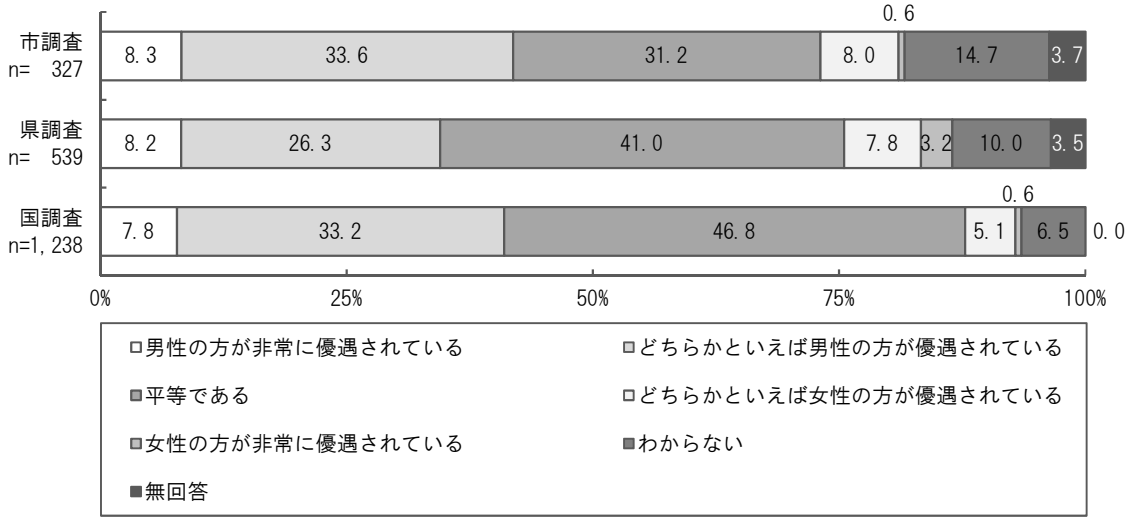
【全体】



【女性】



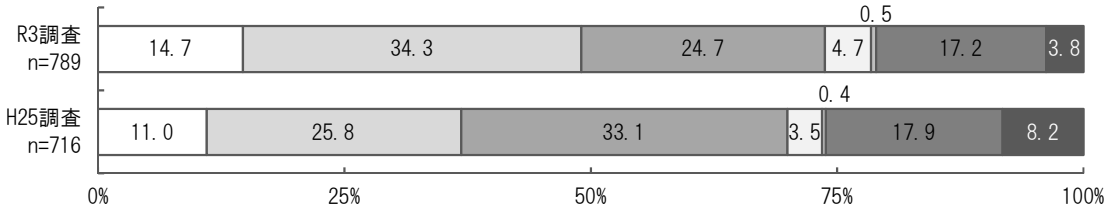
【男性】



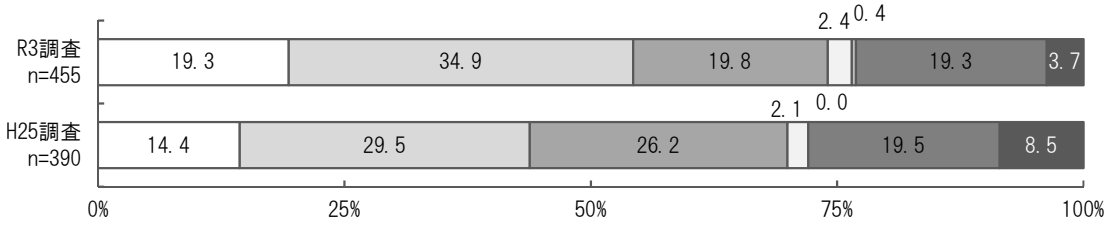
○H25調査と比較すると、R3調査の『男性優遇』は全体・女性・男性いずれも高く、特に男性は14.3ポイント上回っています。一方、『平等である』は全体・女性・男性いずれも低く、特に男性は12.7ポイント下回っています。

問８-Ｆ　法律や制度の上における男女平等感（経年比較）

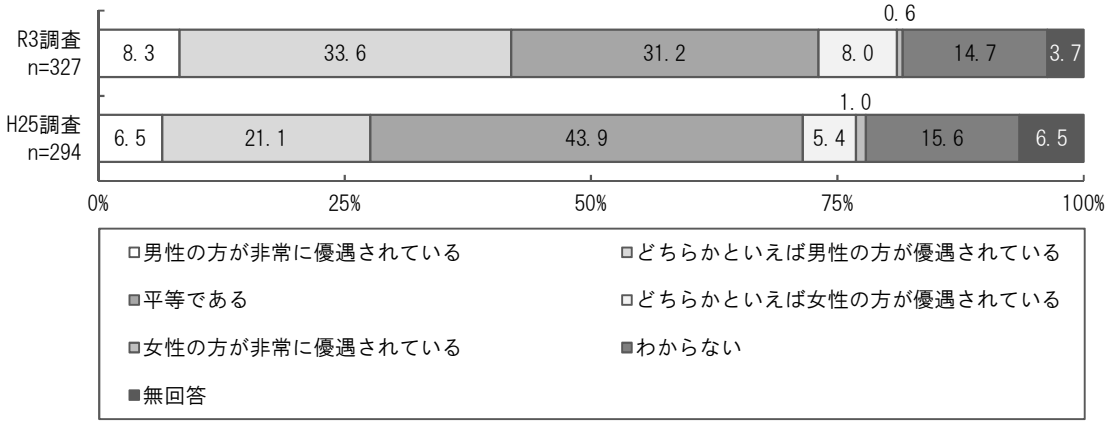
【全体】



【女性】



【男性】



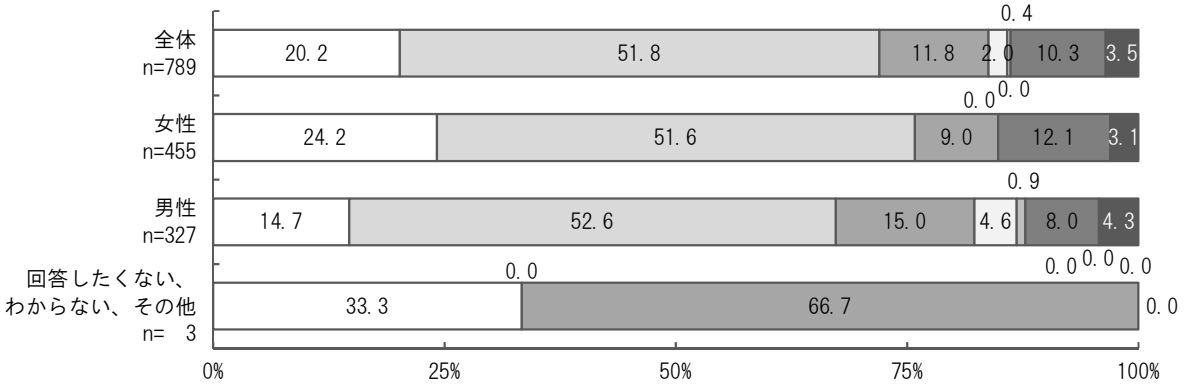
（７）社会通念・習慣・しきたりなど

○社会通念・習慣・しきたりなどにおいて、『男性優遇』は全体で72.0%、女性は75.8%、男性は67.3%となっています。一方、『平等である』は全体で11.8%、女性は9.0%、男性は15.0%となっています。また、『女性優遇』は女性で0.0%となっています。

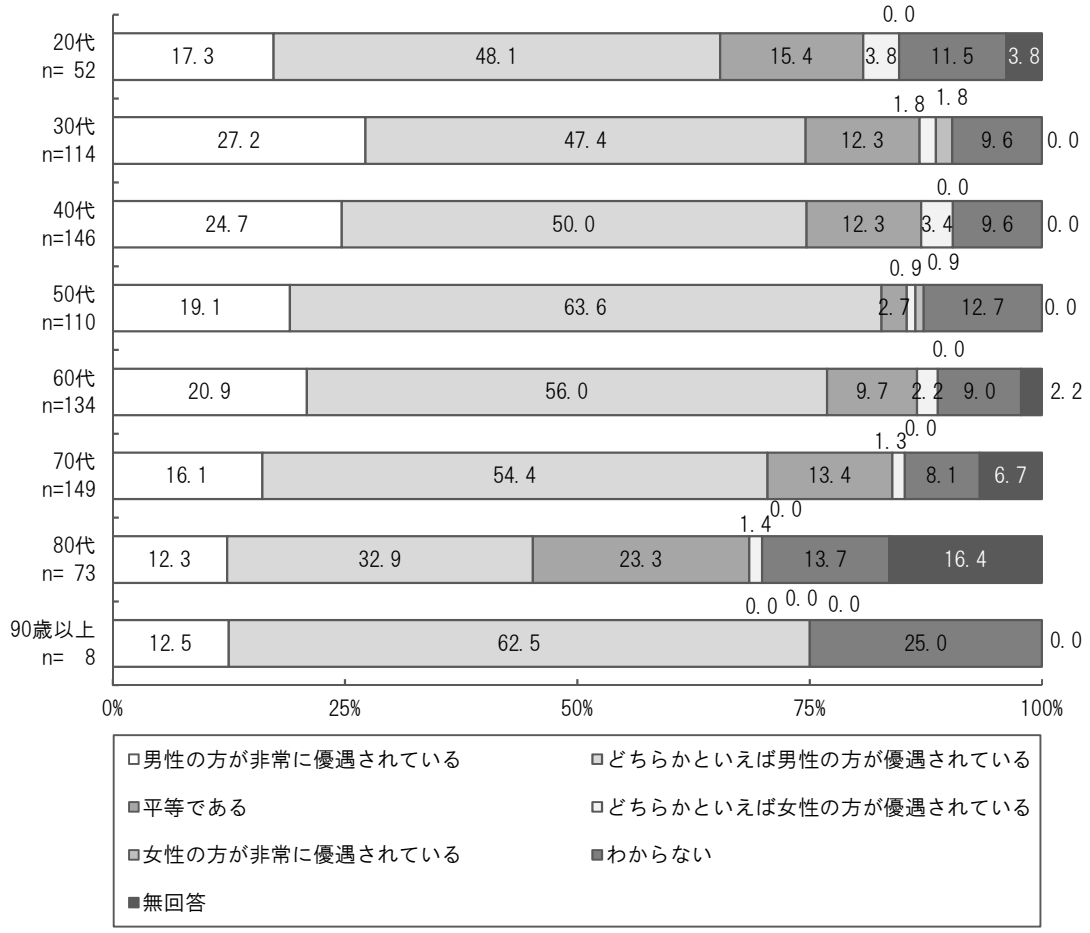
○年代別では、『男性優遇』は50代で82.7%と最も高く、30～70代で７割を超えています。

問８-Ｇ　社会通念・習慣・しきたりなどにおける男女平等感

【全体・性別】



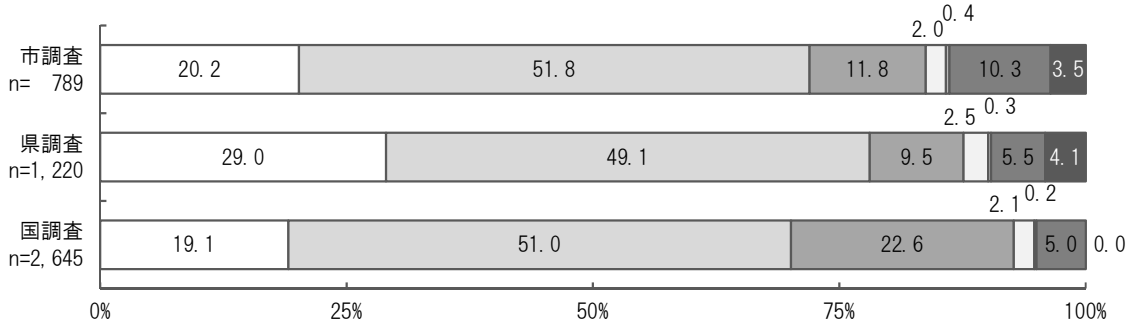
【年代別】



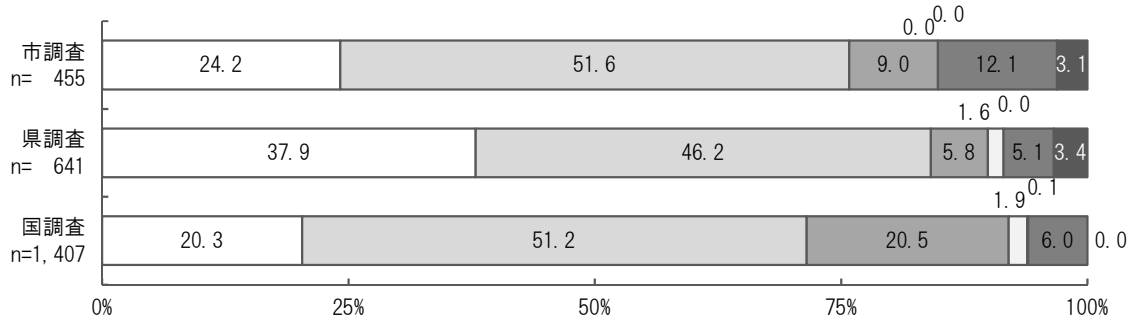
○県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性・男性いずれも低くなっています。市調査の『平等である』は、全体・女性・男性いずれも高くなっています。
○国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性で高く、男性で低くなっています。市調査の『平等である』は、全体・女性・男性いずれも低く、特に女性では国調査より11.5ポイント下回っています。

問８-Ｇ　社会通念・習慣・しきたりなどにおける男女平等感
（県調査及び国調査との比較）

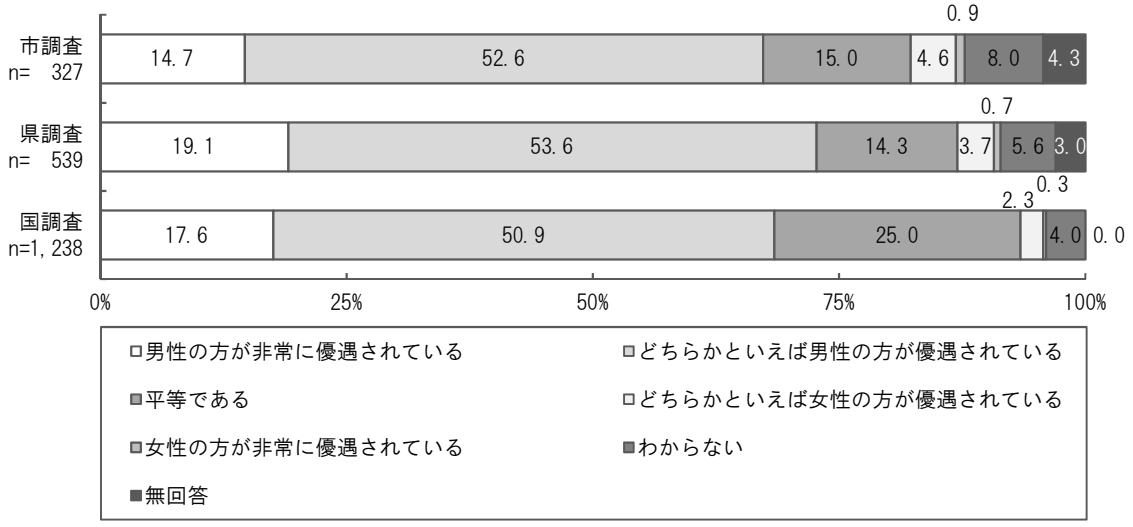
【全体】



【女性】



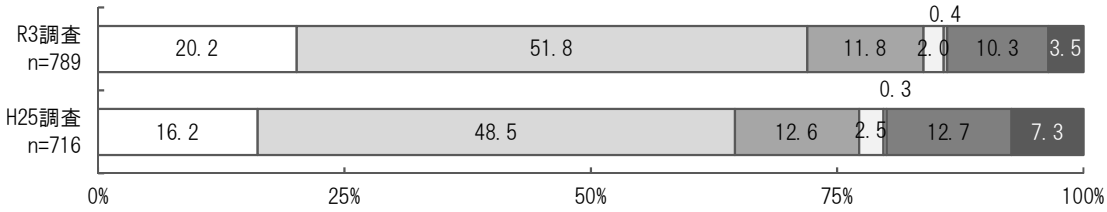
【男性】



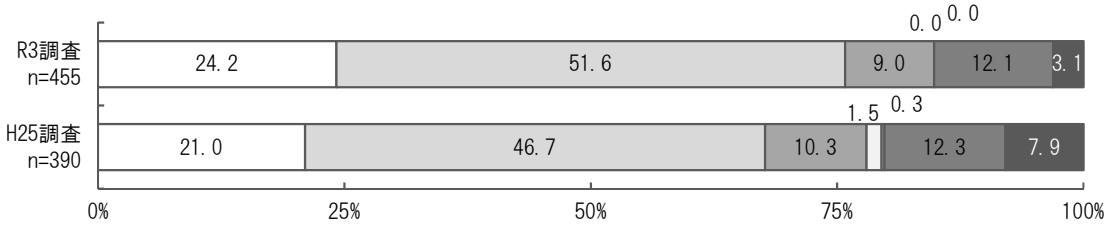
○H25調査と比較すると、R3調査の『男性優遇』は全体・女性・男性いずれも高く、特に女性は8.1ポイント上回っています。一方、『平等である』は全体・女性・男性いずれも低くなっています。

問８-Ｇ　社会通念・習慣・しきたりなどにおける男女平等感（経年比較）

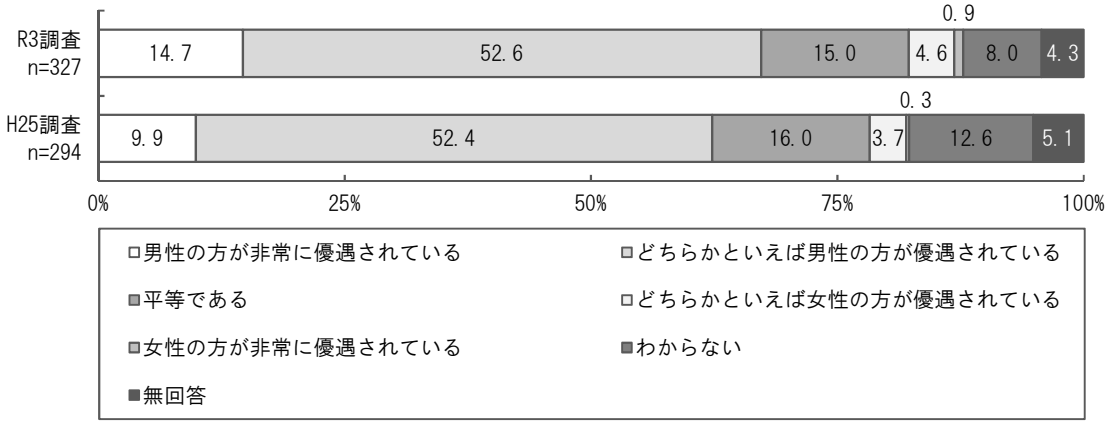
【全体】



【女性】



【男性】



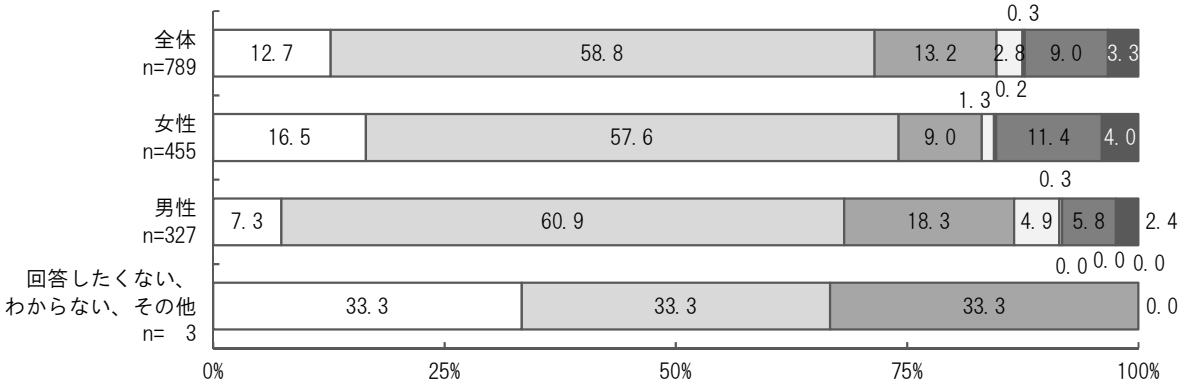
（８）社会全体として

○社会全体おいて、『男性優遇』は全体で71.5%、女性は74.1%、男性は68.2%となっています。一方、『平等である』は全体で13.2%、女性は9.0%、男性は18.3%となり、男性が女性より9.3ポイント上回っています。

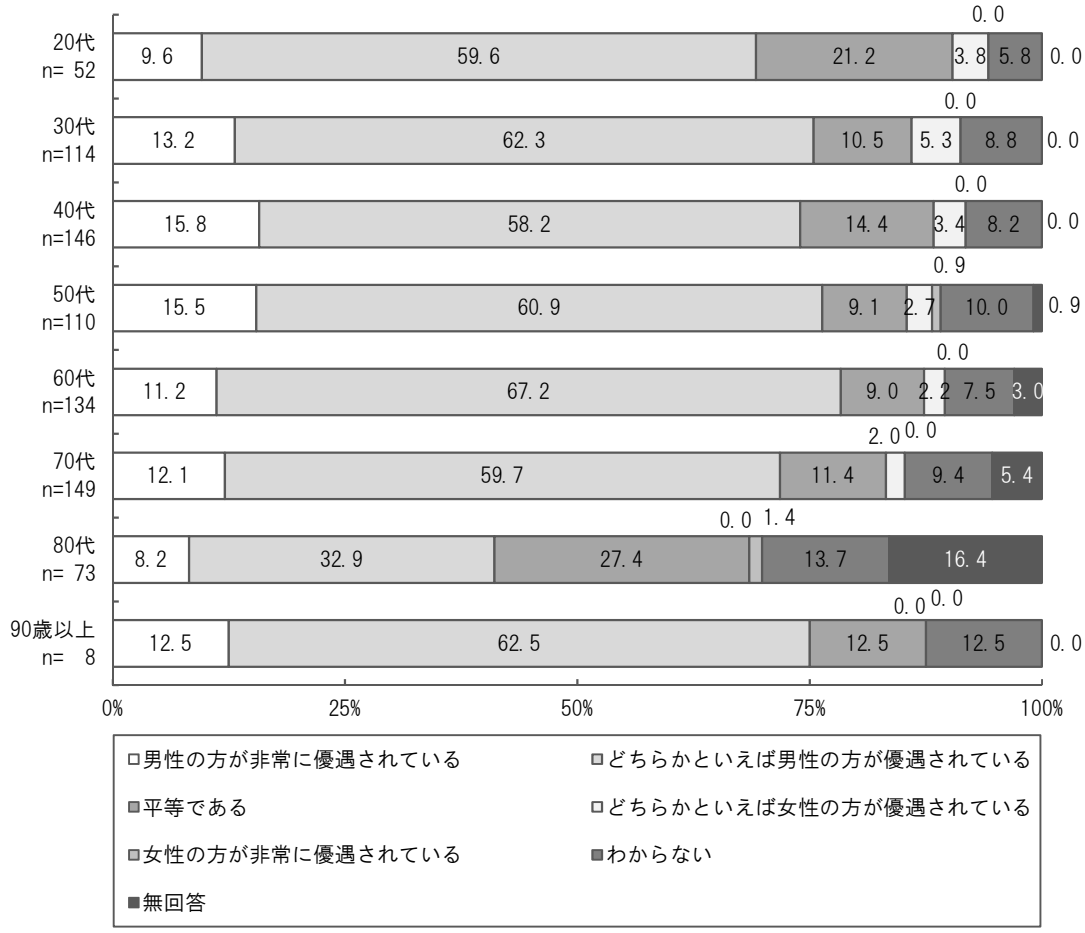
○年代別では、『男性優遇』は60代で78.4%と最も高く、30～70代で７割を超えています。

問８-Ｈ　社会全体としての男女平等感

【全体・性別】



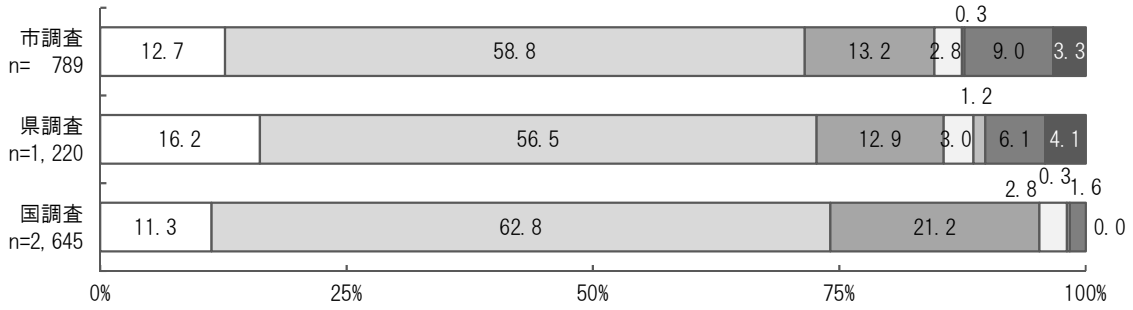
【年代別】



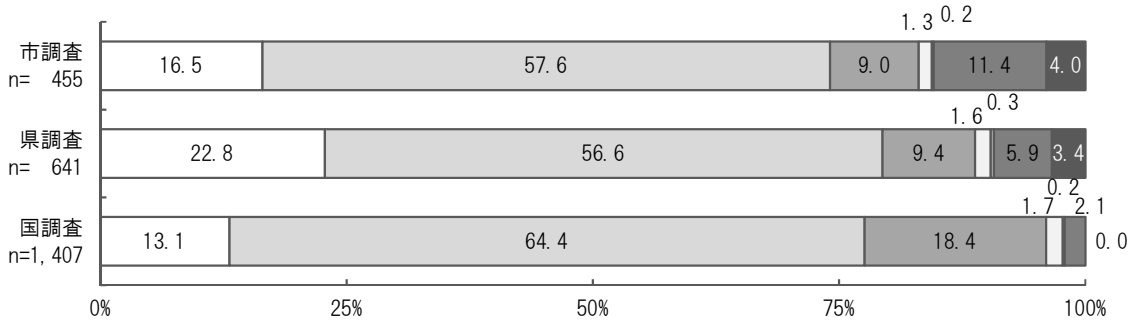
○県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性で低く、男性で高くなっています。市調査の『平等である』は、全体・男性で高く、女性で低くなっています。
○国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は、全体・女性・男性いずれも低くなっています。市調査の『平等である』は、全体・女性・男性いずれも低く、特に女性では国調査より9.4ポイント下回っています。

問８-Ｈ　社会全体としての男女平等感（県調査及び国調査との比較）

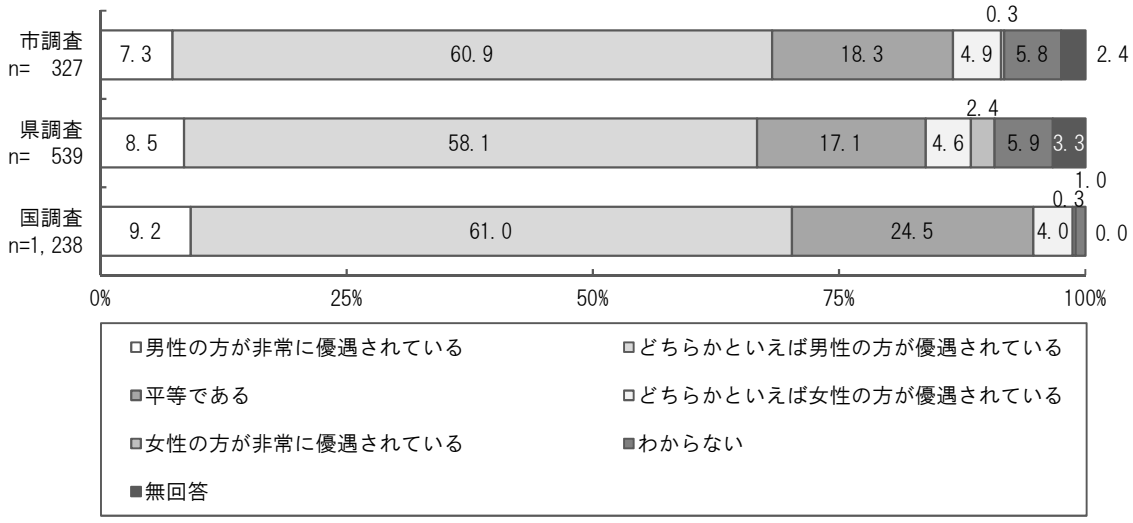
【全体】



【女性】



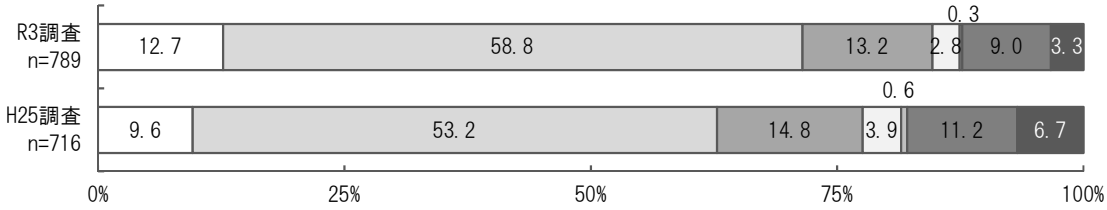
【男性】



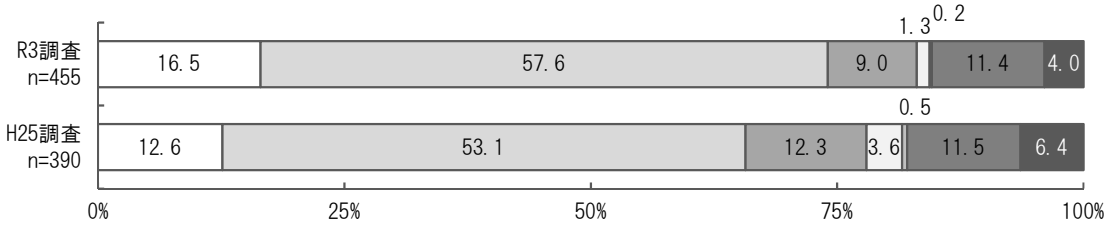
○H25調査と比較すると、R3調査の『男性優遇』は全体・女性・男性いずれも高く、特に女性は8.4ポイント上回っています。一方、『平等である』は全体・女性・男性いずれも低くなっています。

問８-Ｈ　社会全体としての男女平等感（経年比較）

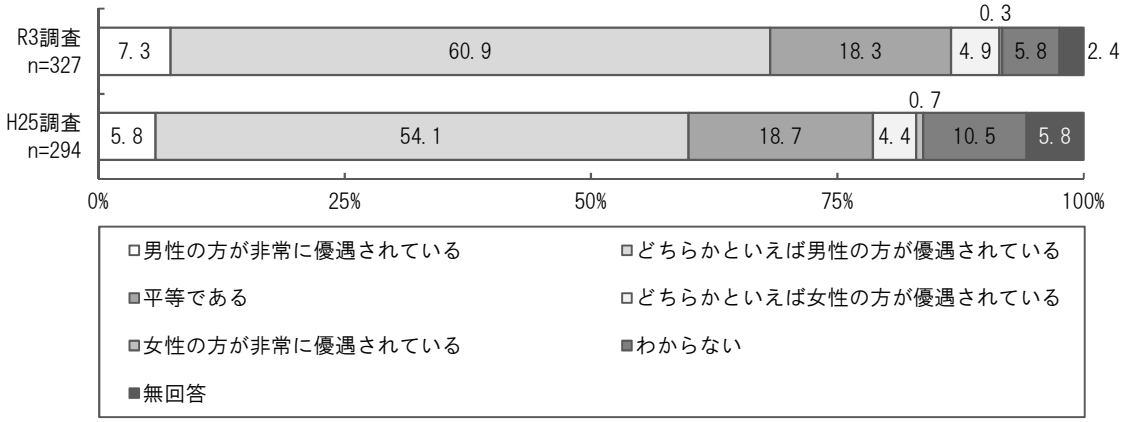
【全体】



【女性】



【男性】



3　家庭生活について

（１）夫婦の役割

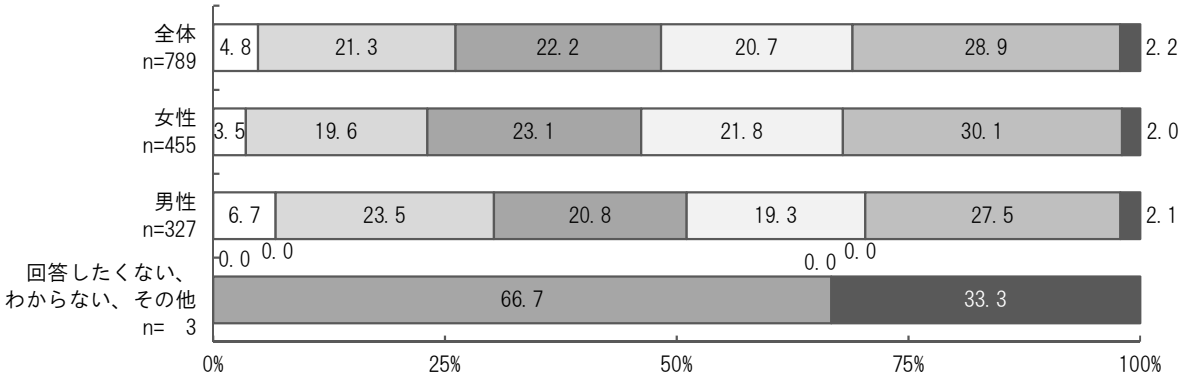
○「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、全体では『賛成する』が26.1%、『反対する』は42.9%となり、『反対する』が16.8ポイント上回っています。性別では、『賛成する』は女性で23.1%、男性で30.2%となり、男性が7.1ポイント上回り、『反対する』は女性で44.9%、男性で40.1%となり、女性が4.8ポイント上回っています。

○年代別では、『賛成する』は80代（56.2%）で最も高く、50代（12.7%）で最も低くなっています。一方、『反対する』は20代（65.4%）で最も高く、80代（19.2%）で最も低くなっています。

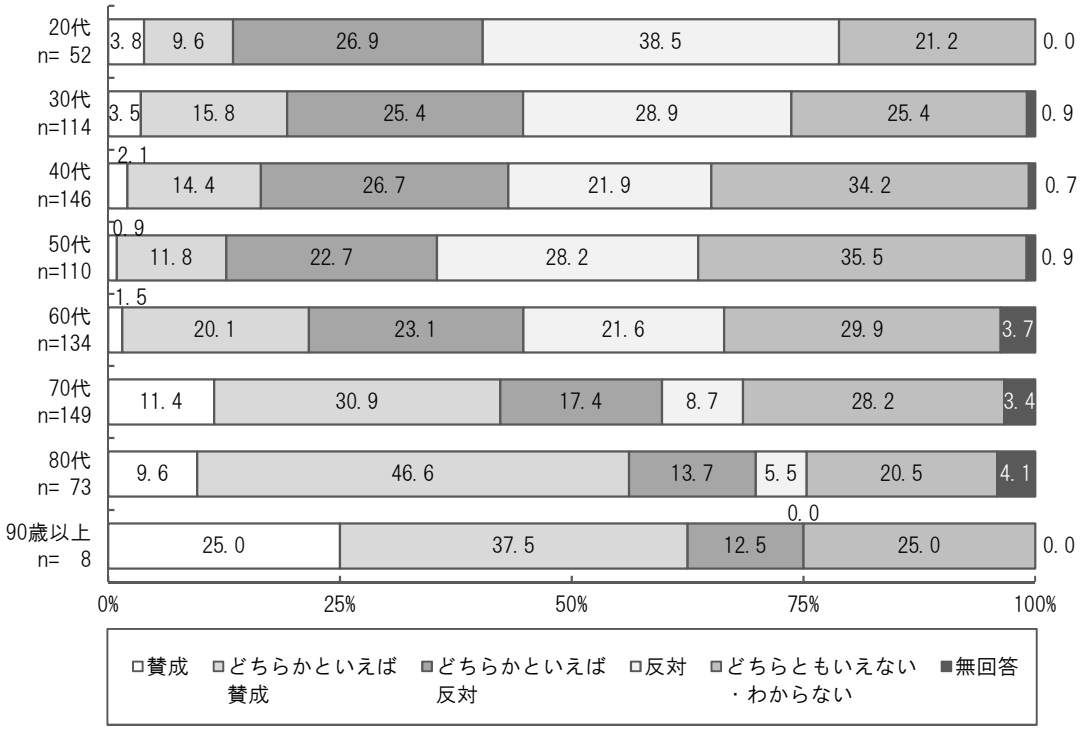
※『賛成する』:「賛成」＋「どちらかといえば賛成」
　『反対する』:「反対」＋「どちらかといえば反対」

問９　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方

【全体・性別】



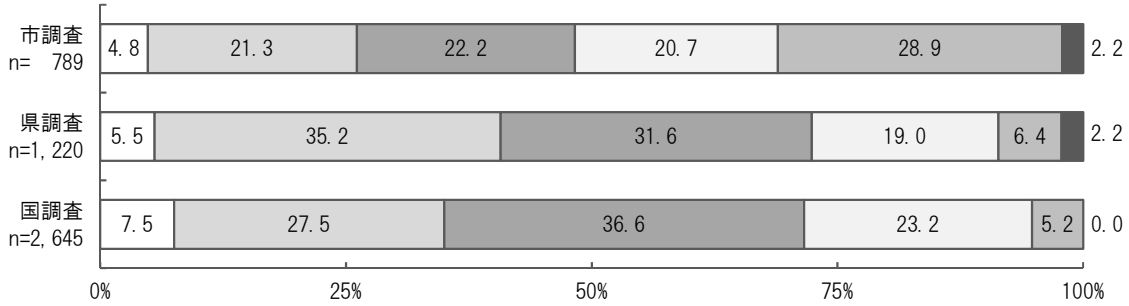
【年代別】



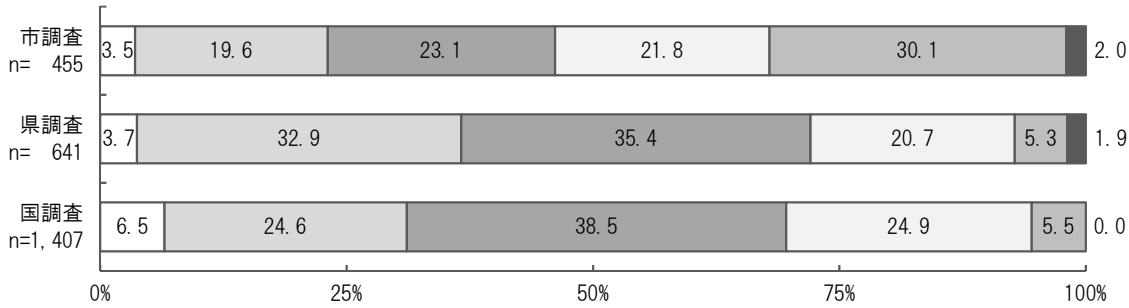
○県調査と比較すると、市調査の『賛成する』は全体・女性・男性いずれも低く、女性は13.5ポイント、男性は16.3ポイント下回っています。また、市調査の『反対する』は全体・女性・男性いずれも低く、女性は11.2ポイント、男性は5.3ポイント下回っています。
○国調査と比較すると、市調査の『賛成する』は全体・女性・男性いずれも低く、女性は8.0ポイント、男性は9.2ポイント下回っています。また、市調査の『反対する』は全体・女性・男性いずれも低く、女性は18.5ポイント、男性は15.5ポイント下回っています。

問９　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方
（県調査及び国調査との比較）

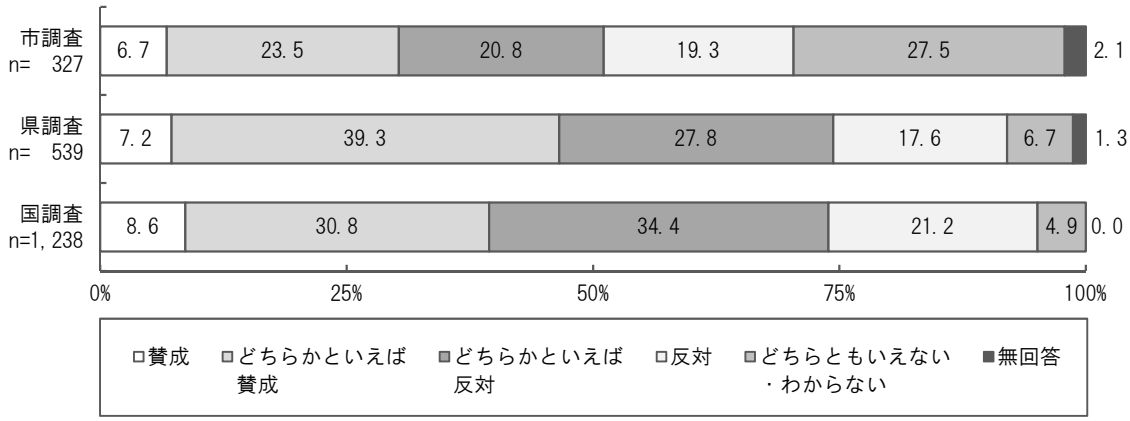
【全体】



【女性】



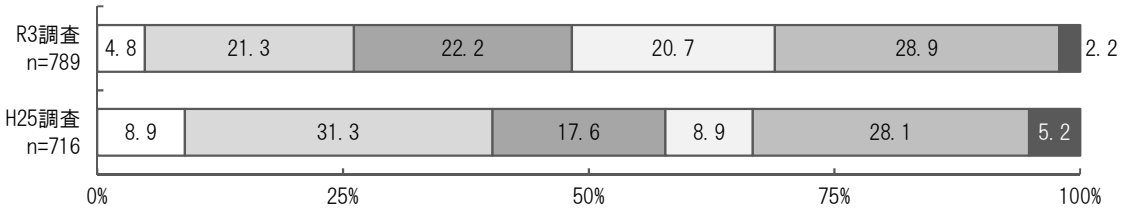
【男性】



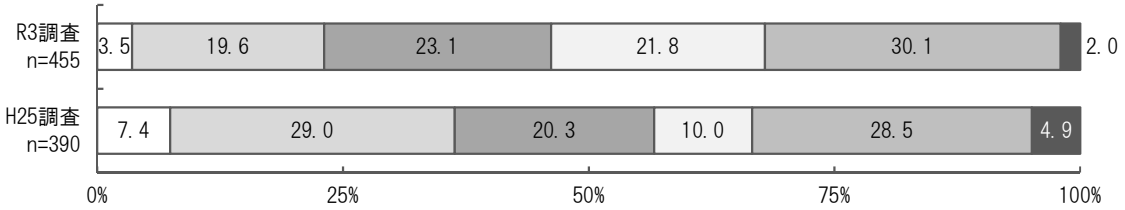
○H25調査と比較すると、R3調査の『賛成する』は全体・女性・男性いずれも高く、女性は13.3ポイント、男性は15.0ポイント下回っています。一方、『反対する』は全体・女性・男性いずれも高く、女性は14.6ポイント、男性は16.9ポイント上回っています。

問９　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方（経年比較）

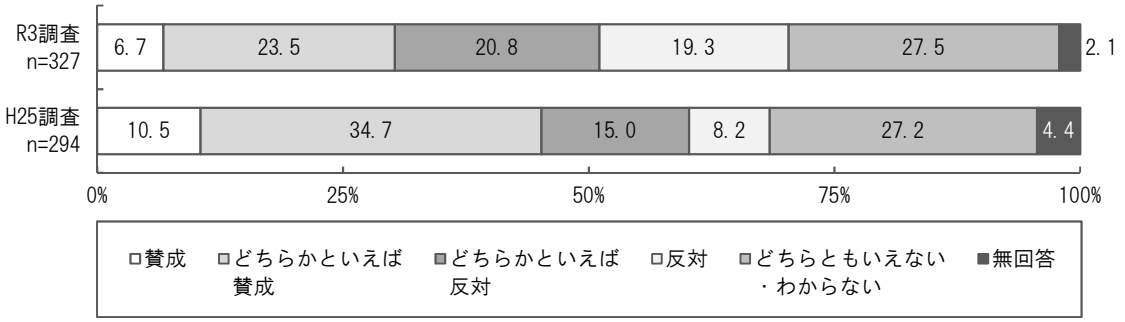
【全体】



【女性】



【男性】

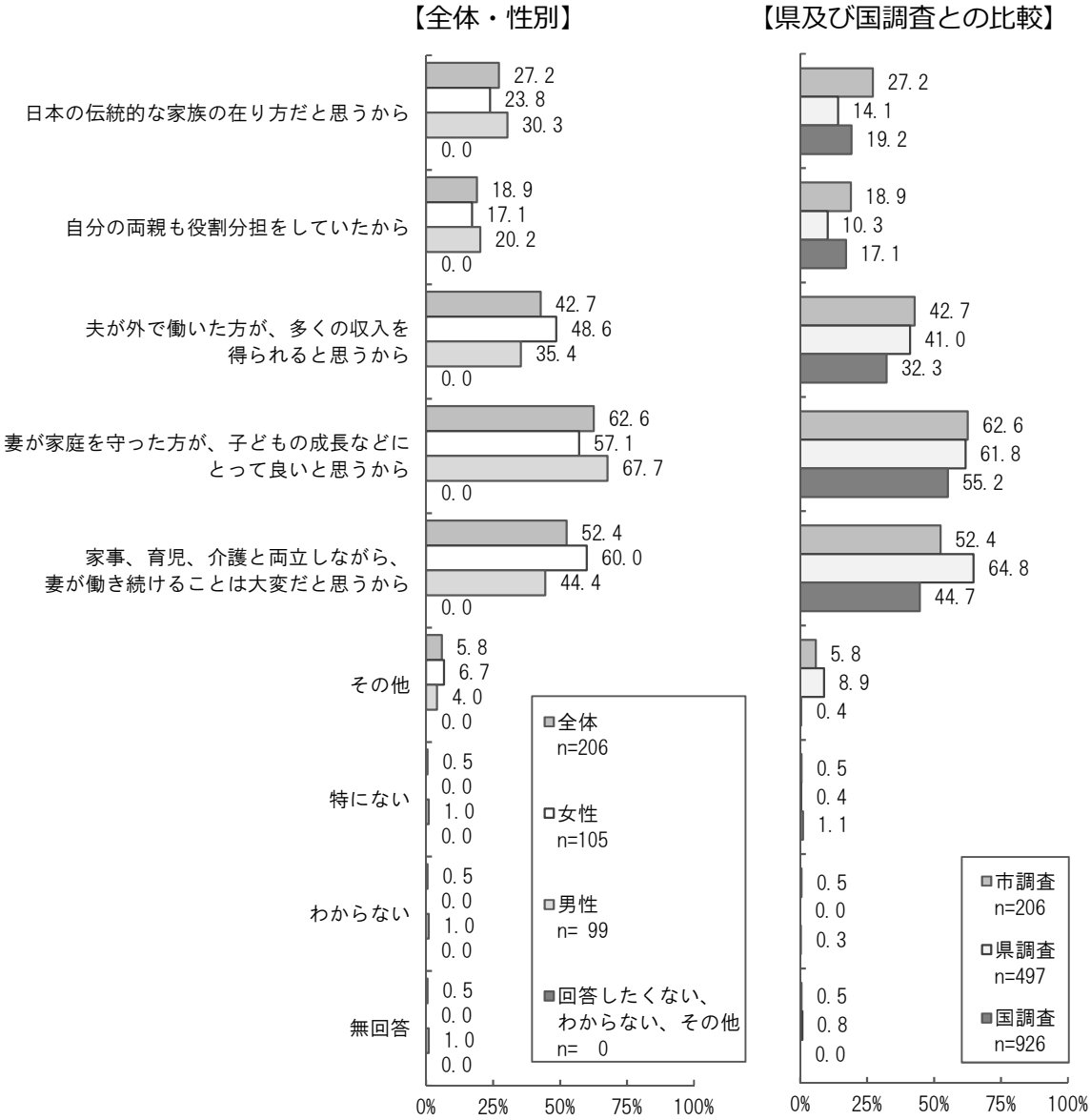


○「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に「賛成」「どちらかといえば賛成」の理由をみると、全体・男性は「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」（62.6%・67.7%）、女性は「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」（60.0%）が最も高くなっています。

○県調査と比較すると、市調査では「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」が13.1ポイント上回り、「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が12.4ポイント下回っています。

○国調査と比較すると、市調査では「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が10.4ポイント上回っています。

問９-１　「賛成」「どちらかといえば賛成」の理由



○年代別にみると、20代・30代は「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が７割前後、40～80代は「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が６割台で、いずれも最も高くなっています。

問９-１　「賛成」「どちらかといえば賛成」の理由【年代別】

単位：％

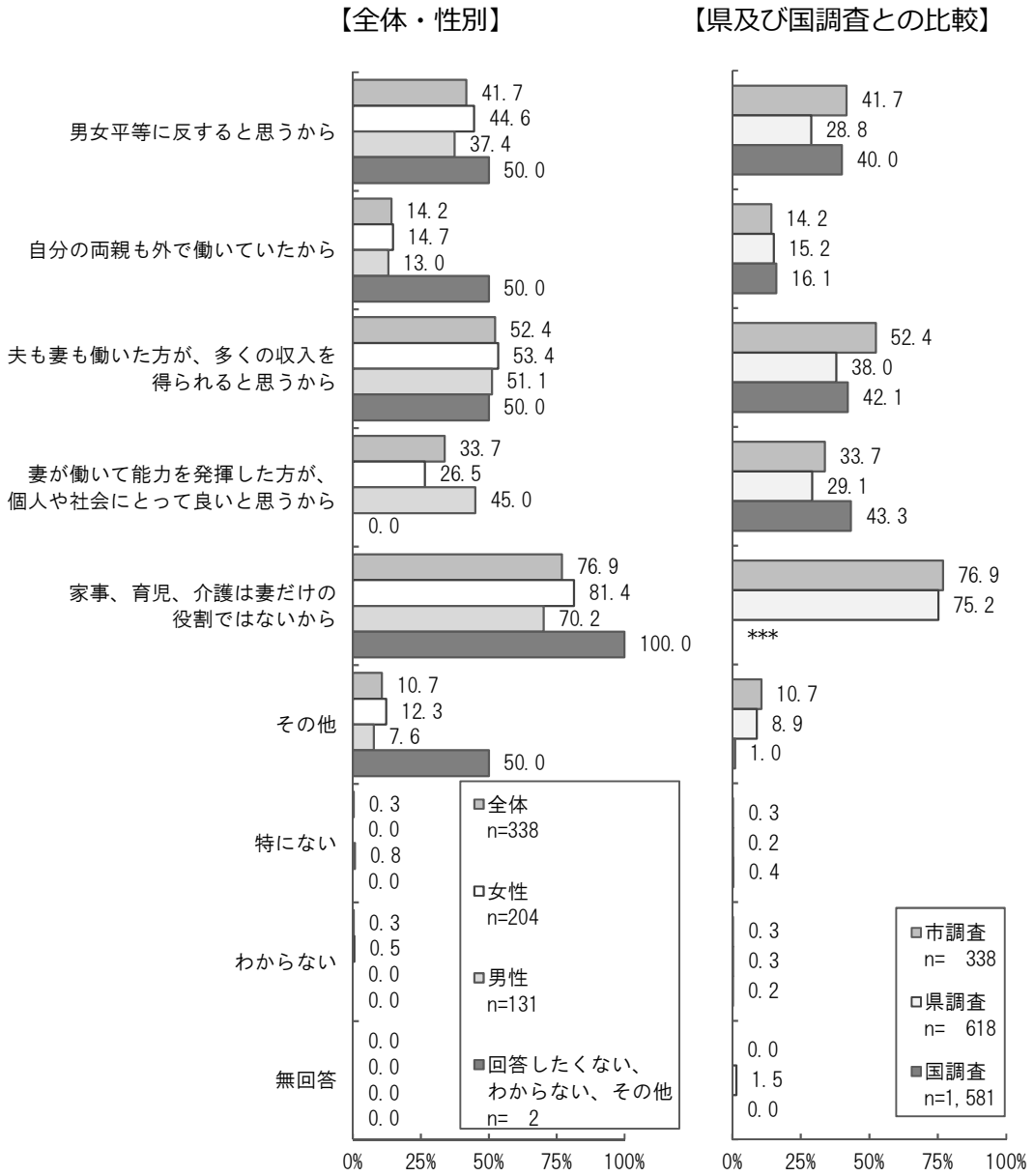
	20代 n=7	30代 n=22	40代 n=24	50代 n=14	60代 n=29	70代 n=63	80代 n=41	90歳以上 n=5
日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	14.3	4.5	8.3	14.3	34.5	36.5	31.7	80.0
自分の両親も役割分担をしていたから	14.3	9.1	20.8	21.4	17.2	22.2	19.5	20.0
夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	14.3	40.9	50.0	35.7	51.7	39.7	43.9	40.0
妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	28.6	54.5	**62.5**	**64.3**	**65.5**	**65.1**	**65.9**	60.0
家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	**71.4**	**68.2**	58.3	57.1	41.4	49.2	48.8	60.0
その他	0.0	9.1	4.2	21.4	0.0	6.3	4.9	0.0
特にない	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0

○「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に「どちらかといえば反対」「反対」の理由をみると、全体・女性・男性いずれも「家事、育児、介護は妻だけの役割ではないから」が最も高く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」となっています。

○県調査と比較すると、市調査では「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が14.4ポイント、「男女平等に反すると思うから」が12.9ポイント上回っています。

○国調査と比較すると、市調査では「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が10.3ポイント上回っています。

問９-２　「どちらかといえば反対」「反対」の理由



※本市調査にはなく、県調査及び国調査にある選択肢「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」、また、国調査のみ選択肢「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから」は省略しています。

○いずれの年代も「家事、育児、介護は妻だけの役割ではないから」が最も高くなっています。特に20代で88.2%、30代で83.9%と高く、40代・50代も約８割となっています。

問９-２　「どちらかといえば反対」「反対」の理由【年代別】

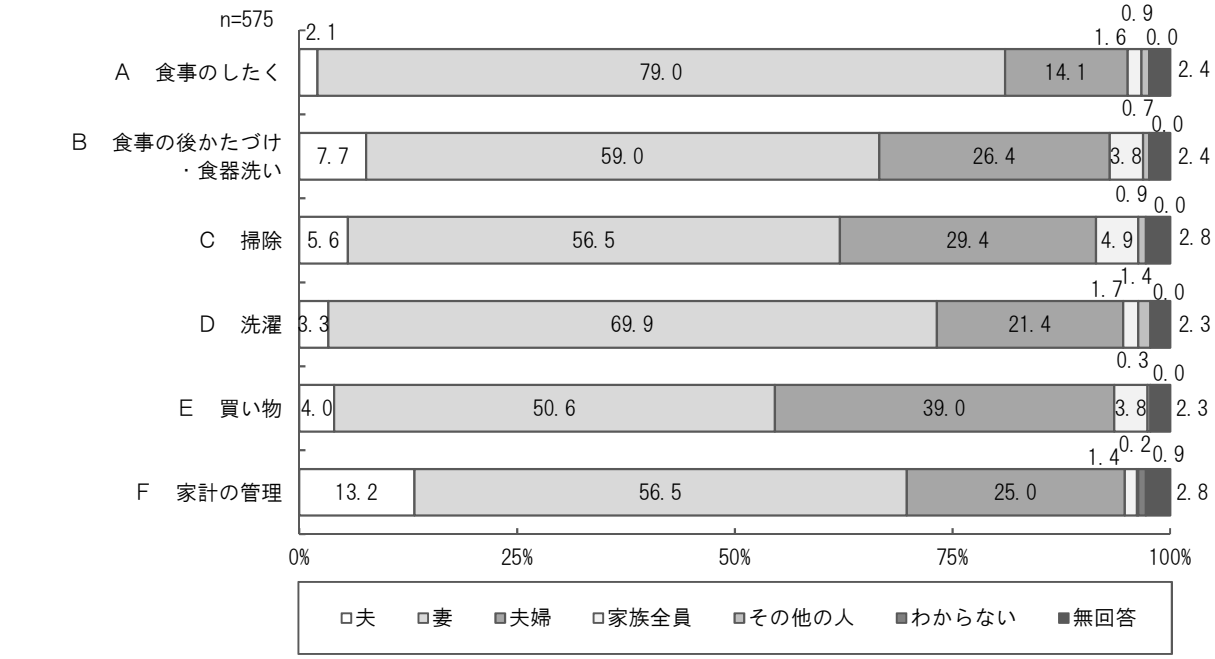
単位：%

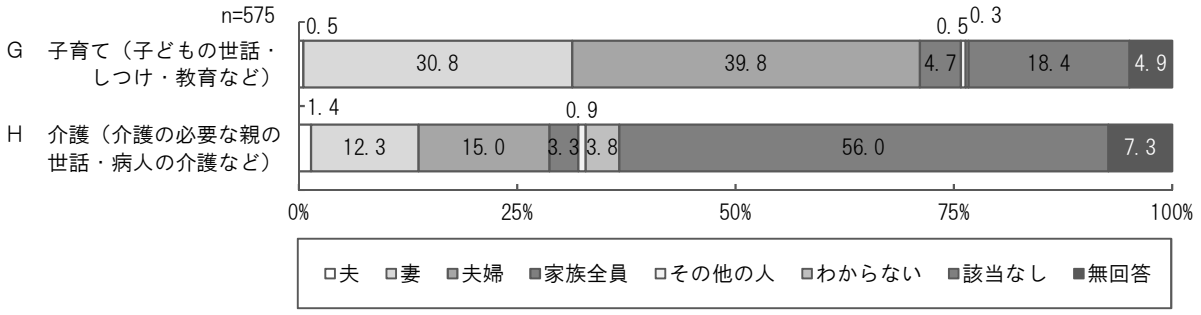
	20代 n=34	30代 n=62	40代 n=71	50代 n=56	60代 n=60	70代 n=39	80代 n=14	90歳以上 n=1
男女平等に反すると思うから	38.2	35.5	38.0	46.4	55.0	33.3	42.9	100.0
自分の両親も外で働いていたから	29.4	22.6	12.7	3.6	11.7	15.4	0.0	0.0
夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	64.7	61.3	59.2	39.3	50.0	41.0	42.9	100.0
妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	32.4	41.9	35.2	26.8	30.0	41.0	14.3	0.0
家事、育児、介護は妻だけの役割ではないから	88.2	83.9	78.9	78.6	71.7	66.7	57.1	100.0
その他	17.6	14.5	7.0	16.1	6.7	7.7	0.0	0.0
特にない	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（２）家事の分担

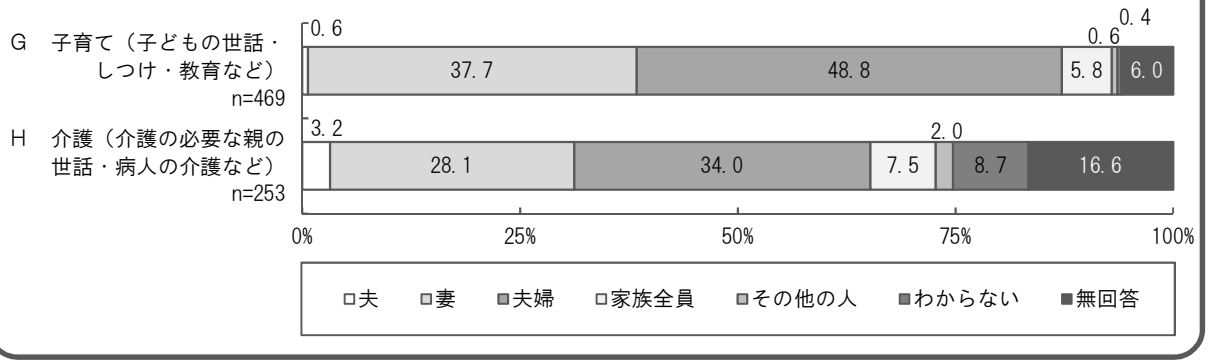
○既婚者（事実婚を含む）の家庭における家事の分担をみると、『Ａ　食事のしたく』～『Ｆ　家計の管理』は「妻」が最も高く、次いで「夫婦」「夫」となっています。
また、『Ｇ　子育て』『Ｈ　介護』を行っている家庭では、「夫婦」が最も高く、次いで「妻」「家族全員」となっています。

問10　家事の分担





【参考】全体の母数から非該当（「該当なし」と回答した方）の人数を除き、割合を再計算したものです。



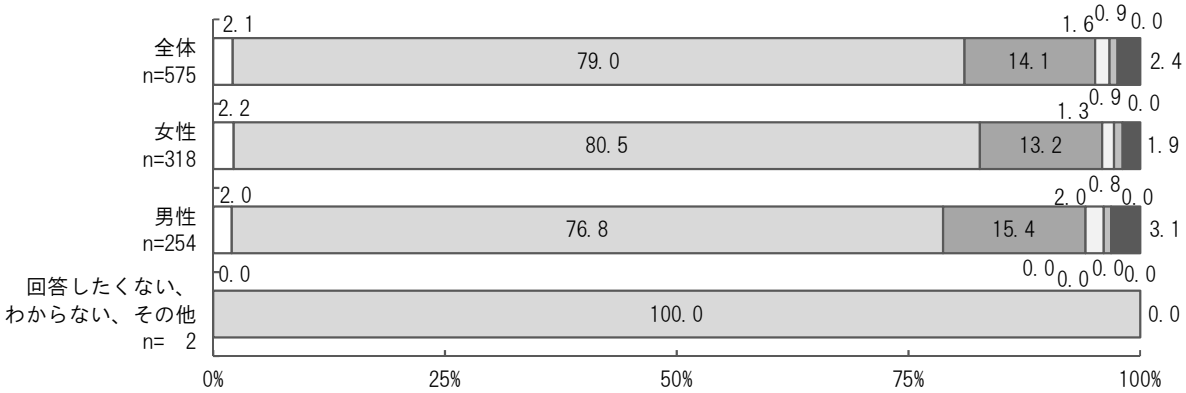
① 食事のしたく

○食事のしたくは、全体では「妻」が79.0%、「夫婦」が14.1%となっています。性別では「妻」は女性で80.5%、男性で76.8%、「夫婦」は女性で13.2%、男性で15.4%となっています。いずれも「夫」は約2%となっています。

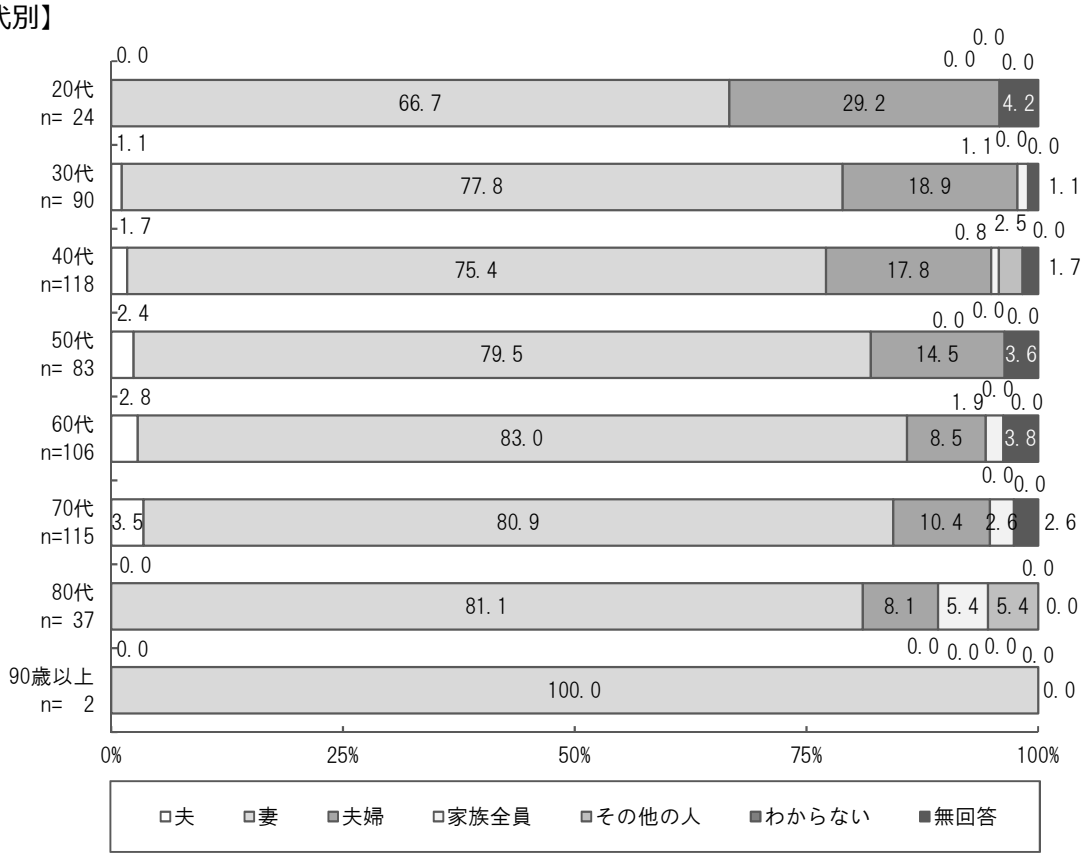
○年代別では、「妻」は60代で83.0%と最も高く、20代で66.7%と最も低くなっています。一方、「夫婦」は20代で29.2%と最も高く、80代で8.1%と最も低くなっています。

問10-Ａ　食事のしたくの分担

【全体・性別】



【年代別】



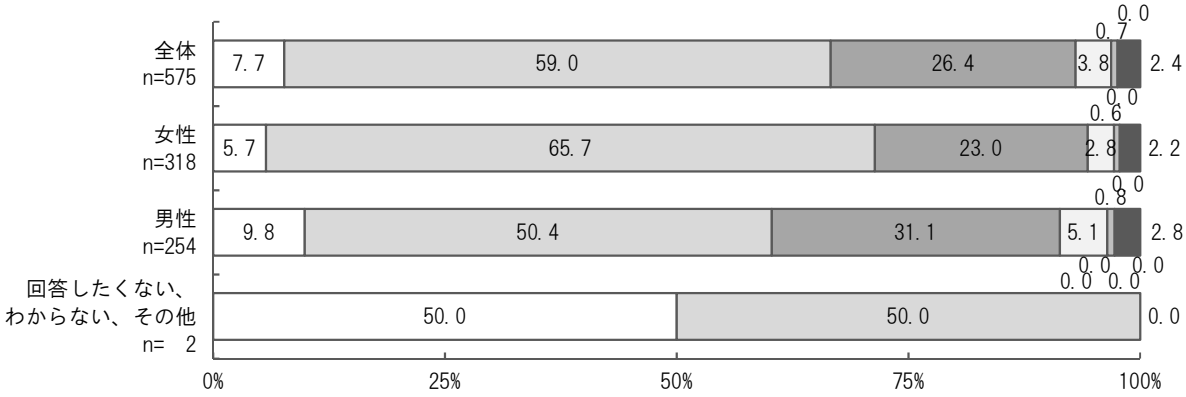
② 食事の後かたづけ・食器洗い

○食事の後かたづけ・食器洗いは、全体では「妻」が59.0%、「夫婦」が26.4%、「夫」が7.7%となっています。性別では「妻」は女性で65.7%、男性で50.4%、「夫婦」は女性で23.0%、男性で31.1%、「夫」は女性で5.7%、男性で9.8%となっています。

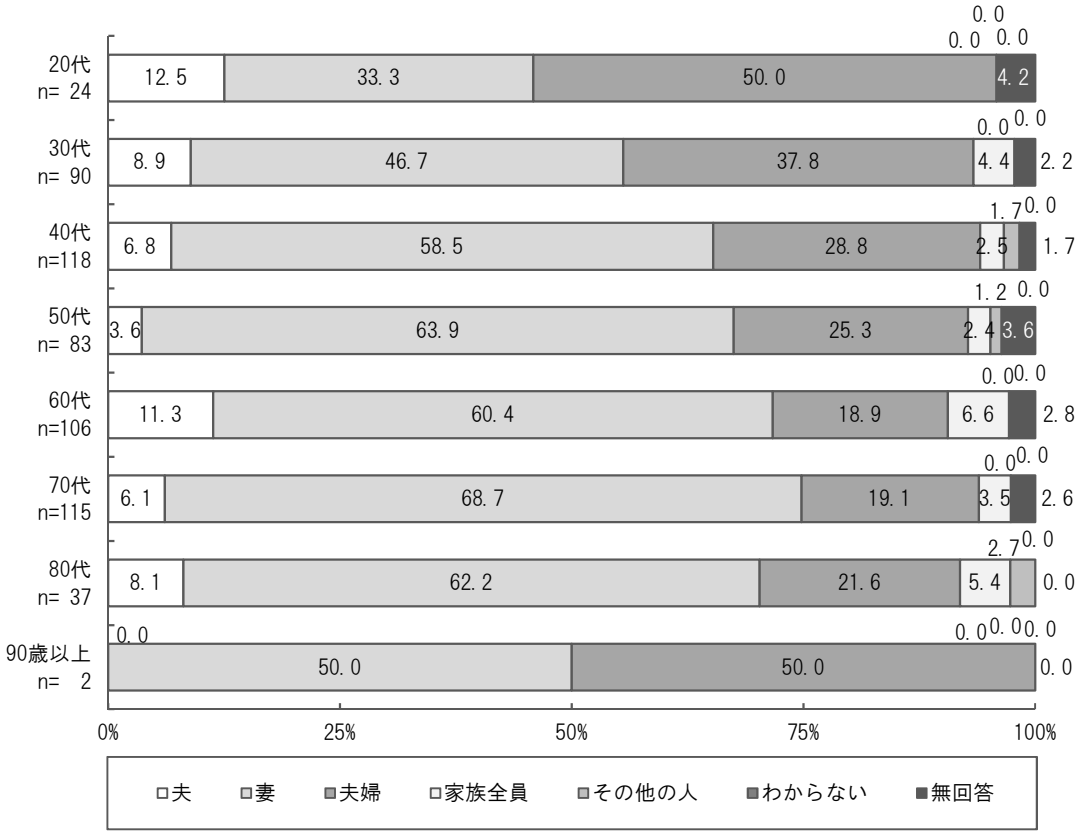
○年代別にみると、20代では「夫婦」が50.0%と最も高く、次いで「妻」が33.3%、「夫」が12.5%となり、「夫」の家事への参加が顕著となっています。30代以降は、「妻」が最も高く、次いで「夫婦」「夫」となっています。また、30～60代は年代が上がるにつれ「夫婦」が低くなる傾向にあります。

問10-Ｂ　食事の後かたづけ・食器洗いの分担

【全体・性別】



【年代別】



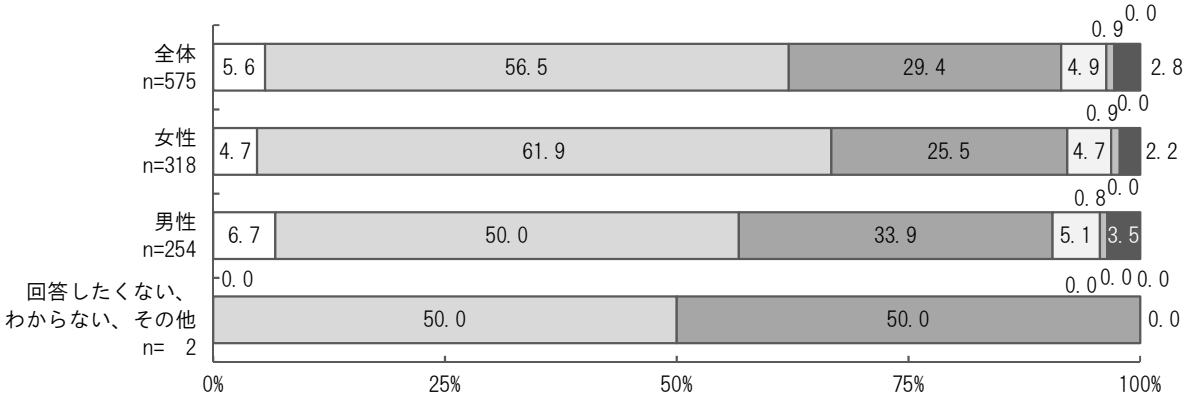
③ 掃除

○掃除は、全体では「妻」が56.5%、「夫婦」が29.4%、「夫」が5.6%となっています。性別では「妻」は女性で61.9%、男性で50.0%、「夫婦」は女性で25.5%、男性で33.9%となっています。

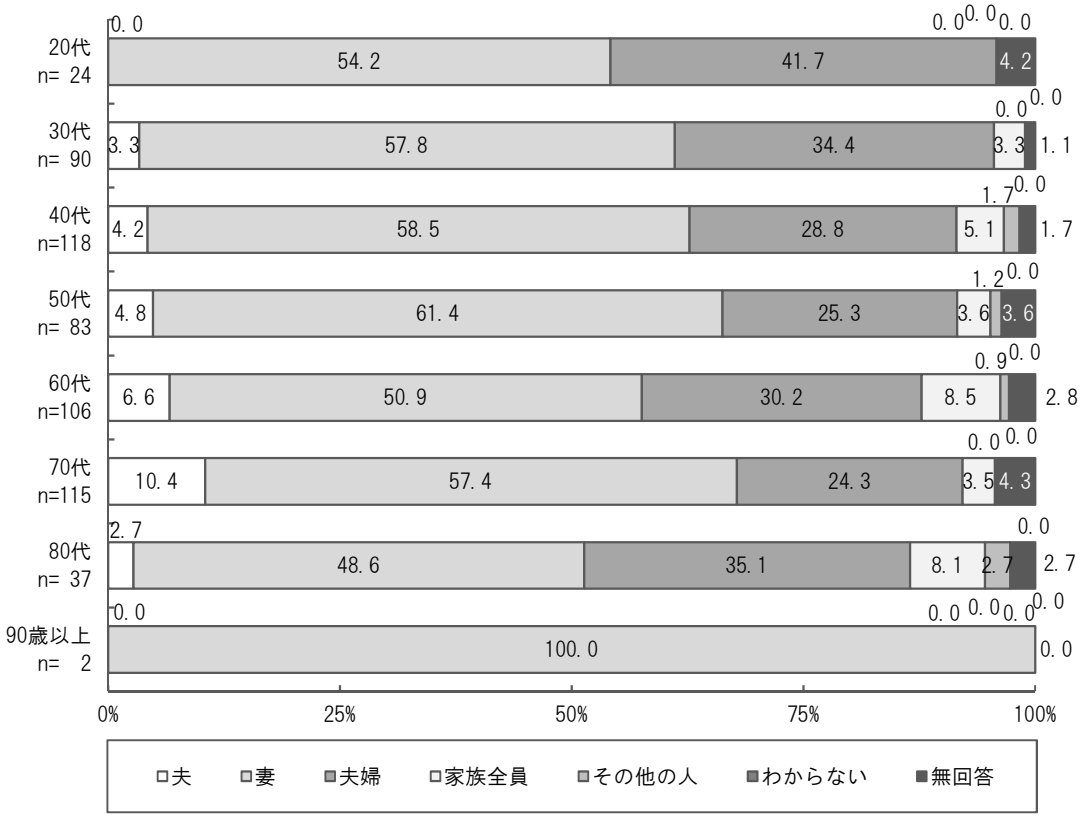
○年代別にみると、20～50代は年代が上がるにつれ、「妻」「夫」が高く、「夫婦」が低くなる傾向にあります。また、40代・60代・80代は、「妻」「夫婦」に次いで「家族全員」が高くなっています。

問10-Ｃ　掃除の分担

【全体・性別】



【年代別】



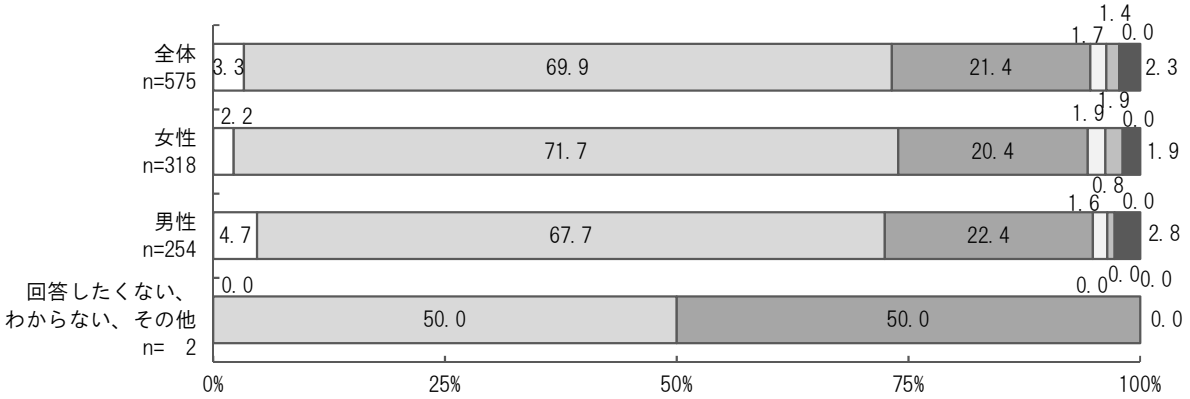
④ 洗濯

○洗濯は、全体では「妻」が69.9%、「夫婦」が21.4%、「夫」が3.3%となっています。性別では「妻」は女性で71.7%、男性で67.7%、「夫婦」は女性で20.4%、男性で22.4%となっています。

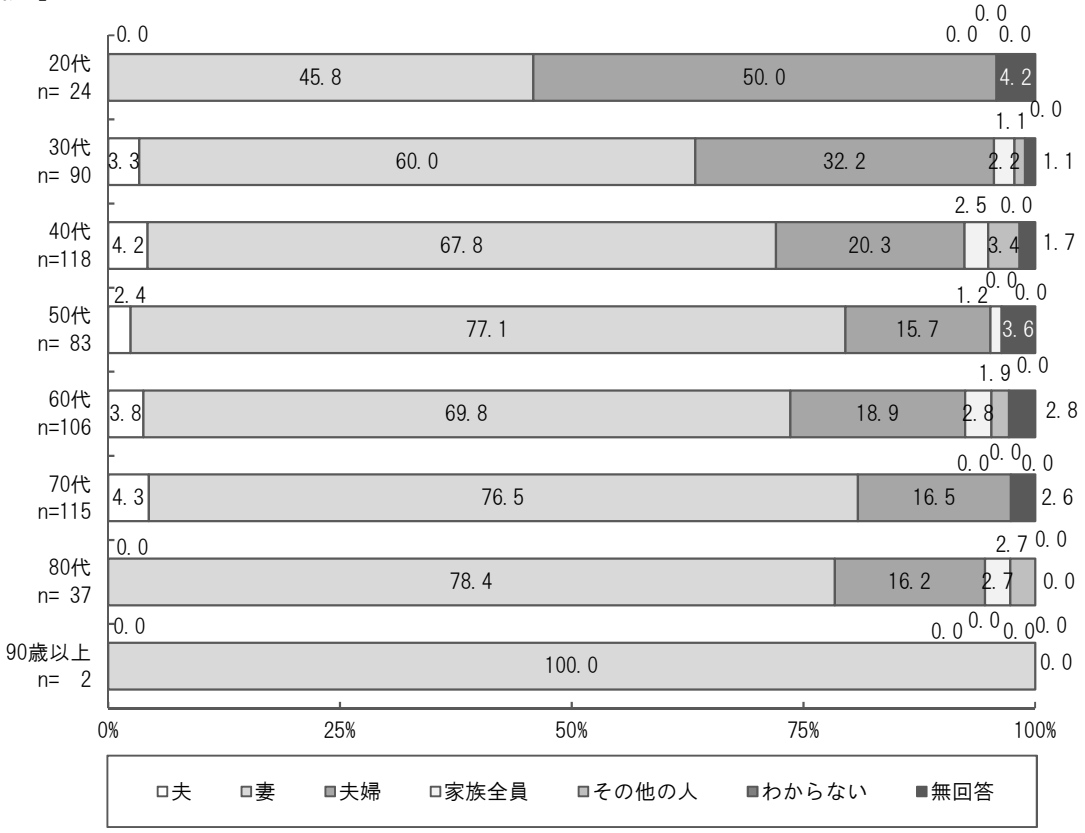
○年代別にみると、20代では「夫婦」が50.0%と最も高く、次いで「妻」が45.8%となっています。30～70代は、「妻」が最も高く、次いで「夫婦」「夫」となっています。また、80代では、「妻」「夫婦」に次いで「家族全員」が高くなっています。

問10-D　洗濯の分担

【全体・性別】



【年代別】



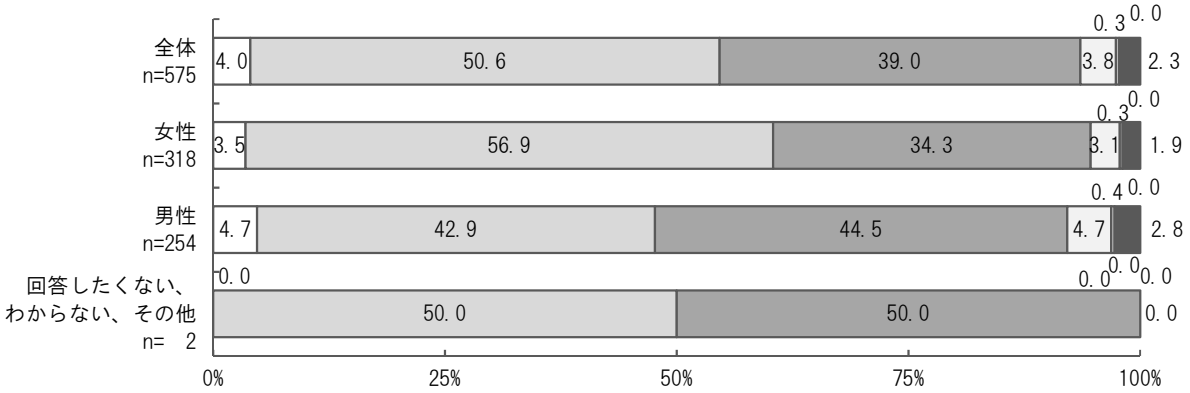
⑤ 買い物

○買い物は、全体では「妻」が50.6%、「夫婦」が39.0%、「夫」が4.0%となっています。性別では「妻」は女性で56.9%、男性で42.9%、「夫婦」は女性で34.3%、男性で44.5%となっています。

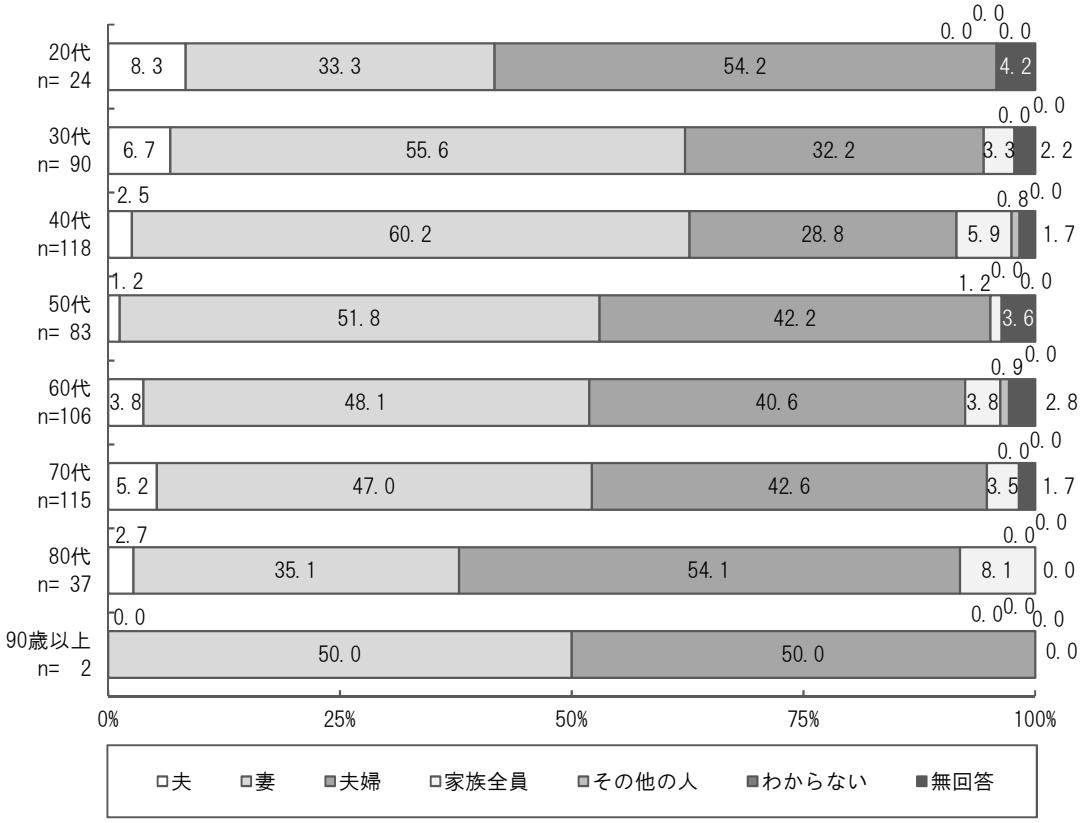
○年代別にみると、20代・80代では「夫婦」が最も高く、次いで「妻」となり、20代では「夫」、80代では「家族全員」と続きます。30～70代は、「妻」が最も高く、次いで「夫婦」となっています。

問10-Ｅ　買い物の分担

【全体・性別】



【年代別】



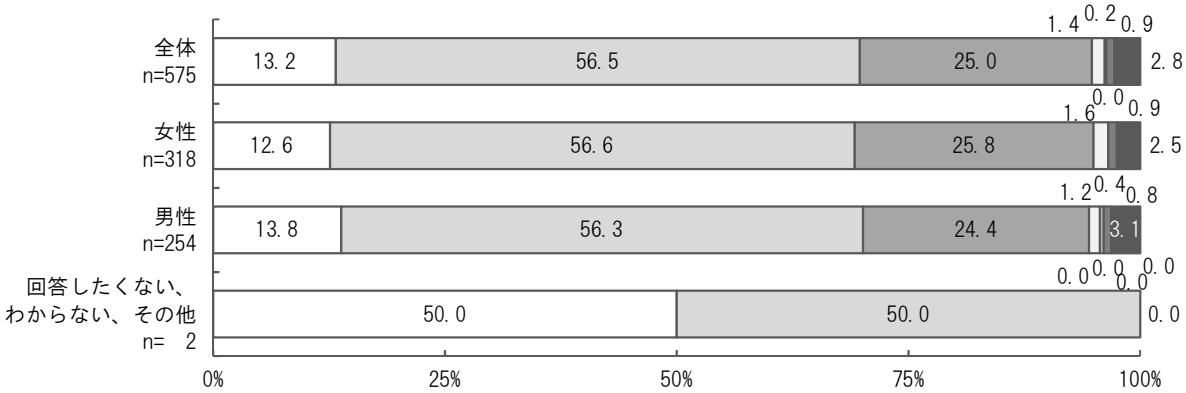
⑥ 家計の管理

○家計の管理は、全体では「妻」が56.5%、「夫婦」が25.0%、「夫」が13.2%となっています。性別では「妻」は女性で56.6%、男性で56.3%、「夫婦」は女性で25.8%、男性で24.4%、「夫」は女性で12.6%、男性で13.8%となっています。

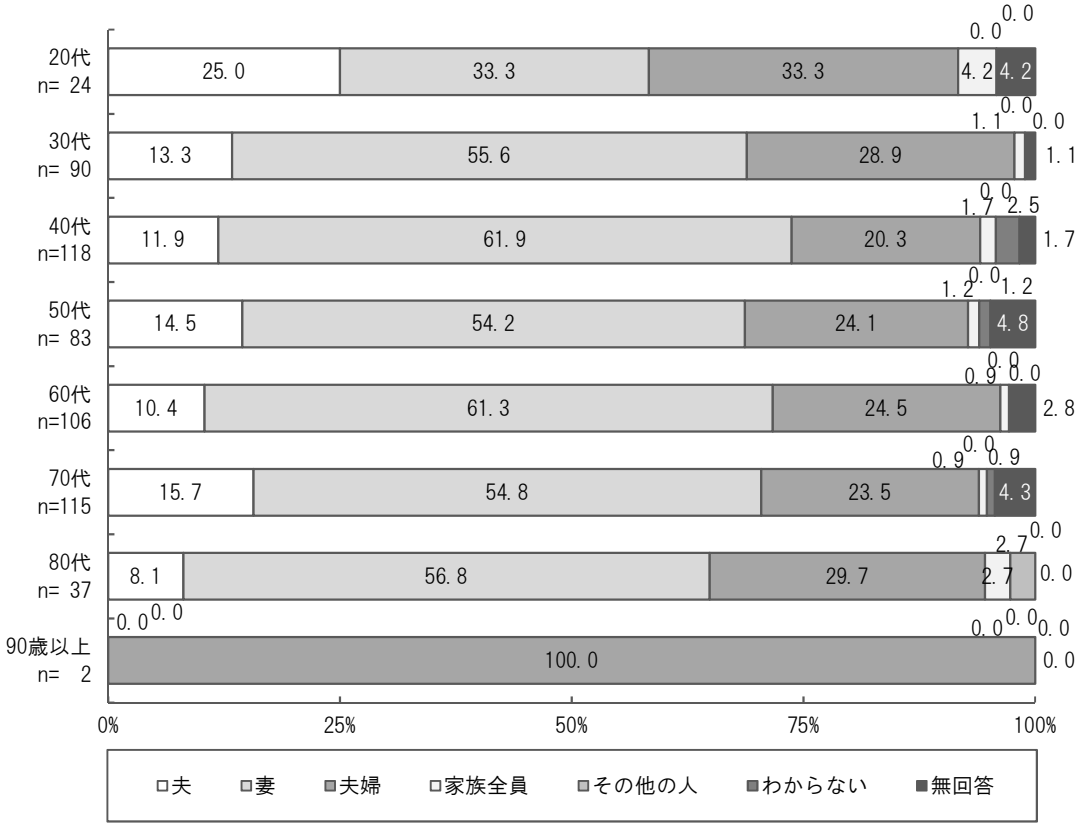
○年代別にみると、20代では「夫婦」「妻」がともに33.3%、「夫」が25.0%となっています。30～80代は、「妻」が最も高く、次いで「夫婦」「夫」となっています。

問10-Ｆ　家計の管理の分担

【全体・性別】



【年代別】



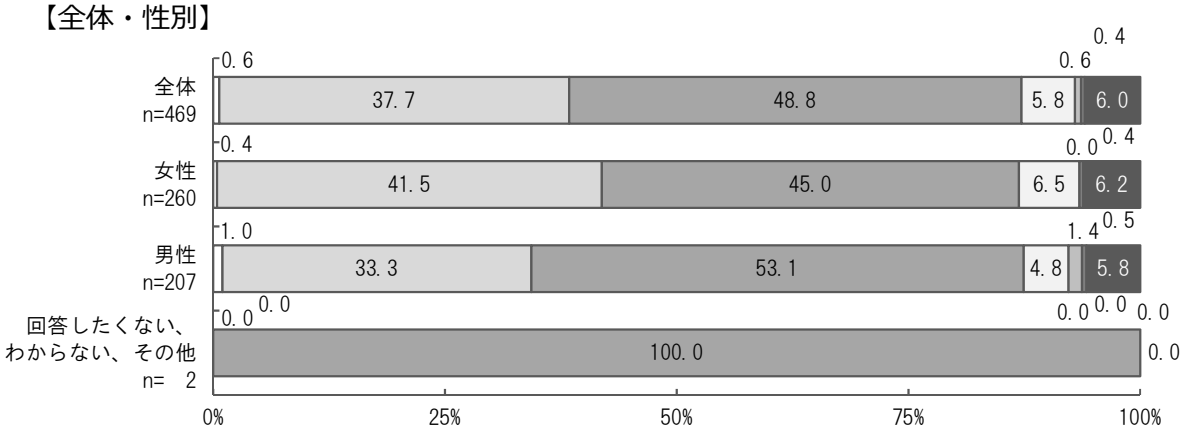
⑦ 子育て（子どもの世話・しつけ・教育など）

○子育ては、全体では「夫婦」が48.8%、「妻」が37.7%、「家族全員」が5.8%となっています。性別では「夫婦」は女性で45.0%、男性で53.1%、「妻」は女性で41.5%、男性で33.3%となっています。

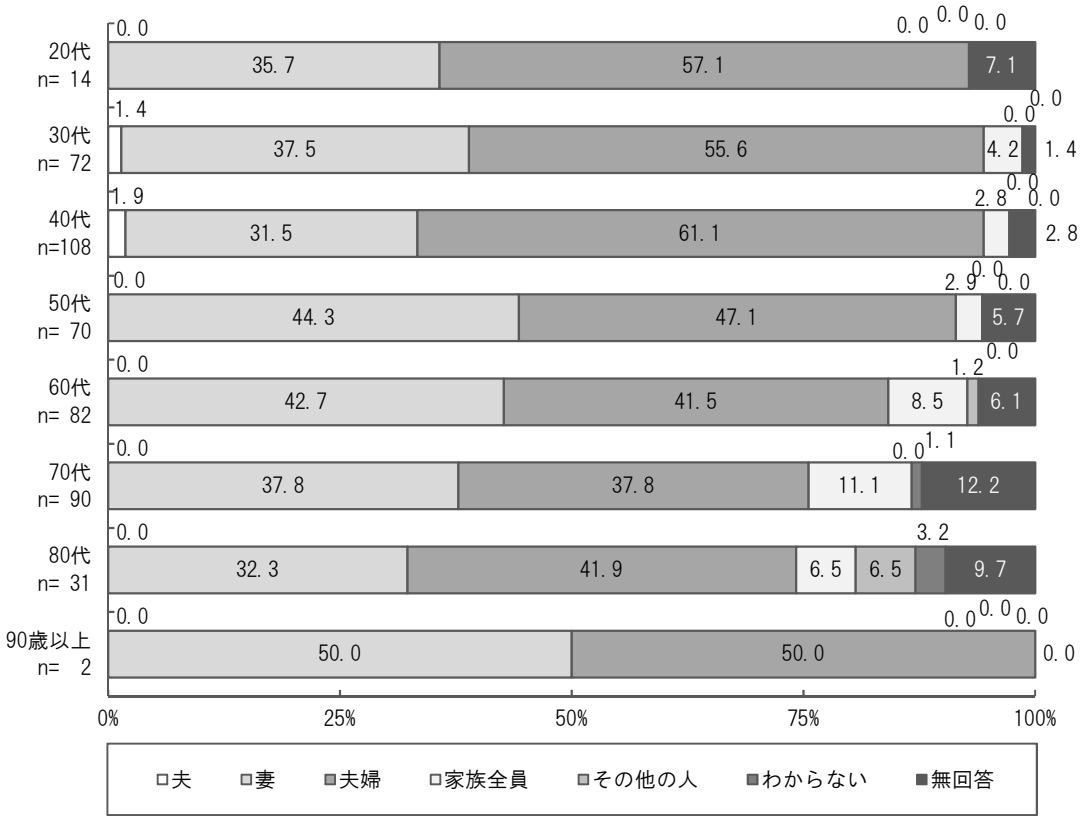
○年代別にみると、20～60代・80代では「夫婦」が最も高く、次いで「妻」となっています。70代では「妻」「夫婦」がともに37.8%で最も高く、次いで「家族全員」となっています。

問10-Ｇ　子育ての分担

【全体・性別】



【年代別】



※全体の母数から「子育て」非該当（「該当なし」と回答した方）の人数を除き、割合を算出しています。

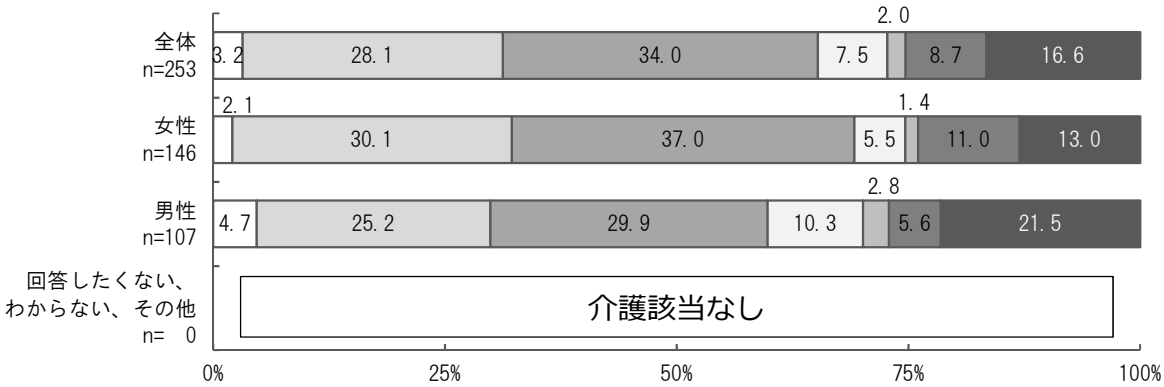
⑧ 介護（介護の必要な親の世話・病人の介護など）

○介護は、全体では「夫婦」が34.0%、「妻」が28.1%、「家族全員」が7.5%となっています。性別では「夫婦」は女性で37.0%、男性で29.9%、「妻」は女性で30.1%、男性で25.2%、「家族全員」は女性で5.5%、男性で10.3%となっています。

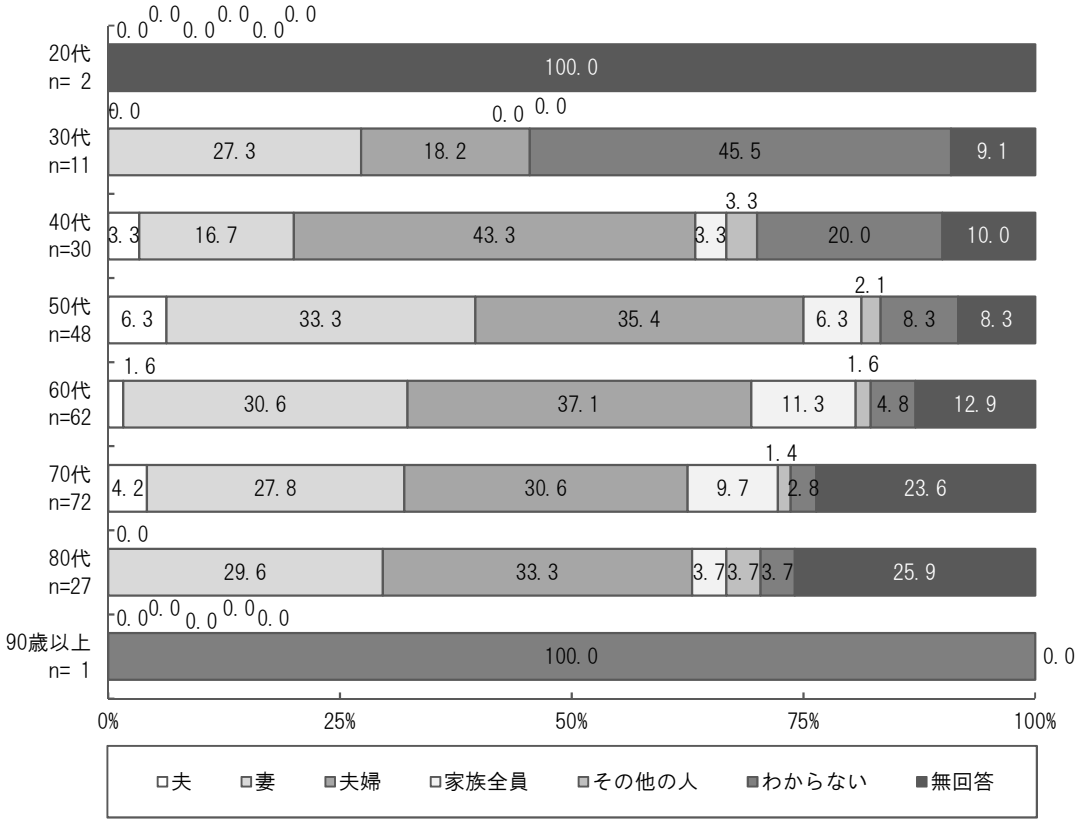
○年代別にみると、30代では「妻」が最も高く、次いで「夫婦」、40～80代は、「夫婦」が最も高く、次いで「妻」となっています。

問10-H　介護の分担

【全体・性別】



【年代別】

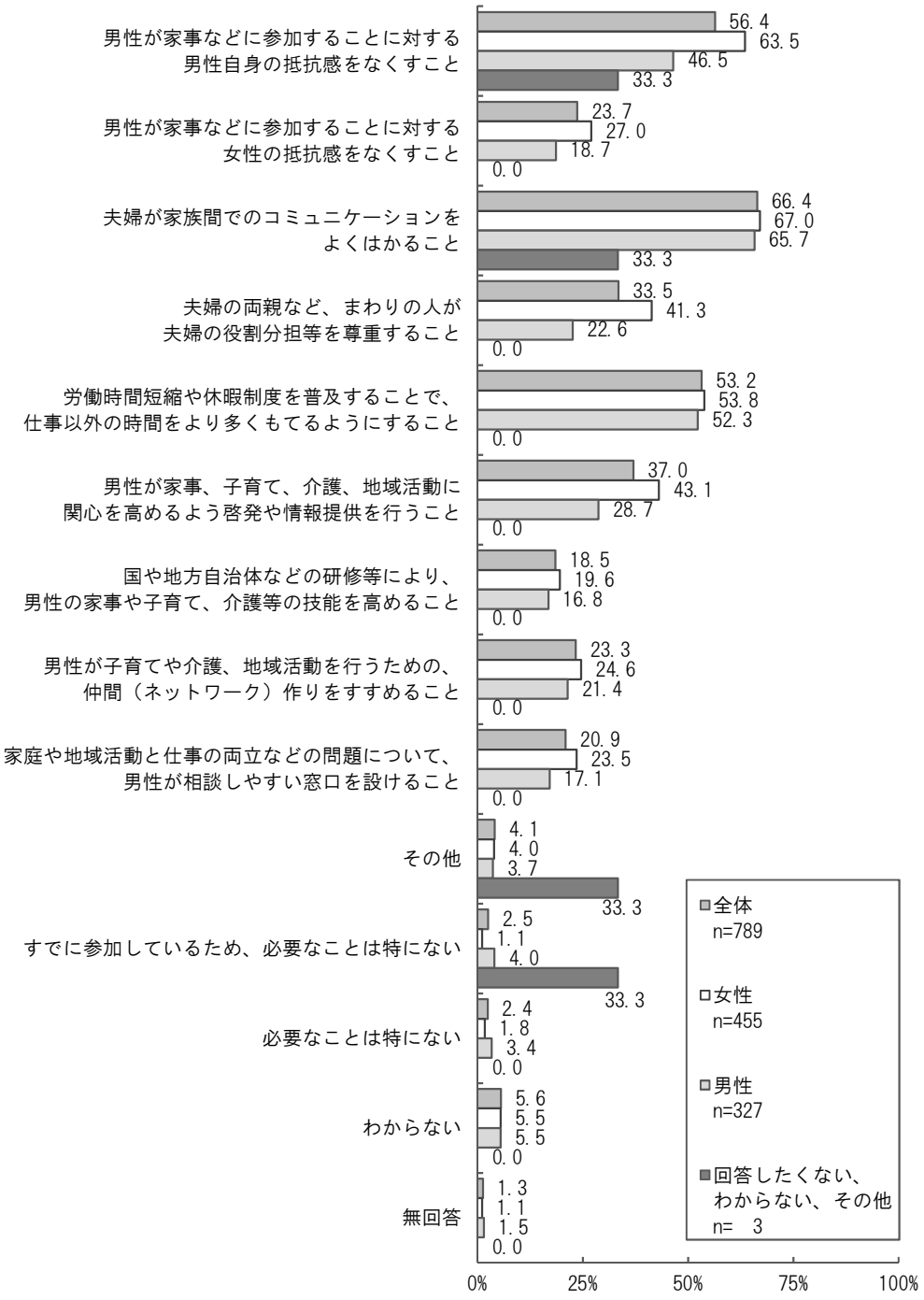


※全体の母数から「介護」非該当（「該当なし」と回答した方）の人数を除き、割合を算出しています。

（３）家事、子育て、介護、地域活動への男性の積極的な参加

○今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、全体・女性・男性いずれも「夫婦が家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高く、次いで全体・女性は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、男性は「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」となっています。

問11　男性の家事、子育て、介護、地域活動への積極的な参加に必要なこと
【全体・性別】



○年代別にみると、20代・40代では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」が最も高く、次いで「夫婦が家族間でのコミュニケーションをよくはかること」となっています。30代・50～80代は「夫婦が家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高く、次いで30代は「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」、50～80代は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」となっています。

問11　男性の家事、子育て、介護、地域活動への積極的な参加に必要なこと
【年代別】

単位：%

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	61.5	52.6	55.5	61.8	61.2	54.4	46.6	75.0
男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	19.2	19.3	20.5	20.9	29.9	22.8	31.5	50.0
夫婦が家族間でのコミュニケーションをよくはかること	76.9	**76.3**	59.6	**64.5**	**70.9**	**61.7**	**60.3**	87.5
夫婦の両親など、まわりの人が夫婦の役割分担等を尊重すること	46.2	26.3	33.6	30.9	33.6	37.6	30.1	37.5
労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること	**76.9**	73.7	**64.4**	56.4	53.0	24.8	34.2	62.5
男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	28.8	36.8	33.6	40.0	45.5	35.6	28.8	75.0
国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	9.6	17.5	15.1	17.3	23.1	17.4	24.7	50.0
男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	21.2	27.2	19.9	23.6	28.4	20.1	17.8	62.5
家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	21.2	21.9	15.8	20.0	26.9	18.1	21.9	50.0
その他	3.8	7.0	6.2	6.4	1.5	1.3	2.7	0.0
すでに参加しているため、必要なことは特にない	0.0	1.8	1.4	0.9	3.0	4.7	5.5	0.0
必要なことは特にない	0.0	0.0	1.4	0.0	1.5	6.0	8.2	0.0
わからない	0.0	2.6	2.1	6.4	3.0	8.1	17.8	12.5
無回答	0.0	0.0	0.0	1.8	0.7	2.7	2.7	0.0

（４）生活における優先順位

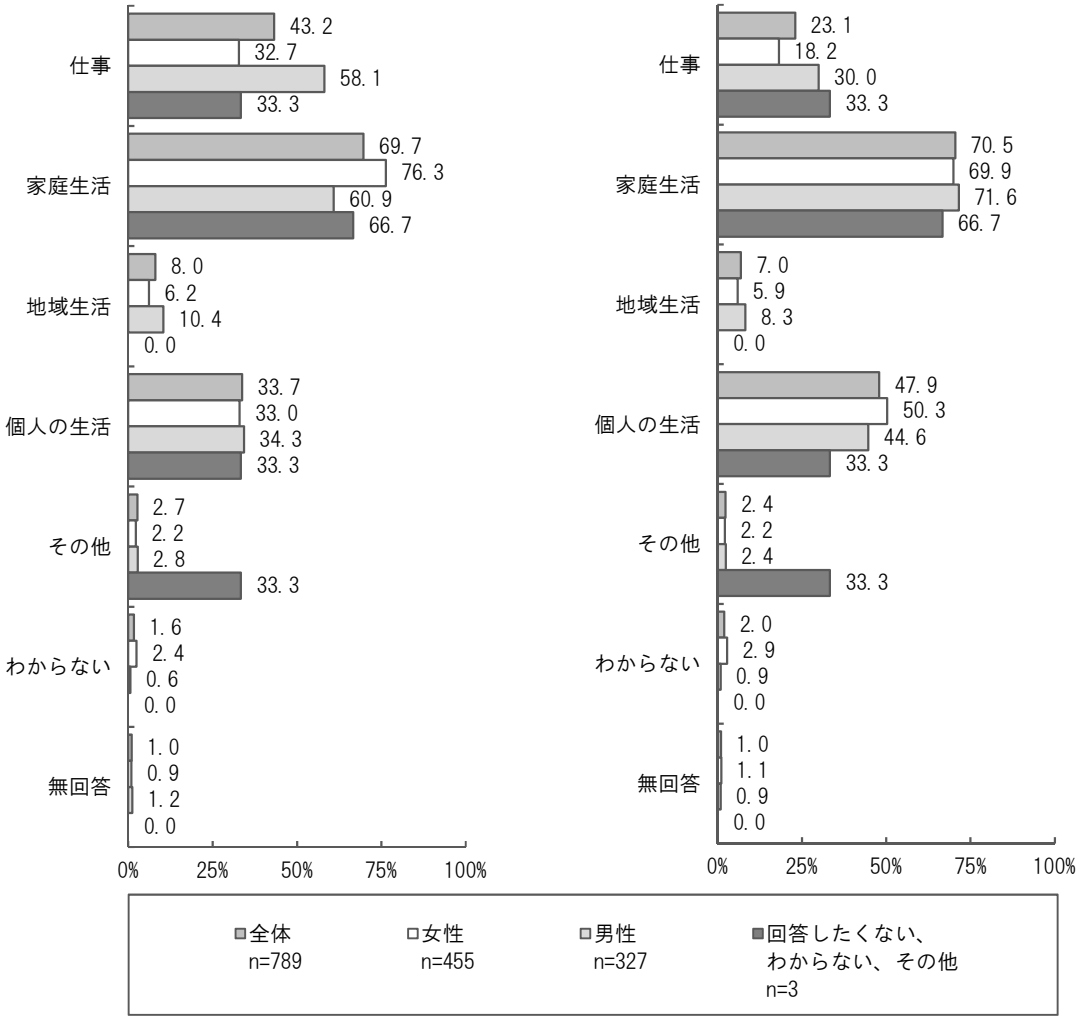
○生活の中で、実際に優先しているものは、全体では「家庭生活」（69.7%）が最も高くなっています。性別では、女性・男性ともに「家庭生活」（76.3%・60.9%）が最も高いものの、女性が男性を15.4ポイント上回っています。また、「仕事」（32.7%・58.1%）では男性が女性を25.4ポイント上回っています。

○一方、優先したいものは、全体では「家庭生活」（70.5%）が最も高くなっています。性別では、女性・男性ともに「家庭生活」（69.9%・71.6%）が最も高く、次いで「個人の生活」（50.3%・44.6%）、「仕事」（18.2%・30.0%）となっています。「仕事」では男性が女性を11.8ポイント上回っています。

○現実と理想の差異をみると、女性では「仕事」で現実が理想を14.5ポイント、「家庭生活」で6.4ポイント上回っています。また、「個人の生活」で理想が現実を17.3ポイント上回っています。男性では「仕事」で現実が理想を28.1ポイント上回っています。また、「家庭生活」で理想が現実を10.7ポイント、「個人の生活」で10.3ポイント上回っています。

問12　生活の中で、優先しているもの　　問13　生活の中で、優先したいもの

【全体・性別】



○年代別にみると、実際に優先しているものは、いずれの年代も「家庭生活」が最も高く、次いで20～60代は「仕事」、70代・80代は「個人の生活」となっています。
○一方、優先したいものは、いずれの年代も「家庭生活」が最も高く、次いで「個人の生活」となっています。
○現実と理想の差異をみると、30代では「家庭生活」で理想が現実を11.4ポイント上回っています。また、20～60代では「仕事」で現実が理想を、「個人の生活」で理想が現実をいずれも大きく上回っています。

問12　生活の中で、優先しているもの【年代別】

単位：%

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
仕事	48.1	57.0	56.8	58.2	47.0	19.5	13.7	12.5
家庭生活	**57.7**	**71.1**	**74.7**	**69.1**	**73.9**	**71.1**	**60.3**	37.5
地域生活	0.0	2.6	0.0	2.7	9.0	21.5	17.8	0.0
個人の生活	42.3	25.4	29.5	25.5	38.1	40.3	41.1	25.0
その他	1.9	6.1	3.4	1.8	0.7	0.7	5.5	0.0
わからない	0.0	0.9	0.7	0.9	0.0	3.4	4.1	25.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.9	0.7	2.0	2.7	0.0

問13　生活の中で、優先したいもの【年代別】

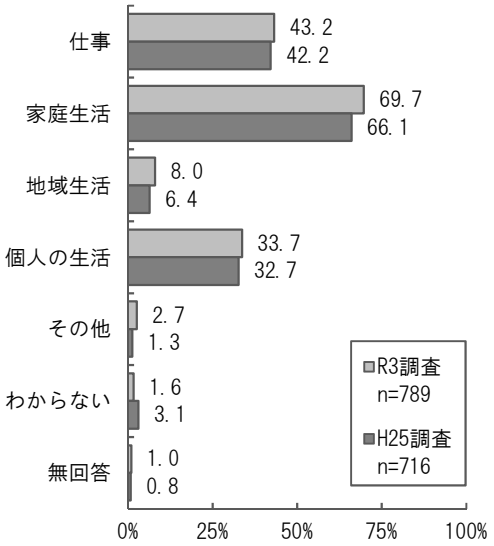
単位：%

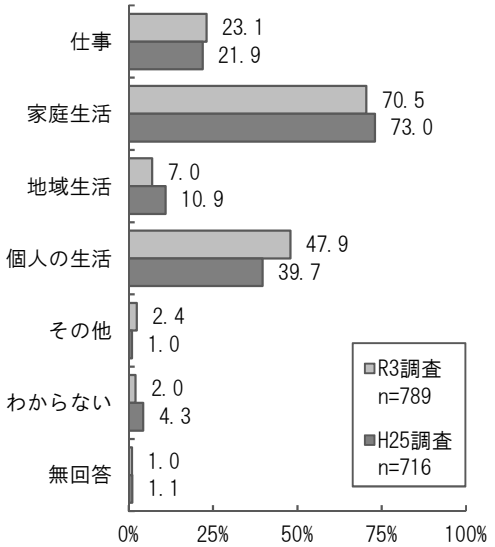
	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
仕事	25.0	27.2	30.1	27.3	25.4	14.1	11.0	12.5
家庭生活	**59.6**	**82.5**	**78.8**	**66.4**	**72.4**	**67.8**	**54.8**	37.5
地域生活	0.0	5.3	1.4	4.5	5.2	14.8	17.8	0.0
個人の生活	57.7	42.1	50.7	52.7	48.5	45.6	41.1	50.0
その他	1.9	5.3	2.7	1.8	2.2	0.7	2.7	0.0
わからない	1.9	1.8	0.0	0.9	0.7	2.7	8.2	12.5
無回答	0.0	0.0	0.0	1.8	0.7	2.0	1.4	0.0

○H25調査と比較すると、全体では、「個人の生活」で現実と理想の差異が7.0ポイントから14.2ポイントと大きくなっています。
○女性でも、「個人の生活」で現実と理想の差異が9.7ポイントから17.3ポイントと大きくなっています。

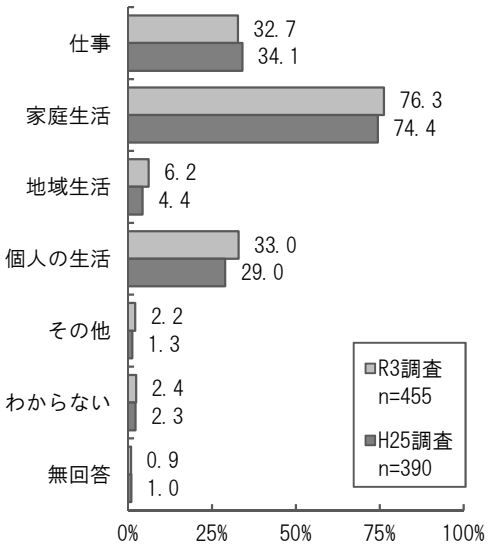
問12　生活の中で、優先しているもの　　問13　生活の中で、優先したいもの
（経年比較）

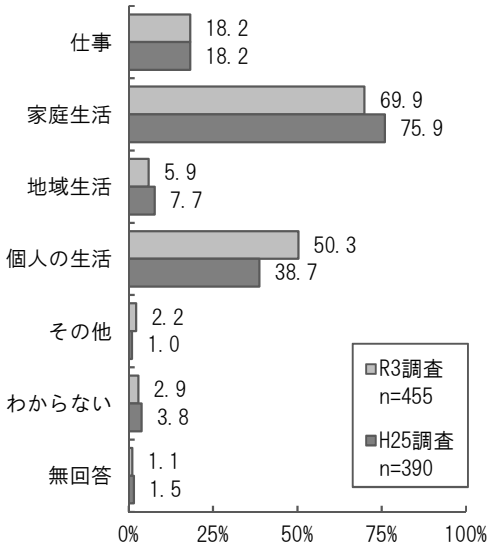
【全体】





【女性】



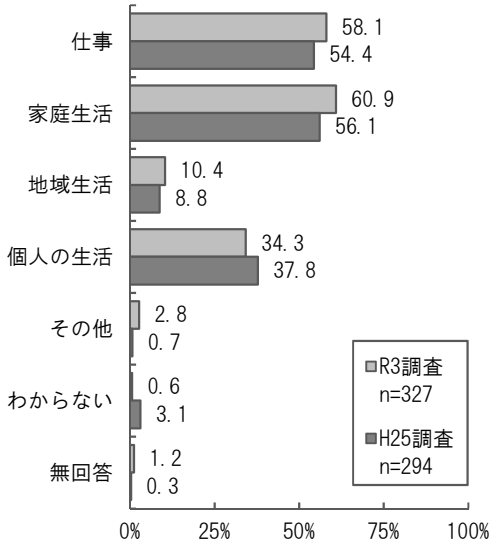


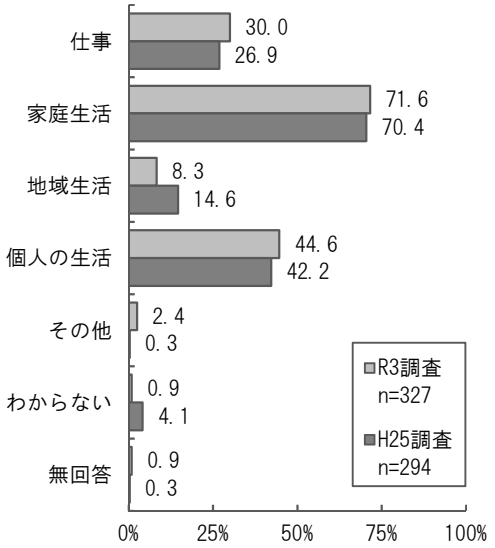
○男性では、「個人の生活」で現実と理想の差異が4.4ポイントから10.3ポイントと大きくなっています。

問12　生活の中で、優先しているもの　　問13　生活の中で、優先したいもの

（経年比較）

【男性】





（５）家事・育児・介護に携わる時間

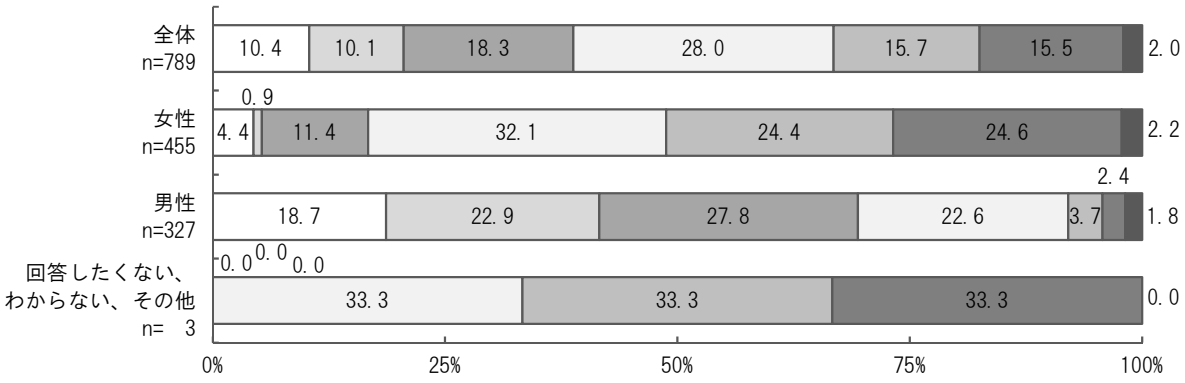
○平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間は、全体では「１時間～３時間未満」（28.0%）で最も高くなっています。性別では、女性は「１時間～３時間未満」（32.1%）、男性は「30分～１時間未満」（27.8%）が最も高くなっています。また、『３時間以上』は、女性が49.0%と約半数を占めるのに対し、男性は6.1%と42.9ポイントの差があります。

○年代別では、30代で「５時間以上」、50代で「３時間～５時間未満」、20代・40代・60～80代で「１時間～３時間未満」が最も高くなっています。また、30～50代で『３時間以上』が４割を超えています。

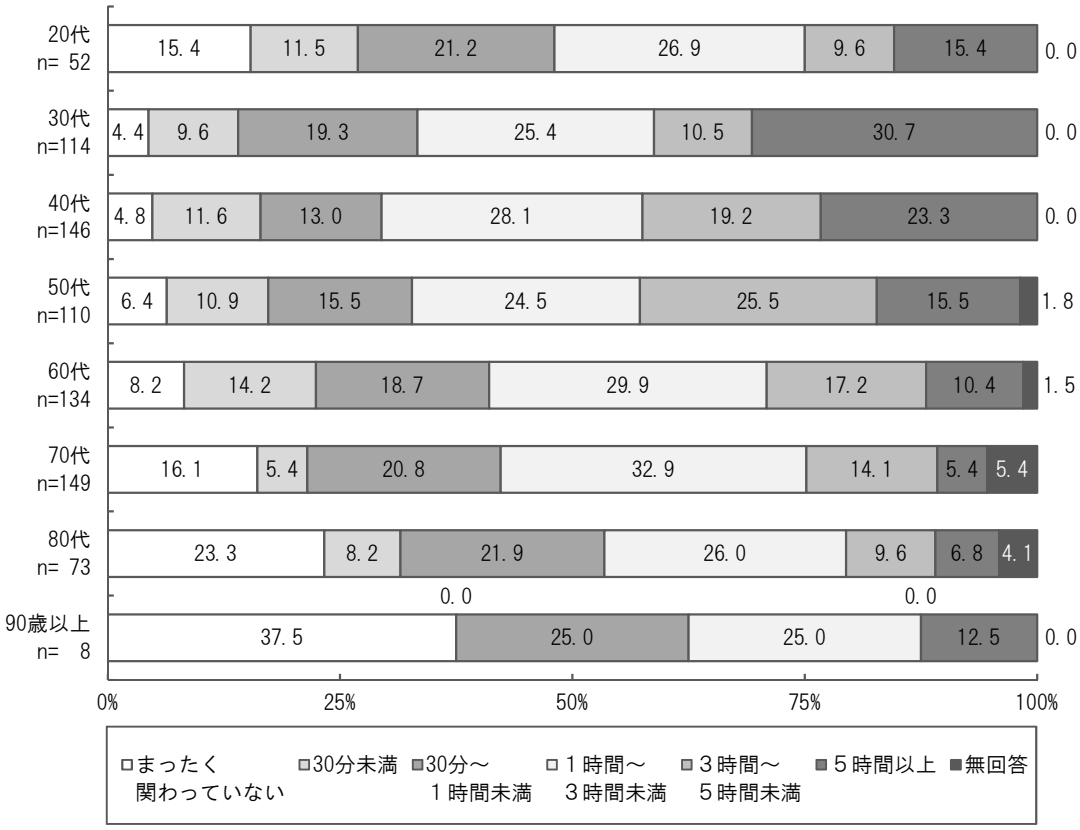
※『３時間以上』:「３時間～５時間未満」＋「５時間以上」

問14　平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間

【全体・性別】



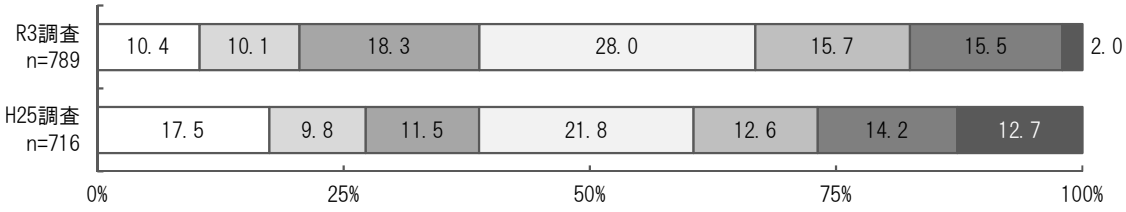
【年代別】



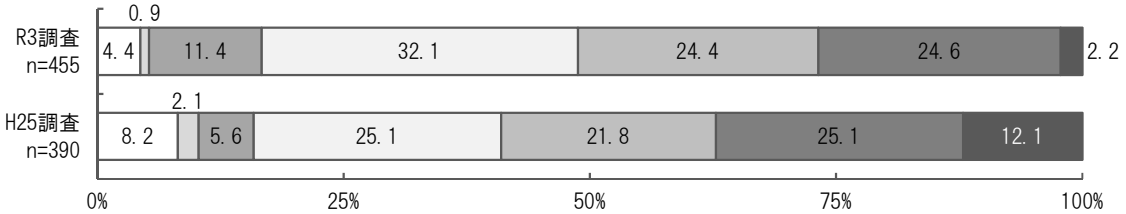
○H25調査と比較すると、全体では「30分～１時間未満」が6.8ポイント、「１時間～３時間未満」が6.2ポイント上回り、「まったく関わっていない」が7.1ポイント下回っています。性別では、女性は「１時間～３時間未満」が7.0ポイント、「30分～１時間未満」が5.8ポイント上回っています。男性は「30分～１時間未満」が8.8ポイント、「１時間～３時間未満」が5.3ポイント上回り、「まったく関わっていない」が9.9ポイント下回っています。

問14　平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間（経年比較）

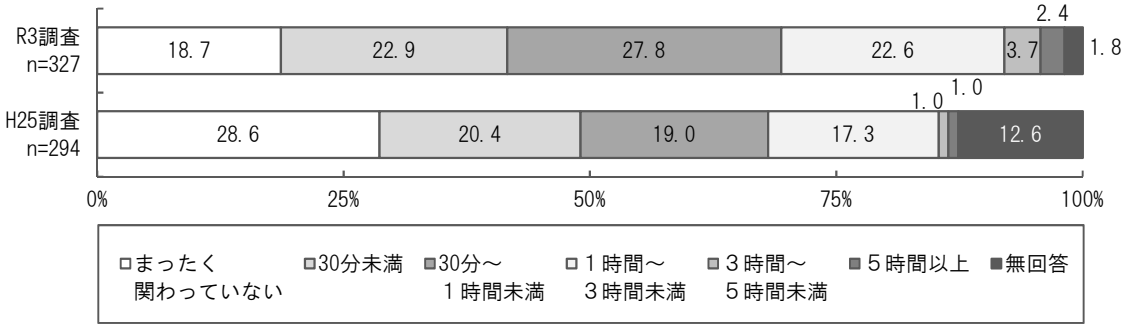
【全体】



【女性】



【男性】



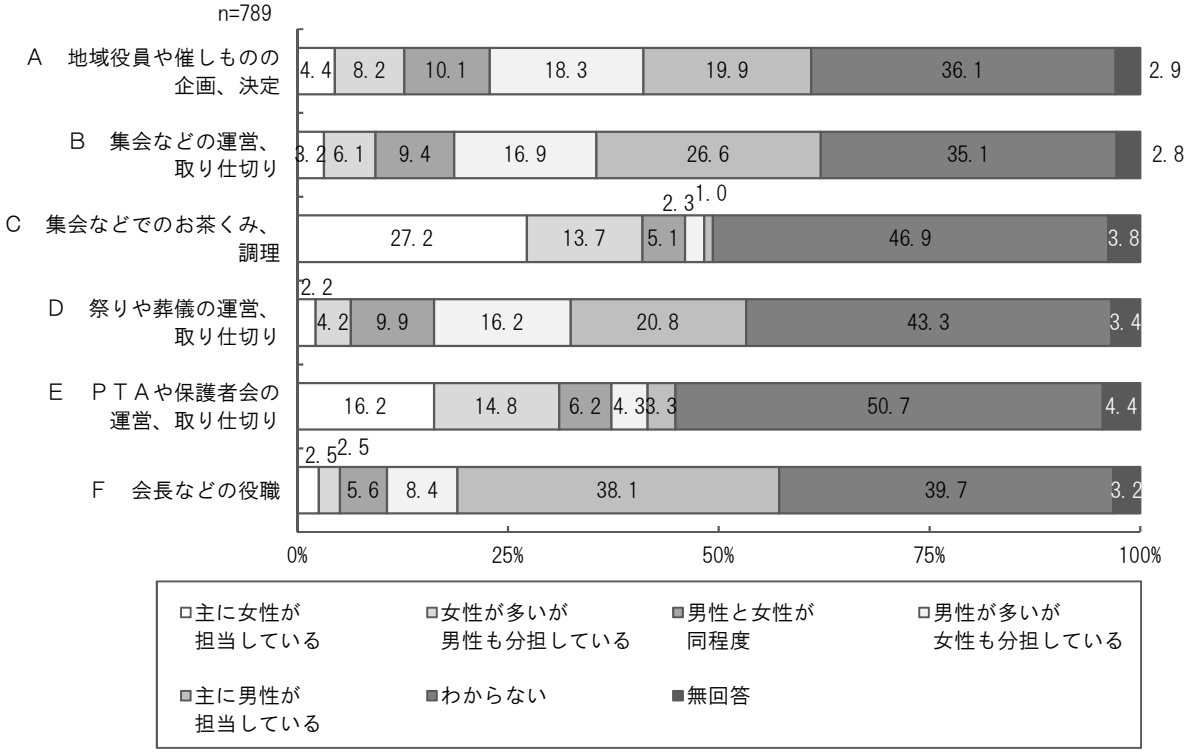
４　地域や社会との関わり

（１）地域活動における役割分担

○地域活動での役割分担をみると、『女性中心』は「Ｃ　集会などでのお茶くみ、調理」が40.9%、「Ｅ　ＰＴＡや保護者会の運営、取り仕切り」が31.0%となっています。一方、『男性中心』は「Ｆ　会長などの役職」が46.5%、「Ｂ　集会などの運営、取り仕切り」が43.5%、「Ａ　地域役員や催しものの企画、決定」が38.2%、「Ｄ　祭りや葬儀の運営、取り仕切り」が37.0%となっています。また、『同程度』は「Ａ　地域役員や催しものの企画、決定」が10.1%で最も高くなっています。

※『女性中心』:「主に女性が担当している」＋「女性が多いが男性も分担している」
『男性中心』:「主に男性が担当している」＋「男性が多いが女性も分担している」
『同程度』:「男性と女性が同程度」

問15　地域活動での役割分担



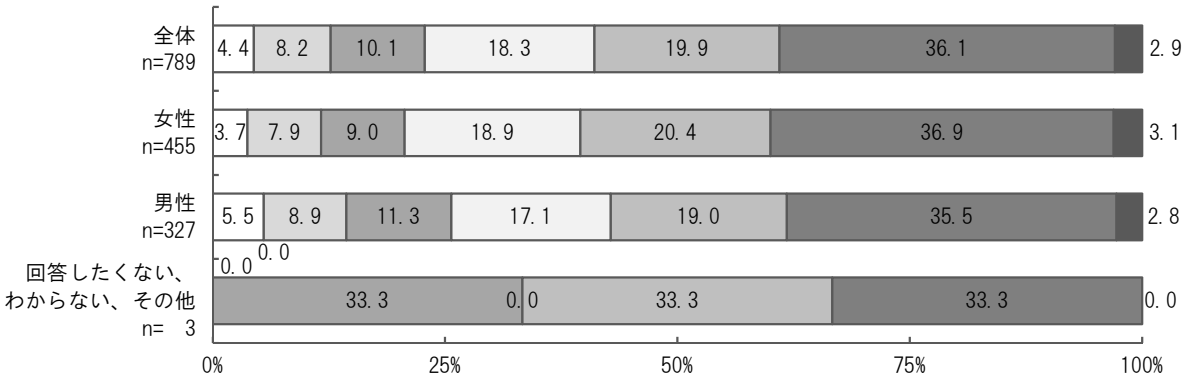
① 地域役員や催しものの企画、決定

○「地域役員や催しものの企画、決定」は、全体では『男性中心』が38.2%、『女性中心』が12.6%、『同程度』が10.1%となっています。性別では、『男性中心』は女性で39.3%、男性で36.1%、『女性中心』は女性で11.6%、男性で14.4%、『同程度』は女性で9.0%、男性で11.3%となっています。

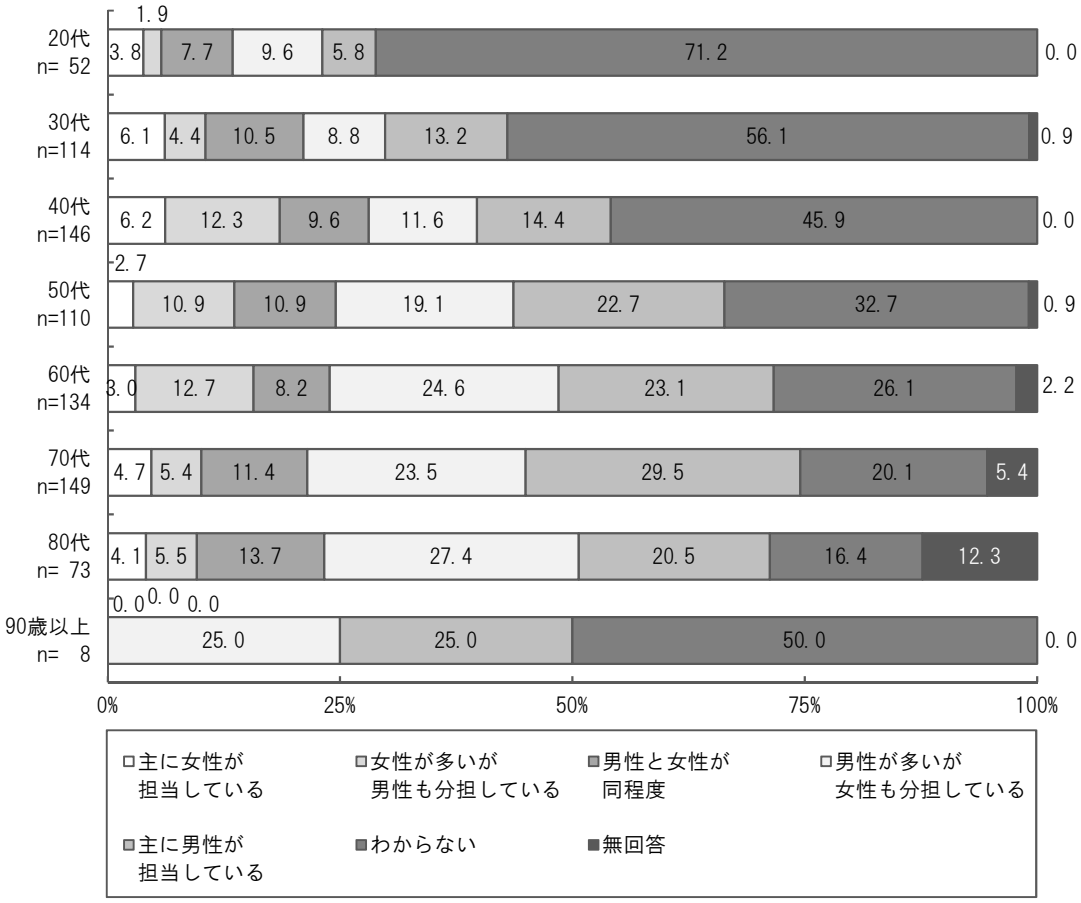
○年代別では、いずれの年代も『男性中心』が高く、70代では53.0%と５割を超えています。

問15-Ａ　「地域役員や催しものの企画、決定」の役割分担

【全体・性別】



【年代別】



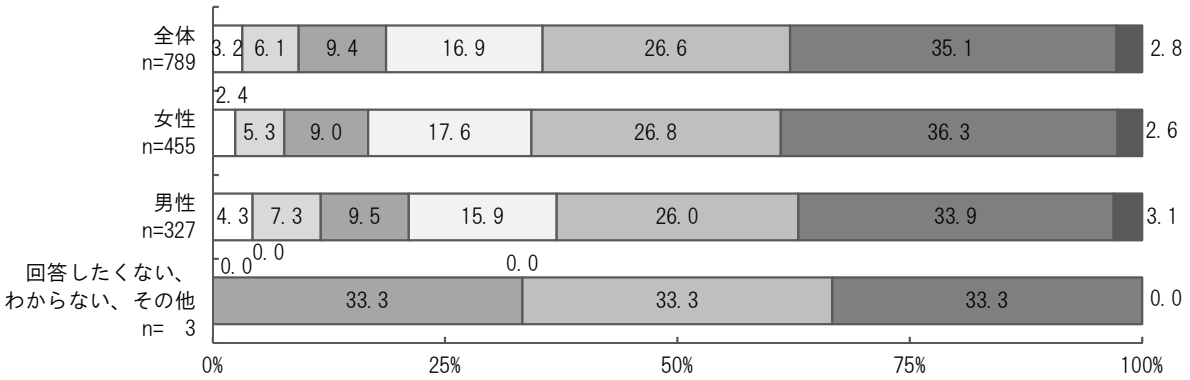
② 集会などの運営、取り仕切り

○「集会などの運営、取り仕切り」は、全体では『男性中心』が43.5%、『同程度』が9.4%、『女性中心』が9.3%となっています。性別では、『男性中心』は女性で44.4%、男性で41.9%、『女性中心』は女性で7.7%、男性で11.6%、『同程度』は女性で9.0%、男性で9.5%となっています。

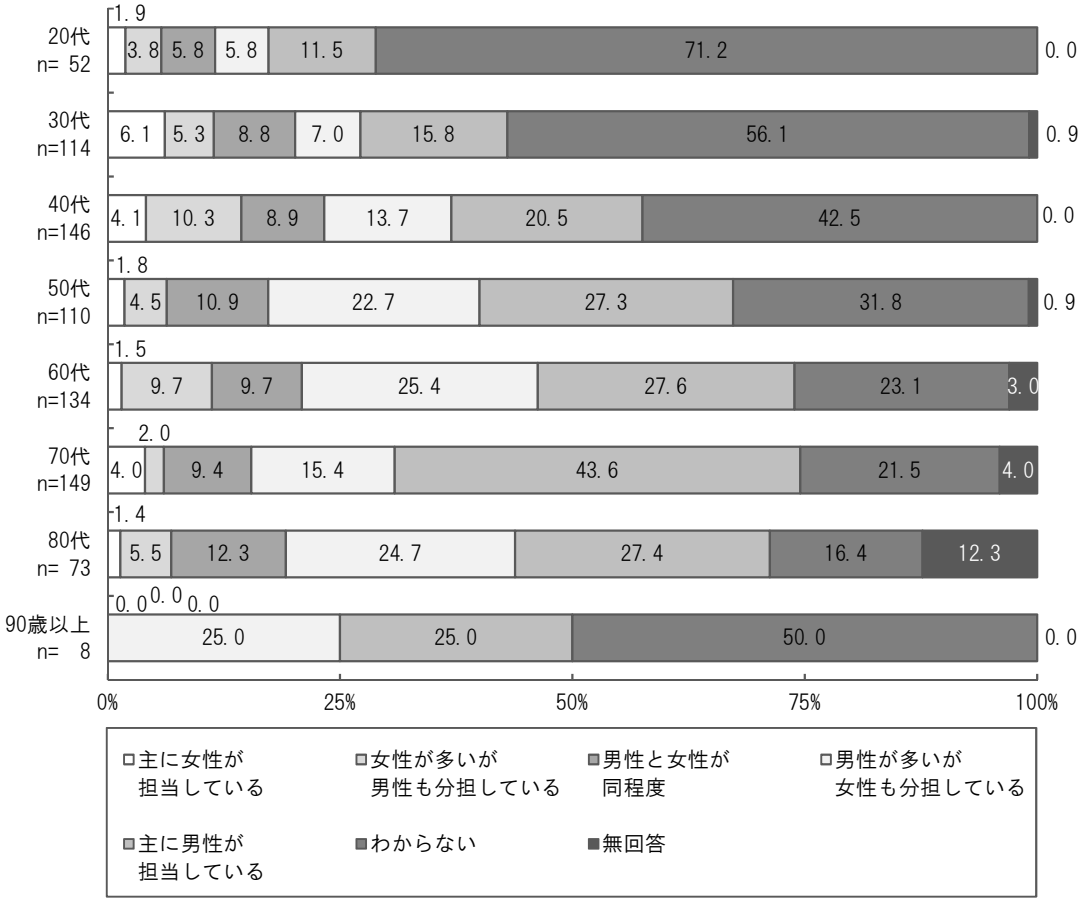
○年代別では、いずれの年代も『男性中心』が高く、50～80代では５割を超え、70代では59.0%と最も高くなっています。

問15-Ｂ　「集会などの運営、取り仕切り」の役割分担

【全体・性別】



【年代別】



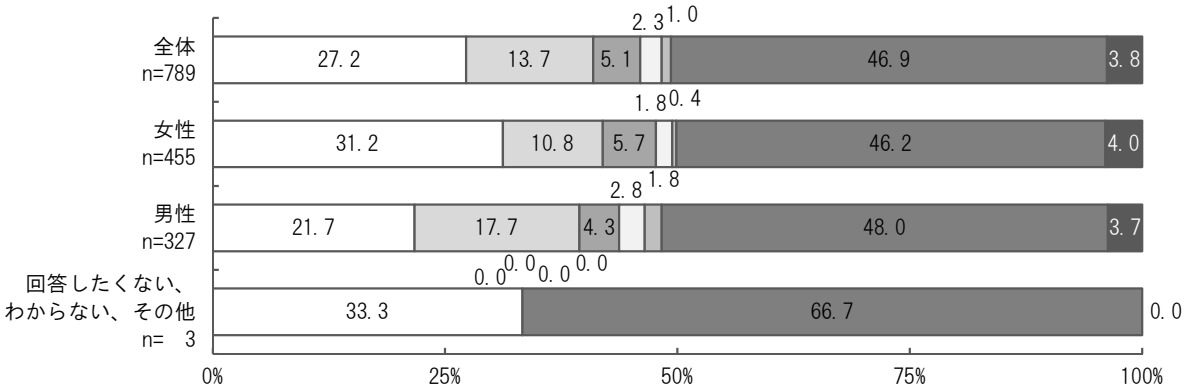
③ 集会などでのお茶くみ、調理

○「集会などでのお茶くみ、調理」は、全体では『女性中心』が40.9%、『同程度』が5.1%、『男性中心』が3.3%となっています。性別では、『女性中心』は女性で42.0%、男性で39.4%、『同程度』は女性で5.7%、男性で4.3%、『男性中心』は女性で2.2%、男性で4.6%となっています。

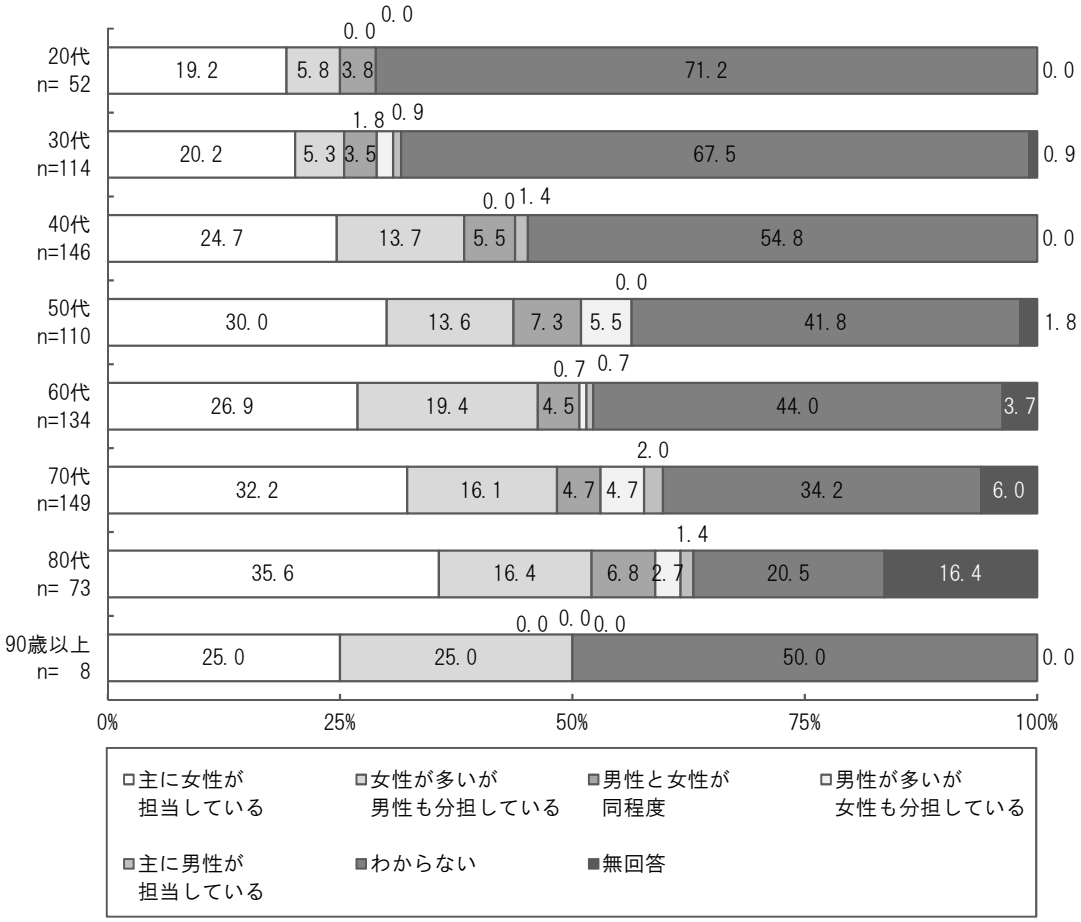
○年代別では、いずれの年代も『女性中心』が高く、年代が上がるにつれ割合が高くなり、80代では52.0%と最も高くなっています。

問15-C　「集会などでのお茶くみ、調理」の役割分担

【全体・性別】



【年代別】



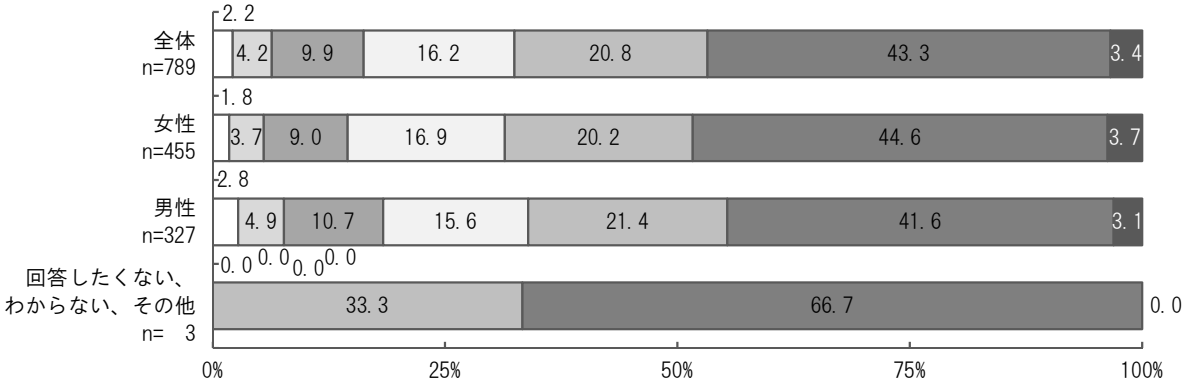
④ 祭りや葬儀の運営、取り仕切り

○「祭りや葬儀の運営、取り仕切り」は、全体では『男性中心』が37.0%、『同程度』が9.9%、『女性中心』が6.4%となっています。性別では、『男性中心』は女性で37.1%、男性で37.0%、『同程度』は女性で9.0%、男性で10.7%、『女性中心』は女性で5.5%、男性で7.7%となっています。

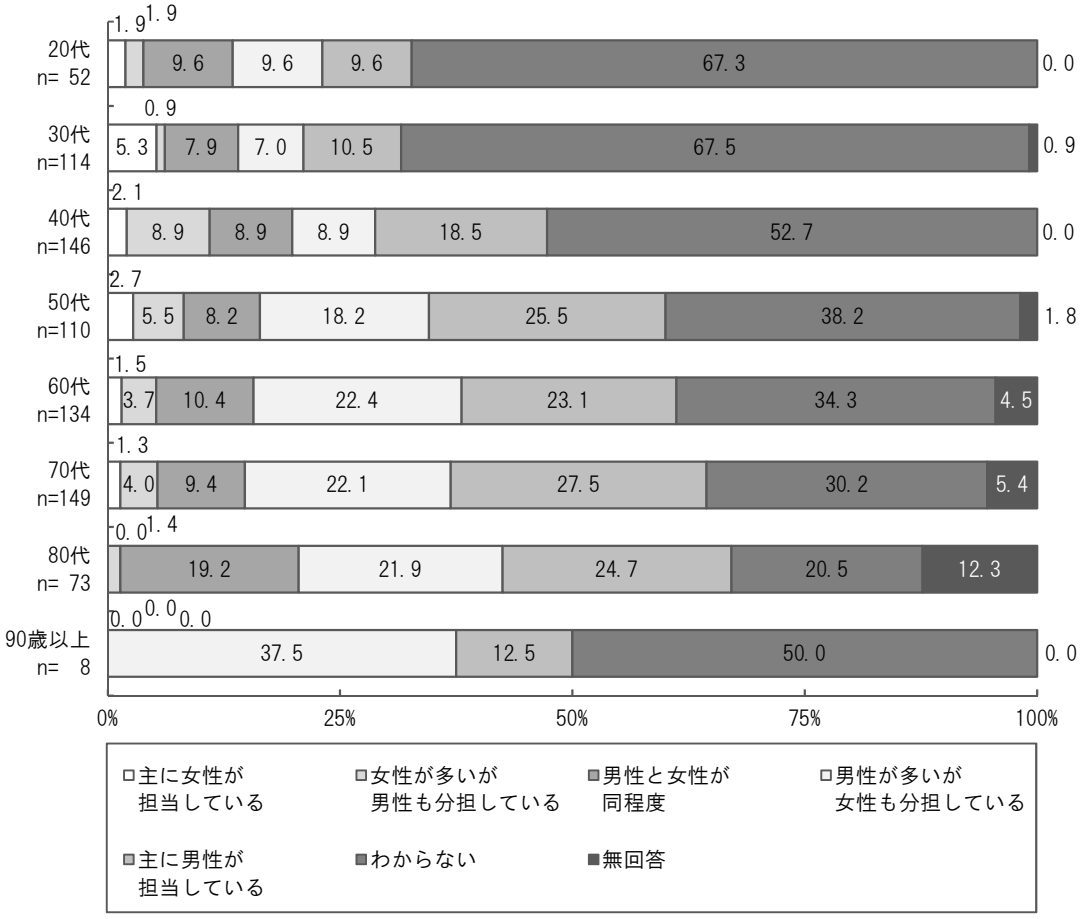
○年代別では、いずれの年代も『男性中心』が高く、50～80代では４割を超え、70代で49.6%と最も高くなっています。

問15-Ｄ　「祭りや葬儀の運営、取り仕切り」の役割分担

【全体・性別】



【年代別】



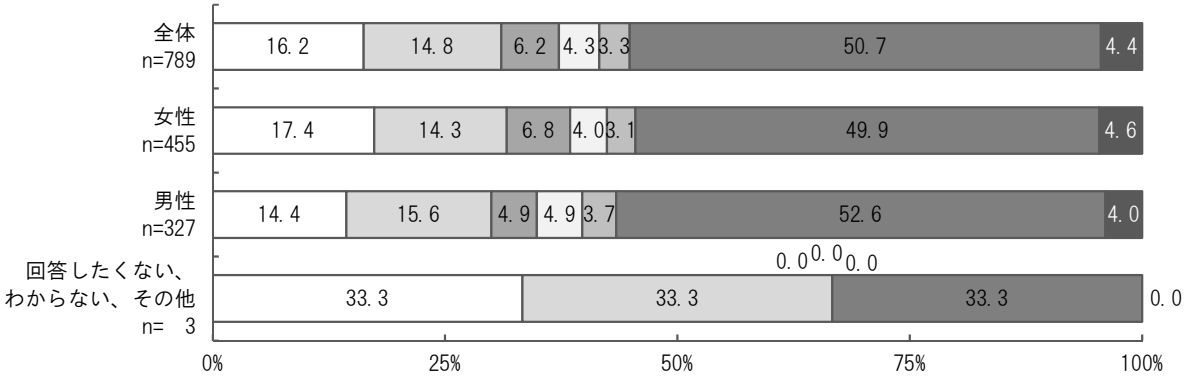
⑤ ＰＴＡや保護者会の運営、取り仕切り

○「ＰＴＡや保護者会の運営、取り仕切り」は、全体では『女性中心』が31.0%、『男性中心』が7.6%、『同程度』が6.2%となっています。性別では、『女性中心』は女性で31.7%、男性で30.0%、『男性中心』は女性で7.1%、男性で8.6%、『同程度』は女性で6.8%、男性で4.9%となっています。

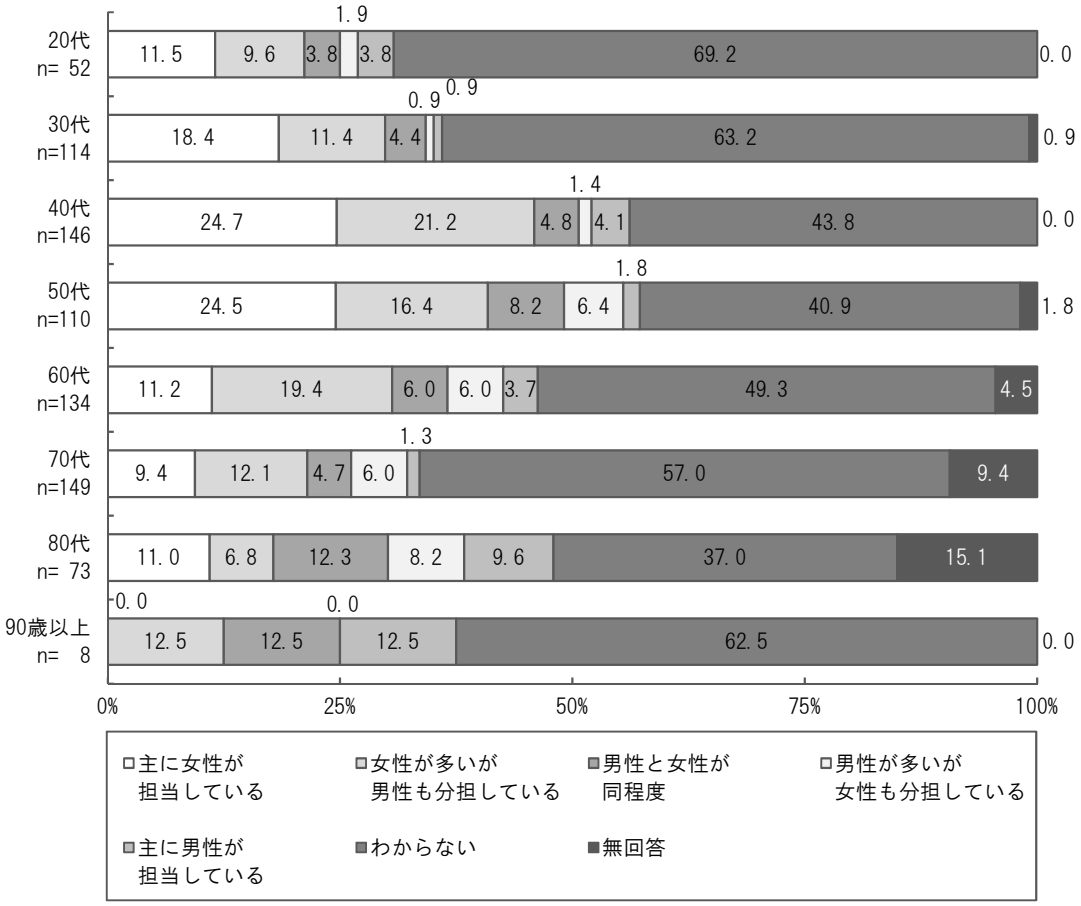
○年代別では、20～70代では『女性中心』が高く、40代・50代では４割を超え、40代で45.9%と最も高くなっています。80代では『女性中心』『男性中心』がともに17.8%となっています。

問15-Ｅ　「ＰＴＡや保護者会の運営、取り仕切り」の役割分担

【全体・性別】



【年代別】



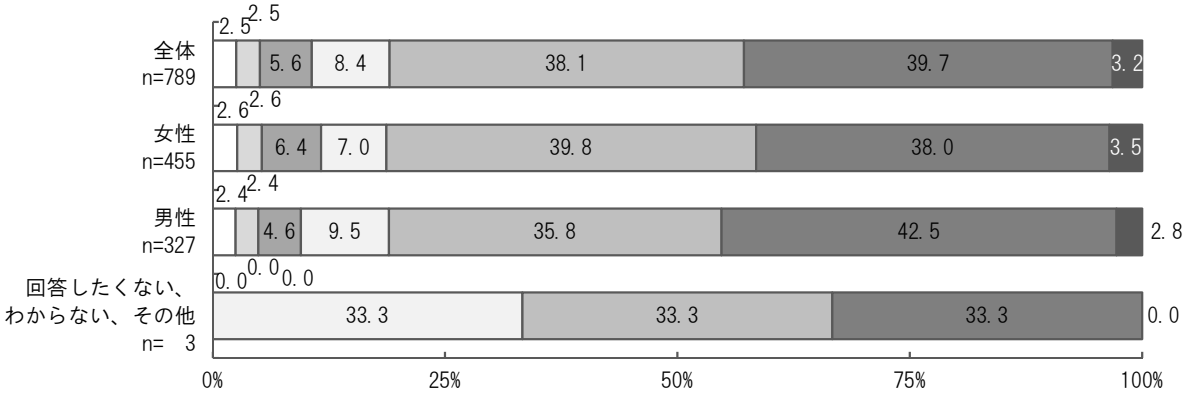
⑥ 会長などの役職

○「会長などの役職」は、全体では『男性中心』が46.5%、『同程度』が5.6%、『女性中心』が5.0%となっています。性別では、『男性中心』は女性で46.8%、男性で45.3%、『女性中心』は女性で5.2%、男性で4.8%、『同程度』は女性で6.4%、男性で4.6%となっています。

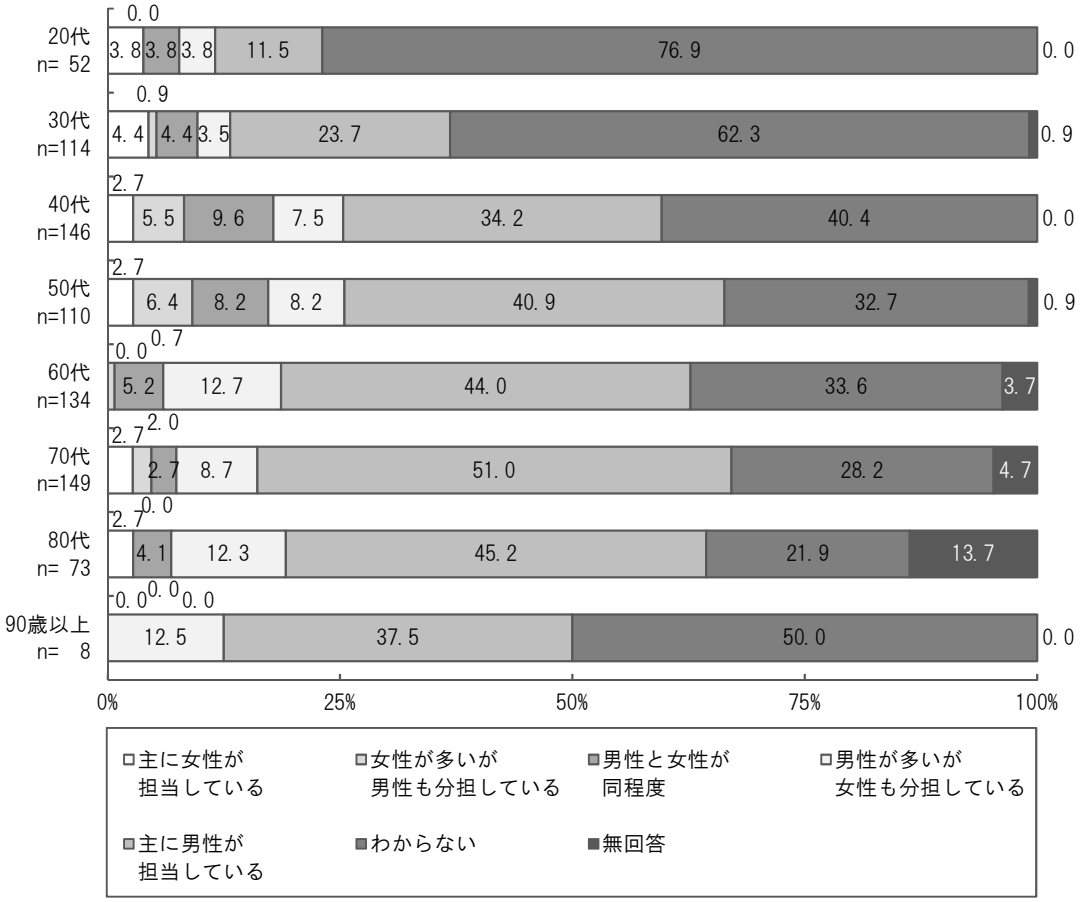
○年代別では、いずれの年代も『男性中心』が高く、60～80代では５割を超え、70代で59.7%と最も高くなっています。

問15-Ｆ　「会長などの役職」の役割分担

【全体・性別】



【年代別】



（２）地域活動における男女共同参画

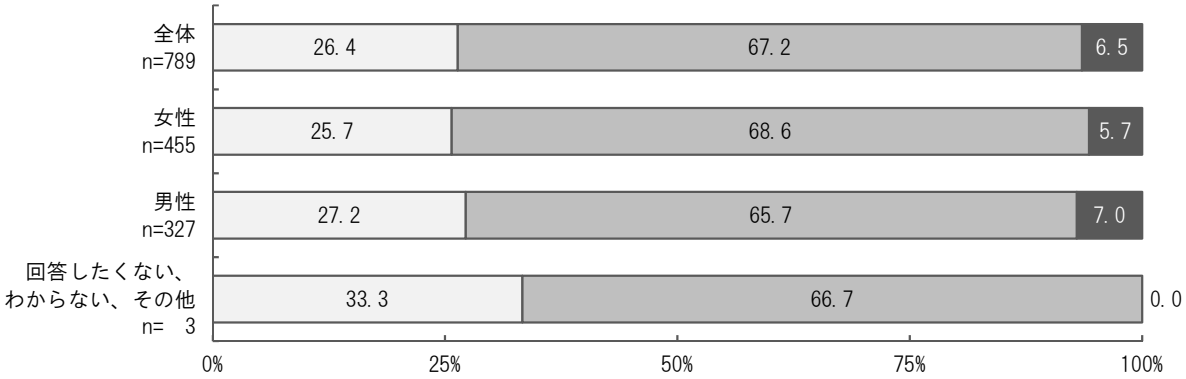
① 地域活動への参加状況

○地域活動への参加状況をみると、全体では「していない」が67.2%、「している」が26.4%となり、「していない」が「している」を40.8ポイント上回っています。性別では、「していない」は女性で68.6%、男性で65.7%、「している」は女性で25.7%、男性で27.2%となっています。

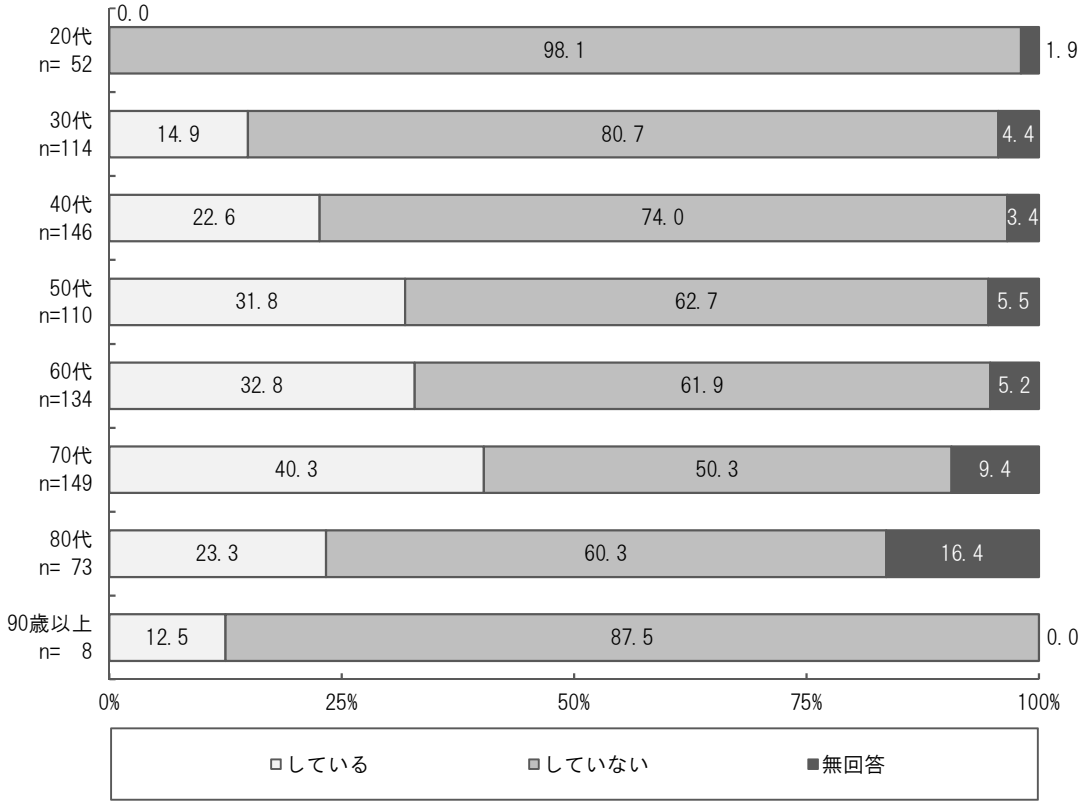
○年代別では、20代で「していない」が98.1%と最も高く、30～70代は年代が上がるにつれ、「していない」が低くなり、70代で50.3%となっています。

問16　地域活動への参加状況

【全体・性別】



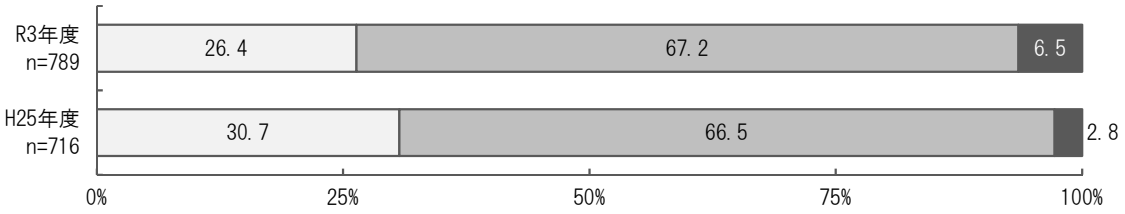
【年代別】



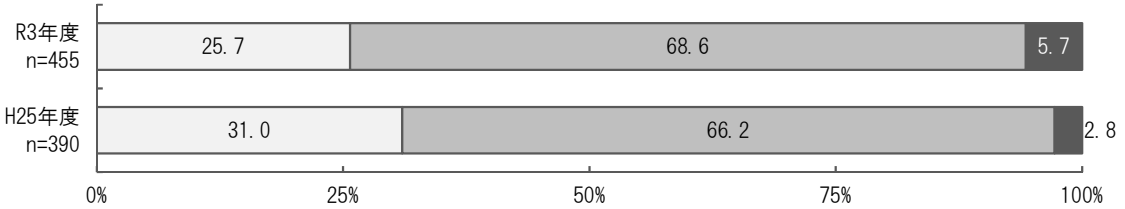
○H25調査と比較すると、R3調査では「していない」が全体・女性でやや高くなり、男性でやや低くなっています。また、「している」が全体・女性・男性いずれも低くなり、特に女性で5.3ポイント下回っています。

問16　地域活動への参加状況（経年比較）

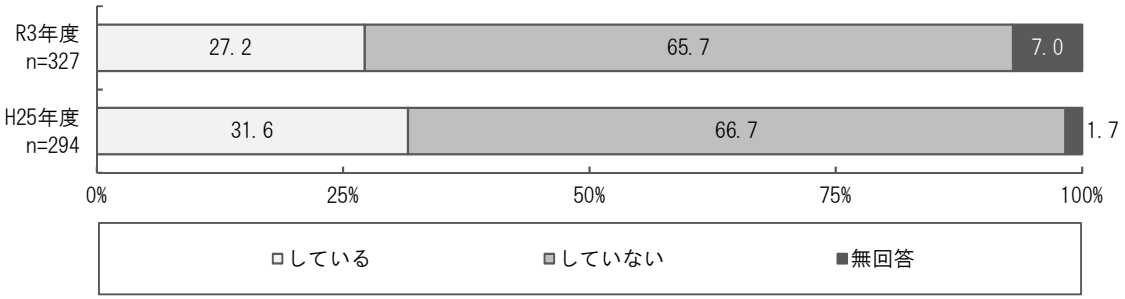
【全体】



【女性】



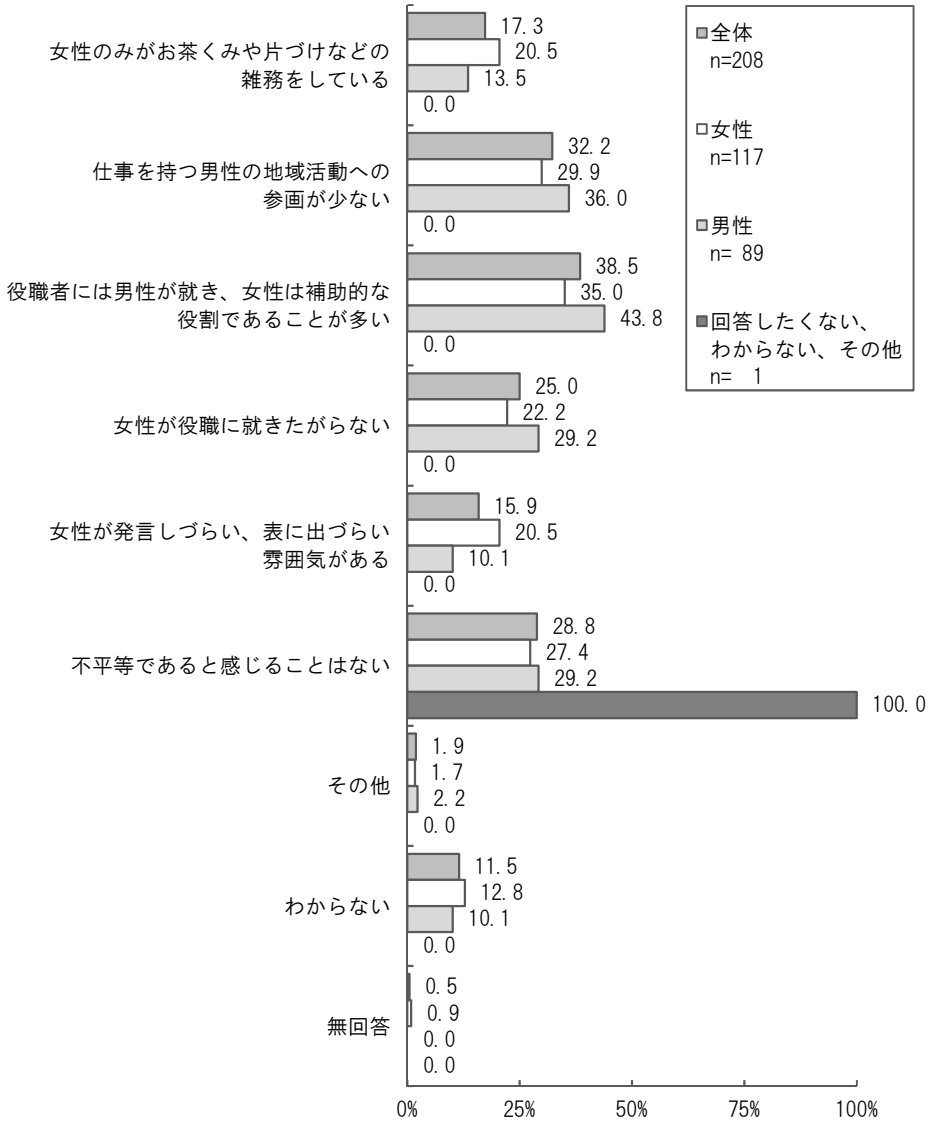
【男性】



② 地域活動の中での男女不平等

○地域活動に参加する中で、男女不平等であると感じることは、全体では「役職者には男性が就き、女性は補助的な役割であることが多い」が38.5%と最も高くなっています。性別でも、男女ともに「役職者には男性が就き、女性は補助的な役割であることが多い」が最も高くなっています。また、「女性が発言しづらい、表に出づらい雰囲気がある」では女性が10.4ポイント、「役職者には男性が就き、女性は補助的な役割であることが多い」では男性が8.8ポイント上回っています。

問16-１　地域活動の中で、男女不平等であると感じること
【全体・性別】



○年代別では、30～70代で「役職者には男性が就き、女性は補助的な役割であることが多い」、さらに、30代では「女性のみがお茶くみや片づけなどの雑務をしている」、60代では「仕事を持つ男性の地域活動への参画が少ない」が最も高くなっています。また、80代では「不平等であると感じることはない」が最も高くなっています。

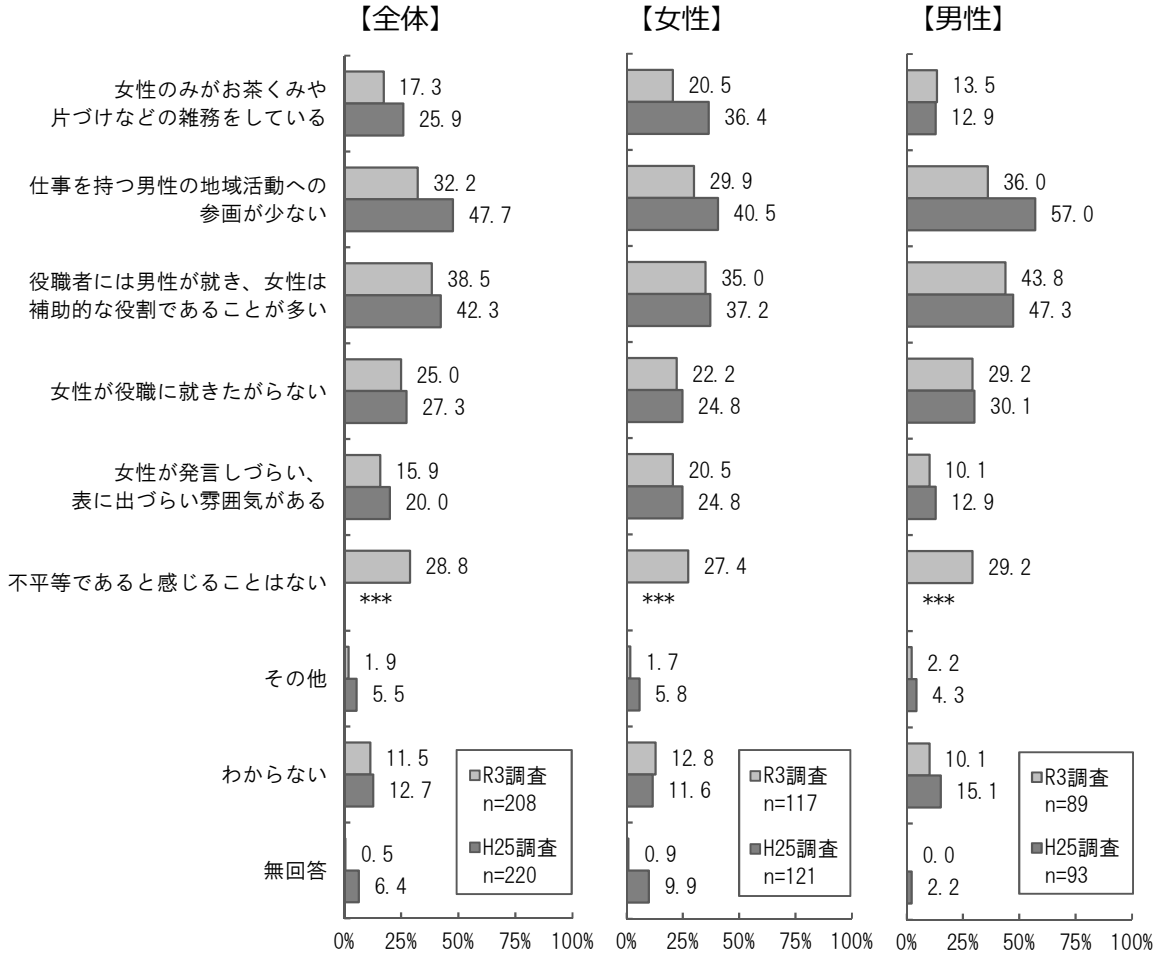
問16-１　地域活動の中で、男女不平等であると感じること【年代別】

単位：％

	20代 n=0	30代 n=17	40代 n=33	50代 n=35	60代 n=44	70代 n=60	80代 n=17	90歳以上 n=1
女性のみがお茶くみや片づけなどの雑務をしている	0.0	**29.4**	15.2	25.7	4.5	18.3	23.5	0.0
仕事を持つ男性の地域活動への参画が少ない	0.0	17.6	24.2	28.6	**43.2**	35.0	35.3	0.0
役職者には男性が就き、女性は補助的な役割であることが多い	0.0	**29.4**	**39.4**	**34.3**	**43.2**	**43.3**	29.4	0.0
女性が役職に就きたがらない	0.0	17.6	21.2	17.1	29.5	30.0	29.4	0.0
女性が発言しづらい、表に出づらい雰囲気がある	0.0	11.8	9.1	25.7	13.6	18.3	11.8	0.0
不平等であると感じることはない	0.0	11.8	21.2	20.0	29.5	35.0	**52.9**	0.0
その他	0.0	5.9	6.1	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	0.0	29.4	18.2	8.6	4.5	10.0	5.9	100.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0

○H25調査と比較すると、R3調査では「仕事を持つ男性の地域活動への参画が少ない」が全体・女性・男性いずれも低くなり、男性で21.0ポイント、女性で10.6ポイント下回っています。また、「女性のみがお茶くみや片づけなどの雑務をしている」が全体・女性で低くなり、女性で15.9ポイント下回っています。

問16-１　地域活動の中で、男女不平等であると感じること（経年比較）

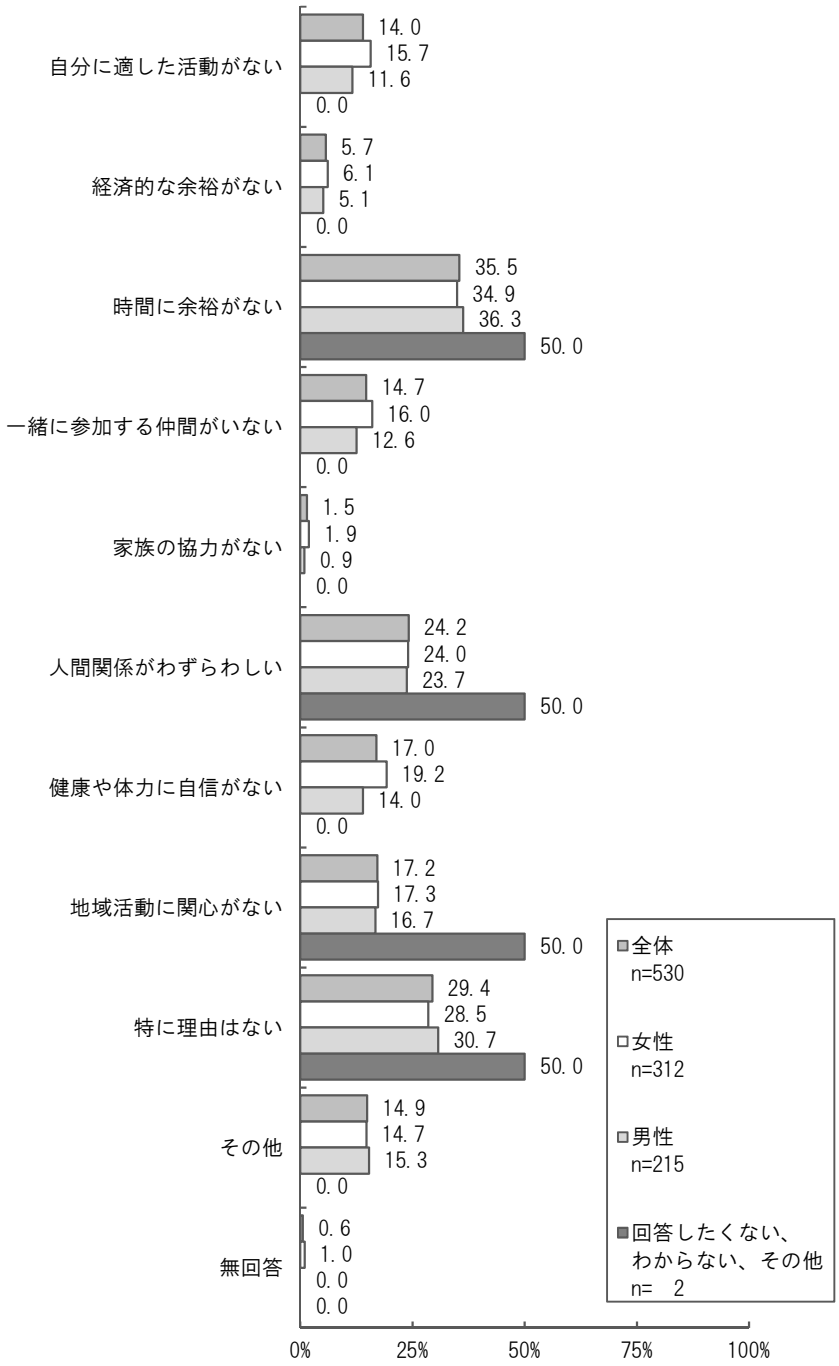


※R3調査の選択肢「不平等であると感じることはない」は、H25調査にはありません。

③ 地域活動に参加していない理由

○地域活動に参加していない理由をみると、全体では「時間に余裕がない」が35.5%と最も高くなっています。性別でも、男女ともに「時間に余裕がない」が最も高く、女性で34.9%、男性で36.3%となっています。

問16-２　地域活動に参加していない理由
【全体・性別】



○年代別にみると、20～50代で「時間に余裕がない」が最も高く、50代で50.7%となっています。70代・80代では「健康や体力に自信がない」が最も高く、80代で61.4%となっています。

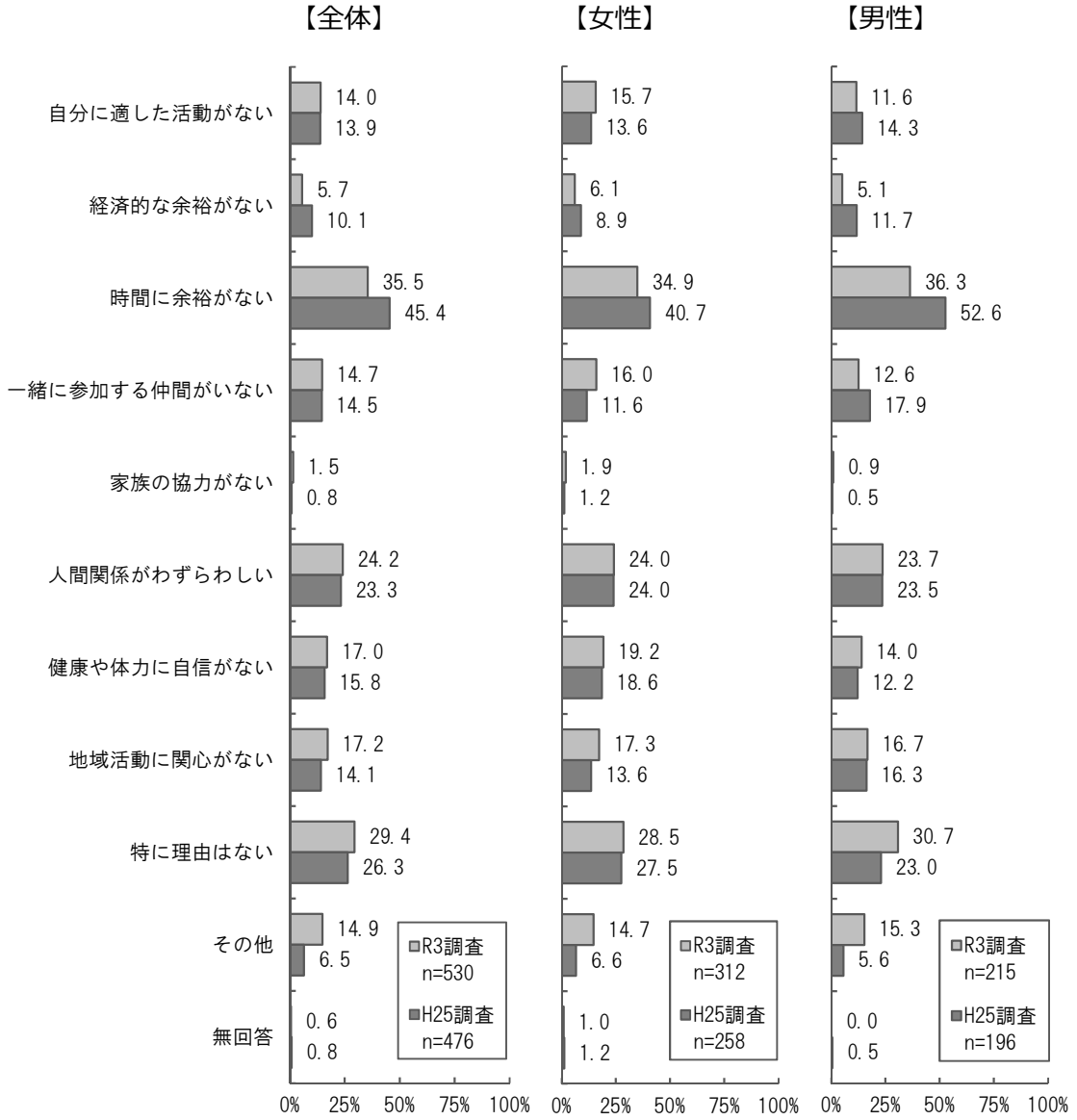
問16-２　地域活動に参加していない理由【年代別】

単位：%

	20代 n=51	30代 n=92	40代 n=108	50代 n=69	60代 n=83	70代 n=75	80代 n=44	90歳以上 n=7
自分に適した活動がない	15.7	9.8	12.0	8.7	22.9	20.0	9.1	0.0
経済的な余裕がない	7.8	7.6	4.6	10.1	4.8	2.7	2.3	0.0
時間に余裕がない	**45.1**	**44.6**	**42.6**	**50.7**	34.9	14.7	6.8	0.0
一緒に参加する仲間がいない	17.6	13.0	14.8	13.0	16.9	12.0	18.2	0.0
家族の協力がない	2.0	1.1	0.9	1.4	2.4	2.7	0.0	0.0
人間関係がわずらわしい	25.5	17.4	25.0	29.0	25.3	29.3	18.2	0.0
健康や体力に自信がない	2.0	4.3	6.5	8.7	12.0	**40.0**	**61.4**	71.4
地域活動に関心がない	25.5	22.8	13.9	21.7	18.1	16.0	0.0	0.0
特に理由はない	29.4	27.2	25.0	24.6	**36.1**	33.3	31.8	42.9
その他	11.8	22.8	23.1	13.0	9.6	8.0	9.1	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	1.3	2.3	0.0

○H25調査と比較すると、R3調査では「時間に余裕がない」が全体・女性・男性いずれも低くなり、男性で16.3ポイント下回っています。

問16-２　地域活動に参加していない理由（経年比較）

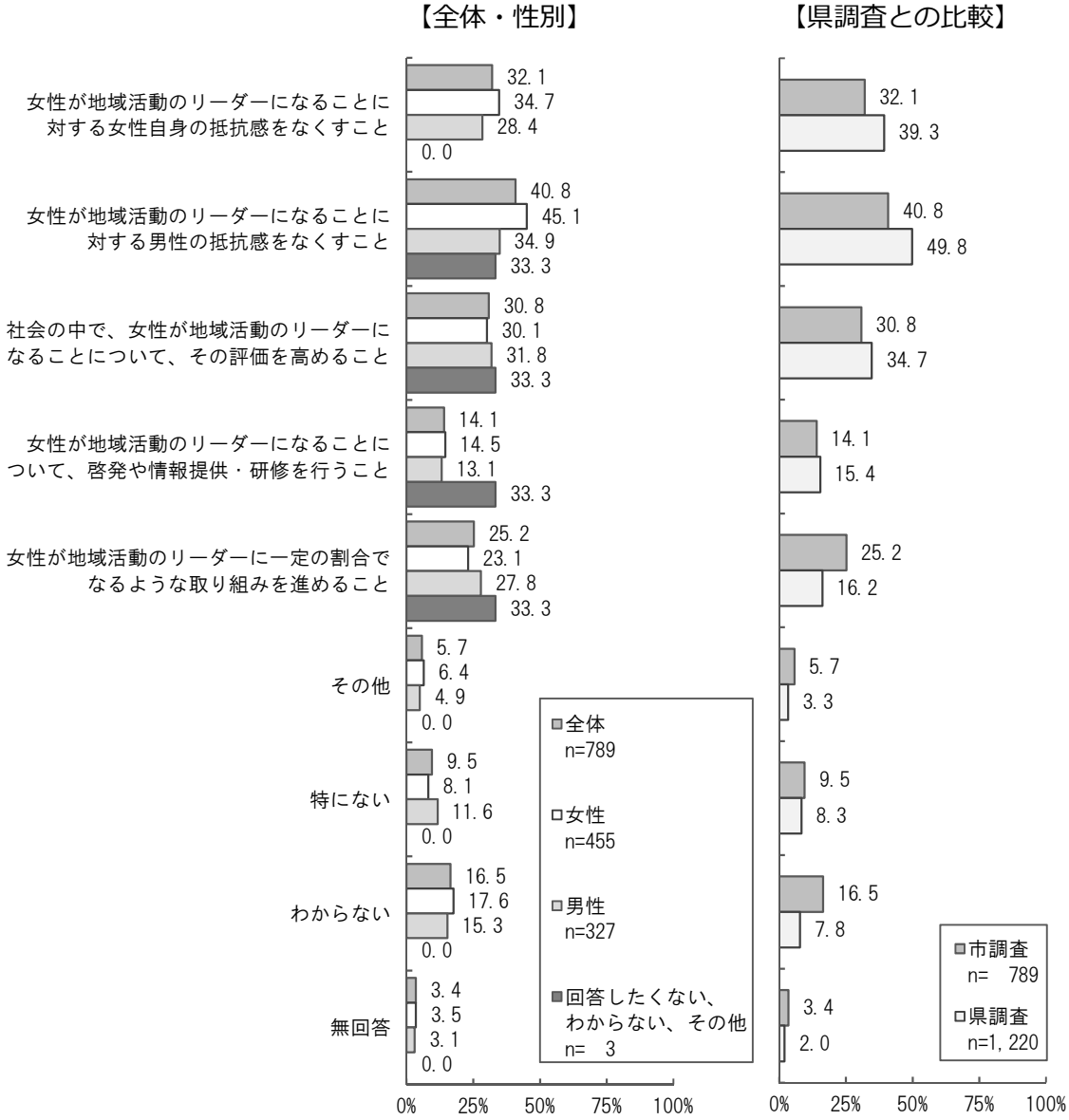


④ 女性が地域活動のリーダーとなるために必要なこと

○女性が地域活動のリーダーとなるために必要なことは、全体では「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も高くなっています。性別でも、男女ともに「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も高くなっていますが、女性が男性を10.2ポイント上回っています。

○県調査と比較すると、市調査の「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取り組みを進めること」は9.0ポイント上回り、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」は9.0ポイント下回っています。

問17　女性が地域活動のリーダーとなるために必要なこと



○年代別にみると、20～70代では「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も高く、20代・40～60代では４割を超えています。80代では「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取り組みを進めること」が最も高くなっています。

問17　女性が地域活動のリーダーとなるために必要なこと【年代別】

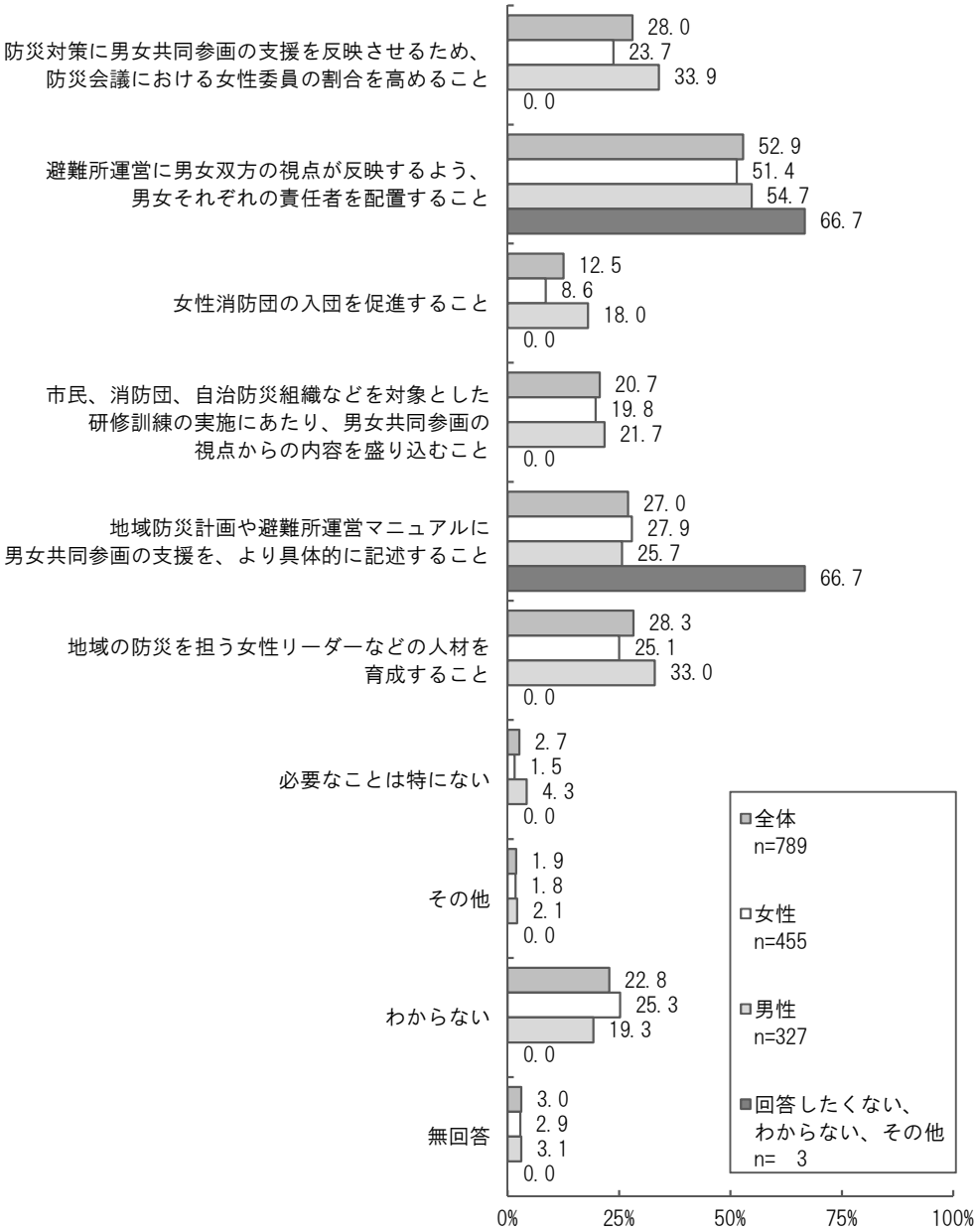
単位：％

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	34.6	29.8	30.8	39.1	33.6	31.5	19.2	62.5
女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	**48.1**	**38.6**	**44.5**	**47.3**	**47.0**	**32.9**	21.9	75.0
社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	28.8	32.5	32.9	36.4	35.8	22.8	21.9	50.0
女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	11.5	9.6	11.6	11.8	17.2	15.4	17.8	50.0
女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取り組みを進めること	32.7	17.5	17.8	21.8	31.3	27.5	**32.9**	50.0
その他	7.7	11.4	4.8	8.2	6.0	2.0	1.4	0.0
特にない	3.8	7.9	11.6	10.0	9.0	11.4	9.6	0.0
わからない	17.3	18.4	11.6	12.7	11.2	20.1	30.1	25.0
無回答	0.0	2.6	1.4	0.9	2.2	5.4	12.3	0.0

⑤ 防災分野における男女共同参画

○防災分野における男女共同参画の推進のために必要なことは、全体・女性・男性いずれも「避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること」が５割を超え、最も高くなっています。

問18　防災分野における男女共同参画の推進のために必要なこと
【全体・性別】



○年代別にみると、20～80代で「避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること」が最も高く、20代・60代では６割を超えています。

問18　防災分野における男女共同参画の推進のために必要なこと【年代別】

単位：％

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
防災対策に男女共同参画の支援を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること	30.8	19.3	25.3	29.1	35.1	30.2	21.9	50.0
避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること	**67.3**	**50.9**	**52.1**	**52.7**	**60.4**	**48.3**	**43.8**	37.5
女性消防団の入団を促進すること	7.7	8.8	13.7	20.0	13.4	7.4	15.1	25.0
市民、消防団、自治防災組織などを対象とした研修訓練の実施にあたり、男女共同参画の視点からの内容を盛り込むこと	21.2	19.3	17.8	20.0	25.4	18.1	21.9	37.5
地域防災計画や避難所運営マニュアルに男女共同参画の支援を、より具体的に記述すること	30.8	17.5	26.0	30.0	35.8	25.5	23.3	37.5
地域の防災を担う女性リーダーなどの人材を育成すること	21.2	25.4	26.7	27.3	39.6	30.2	17.8	25.0
必要なことは特にない	1.9	1.8	2.1	2.7	2.2	3.4	5.5	0.0
その他	1.9	2.6	3.4	2.7	0.0	2.0	0.0	0.0
わからない	11.5	21.9	21.2	24.5	15.7	26.8	34.2	50.0
無回答	0.0	2.6	2.1	0.9	2.2	4.7	8.2	0.0

5　仕事について

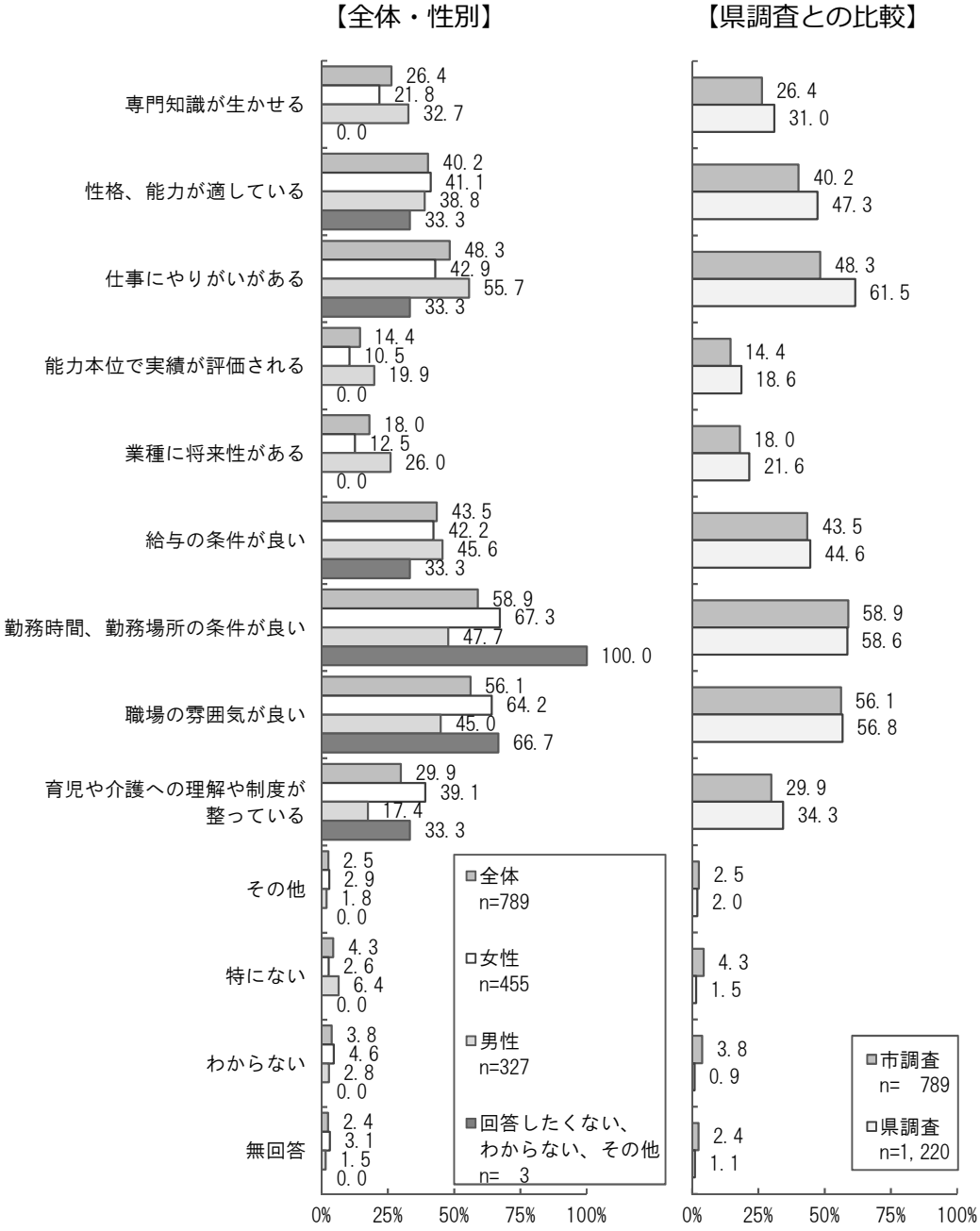
（１）仕事に対する意識

①　仕事を選ぶ際に重視すること

○「仕事を選ぶ際に重視すること、またはしたいこと」は、全体では「勤務時間、勤務場所の条件が良い」「職場の雰囲気が良い」で５割を超えています。性別では、「勤務時間、勤務場所の条件が良い」「職場の雰囲気が良い」が女性で６割を超え、「仕事にやりがいがある」が男性で５割を超えています。

○県調査と比較すると、市調査の「仕事にやりがいがある」が13.2ポイント下回っています。

問19　仕事を選ぶ際に重視すること、または重視したいこと



○年代別にみると、30～60代では「勤務時間、勤務場所の条件が良い」が６～７割台で最も高く、20代・70代・80代では「職場の雰囲気が良い」が最も高くなっています。

問19　仕事を選ぶ際に重視すること【年代別】

単位：％

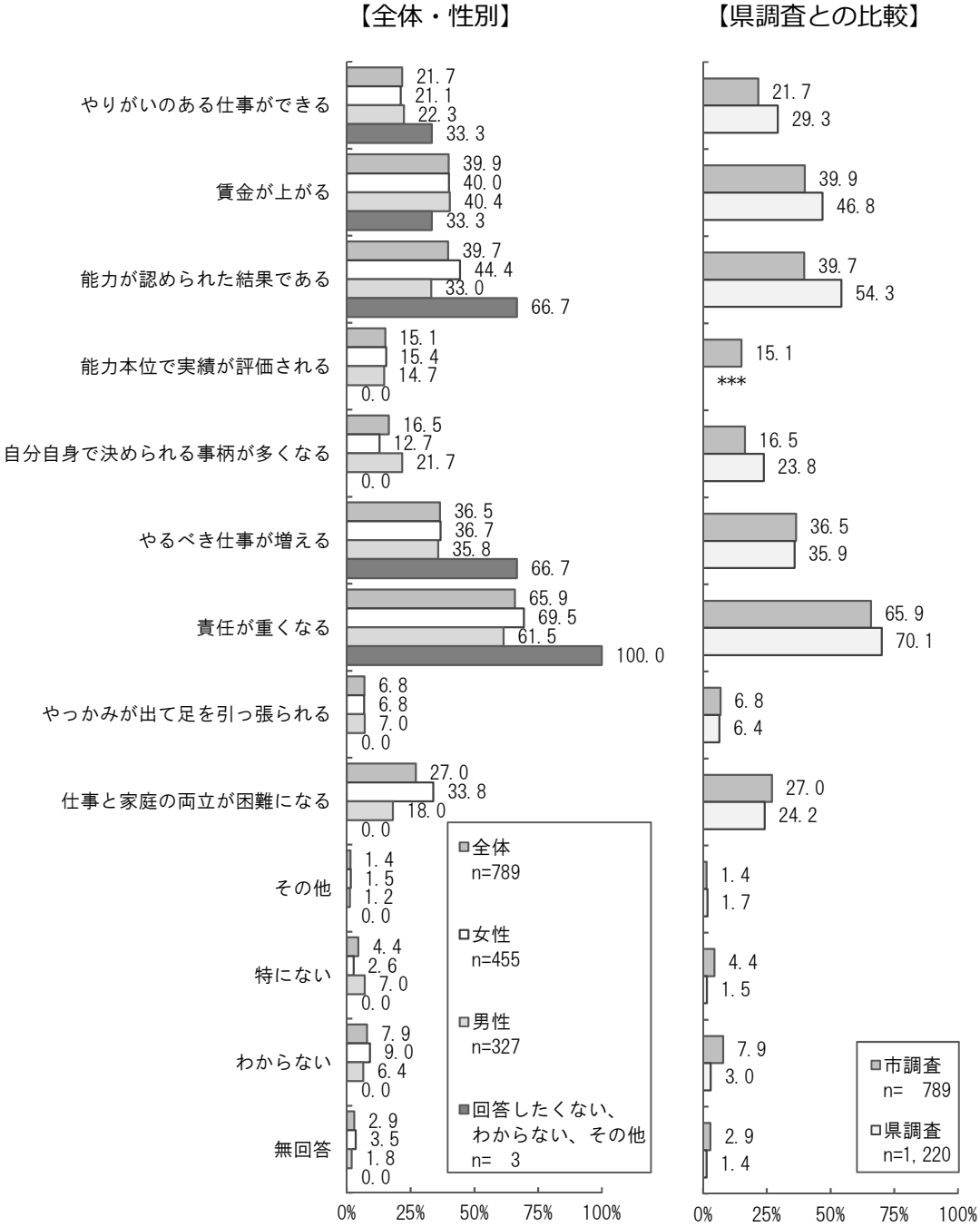
	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
専門知識が生かせる	26.9	24.6	33.6	29.1	32.8	16.8	16.4	25.0
性格、能力が適している	48.1	49.1	46.6	42.7	44.0	29.5	19.2	25.0
仕事にやりがいがある	59.6	51.8	50.0	52.7	56.7	39.6	26.0	50.0
能力本位で実績が評価される	15.4	14.0	19.2	11.8	12.7	14.1	13.7	0.0
業種に将来性がある	23.1	21.1	19.9	17.3	19.4	14.1	13.7	12.5
給与の条件が良い	63.5	65.8	57.5	52.7	35.1	19.5	19.2	12.5
勤務時間、勤務場所の条件が良い	65.4	**75.4**	**73.3**	**65.5**	**64.9**	38.9	23.3	37.5
職場の雰囲気が良い	**73.1**	64.9	60.3	62.7	61.2	**43.6**	**31.5**	25.0
育児や介護への理解や制度が整っている	34.6	57.0	37.0	28.2	24.6	14.8	16.4	12.5
その他	3.8	0.9	1.4	1.8	0.7	3.4	8.2	12.5
特にない	0.0	0.0	0.7	0.0	2.2	12.1	15.1	12.5
わからない	1.9	0.0	0.0	0.0	1.5	7.4	19.2	25.0
無回答	1.9	0.0	0.0	1.8	1.5	4.7	9.6	0.0

② 管理職以上への昇進に対するイメージ

○管理職以上に昇進することに対するイメージは、全体・女性・男性いずれも「責任が重くなる」が６割を超えて、最も高くなっています。

○県調査と比較すると、市調査の「能力が認められた結果である」が14.6ポイント下回っています。

問20　管理職以上に昇進することに対するイメージ



※本市調査の選択肢「能力本位で実績が評価される」は、県調査にはありません。

○年代別にみると、20～80代で「責任が重くなる」が最も高く、50代で８割、20～40代で７割を超えています。

問20　管理職以上に昇進することに対するイメージ【年代別】

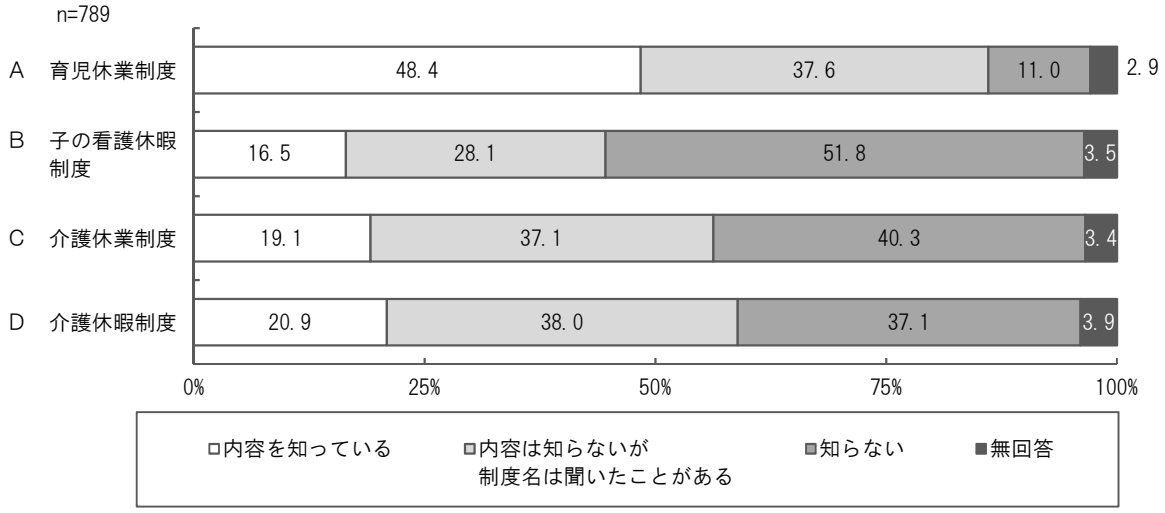
単位：％

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
やりがいのある仕事ができる	15.4	17.5	24.0	27.3	20.9	22.1	16.4	50.0
賃金が上がる	55.8	55.3	47.3	51.8	35.8	22.1	17.8	25.0
能力が認められた結果である	50.0	44.7	39.7	42.7	43.3	34.2	23.3	50.0
能力本位で実績が評価される	9.6	9.6	11.0	14.5	20.1	20.8	12.3	37.5
自分自身で決められる事柄が多くなる	15.4	14.9	19.9	19.1	17.2	15.4	8.2	37.5
やるべき仕事が増える	59.6	57.0	43.2	39.1	36.6	15.4	13.7	25.0
責任が重くなる	**78.8**	**77.2**	**79.5**	**81.8**	**69.4**	**44.3**	**30.1**	37.5
やっかみが出て足を引っ張られる	7.7	7.0	7.5	8.2	5.2	7.4	5.5	0.0
仕事と家庭の両立が困難になる	28.8	46.5	37.7	24.5	19.4	19.5	9.6	12.5
その他	3.8	1.8	0.0	0.0	1.5	2.0	2.7	0.0
特にない	0.0	0.9	1.4	2.7	3.7	7.4	17.8	0.0
わからない	3.8	3.5	0.0	0.0	6.0	18.1	26.0	25.0
無回答	1.9	0.0	0.0	0.9	1.5	6.0	12.3	12.5

（２）職場における制度の認知状況

○各種制度の認知状況をみると、「内容を知っている」は「Ａ　育児休業制度」が48.4%で最も高くなっています。また、「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」は「Ｄ　介護休暇制度」が38.0%、「知らない」は「Ｂ　子の看護休暇制度」が51.8%で最も高くなっています。

問21　仕事と家庭生活を両立するための制度の認知状況



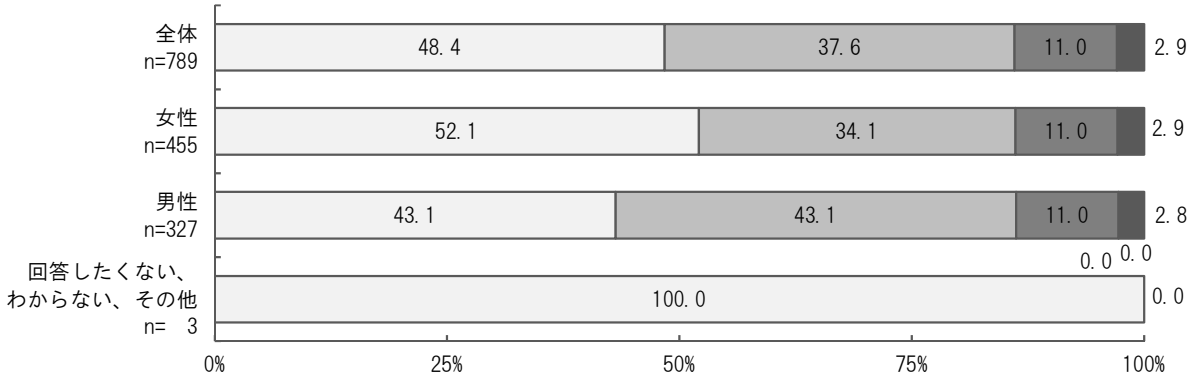
① 育児休業制度

○育児休業制度の認知状況をみると、全体では「内容を知っている」は48.4%、性別では女性が52.1%、男性が43.1%で、女性が9.0ポイント上回っています。

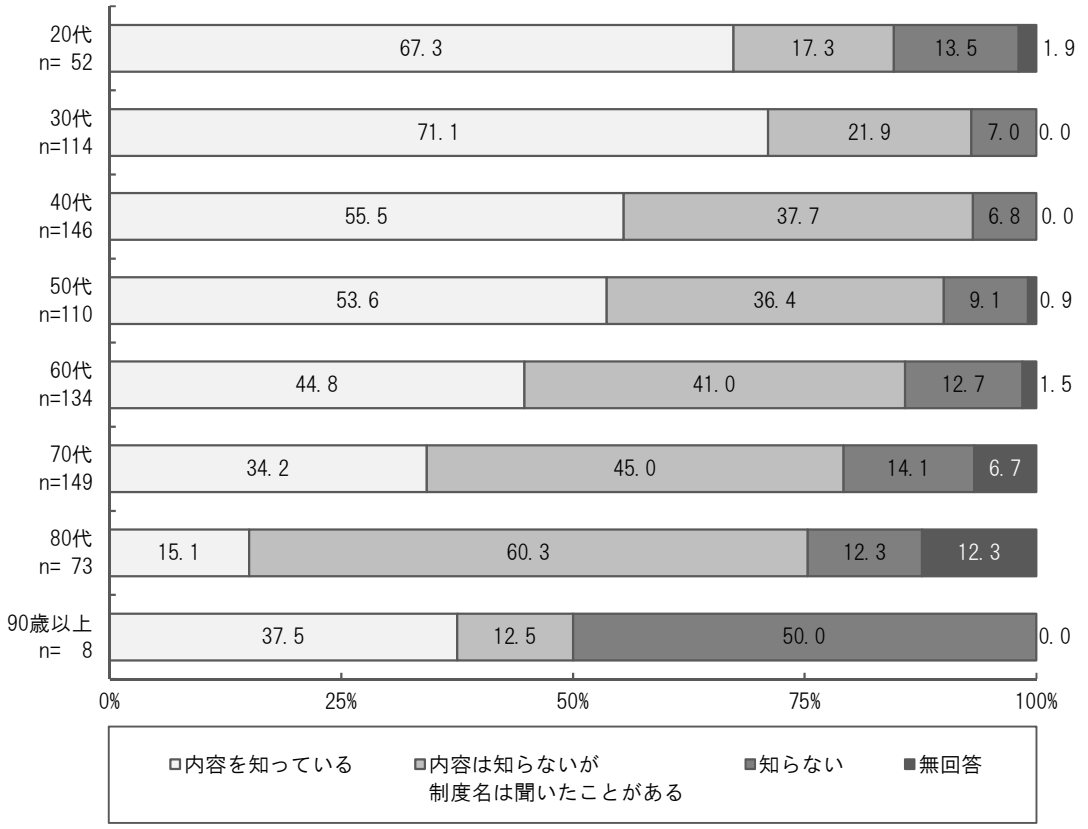
○年代別では、「内容を知っている」は20～50代で５割を超え、30代で71.1%となっています。

問21-Ａ　育児休業制度の認知状況

【全体・性別】



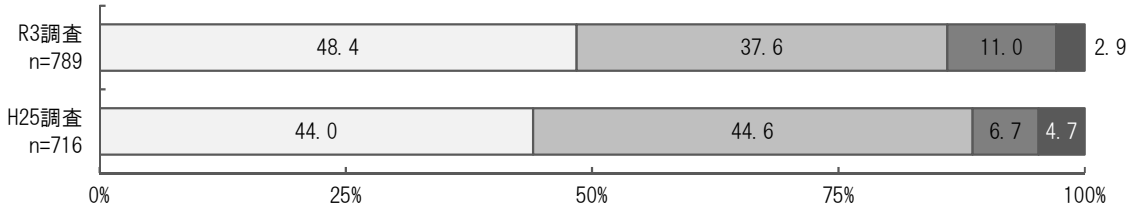
【年代別】



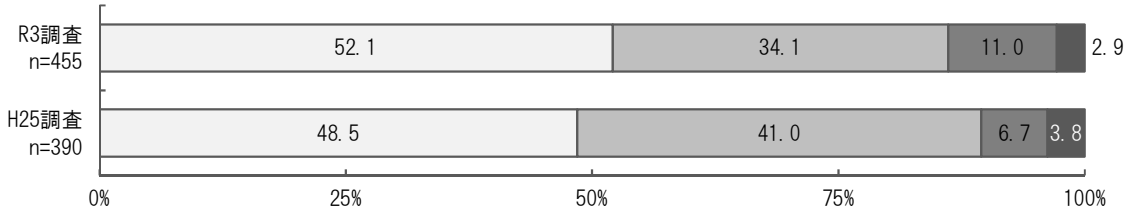
○H25調査と比較すると、R3調査では「内容を知っている」が全体・女性・男性いずれも高くなっています。

問21-A　育児休業制度の認知状況（経年比較）

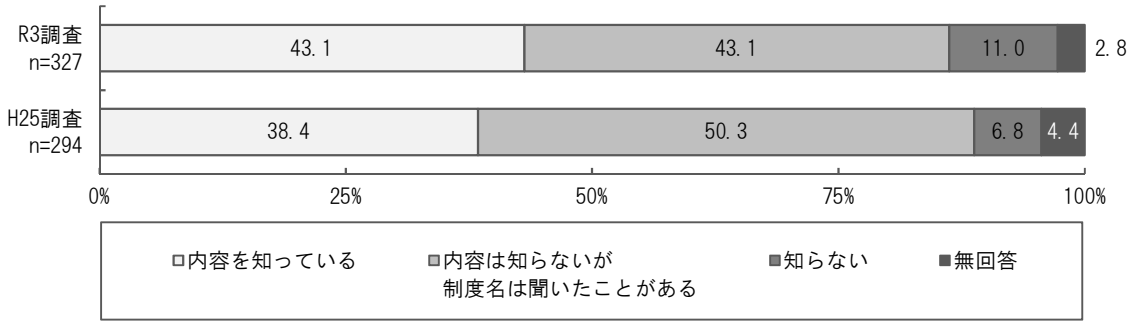
【全体】



【女性】



【男性】



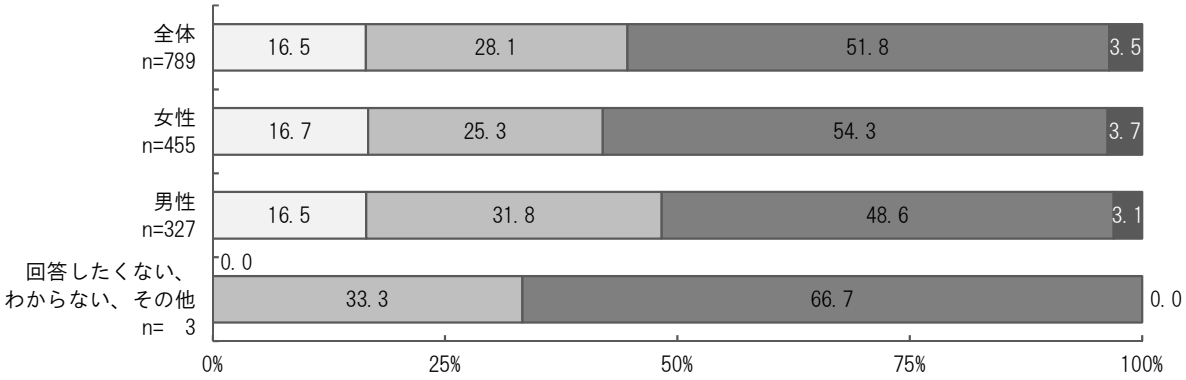
② 子の看護休暇制度

○子の看護休暇制度の認知状況をみると、全体では「内容を知っている」は16.5%、性別では女性が16.7%、男性が16.5%で、全体・女性・男性の認知度は同程度となっています。

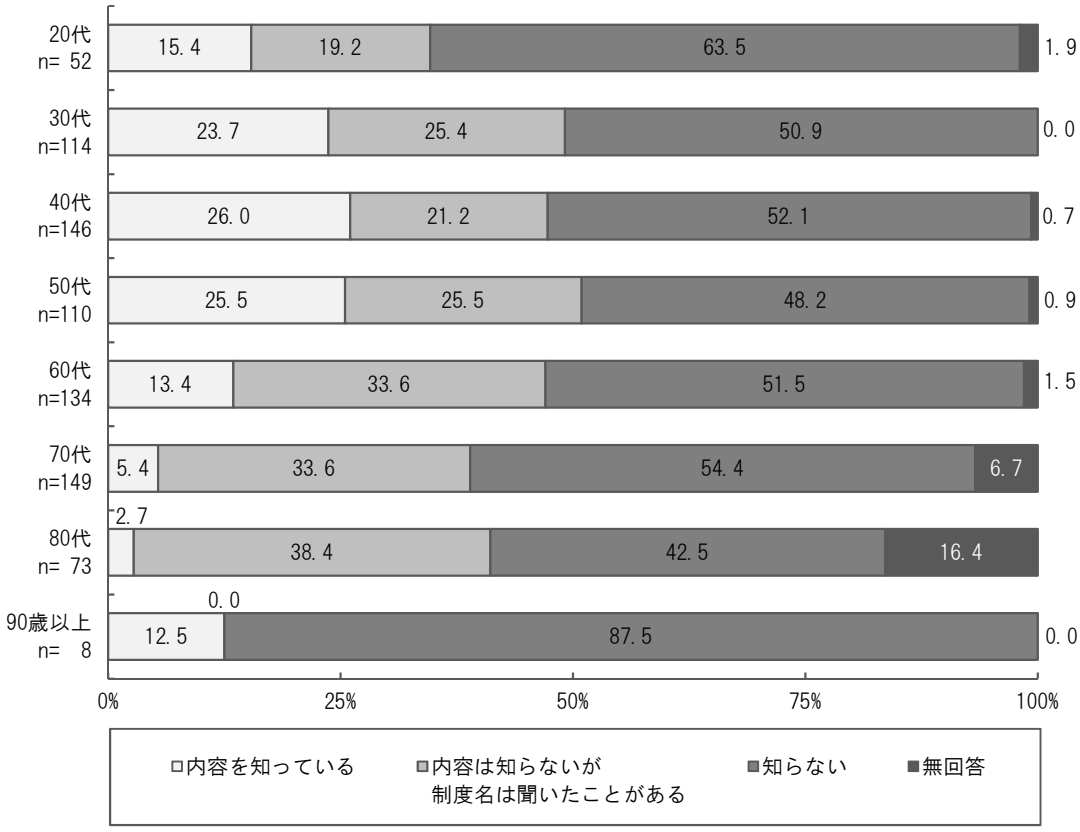
○年代別では、「内容を知っている」は30～50代でそれぞれ４分の１程度、20代・60代で１割台、70代・80代で１割未満となっています。

問21-Ｂ　子の看護休暇制度の認知状況

【全体・性別】



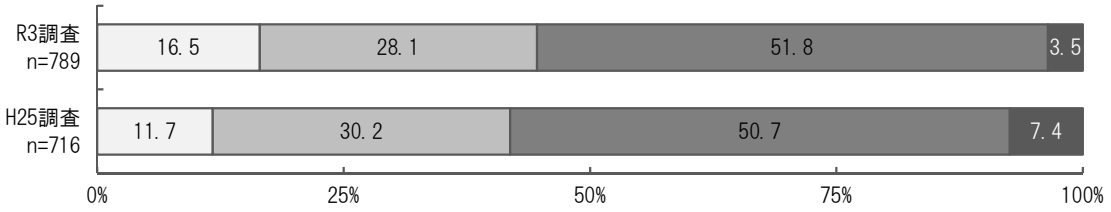
【年代別】



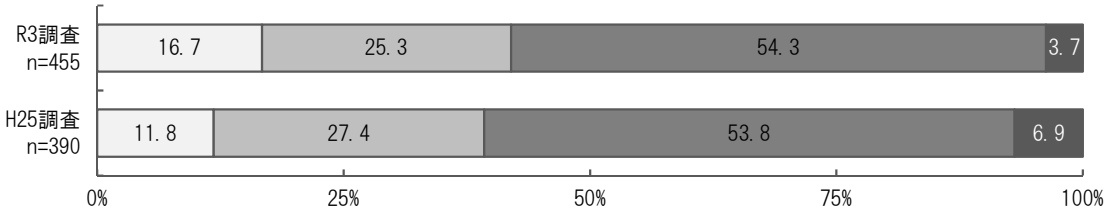
○H25調査と比較すると、R3調査では「内容を知っている」が全体・女性・男性いずれも5ポイント前後上回っています。

問21-Ｂ　子の看護休暇制度の認知状況（経年比較）

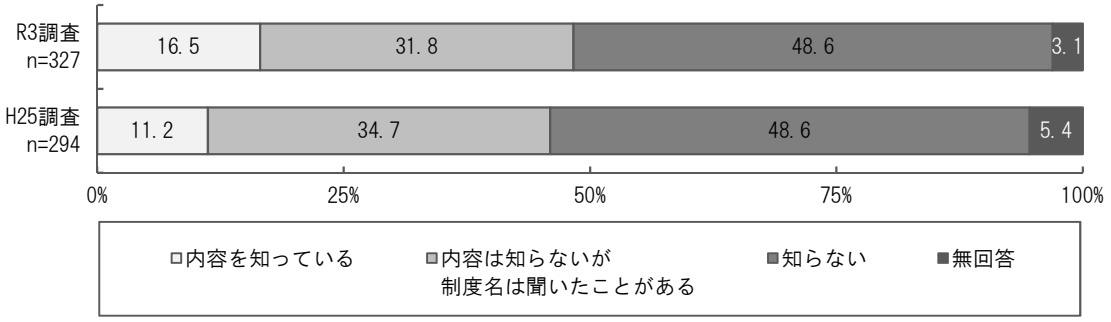
【全体】



【女性】



【男性】



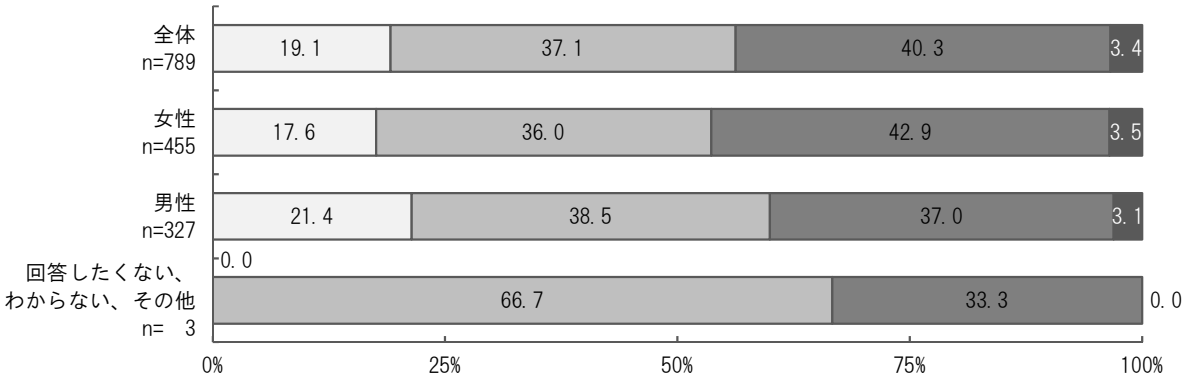
③ 介護休業制度

○介護休業制度の認知状況をみると、全体では「内容を知っている」は19.1%、性別では女性が17.6%、男性が21.4%となっています。

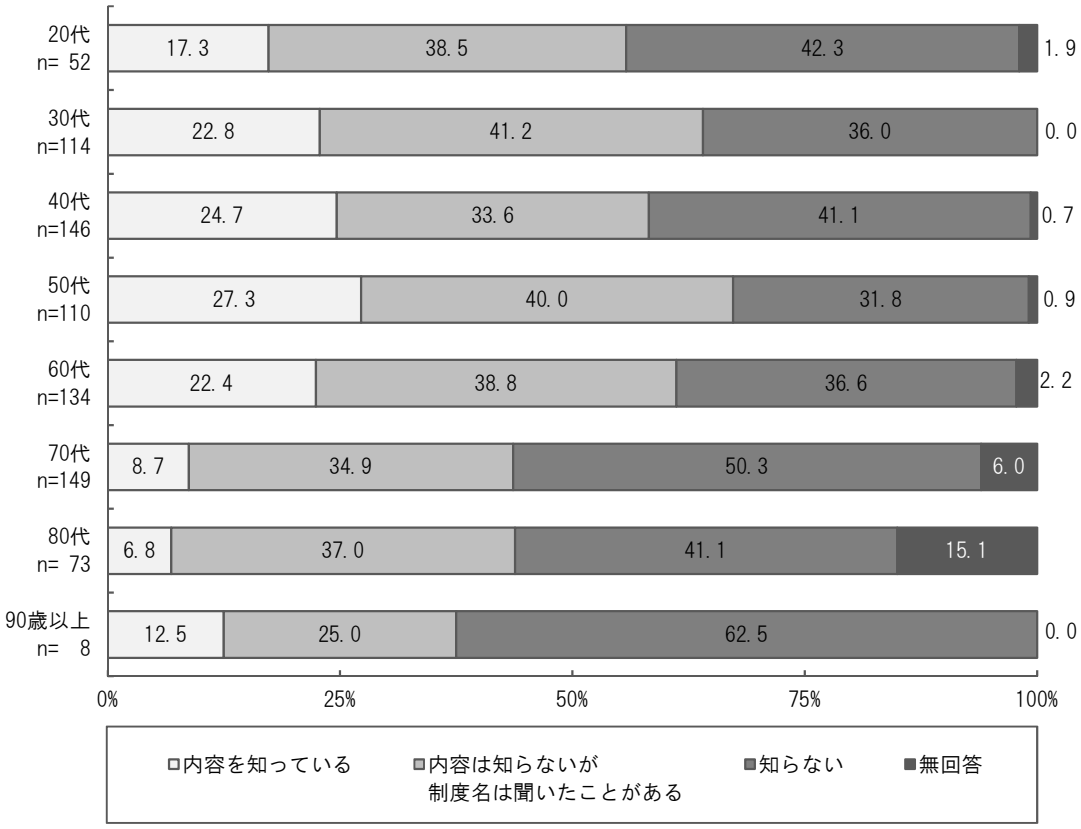
○年代別では、「内容を知っている」は50代が27.3%と最も高く、30～60代で２割台、70代・80代で１割未満となっています。

問21-Ｃ　介護休業制度の認知状況

【全体・性別】



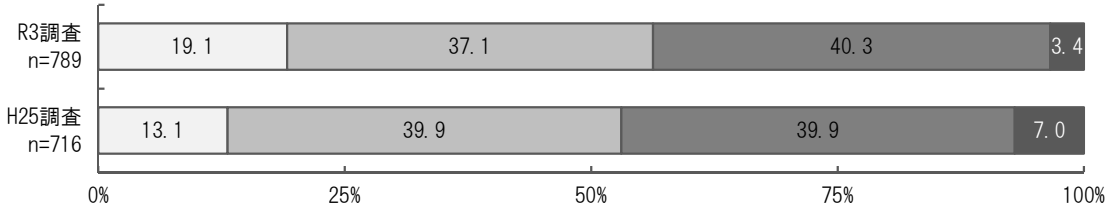
【年代別】



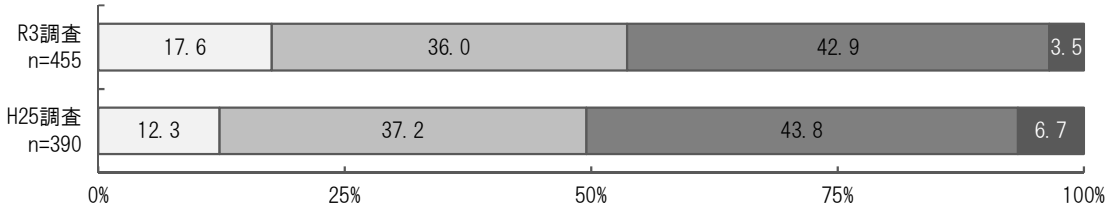
○H25調査と比較すると、R3調査では「内容を知っている」が全体で6.0ポイント、女性で5.3ポイント、男性で6.8ポイント上回っています。

問21-C　介護休業制度の認知状況（経年比較）

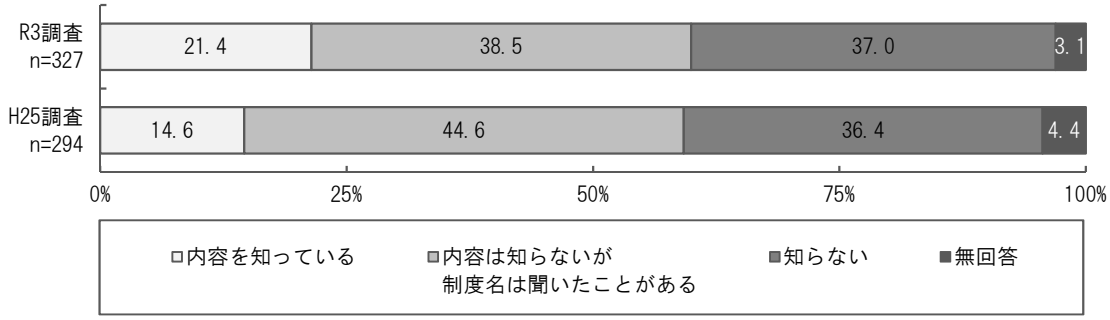
【全体】



【女性】



【男性】



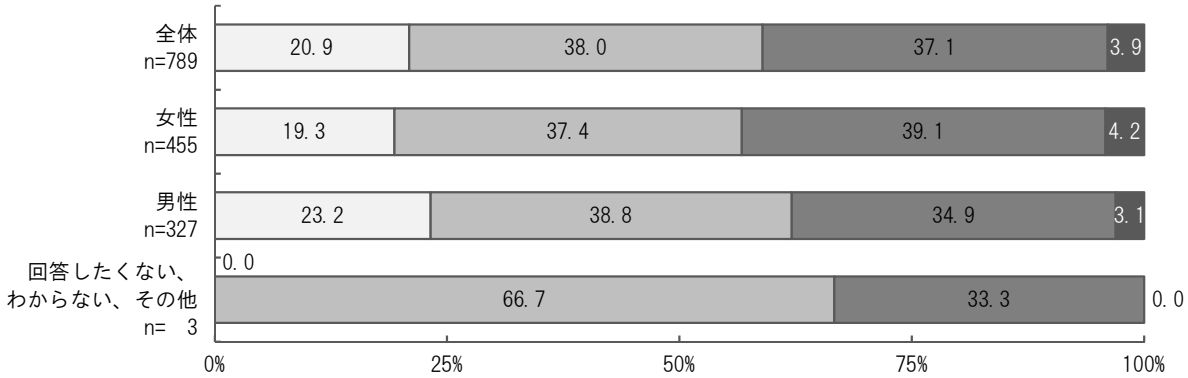
④ 介護休暇制度

○介護休暇制度の認知状況をみると、全体では「内容を知っている」は20.9%、性別では女性が19.3%、男性が23.2%となっています。

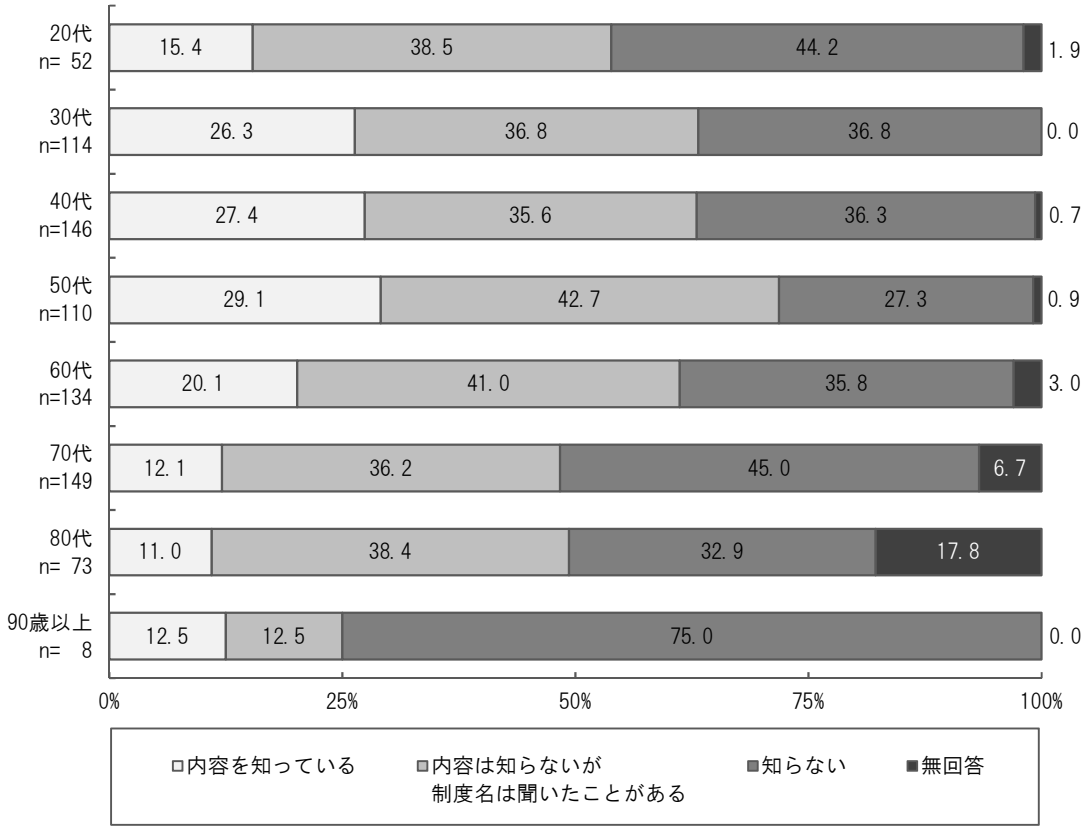
○年代別では、「内容を知っている」は50代が29.1%で最も高く、30～60代が２割台、80代が11.0%で最も低くなっています。

問21-Ｄ　介護休暇制度の認知状況

【全体・性別】



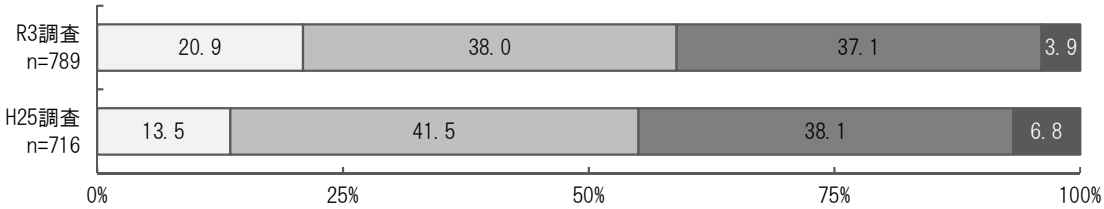
【年代別】



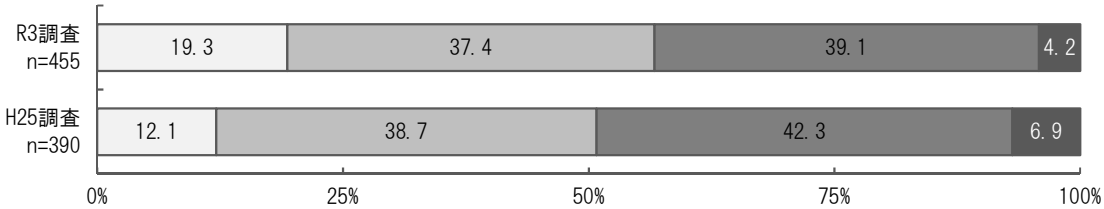
○H25調査と比較すると、R3調査では「内容を知っている」が全体で7.4ポイント、男女ともに7.2ポイント上回っています。

問21-D　介護休暇制度の認知状況（経年比較）

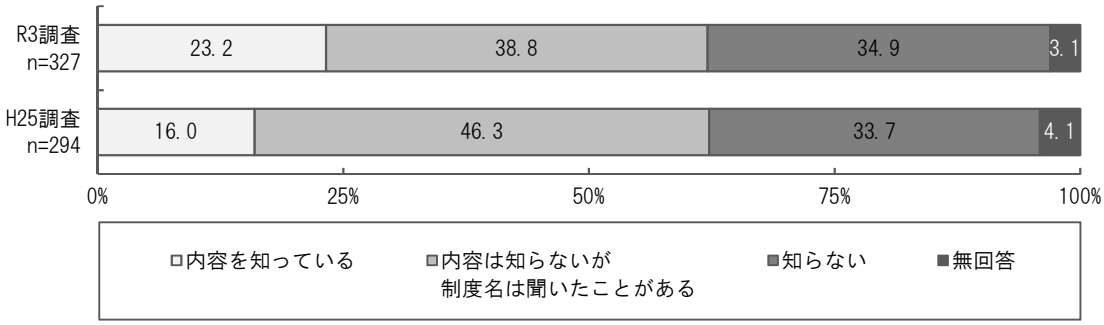
【全体】



【女性】



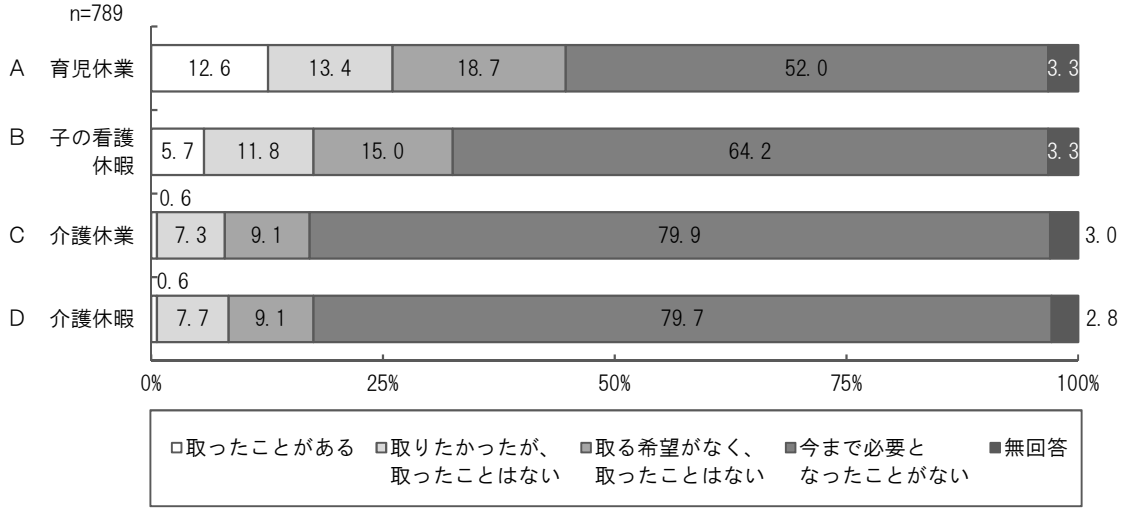
【男性】



（３）職場における制度の利用状況

○問３において「会社員・公務員」「派遣・契約社員」「パート・アルバイト」「自営業・農漁業」「自由業」と回答された方について、各種制度を利用した休暇等の取得状況をみると、「取ったことがある」は「Ａ　育児休業」が12.6%で最も高くなっています。また、「取りたかったが、取ったことはない」でも「Ａ　育児休業」が13.4%で最も高く、次いで「Ｂ　子の看護休暇」が11.8%となっています。

問22　制度利用による休暇等の取得状況



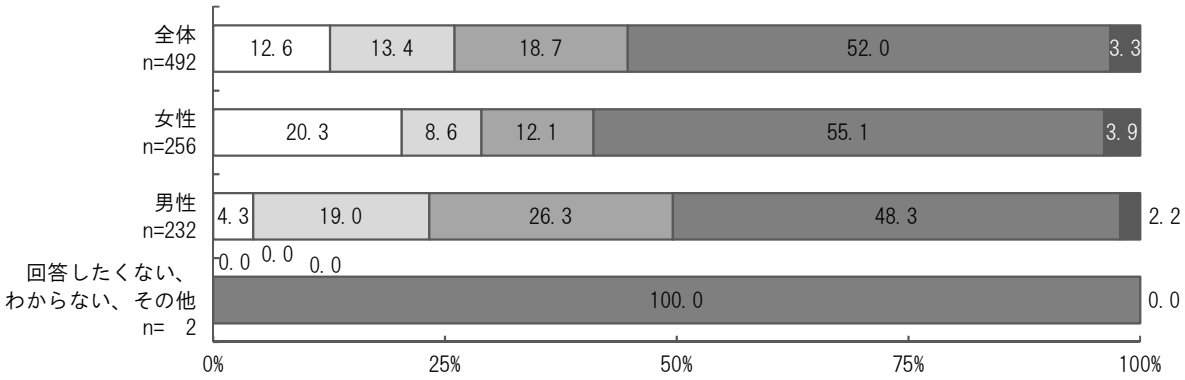
① 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）

○育児休業利用による休暇等の取得状況をみると、全体では「取ったことがある」は12.6%、性別では女性が20.3%、男性が4.3%となり、女性が16.0ポイント上回っています。

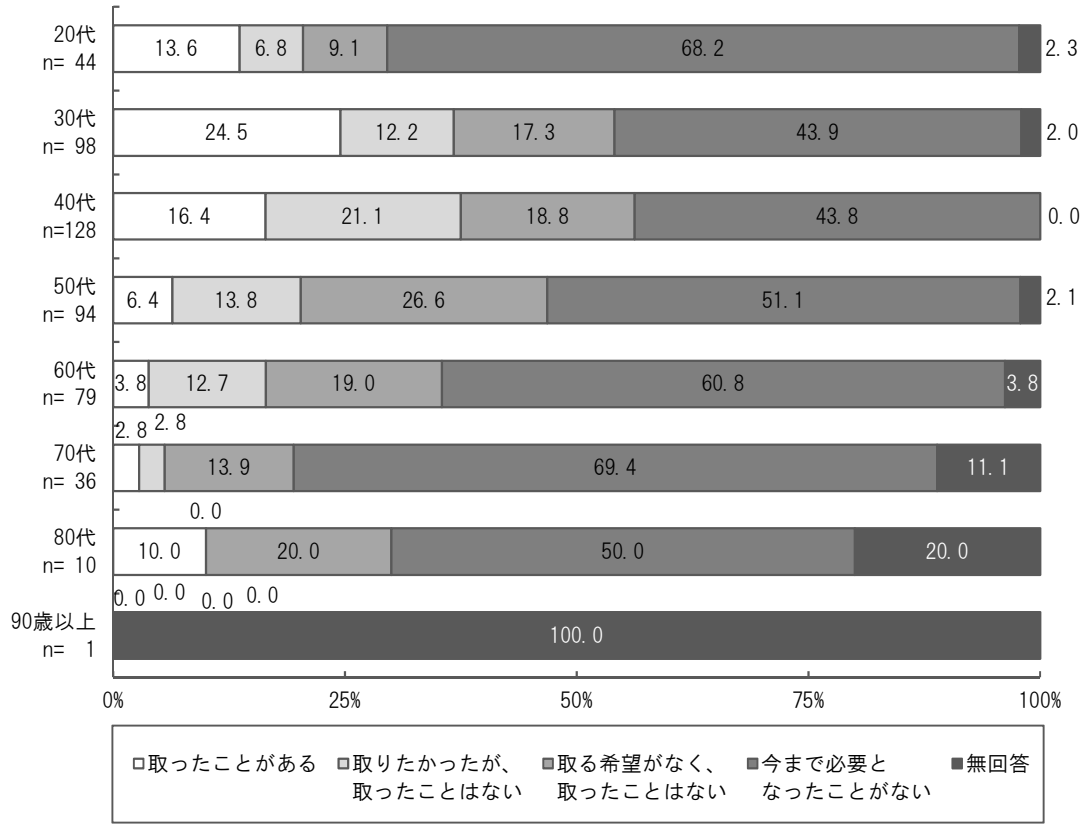
○年代別では、「取ったことがある」は30代が24.5%で最も高く、50～80代が１割以下となっています。

問22-Ａ　育児休業利用による休暇等の取得状況

【全体・性別】



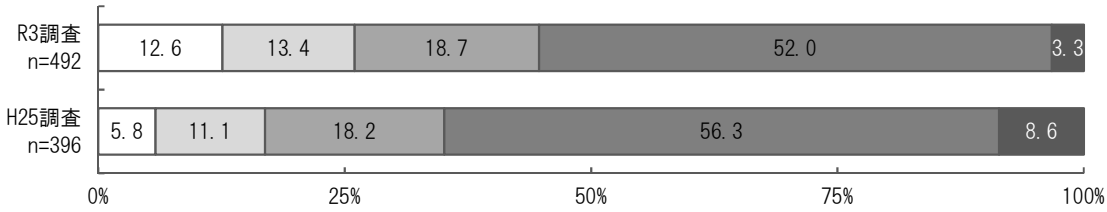
【年代別】



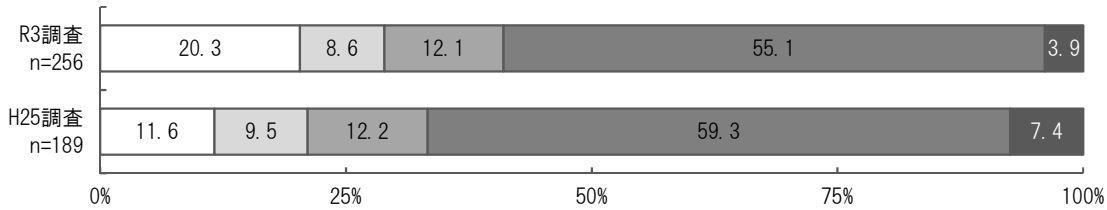
○H25調査と比較すると、R3調査では「取ったことがある」が全体で6.8ポイント、女性で8.7ポイント上回っています。

問22-Ａ　育児休業利用による休暇等の取得状況（経年比較）

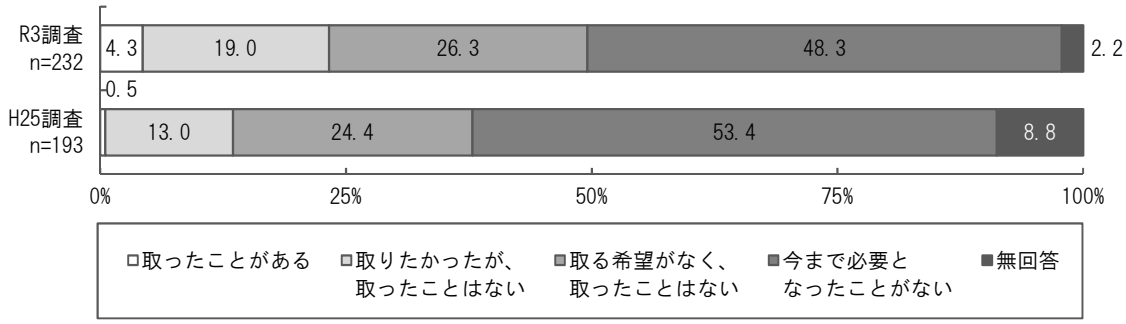
【全体】



【女性】



【男性】



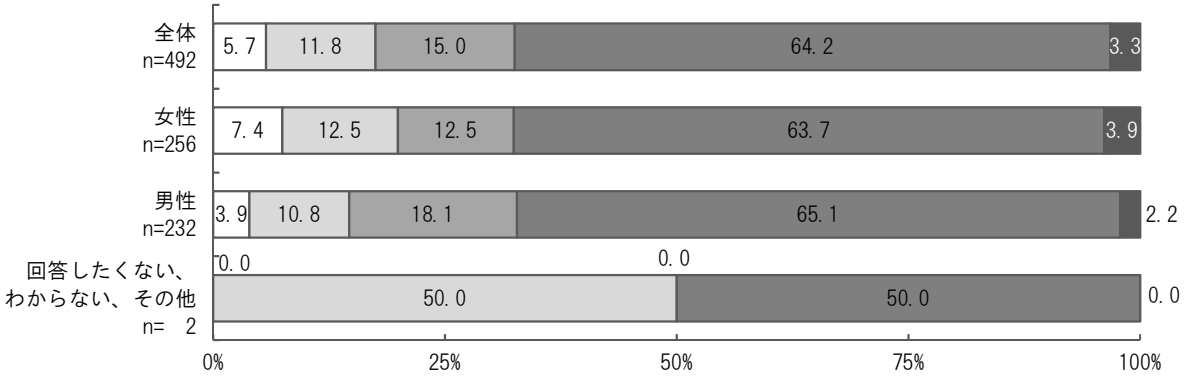
② 子の看護休暇（病気等の子どもを看護するための年５日程度の休暇）

○子の看護休暇利用による休暇等の取得状況をみると、全体では「取ったことがある」は5.7%、性別では女性が7.4%、男性が3.9%となり、いずれも低い状況です。

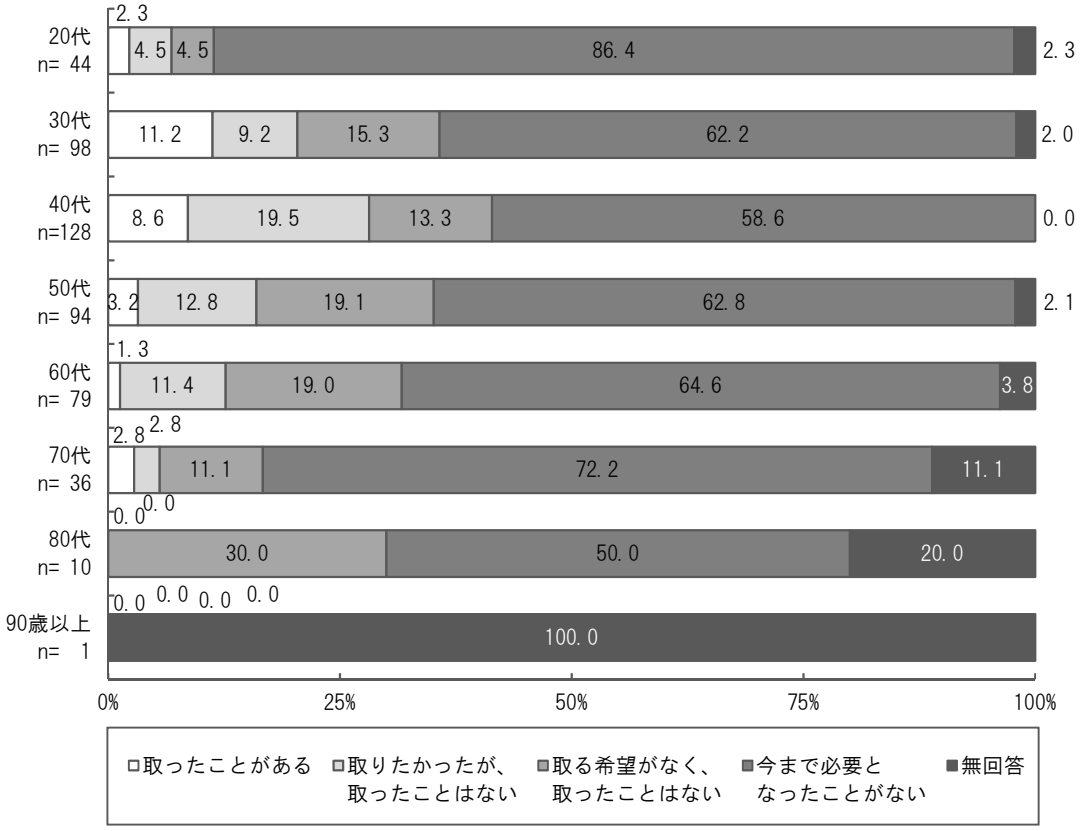
○年代別では、「取ったことがある」は30代が11.2%で最も高く、20代・40～80代が１割未満となっています。

問22-Ｂ　子の看護休暇利用による休暇等の取得状況

【全体・性別】



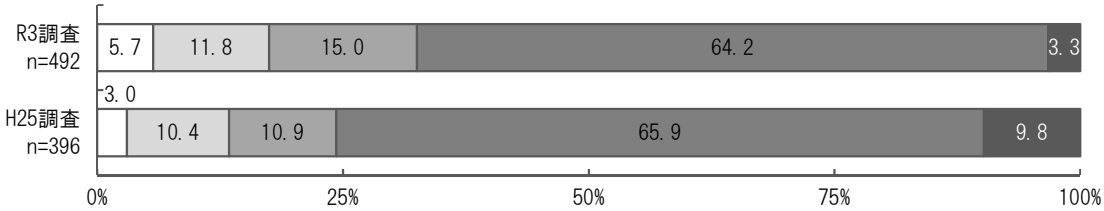
【年代別】



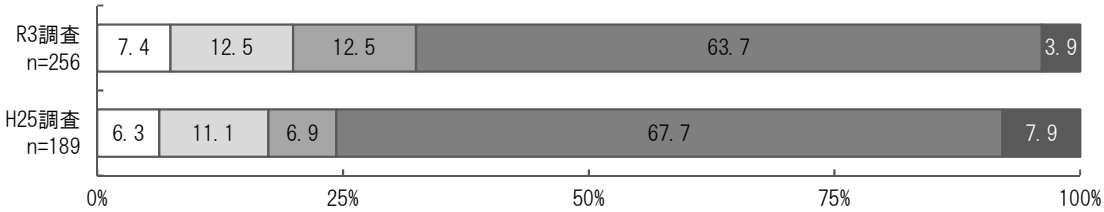
○H25調査と比較すると、R3調査では「取ったことがある」が全体・女性・男性いずれもやや高くなっています。

問22-Ｂ　子の看護休暇利用による休暇等の取得状況（経年比較）

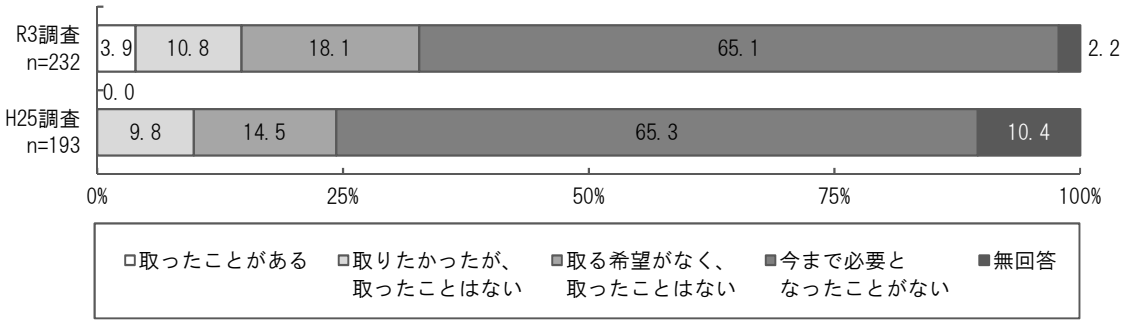
【全体】



【女性】



【男性】



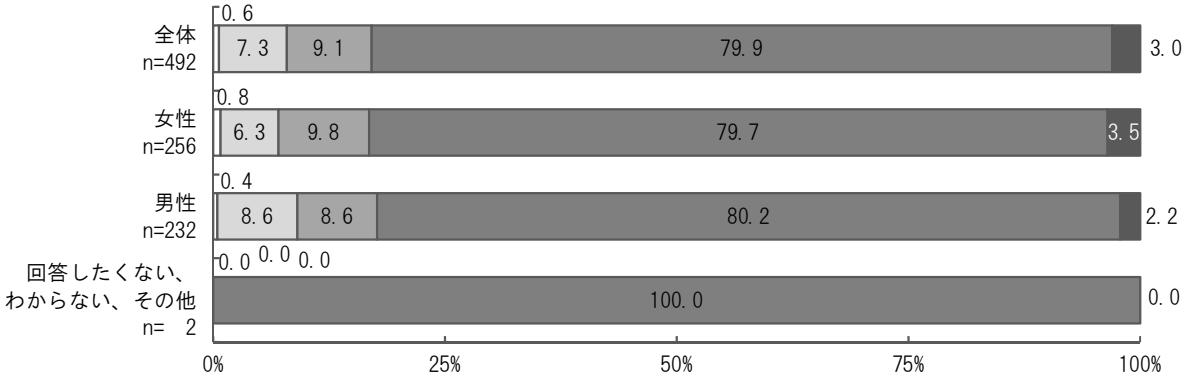
③ 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）

○介護休業利用による休暇等の取得状況をみると、「取ったことがある」は全体・女性・男性いずれも1.0%に満たない状況です。

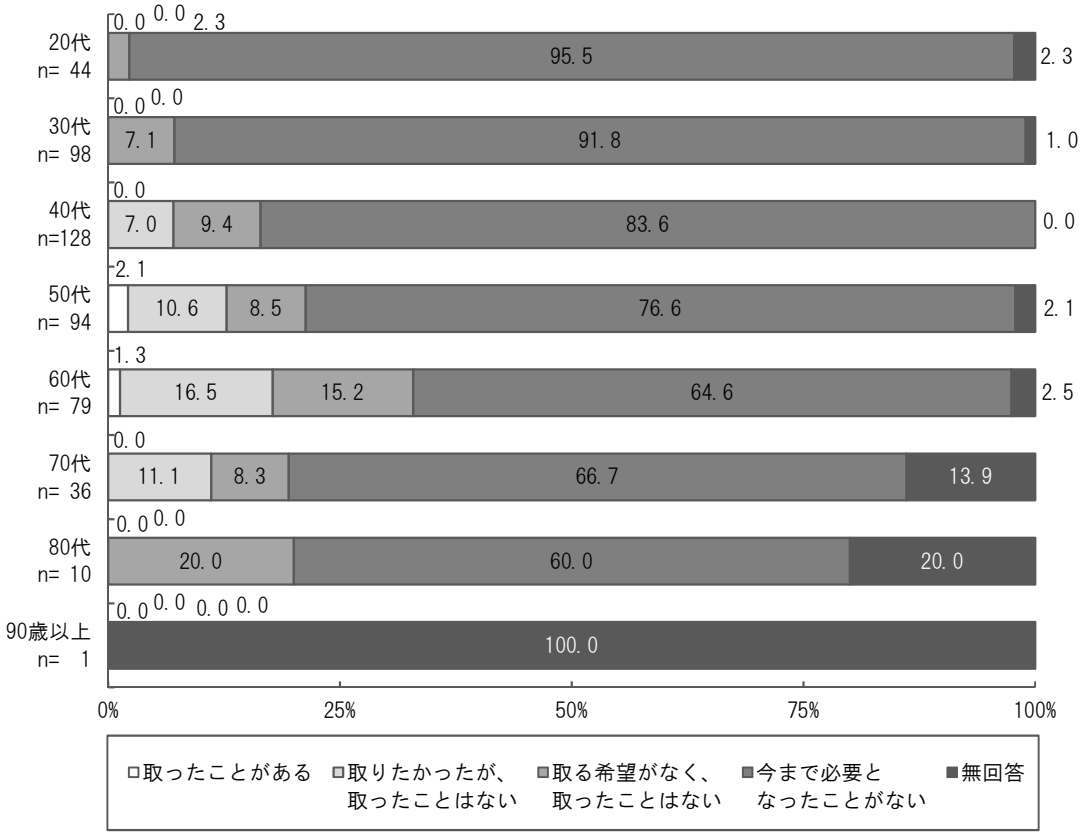
○年代別では、「取ったことがある」は50代・60代でごくわずかとなっています。

問22-C　介護休業利用による休暇等の取得状況

【全体・性別】



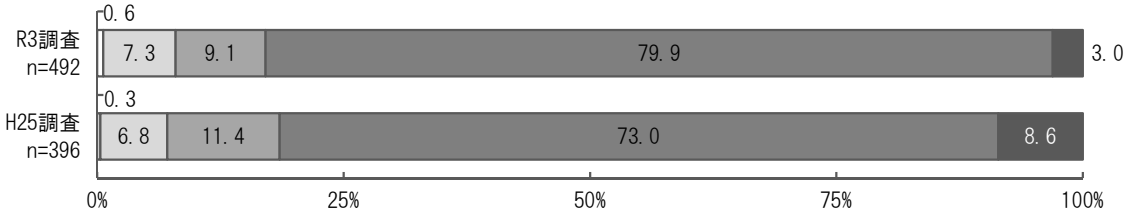
【年代別】



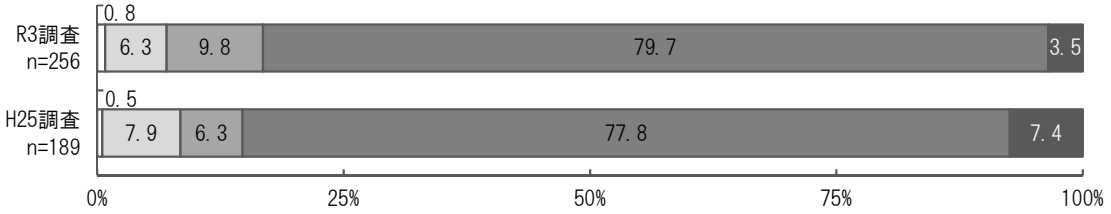
○H25調査と比較すると、R3調査の「取ったことがある」は全体・女性・男性いずれも同程度となっています。

問22-Ｃ　介護休業利用による休暇等の取得状況（経年比較）

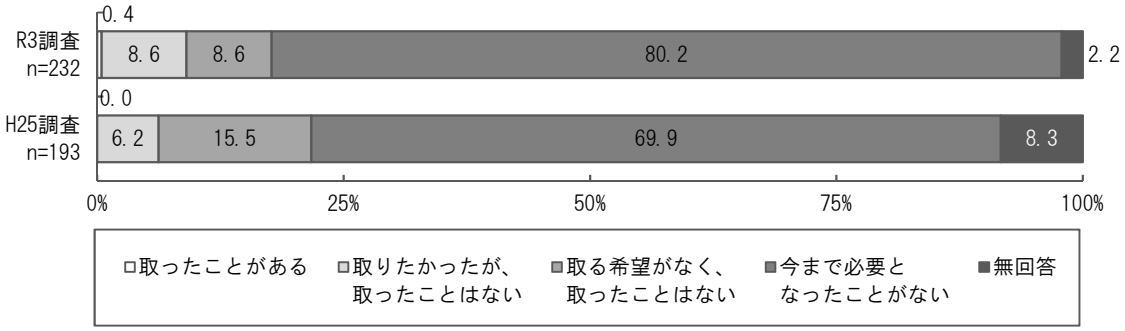
【全体】



【女性】



【男性】



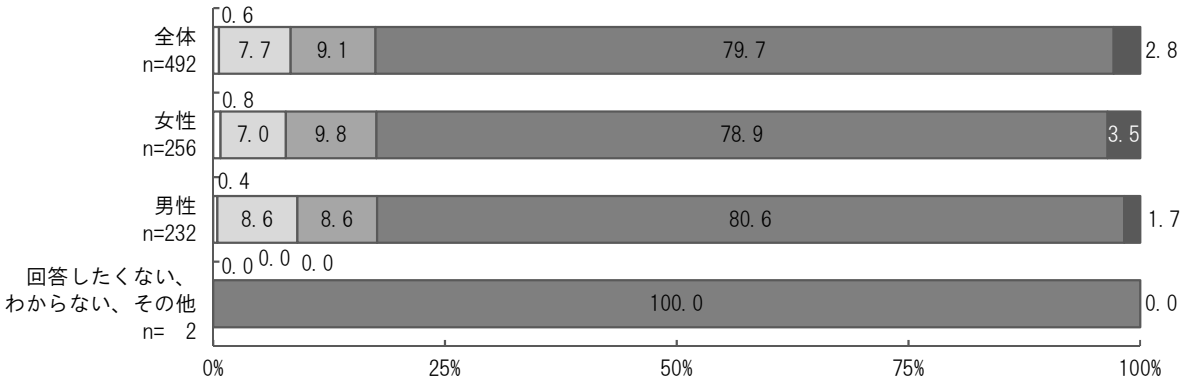
④ 介護休暇（短期の介護のための年５日程度の休暇）

○介護休暇利用による休暇等の取得状況をみると、「取ったことがある」は全体・女性・男性いずれも1.0%に満たない状況です。

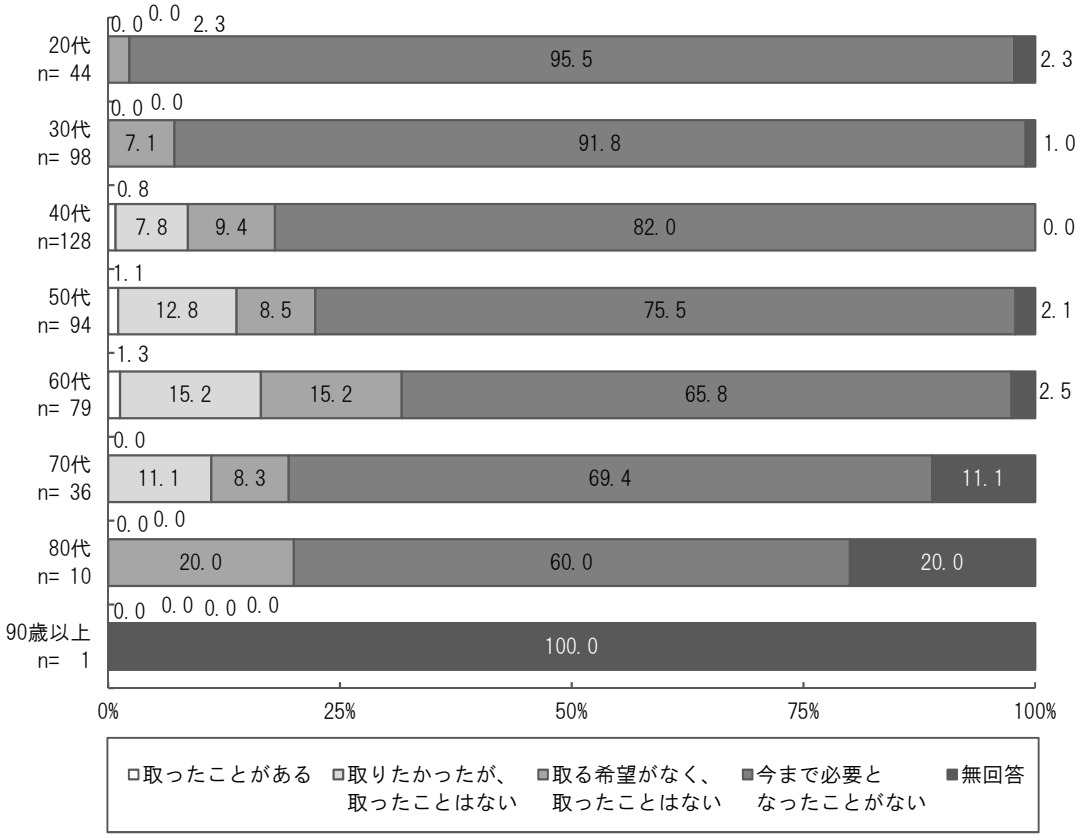
○年代別では、「取ったことがある」は40～60代でごくわずかとなっています。

問22-Ｄ　介護休暇利用による休暇等の取得状況

【全体・性別】



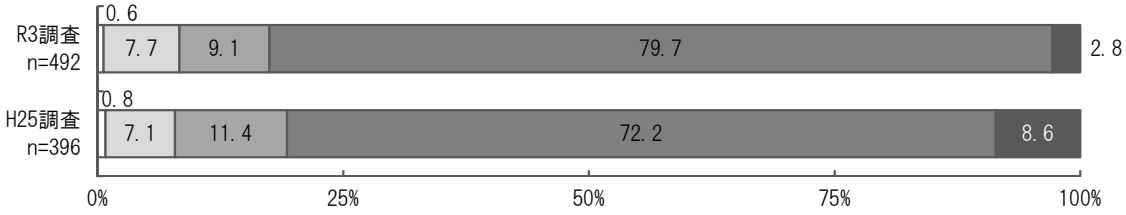
【年代別】



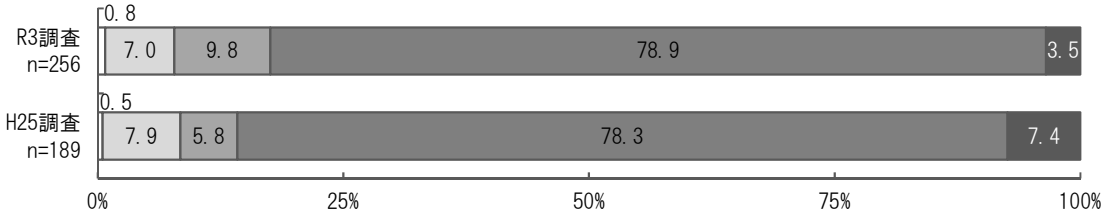
○H25調査と比較すると、R3調査の「取ったことがある」は全体・女性・男性いずれも同程度となっています。

問22-Ｄ　介護休暇利用による休暇等の取得状況（経年比較）

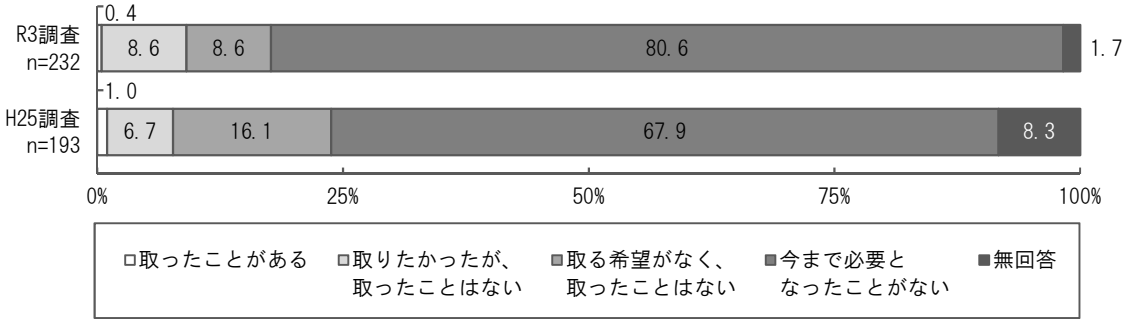
【全体】



【女性】



【男性】



（４）新型コロナウイルスの影響

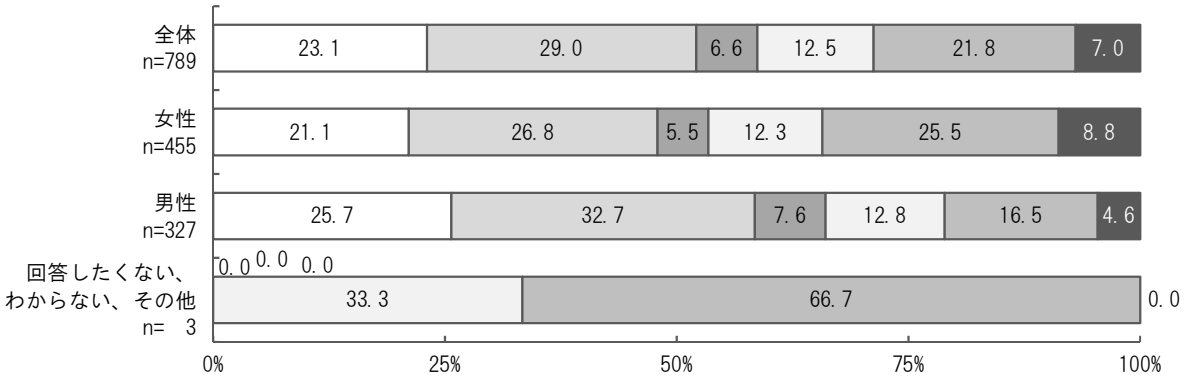
○就業（就職活動などを含む）における新型コロナウイルスの影響をみると、全体では『影響している』が52.1%、性別では女性が47.9%、男性が58.4%で、男性が10.5ポイント上回っています。

○年代別では、『影響している』は20～50代で６割を超え、30代で70.1%と最も高くなっています。

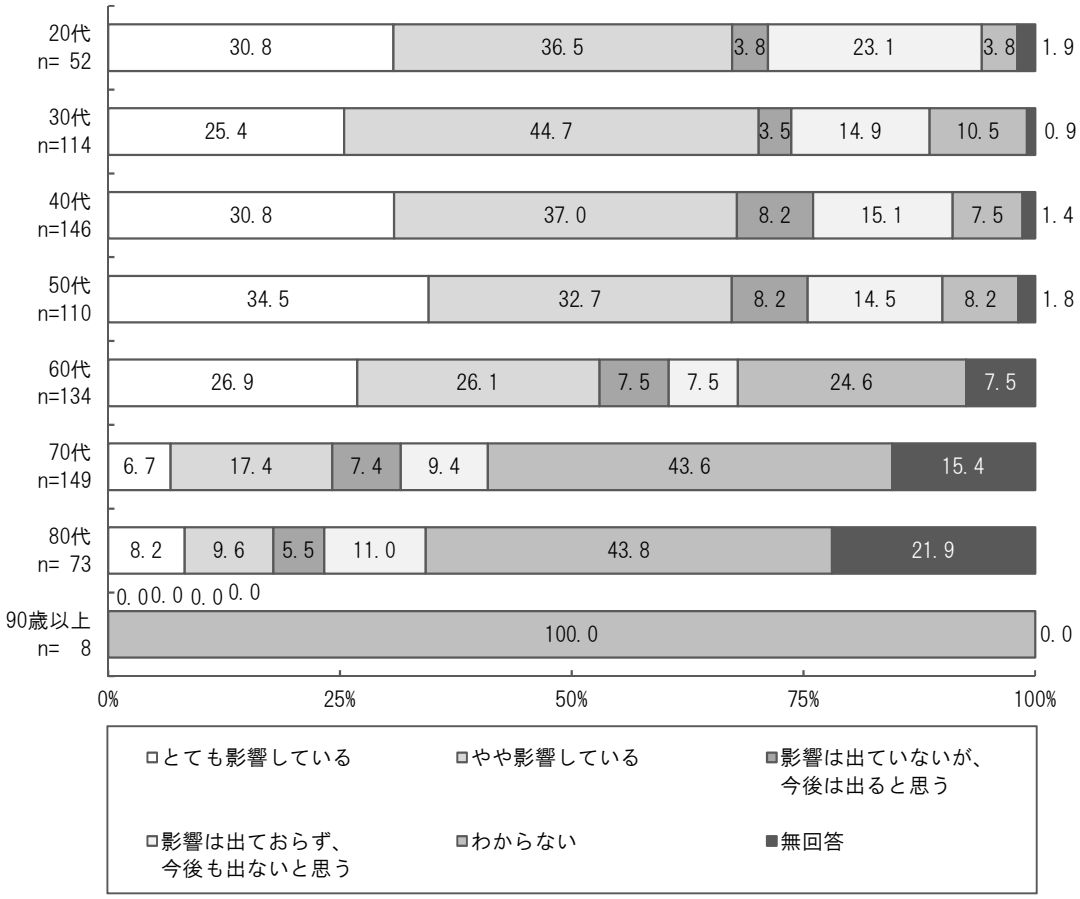
※『影響している』:「とても影響している」＋「やや影響している」

問23　新型コロナウイルスの影響

【全体・性別】



【年代別】



6　女性の社会進出

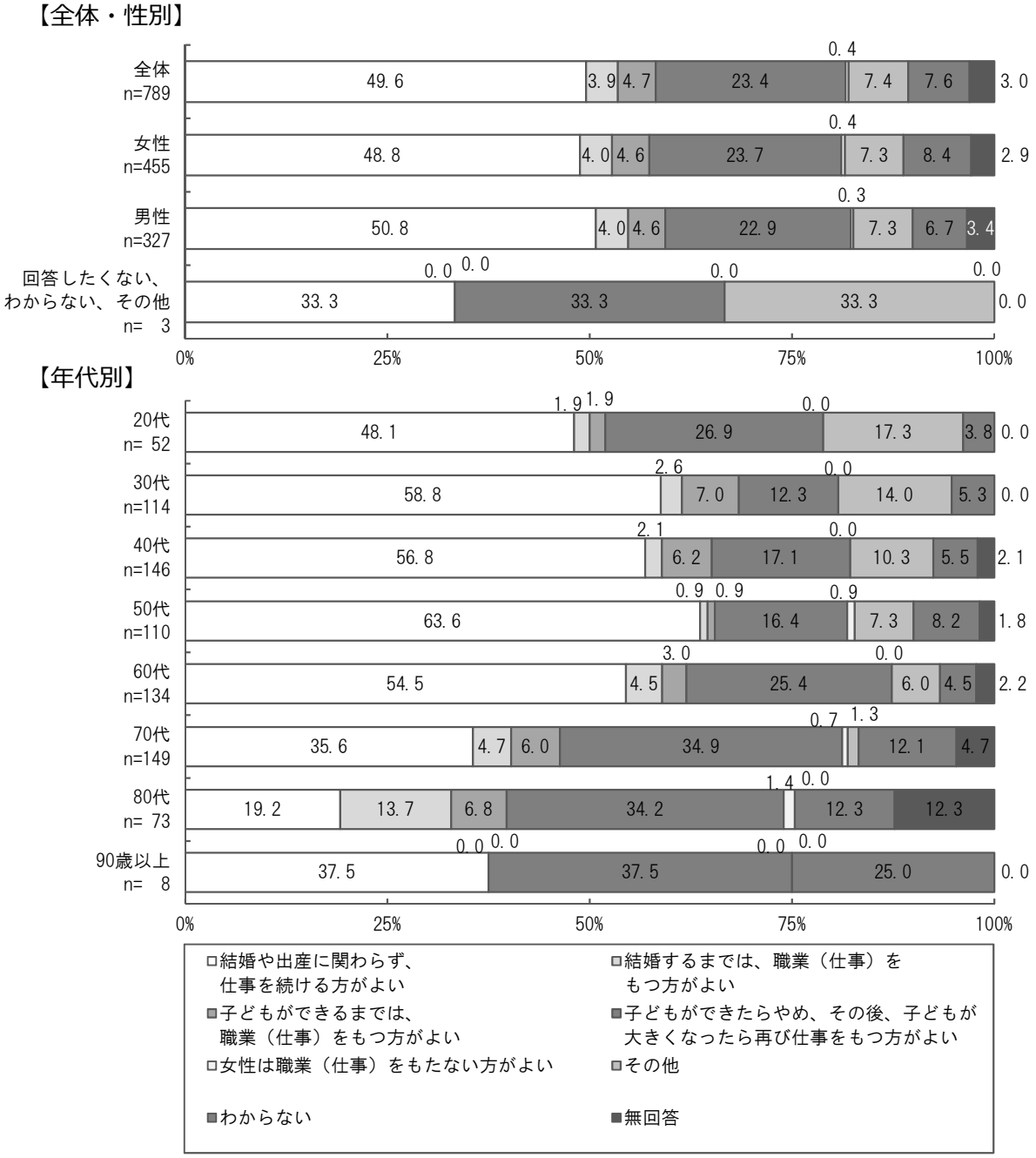
（１）女性の職業

①　女性が職業をもつことに対する考え

○女性が職業（仕事）をもつことについて、全体では「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が49.6%で最も高く、次いで「子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が23.4%となっています。性別では、男女とも「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が最も高くなっています。

○年代別では、20～70代では「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」、80代では「子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が最も高くなっています。

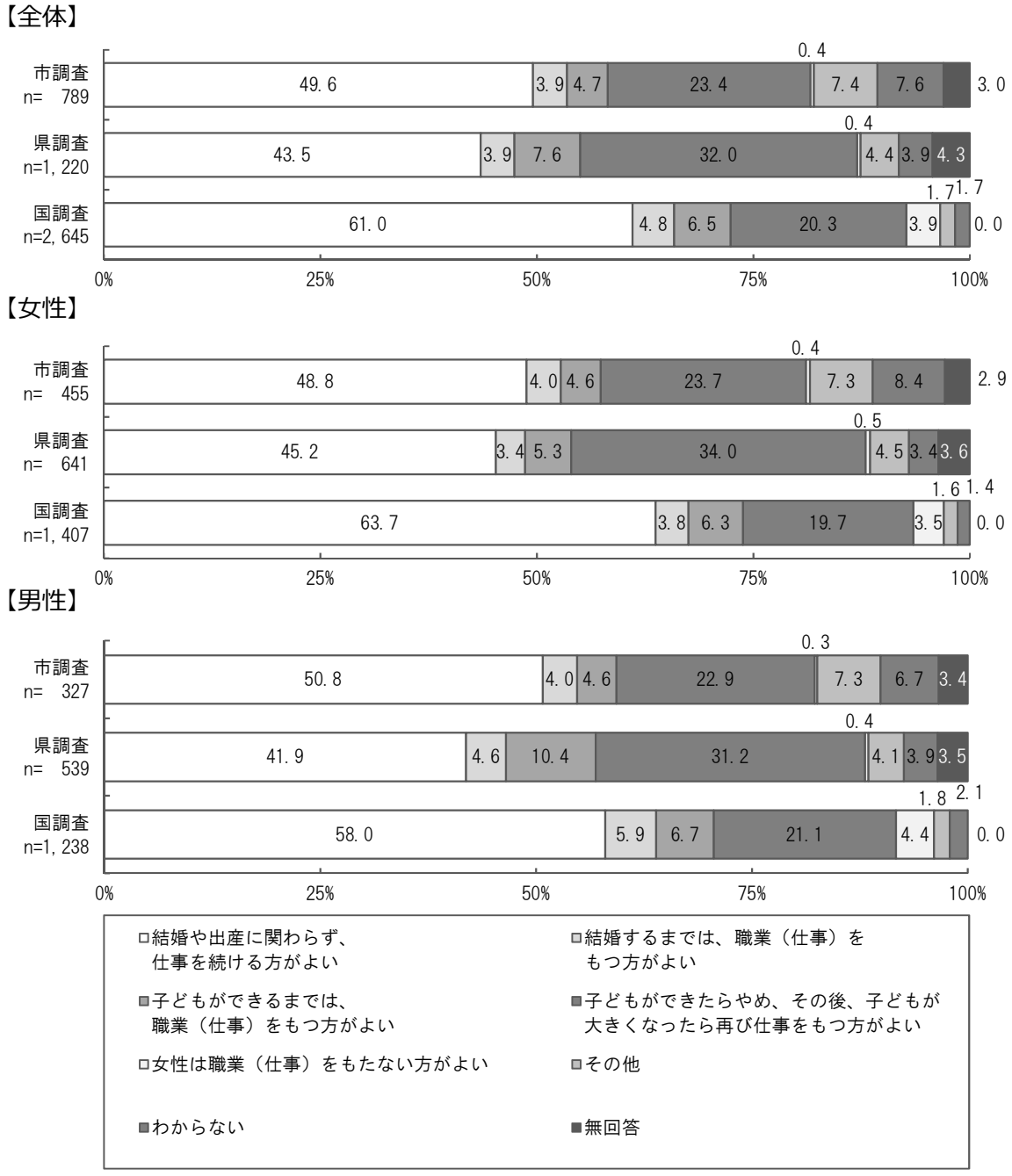
問24　女性が職業（仕事）をもつことに対する考え



○県調査と比較すると、市調査の「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」は、全体・女性・男性いずれも高く、特に男性は8.9ポイント上回っています。また、「子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」は、全体・女性・男性いずれも低く、特に女性は10.3ポイント下回っています。

○国調査と比較すると、市調査の「子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」は、全体・女性・男性いずれも高く、特に女性は4.0ポイント上回っています。また、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」は、全体・女性・男性いずれも低く、特に女性は14.9ポイント下回っています。

問24　女性が職業（仕事）をもつことに対する考え（県調査及び国調査との比較）

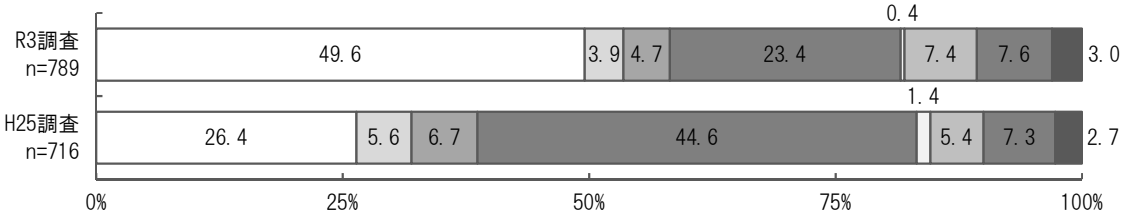


※本市調査の選択肢の順序に合わせて、県調査及び国調査の選択肢を並び替えています。
また、本市調査の選択肢「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」は、県調査及び国調査では「子どもができても、ずっと職業を持ち続ける方がよい」となっています。

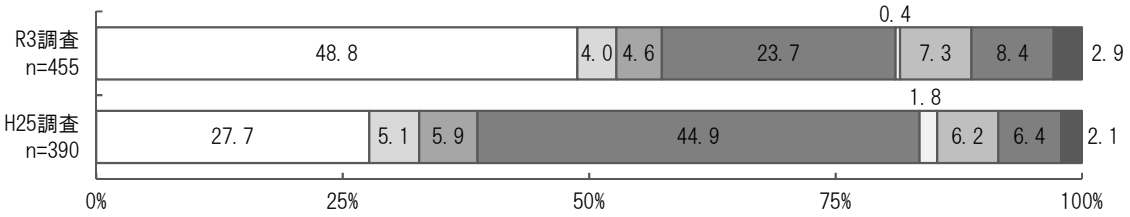
○H25調査と比較すると、R3調査の「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」は、全体・女性・男性いずれも大幅に高くなり、男性で24.9ポイント、女性で21.1ポイント上回っています。一方、「子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」は、全体・女性・男性いずれも大幅に低くなり、男性で22.0ポイント、女性で21.2ポイント下回っています。

問24　女性が職業（仕事）をもつことに対する考え（経年比較）

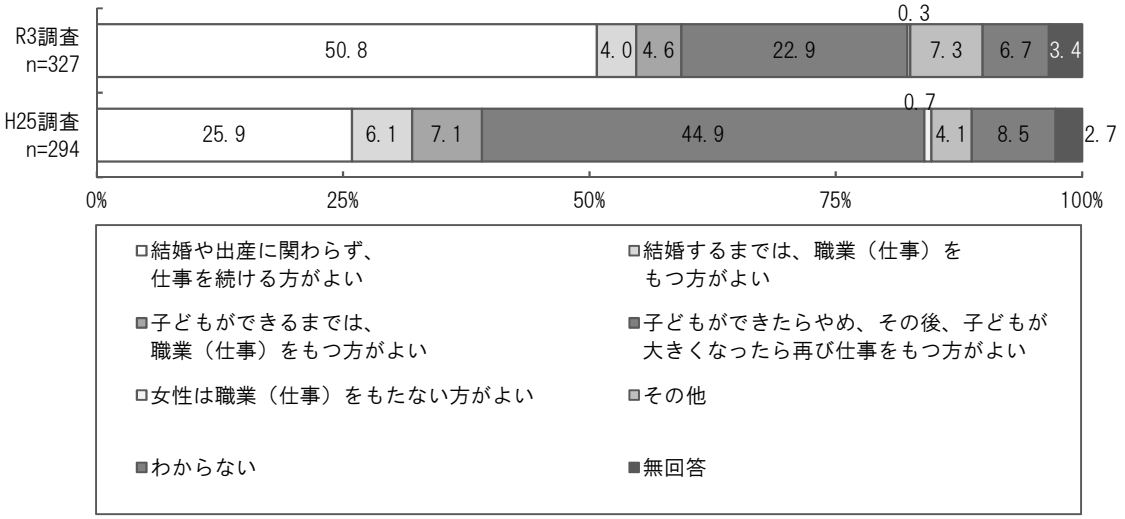
【全体】



【女性】



【男性】



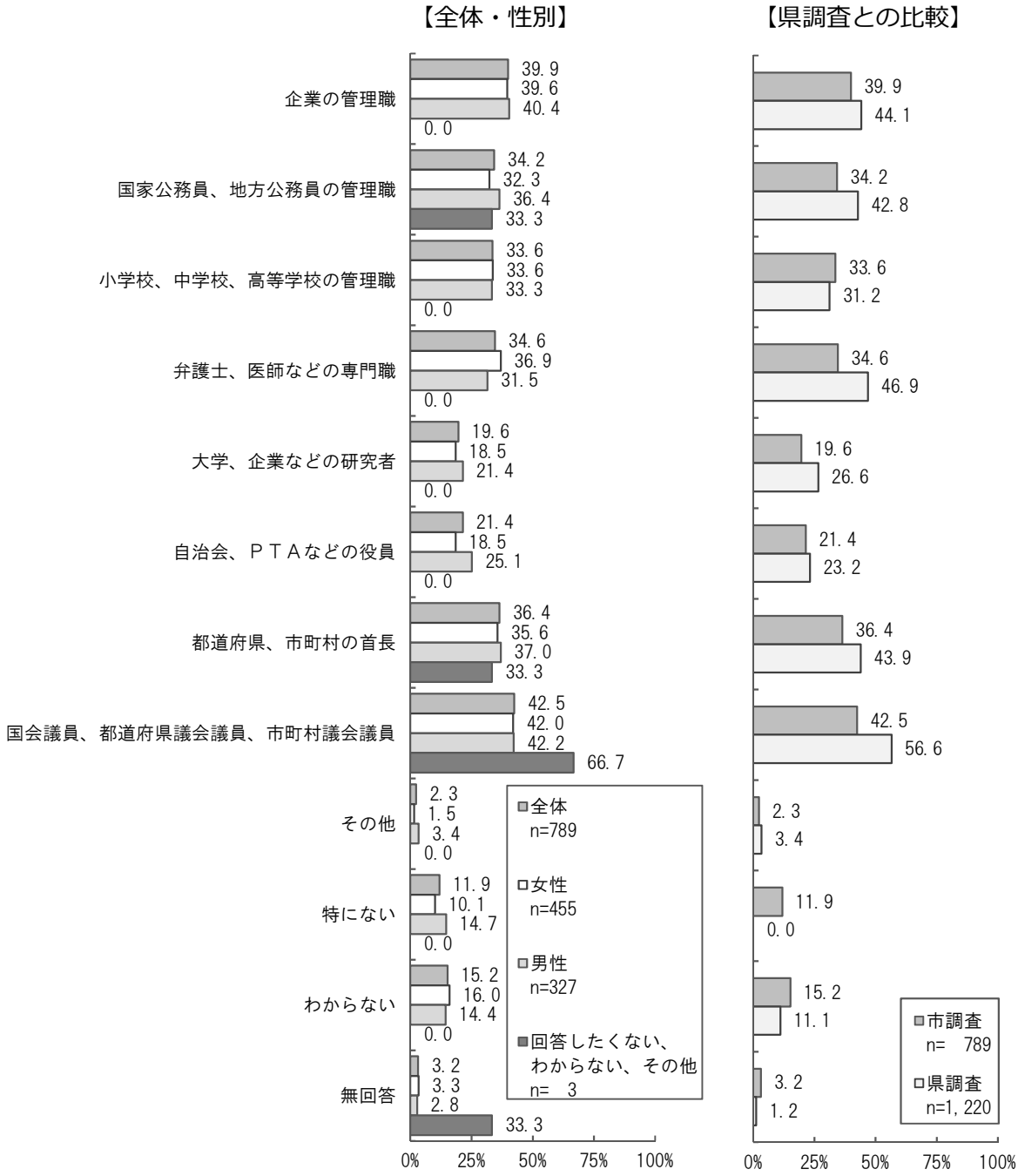
※今回調査の選択肢の順序に合わせて、前回調査の選択肢を並び替えています。
また、今回調査の選択肢「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」は、前回調査では「子どもができても、ずっと職業（仕事）を持ち続ける方がよい」となっています。

② 期待される社会進出の場

○女性が増える方がよいと思う職業や役職は、全体では「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」が42.5%で最も高く、次いで「企業の管理職」が39.9%、「都道府県、市町村の首長」が36.4%となっています。性別では「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」が女性で42.0%、男性で42.2%となり最も高く、次いで「企業の管理職」が女性で39.6%、男性で40.4%となっています。

○県調査と比較すると、市調査の「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」は14.1ポイント、「弁護士、医師などの専門職」は12.3ポイント下回っています。

問25　女性が増える方がよいと思う職業や役職



※本市調査の選択肢の順序に合わせて、県調査及び国調査の選択肢を並び替えています。
また、本市調査にはなく、県調査及び国調査にある選択肢「企業の経営者」「大学教授」「女性が増えない方がよい」は、省略しています。

○年代別にみると、20代・30代・50代では「企業の管理職」、40代・60代・80代では「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」、70代では「弁護士、医師などの専門職」「都道府県、市町村の首長」が最も高くなっています。

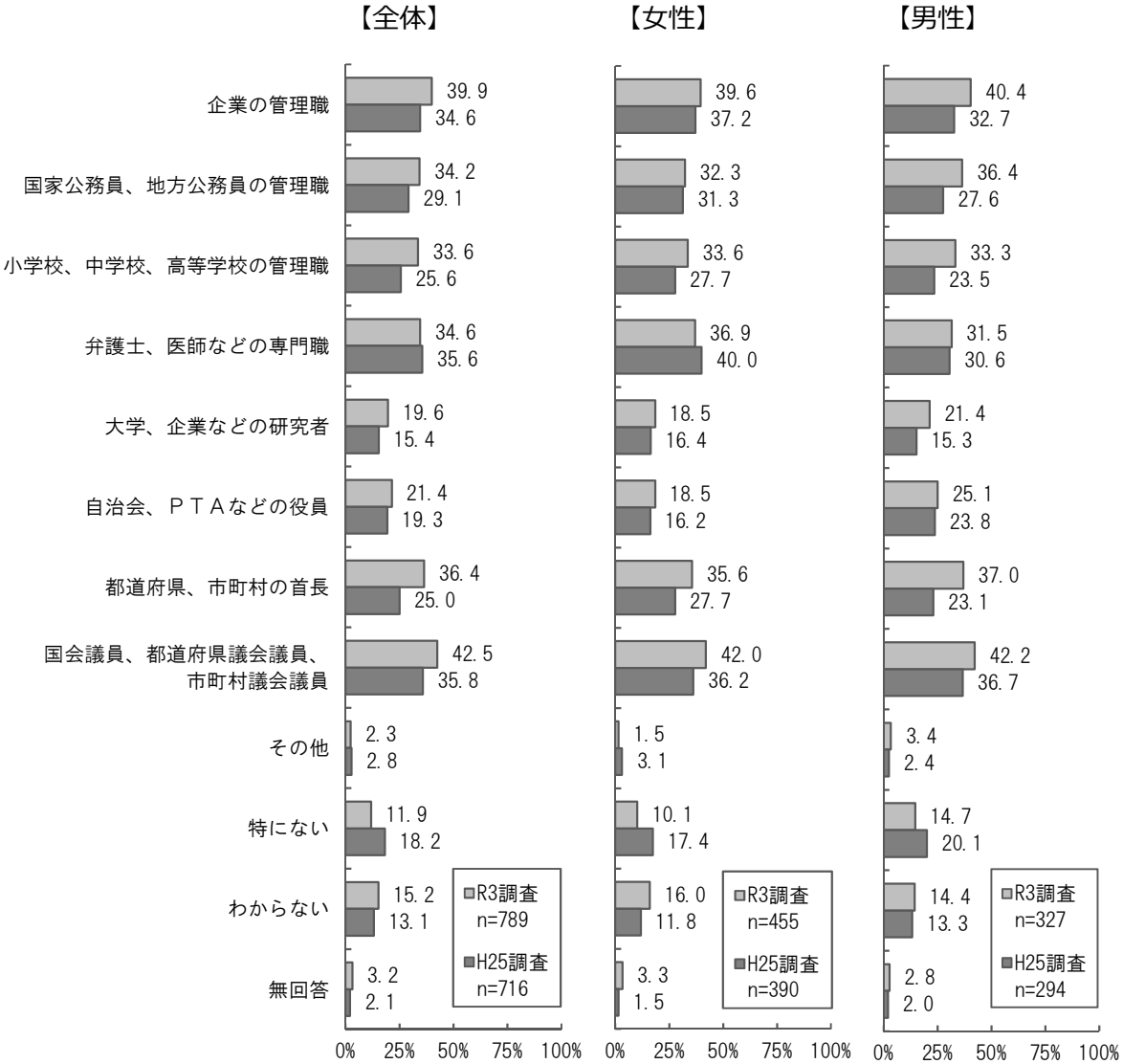
問25　女性が増える方がよいと思う職業や役職【年代別】

単位：％

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
企業の管理職	**55.8**	**52.6**	43.8	**50.0**	37.3	26.2	15.1	50.0
国家公務員、地方公務員の管理職	36.5	36.0	38.4	39.1	40.3	26.8	15.1	50.0
小学校、中学校、高等学校の管理職	44.2	40.4	37.7	33.6	34.3	24.8	20.5	50.0
弁護士、医師などの専門職	34.6	33.3	35.6	38.2	40.3	**31.5**	20.5	50.0
大学、企業などの研究者	19.2	18.4	19.2	22.7	26.9	16.1	8.2	50.0
自治会、ＰＴＡなどの役員	17.3	20.2	17.1	20.9	25.4	21.5	24.7	37.5
都道府県、市町村の首長	38.5	39.5	39.0	40.9	40.3	**31.5**	17.8	50.0
国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員	42.3	46.5	**47.9**	48.2	**47.0**	30.9	**28.8**	62.5
その他	0.0	1.8	5.5	4.5	0.7	0.7	1.4	0.0
特にない	13.5	12.3	9.6	11.8	11.2	14.1	13.7	0.0
わからない	3.8	12.3	13.7	10.9	10.4	23.5	27.4	37.5
無回答	0.0	0.0	3.4	1.8	3.7	4.0	9.6	0.0

○H25調査と比較すると、R3調査の「都道府県、市町村の首長」は、全体・女性・男性いずれも高くなり、特に男性は13.9ポイント上回っています。

問25　女性が増える方がよいと思う職業や役職（経年比較）



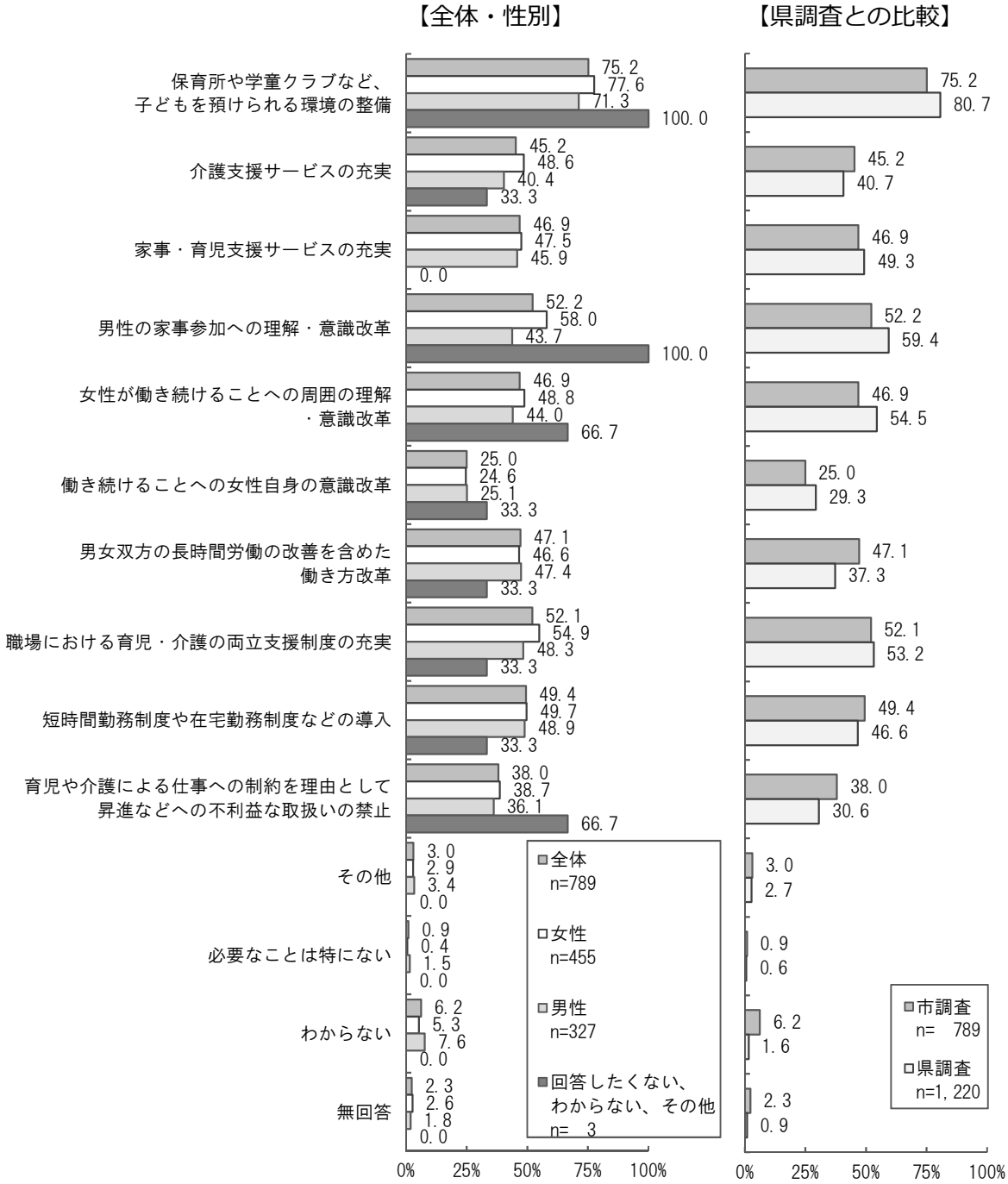
（２）女性の離職

①　女性が働き続けるために必要なこと

○女性が結婚や出産後も離職せず働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは、全体では「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が75.2%で最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」が52.2%、「職場における育児・介護の両立支援制度の充実」が52.1%となっています。性別では「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が女性で77.6%、男性で71.3%となり、最も高くなっています。

○県調査と比較すると、市調査の「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」は9.8ポイント上回っています。

問26　女性が離職せず働き続けるために家庭・社会・職場で必要なこと



○年代別にみると、20～80代で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高く、特に30代では86.0%、40代では82.2%となっています。

問26　女性が離職せず働き続けるために家庭・社会・職場で必要なこと【年代別】

単位：%

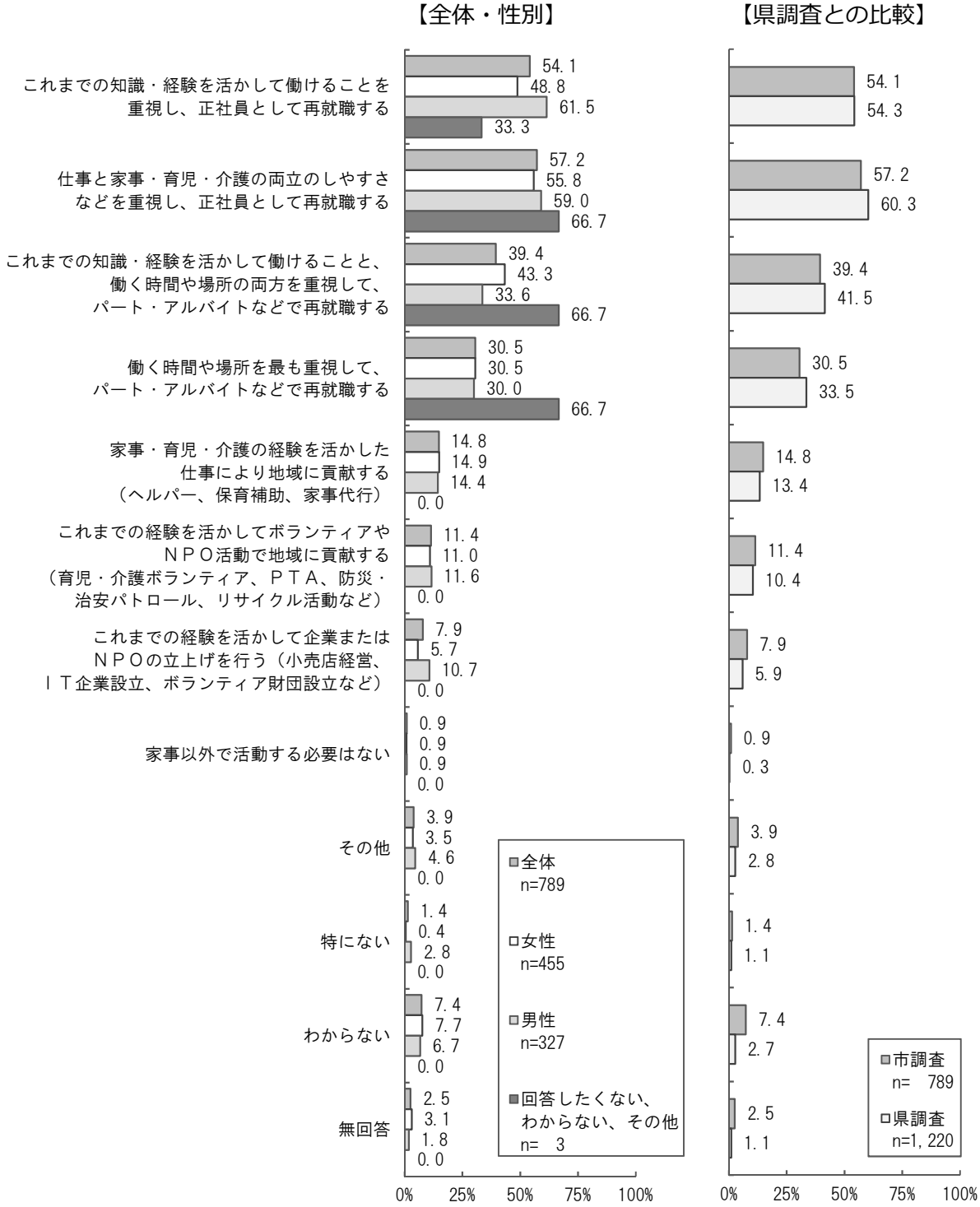
	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	78.8	86.0	82.2	75.5	76.1	70.5	49.3	75.0
介護支援サービスの充実	44.2	40.4	37.7	50.0	56.7	47.0	34.2	62.5
家事・育児支援サービスの充実	46.2	61.4	52.7	53.6	50.0	30.9	28.8	50.0
男性の家事参加への理解・意識改革	59.6	58.8	58.2	60.9	56.7	39.6	30.1	50.0
女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	50.0	50.9	45.2	50.9	50.7	43.6	34.2	50.0
働き続けることへの女性自身の意識改革	17.3	25.4	23.3	22.7	21.6	32.2	27.4	25.0
男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	57.7	57.0	54.8	55.5	45.5	32.2	30.1	37.5
職場における育児・介護の両立支援制度の充実	71.2	57.9	57.5	57.3	54.5	40.3	32.9	37.5
短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	71.2	63.2	52.7	55.5	50.7	31.5	30.1	50.0
育児や介護による仕事への制約を理由として昇進などへの不利益な取扱いの禁止	48.1	45.6	39.7	40.9	43.3	22.1	31.5	50.0
その他	3.8	6.1	5.5	3.6	1.5	0.0	1.4	0.0
必要なことは特にない	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	2.0	2.7	0.0
わからない	1.9	1.8	2.7	3.6	3.7	11.4	19.2	25.0
無回答	0.0	0.0	1.4	1.8	2.2	2.7	9.6	0.0

② 離職した女性の社会での再活動の仕方

○出産などでいったん離職した女性の社会での再活動の仕方として、「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」は全体で57.2%、女性で55.8%となり、最も高くなっています。男性は「これまでの知識・経験を活かして働けることを重視し、正社員として再就職する」が61.5%で最も高くなっています。

○県調査と比較すると、市調査の「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」「働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」は、いずれも3ポイント程度下回っています。

問27　離職した女性の社会での再活動の仕方



○年代別にみると、20～60代では「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」、70代では「これまでの知識・経験を活かして働けることを重視し、正社員として再就職する」、80代では「これまでの知識・経験を活かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」が最も高くなっています。

問27　離職した女性の社会での再活動の仕方【年代別】

単位：％

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
これまでの知識・経験を活かして働けることを重視し、正社員として再就職する	61.5	57.0	57.5	61.8	55.2	**48.3**	34.2	62.5
仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する	**69.2**	**63.2**	**65.1**	**65.5**	**59.0**	45.6	31.5	50.0
これまでの知識・経験を活かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する	34.6	48.2	41.8	39.1	39.6	32.2	**35.6**	50.0
働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する	21.2	38.6	32.2	30.0	30.6	26.8	26.0	50.0
家事・育児・介護の経験を活かした仕事により地域に貢献する（ヘルパー、保育補助、家事代行）	7.7	13.2	11.6	13.6	20.1	16.1	13.7	50.0
これまでの経験を活かしてボランティアやＮＰＯ活動で地域に貢献する（育児・介護ボランティア、ＰＴＡ、防災・治安パトロール、リサイクル活動など）	5.8	10.5	8.2	10.0	15.7	12.8	9.6	50.0
これまでの経験を活かして企業またはＮＰＯの立上げを行う（小売店経営、ＩＴ企業設立、ボランティア財団設立など）	7.7	11.4	8.2	5.5	10.4	3.4	8.2	25.0
家事以外で活動する必要はない	3.8	0.9	0.7	0.9	0.7	0.7	0.0	0.0
その他	7.7	5.3	4.8	6.4	3.7	1.3	0.0	0.0
特にない	0.0	0.9	0.0	0.0	1.5	2.0	5.5	12.5
わからない	3.8	4.4	4.8	2.7	5.2	13.4	17.8	12.5
無回答	0.0	0.0	1.4	1.8	3.0	2.7	11.0	0.0

7　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について

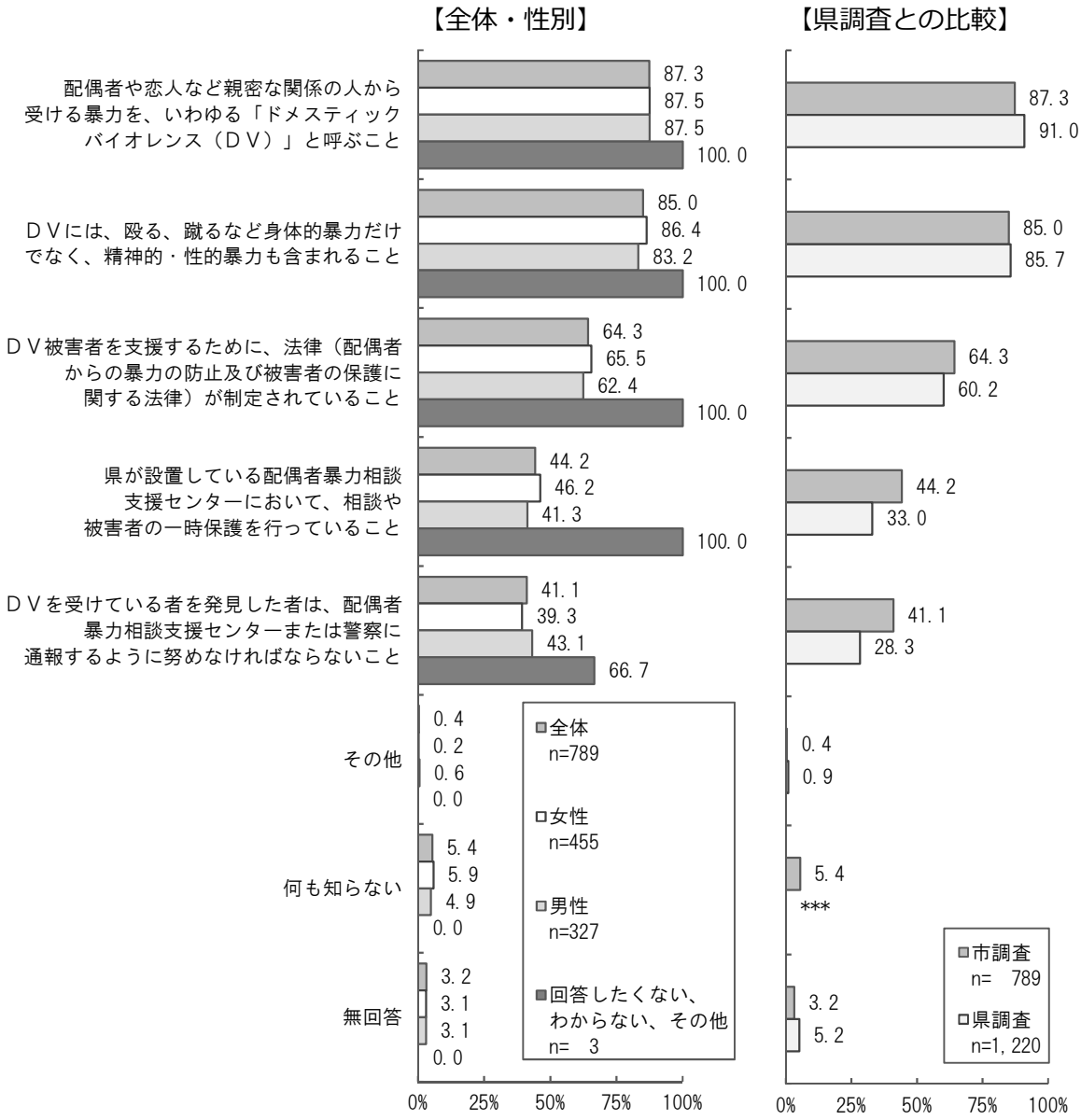
（１）ＤＶに関する認知状況

①　ＤＶに関することの認知状況

○ＤＶに関することの認知状況をみると、全体・女性・男性いずれも「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる『ドメスティックバイオレンス（ＤＶ）』と呼ぶこと」「ＤＶには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」で８割を超えています。

○県調査と比較すると、市調査の「ＤＶを受けている者を発見した者は、配偶者暴力相談支援センターまたは警察に通報するように努めなければならないこと」は12.8ポイント、「県が設置している配偶者暴力相談支援センターにおいて、相談や被害者の一時保護を行っていること」は11.2ポイント上回っています。

問28　ＤＶに関することの認知状況



※本市調査の選択肢「何も知らない」は、県調査にはありません。

○年代別にみると、20～50代では「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる『ドメスティックバイオレンス（ＤＶ）』と呼ぶこと」「ＤＶには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」がいずれも９割を超えています。60代では「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる『ドメスティックバイオレンス（ＤＶ）』と呼ぶこと」が９割を超えています。

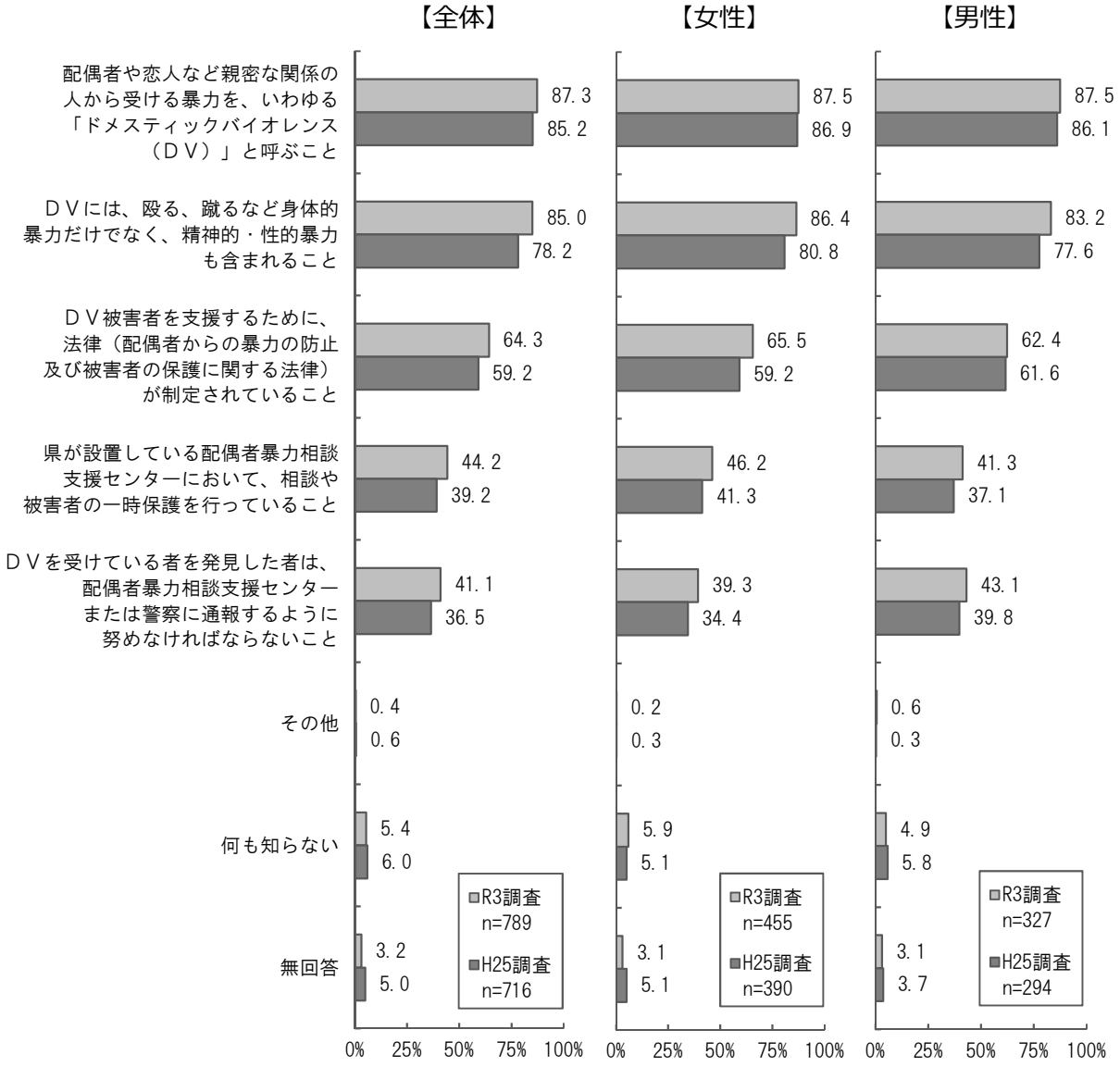
問28　ＤＶに関することの認知状況【年代別】

単位：％

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティックバイオレンス（ＤＶ）」と呼ぶこと	**98.1**	**97.4**	**96.6**	**93.6**	**91.0**	77.9	**53.4**	50.0
ＤＶには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること	92.3	96.5	94.5	90.9	85.8	**78.5**	50.7	50.0
ＤＶ被害者を支援するために、法律（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）が制定されていること	51.9	72.8	68.5	74.5	70.9	59.7	38.4	25.0
県が設置している配偶者暴力相談支援センターにおいて、相談や被害者の一時保護を行っていること	40.4	50.0	52.1	48.2	44.8	40.9	26.0	12.5
ＤＶを受けている者を発見した者は、配偶者暴力相談支援センターまたは警察に通報するように努めなければならないこと	44.2	46.5	45.9	47.3	38.1	36.2	30.1	12.5
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.3	0.0	0.0
何も知らない	0.0	0.0	1.4	1.8	4.5	10.7	17.8	50.0
無回答	0.0	0.0	0.7	0.9	1.5	4.7	17.8	0.0

○H25調査と比較すると、R3調査の「ＤＶには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」は全体で6.8ポイント、「ＤＶ被害者を支援するために、法律（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）が制定されていること」は女性で6.3ポイント上回っています。

問28　ＤＶに関することの認知状況（経年比較）



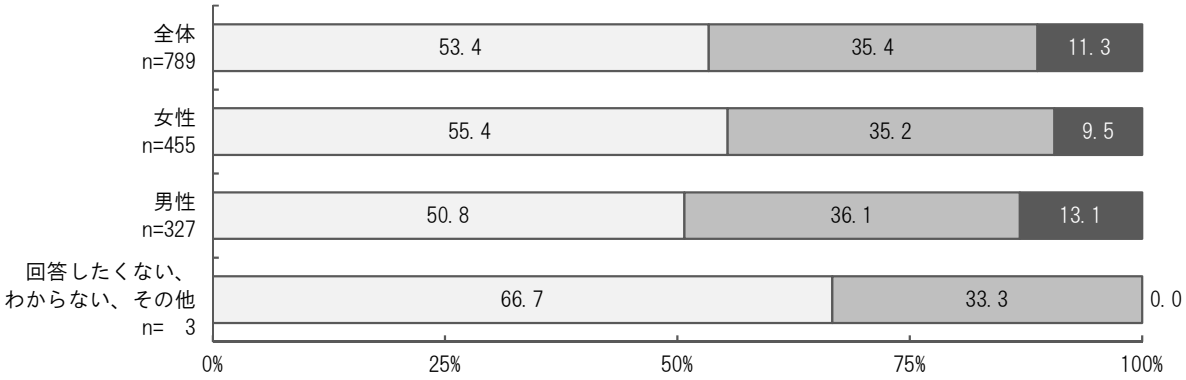
② ＤＶに関する相談窓口の認知状況

○ＤＶに関する相談窓口の認知状況をみると、「知っている」は全体・女性・男性いずれも５割を超えています。

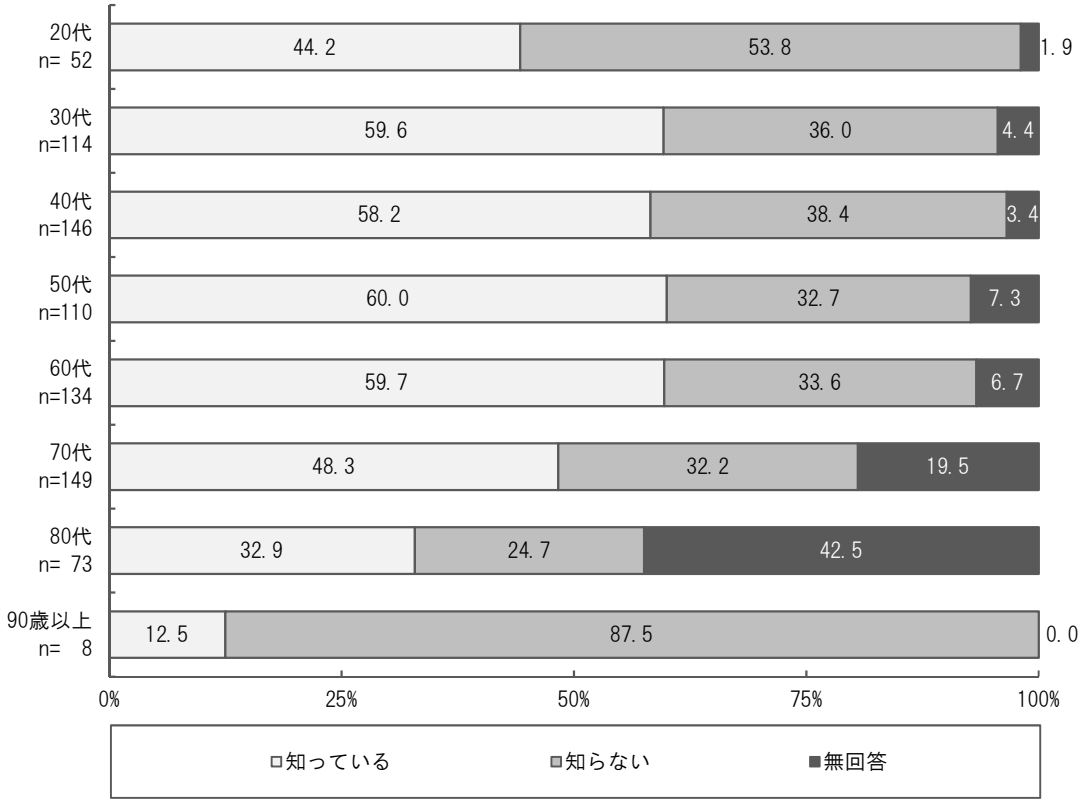
○年代別では、30～80代では「知っている」が「知らない」より高くなっています。20代では「知らない」が53.8%となり、「知っている」を9.6ポイント上回っています。

問29　ＤＶに関する相談窓口の認知状況

【全体・性別】



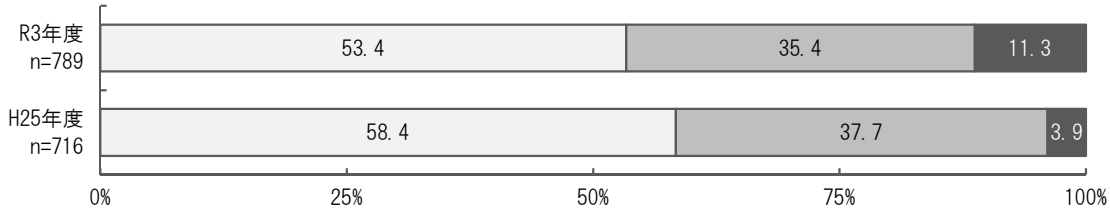
【年代別】



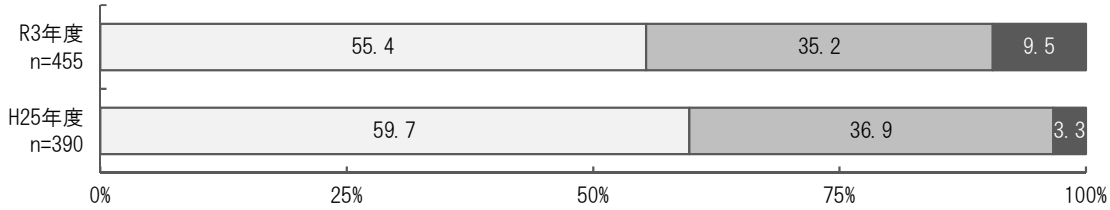
○H25調査と比較すると、R3調査の「知っている」は全体・女性・男性いずれも低く、男性では7.0ポイント下回っています。

問29　ＤＶに関する相談窓口の認知状況（経年比較）

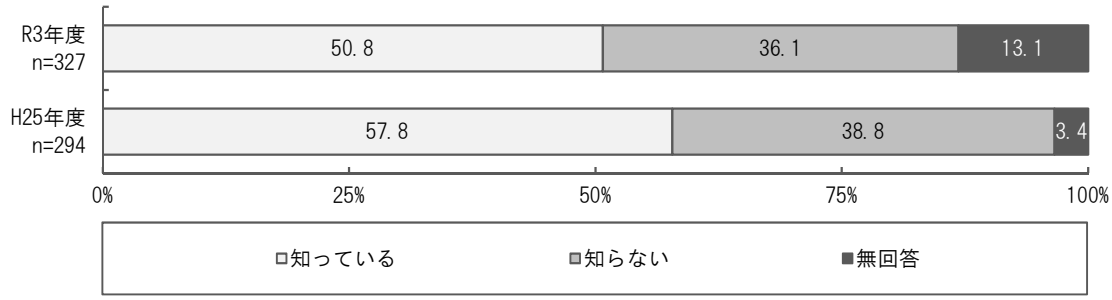
【全体】



【女性】



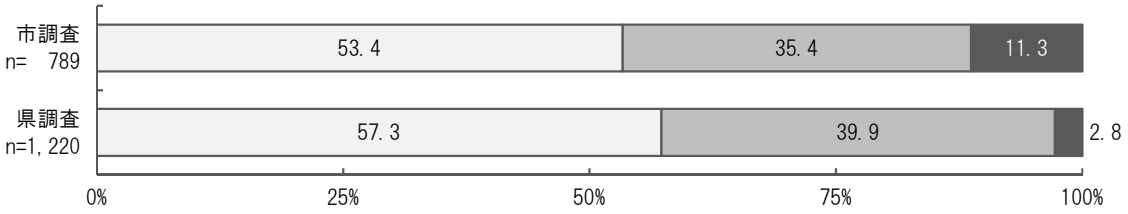
【男性】



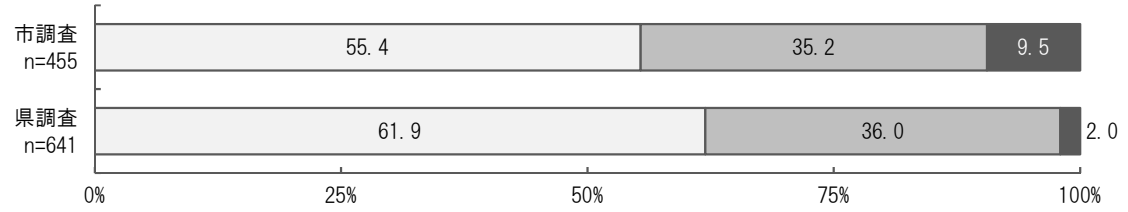
○県調査と比較すると、市調査の「知っている」は全体・女性・男性いずれも低く、女性では6.5ポイント下回っています。

問29　ＤＶに関する相談窓口の認知状況（県調査との比較）

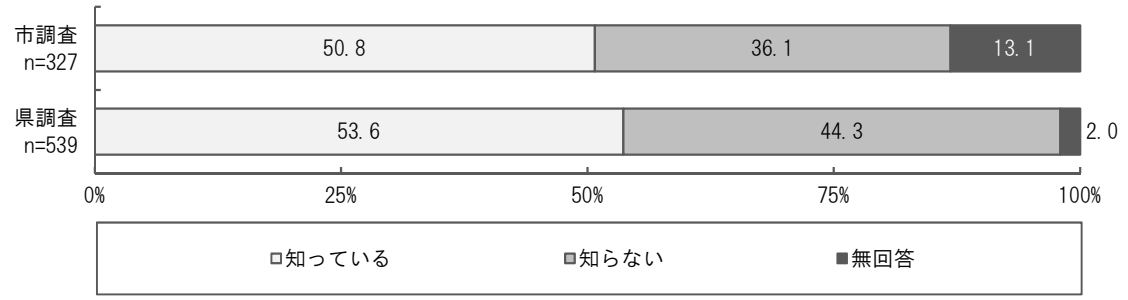
【全体】



【女性】

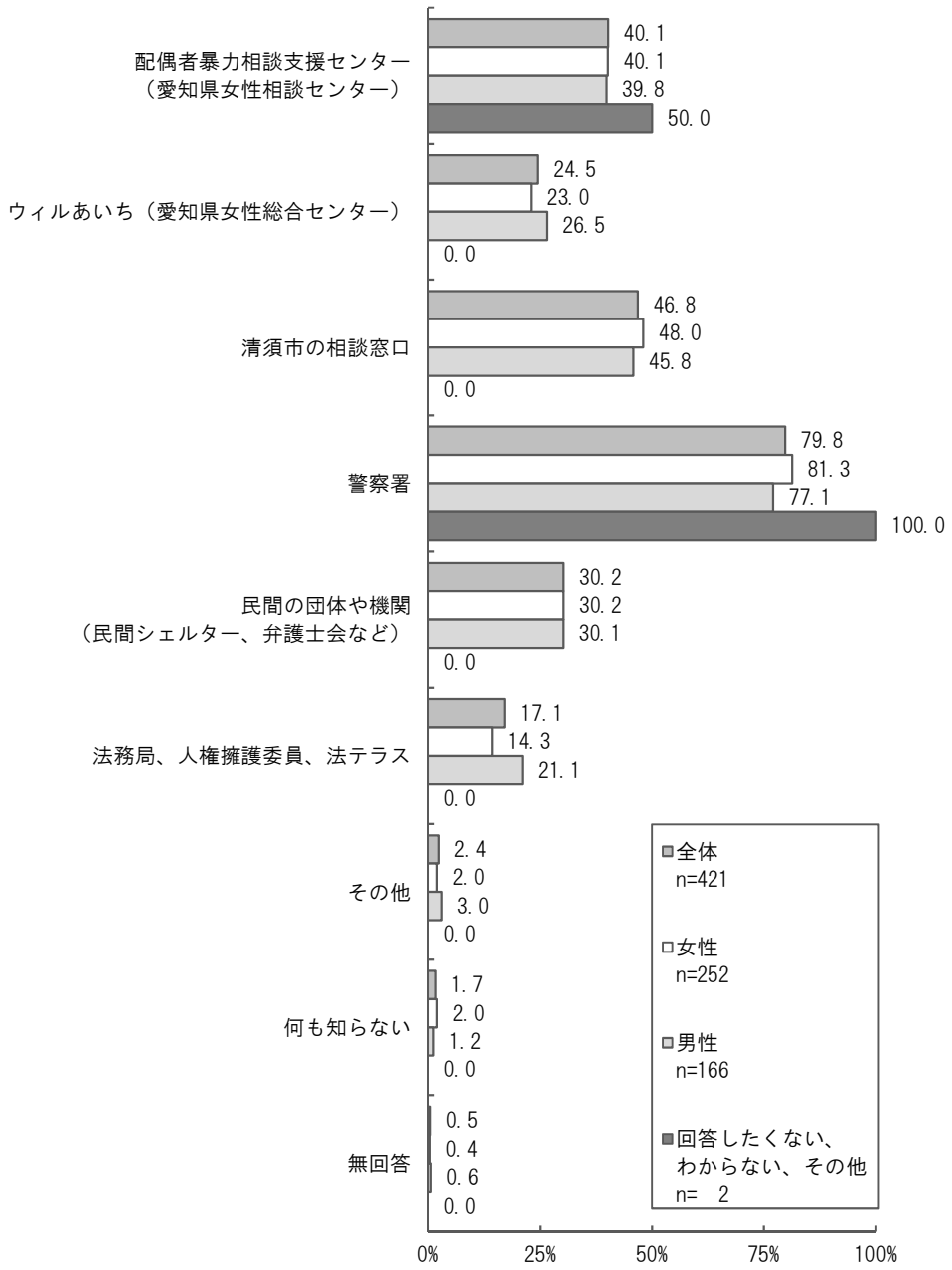


【男性】



○問29においてＤＶの相談窓口があることを「知っている」と回答された方について、知っている相談窓口をみると、全体では「警察署」が79.8%で最も高く、次いで「清須市の相談窓口」が46.8%、「配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）」が40.1%となっています。性別では、男女ともに「警察署」が最も高く、次いで「清須市の相談窓口」、「配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）」となっています。

問29-１　ＤＶの相談窓口で知っているところ
【全体・性別】



○年代別にみると、20～80代では「警察署」が最も高く、次いで20～60代・80代では「清須市の相談窓口」、70代で「配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）」となっています。

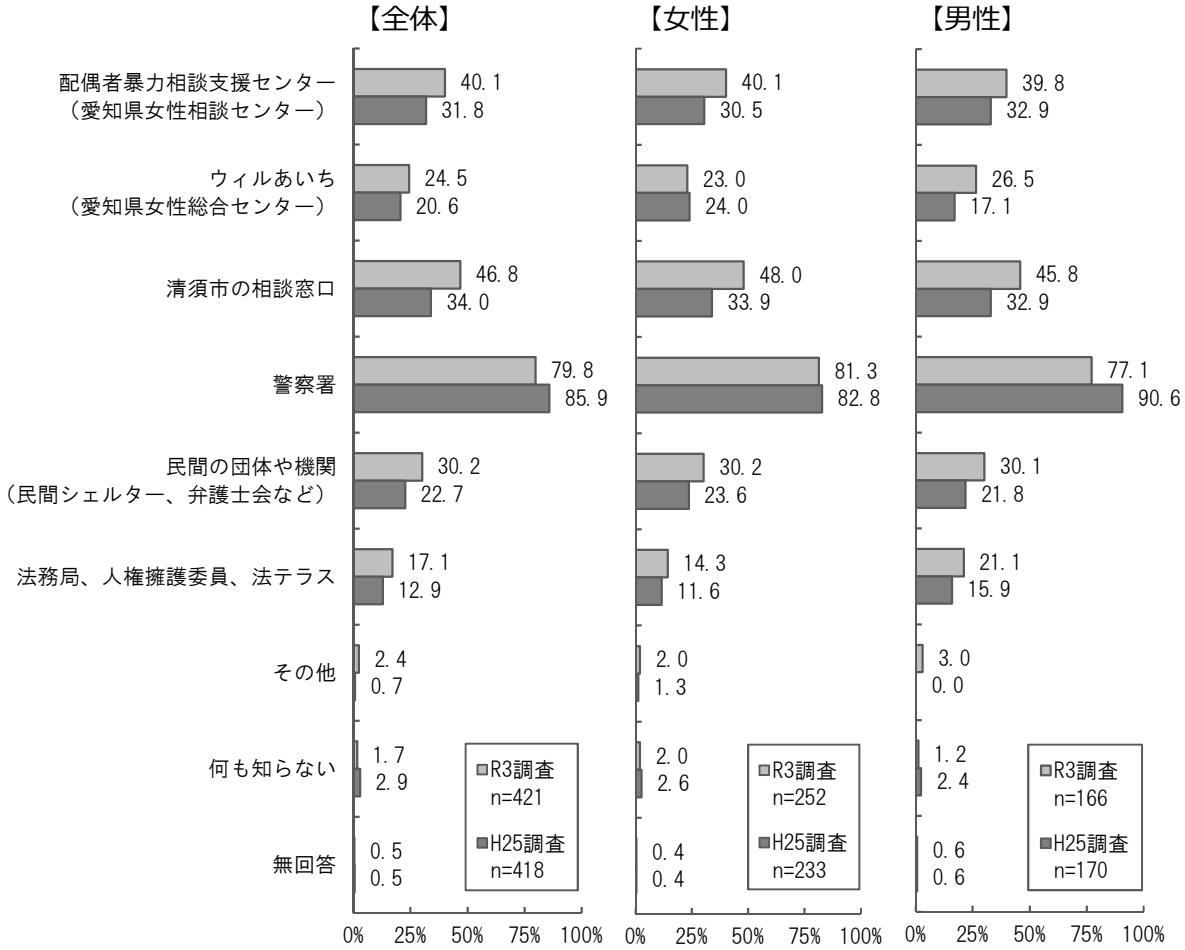
問29-１　ＤＶの相談窓口で知っているところ【年代別】

単位：％

	20代 n=23	30代 n=68	40代 n=85	50代 n=66	60代 n=80	70代 n=72	80代 n=24	90歳以上 n=1
配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）	34.8	36.8	32.9	43.9	33.8	56.9	37.5	100.0
ウィルあいち（愛知県女性総合センター）	8.7	14.7	25.9	30.3	30.0	25.0	20.8	100.0
清須市の相談窓口	47.8	42.6	40.0	56.1	42.5	51.4	58.3	100.0
警察署	**91.3**	**76.5**	**83.5**	**83.3**	**81.3**	**73.6**	**66.7**	100.0
民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）	39.1	30.9	32.9	31.8	30.0	25.0	12.5	100.0
法務局、人権擁護委員、法テラス	17.4	14.7	18.8	16.7	20.0	12.5	16.7	100.0
その他	0.0	4.4	3.5	1.5	1.3	2.8	0.0	0.0
何も知らない	4.3	0.0	2.4	0.0	3.8	0.0	4.2	0.0
無回答	0.0	0.0	1.2	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0

○H25調査と比較すると、R3調査の「清須市の相談窓口」は全体・女性・男性いずれも高く、特に女性では14.1ポイント上回っています。一方、「警察署」は男性で13.5ポイント下回っています。

問29-１　ＤＶの相談窓口で知っているところ（経年比較）



（２）ＤＶの経験とその対応

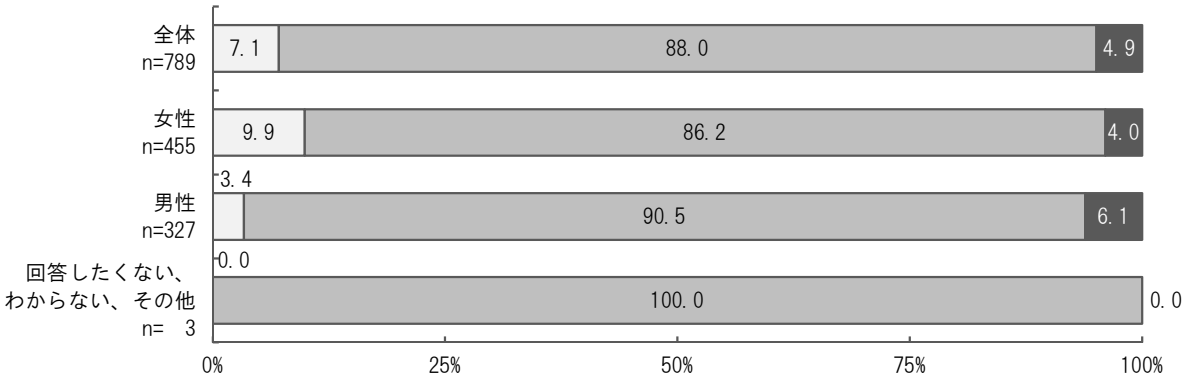
① 暴力を受けた経験

○配偶者や恋人からの何らかの暴力を受けた経験の有無をみると、「ある」は全体で7.1%、性別では女性が9.9%、男性が3.4%で、女性が6.5ポイント上回っています。

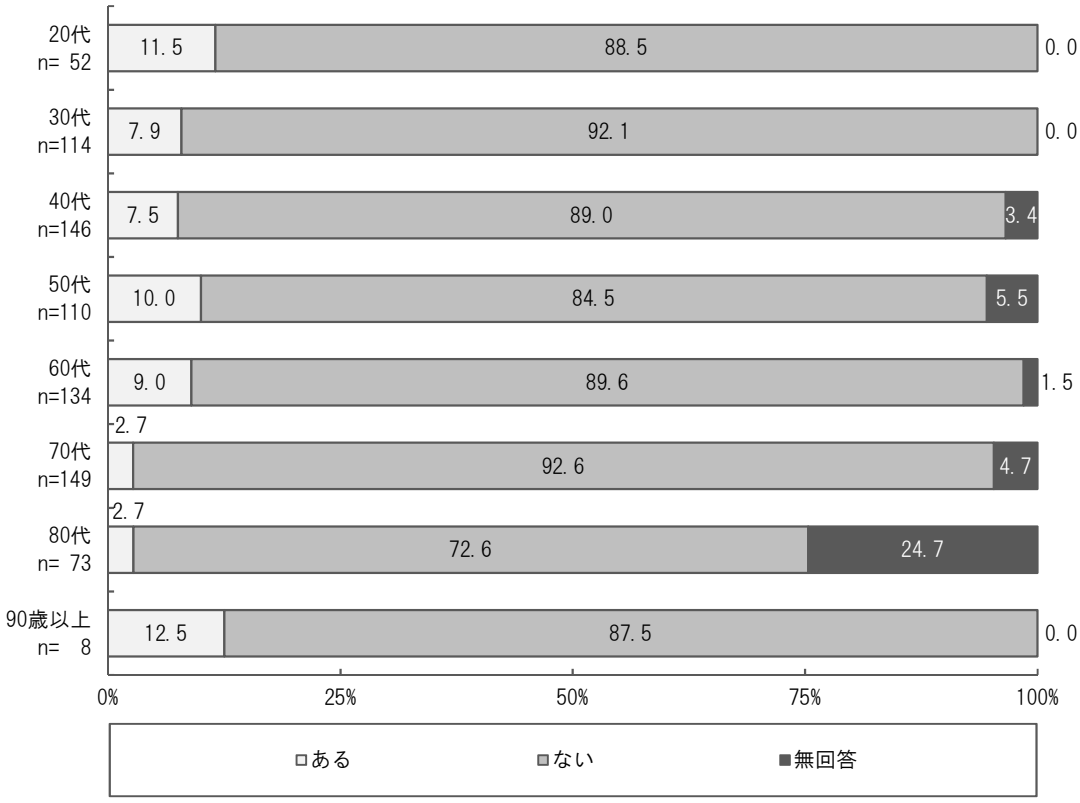
○年代別では、20代が11.5%で最も高く、次いで50代で10.0%、60代で9.0%となっています。

問30　暴力を受けた経験の有無

【全体・性別】



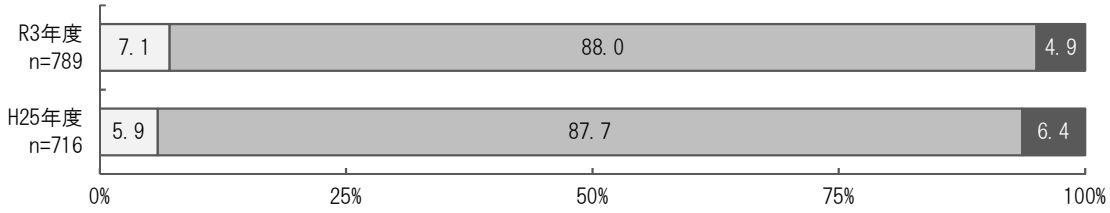
【年代別】



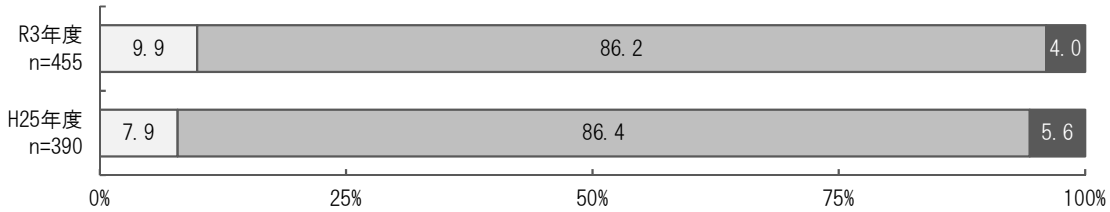
○前回調査と比較すると、R3調査の「ある」は１割未満であるものの、全体・女性・男性いずれも高くなっています。

問30　暴力を受けた経験の有無（経年比較）

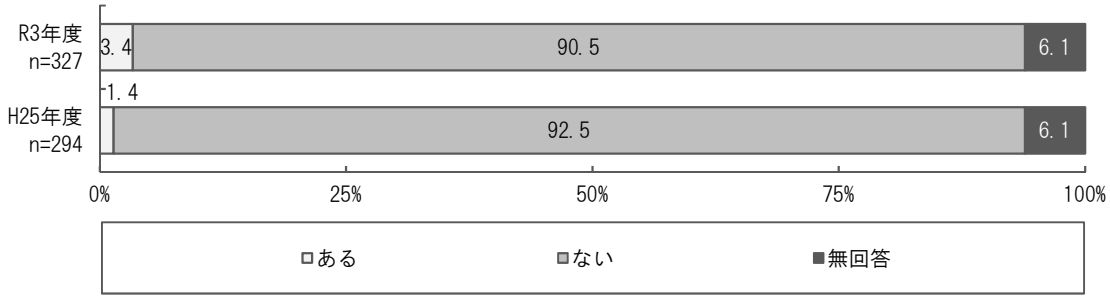
【全体】



【女性】



【男性】



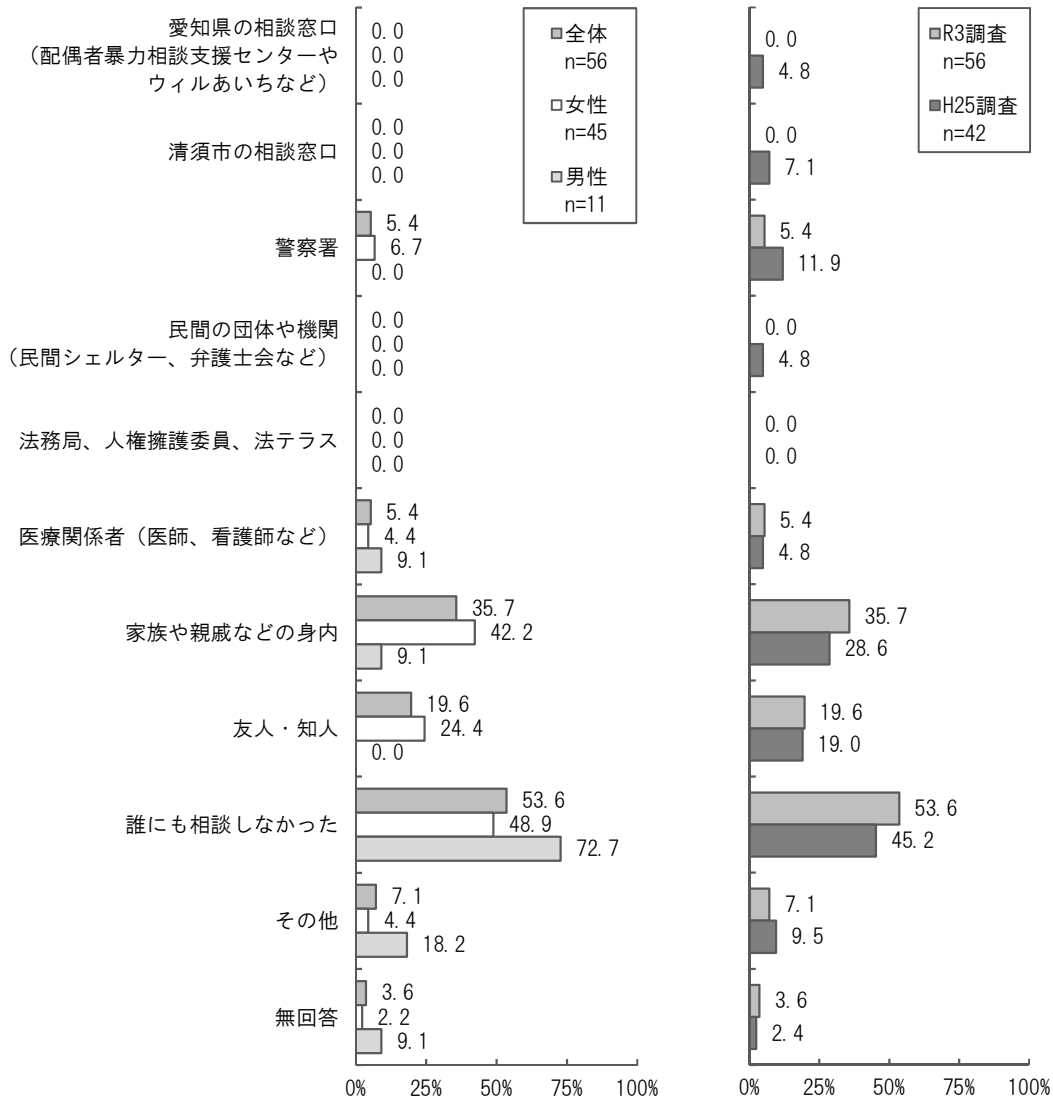
② 暴力を受けた場合の対応

○問30で暴力を受けたことが「ある」と回答された方について、その場合の対応をみると、全体では「誰にも相談しなかった」が53.6%で最も高く、次いで「家族や親戚などの身内」が35.7%となっています。

○H25調査と比較すると、R3調査の「誰にも相談しなかった」が8.4ポイント、「家族や親戚などの身内」が7.1ポイント上回っています。

問30-１　暴力を受けた場合の対応

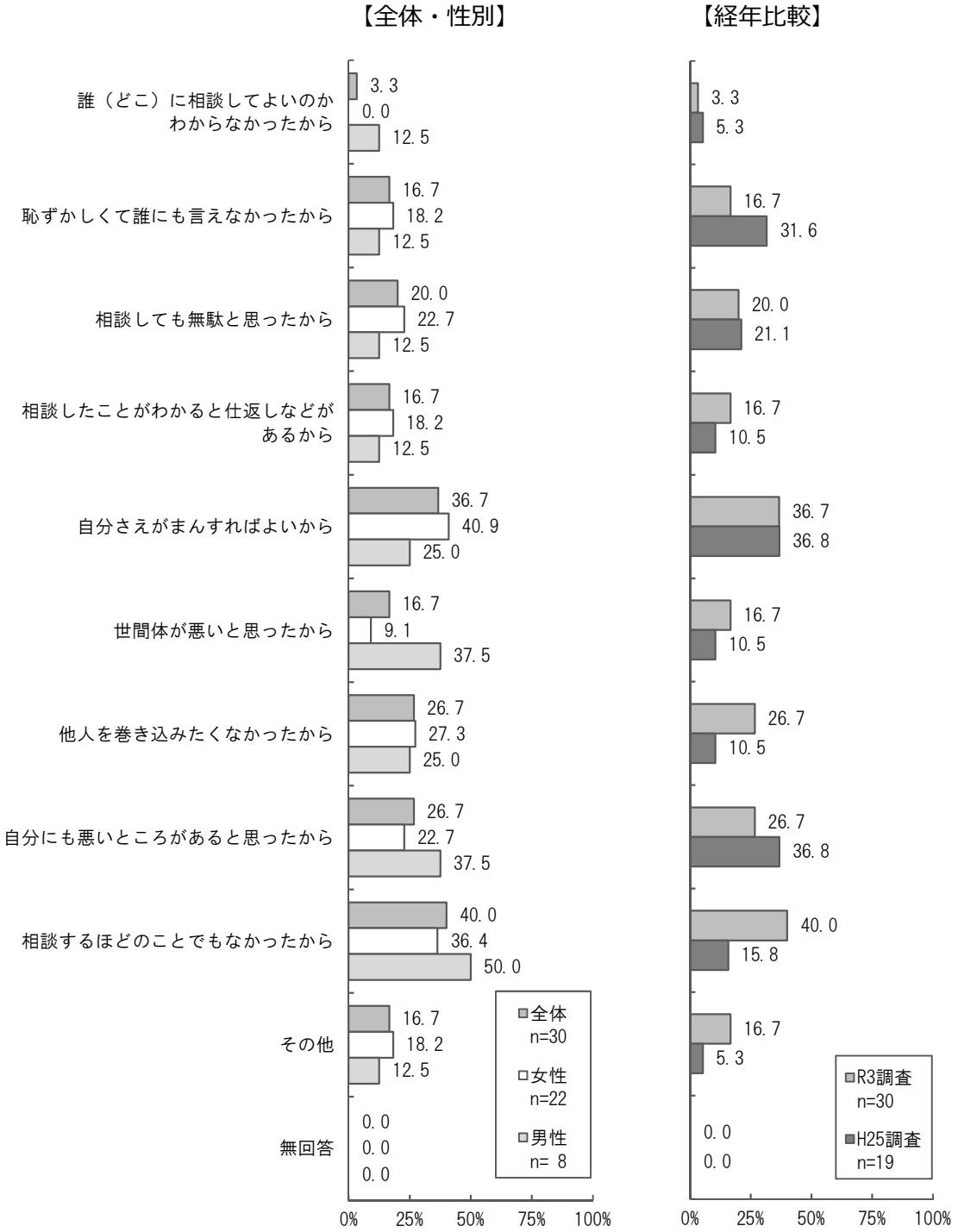
【全体・性別】　【経年比較】



○問30-1で「誰にも相談しなかった」と回答された方について、その理由をみると、全体では「相談するほどのことでもなかったから」が40.0%で最も高く、次いで「自分さえがまんすればよいから」が36.7%となっています。

○H25調査と比較すると、R3調査の「他人を巻き込みたくなかったから」は16.2ポイント、「相談するほどのことでもなかったから」は24.2ポイント上回っています。一方、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」は14.9ポイント、「自分にも悪いところがあると思ったから」は10.1ポイント下回っています。

問30-2　相談しなかった理由



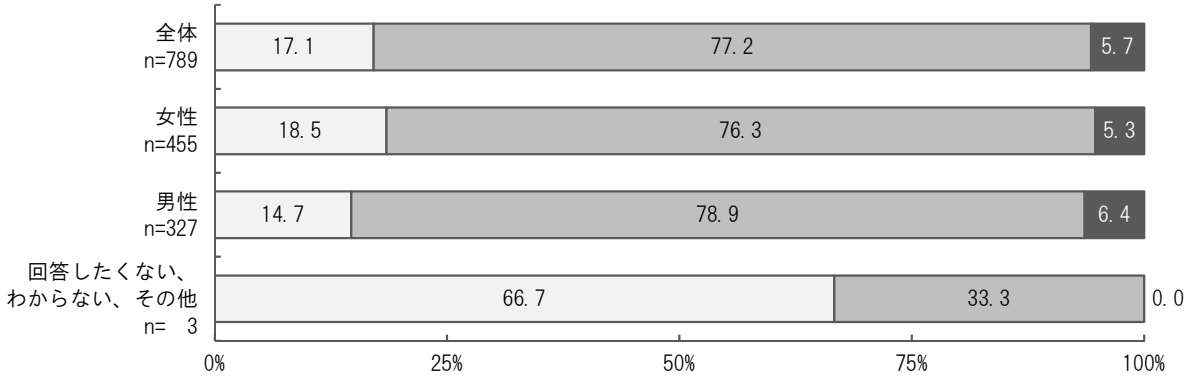
8　ハラスメントについて

○この３年間にハラスメントと思う行為を受けた経験の有無をみると、「受けたことがある」は全体で17.1%、性別では女性が18.5%、男性が14.7%となっています。

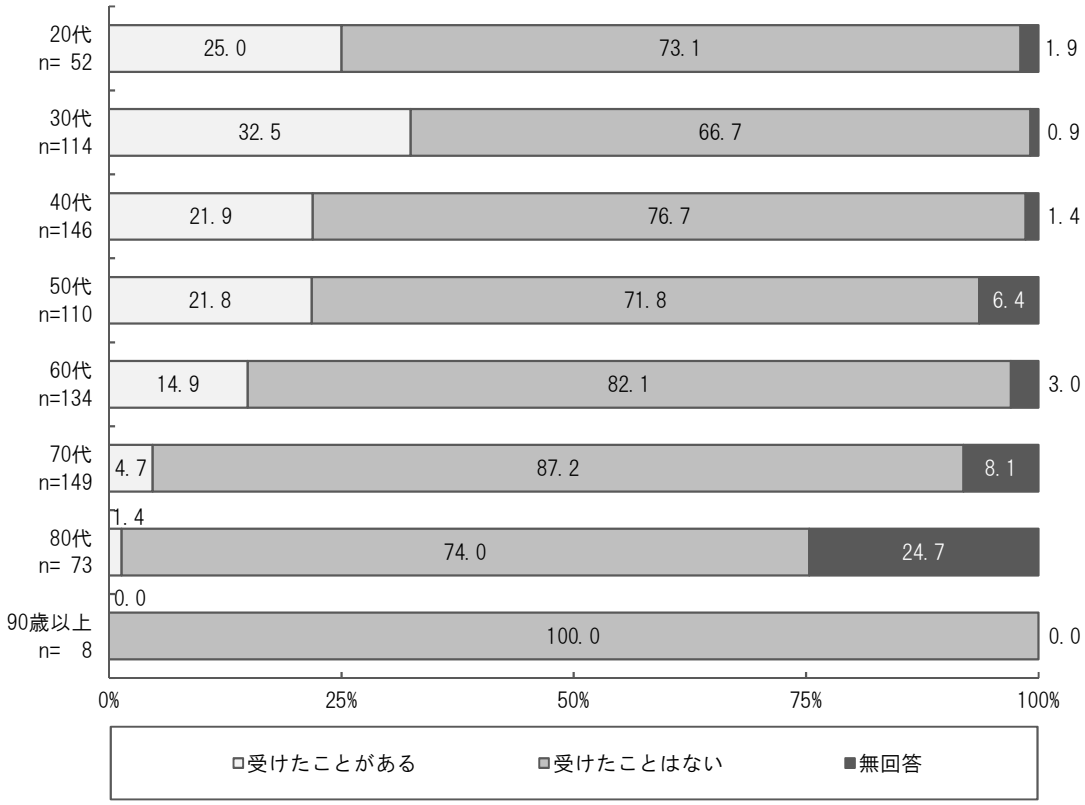
○年代別では、「受けたことがある」は30代が32.5%で最も高く、次いで20代が25.0%となっています。

問31　この３年間にハラスメントを受けた経験の有無

【全体・性別】

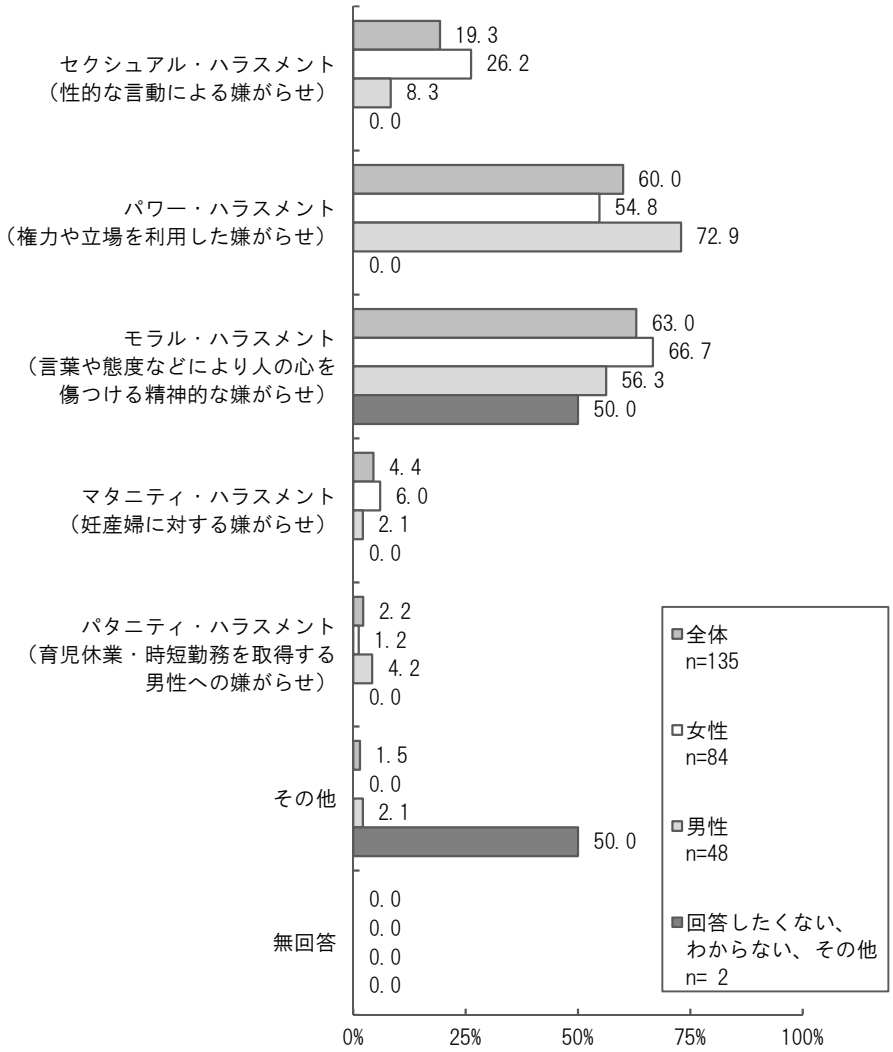


【年代別】



○問31でハラスメントを「受けたことがある」と回答した方について、どのようなハラスメントかをみると、全体では「モラル・ハラスメント」が63.0%で最も高く、次いで「パワー・ハラスメント」が60.0%、「セクシュアル・ハラスメント」が19.3%となっています。性別では、「モラル・ハラスメント」は女性が66.7%、男性が56.3%で、女性が10.4ポイント上回っています。また、「パワー・ハラスメント」は女性が54.8%、男性が72.9%で、男性が18.1ポイント上回っています。

問31-１　受けたことがあるハラスメント



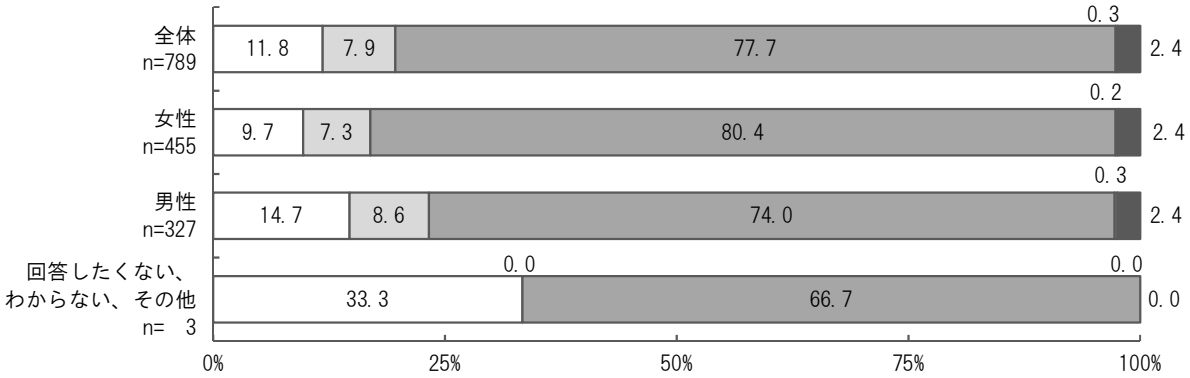
9　性の多様性（ＳＯＧＩＥ（ソジー））について

○ＳＯＧＩＥ（ソジー）の認知状況をみると、「言葉の意味を知っている」は全体では7.9%、性別では女性が7.3%、男性が8.6%となっています。

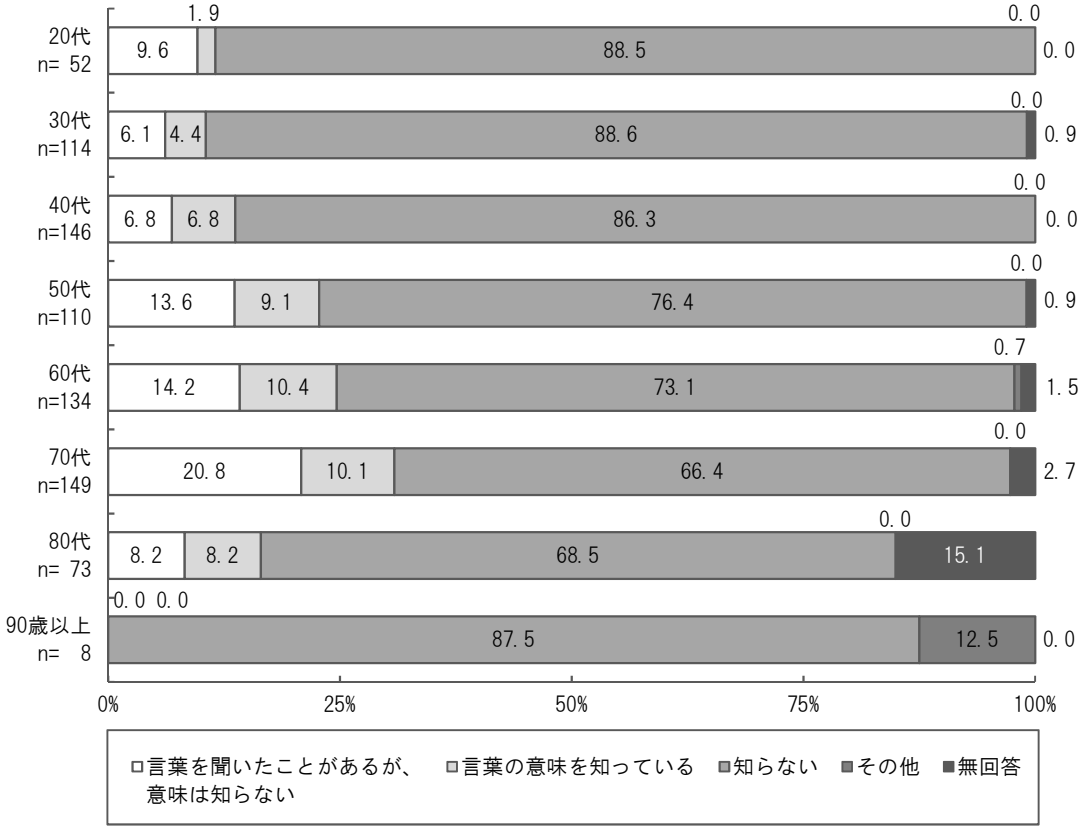
○年代別では、「言葉の意味を知っている」は60代で10.4%、70代で10.1%と１割を超える一方、20代で1.9%となり、年代が下がるほど認知度が低い状況です。

問32　ＳＯＧＩＥの認知状況

【全体・性別】



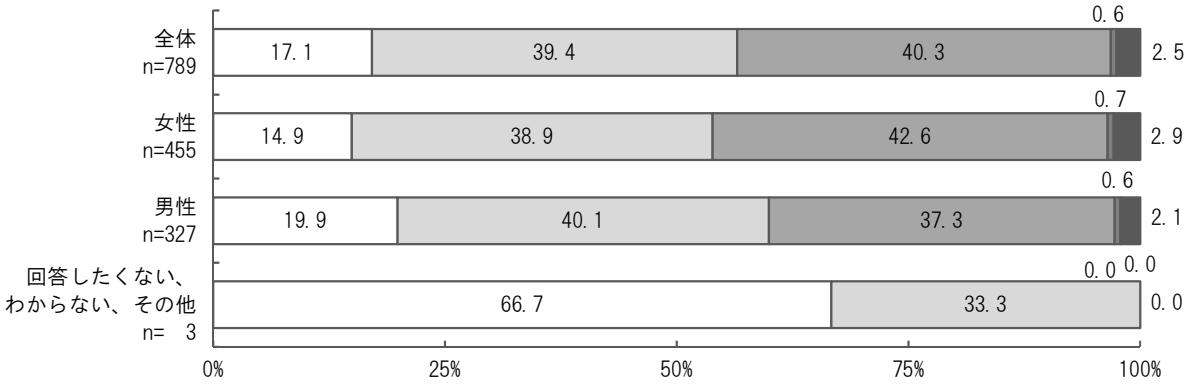
【年代別】



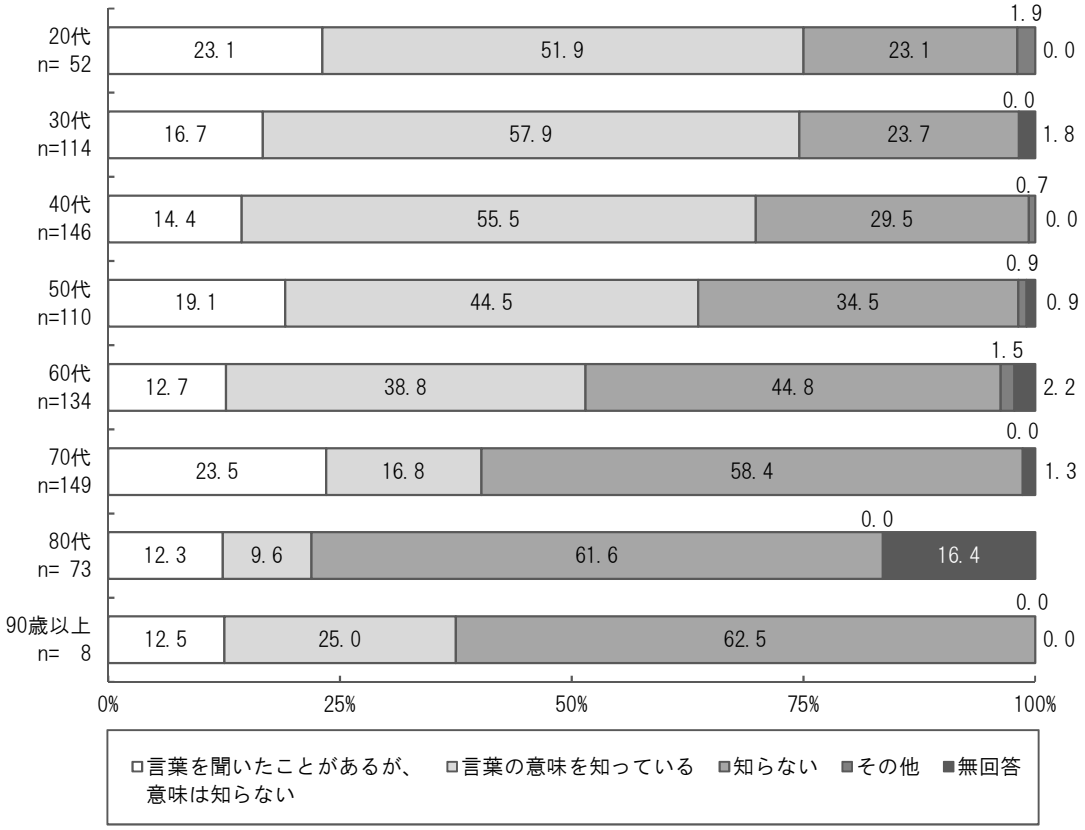
○ＬＧＢＴＱ（性的少数者）の認知状況をみると、「言葉の意味を知っている」は全体では39.4%、性別では女性が38.9%、男性が40.1%となっています。
○年代別では、「言葉の意味を知っている」は20～40代で５割を超える一方、80代で9.6%となり、年代が上がるほど認知度が低い状況です。

問33　ＬＧＢＴＱ（性的少数者）の認知状況

【全体・性別】

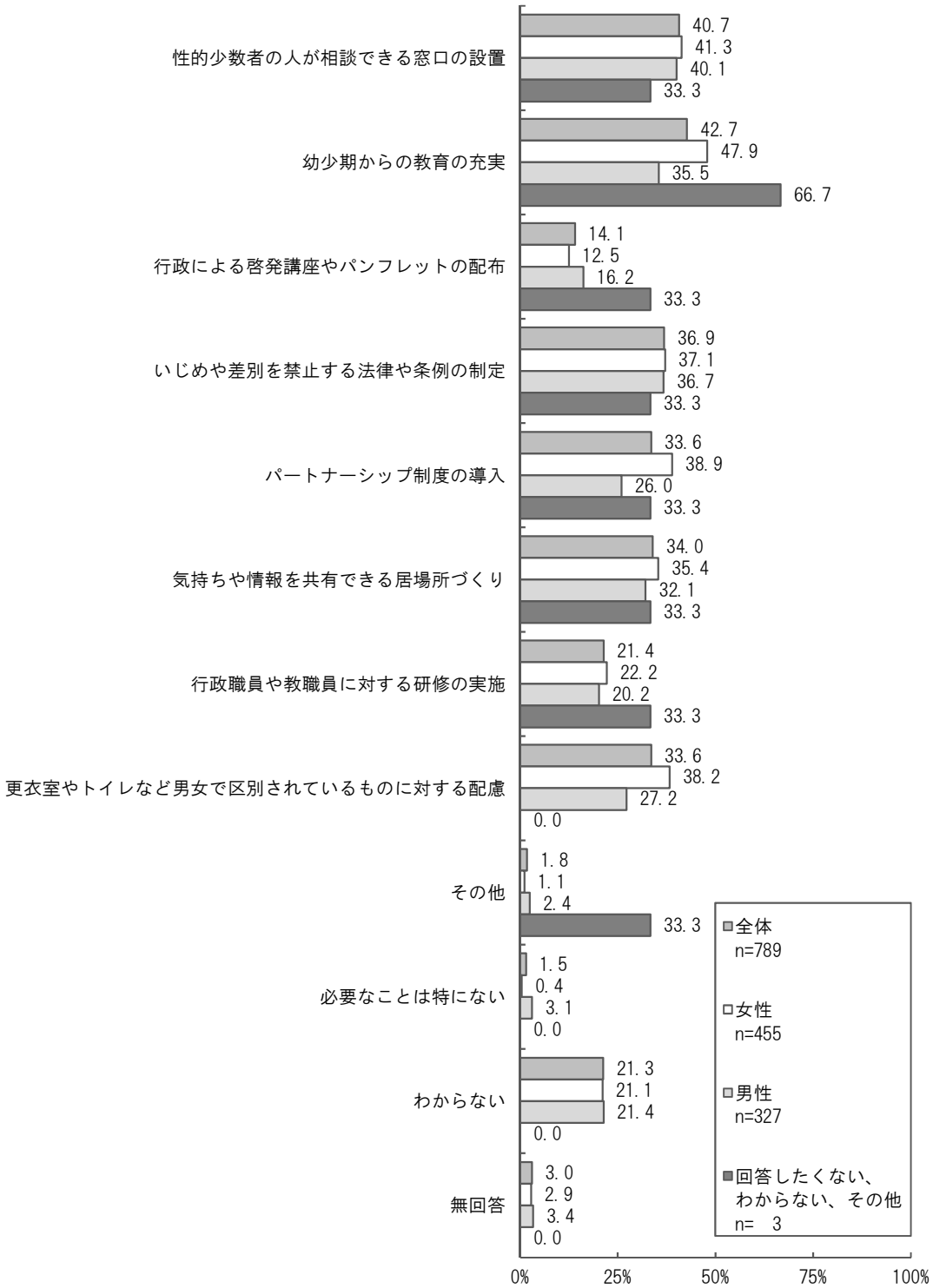


【年代別】



○ＬＧＢＴＱ（性的少数者）などの人たちが暮らしやすい社会にするために必要な意識啓発や支援は、全体では「幼少期からの教育の充実」が42.7%で最も高く、次いで「性的少数者の人が相談できる窓口の設置」が40.7%となっています。性別では、「パートナーシップ制度の導入」は女性が38.9%、男性が26.0%で、女性が12.9ポイント上回っています。また、「幼少期からの教育の充実」は12.4ポイント、「更衣室やトイレなど男女で区別されているものに対する配慮」は11.0ポイントいずれも女性が上回っています。

問34　ＬＧＢＴＱなどの人たちが暮らしやすい社会にするために必要な意識啓発や支援
【全体・性別】



○年代別にみると、20～50代では「幼少期からの教育の充実」が最も高く、20代・30代では６割を超えています。60～80代では「性的少数者の人が相談できる窓口の設置」が最も高く、60代で58.2%となっています。

問34　ＬＧＢＴＱなどの人たちが暮らしやすい社会にするために必要な意識啓発や支援
【年代別】

単位：%

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
性的少数者の人が相談できる窓口の設置	42.3	38.6	40.4	45.5	**58.2**	**31.5**	**23.3**	50.0
幼少期からの教育の充実	**65.4**	**64.9**	**53.4**	**49.1**	32.1	25.5	16.4	50.0
行政による啓発講座やパンフレットの配布	9.6	12.3	16.4	14.5	22.4	8.7	8.2	37.5
いじめや差別を禁止する法律や条例の制定	38.5	45.6	43.2	36.4	41.8	29.5	17.8	37.5
パートナーシップ制度の導入	46.2	57.9	45.9	40.9	28.4	8.7	9.6	50.0
気持ちや情報を共有できる居場所づくり	51.9	41.2	39.0	30.0	38.1	24.2	17.8	37.5
行政職員や教職員に対する研修の実施	21.2	18.4	24.7	20.0	30.6	16.1	13.7	37.5
更衣室やトイレなど男女で区別されているものに対する配慮	48.1	42.1	39.0	42.7	35.8	15.4	16.4	50.0
その他	9.6	3.5	1.4	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
必要なことは特にない	0.0	2.6	1.4	0.9	1.5	2.0	1.4	0.0
わからない	5.8	7.0	8.9	17.3	19.4	41.6	43.8	50.0
無回答	0.0	0.9	0.0	1.8	0.7	4.0	19.2	0.0

10　男女共同参画全般

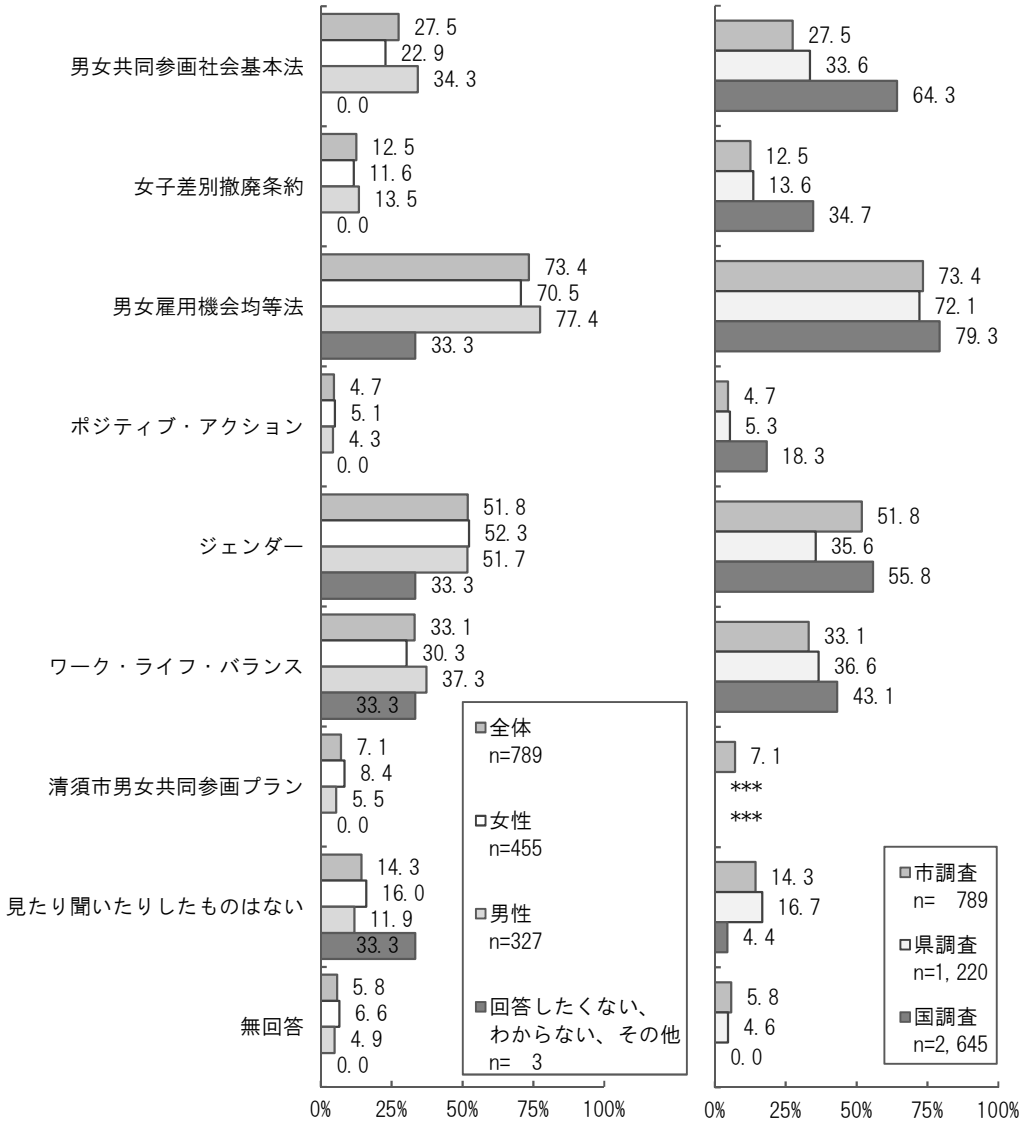
（１）男女共同参画社会の認知状況

○男女共同参画社会に関する用語の認知状況をみると、全体では「男女雇用機会均等法」が73.4%で最も高く、次いで「ジェンダー」が51.8%となっています。性別では、「男女雇用機会均等法」は女性が70.5%、男性が77.4%となっています。

○県調査と比較すると、市調査の「ジェンダー」が16.2ポイント上回っています。

○国調査と比較すると、市調査の「男女共同参画社会基本法」が36.8ポイント下回っています。

問35　男女共同参画社会に関する用語の認知状況



※本市調査の選択肢の順序に合わせて、県調査及び国調査の選択肢を並び替えています。
本市調査にはなく、県調査または国調査にある選択肢「女性活躍推進法」「その他」「わからない」は、省略しています。
また、県調査の「知らない」は、「見たり聞いたりしたものはない」としました。

○年代別にみると、20代では「ジェンダー」が84.6%で最も高く、「男女雇用機会均等法」「ワーク・ライフ・バランス」が７割を超えています。30～80代では「男女雇用機会均等法」が最も高く、特に30～60代で８割前後と高くなっています。

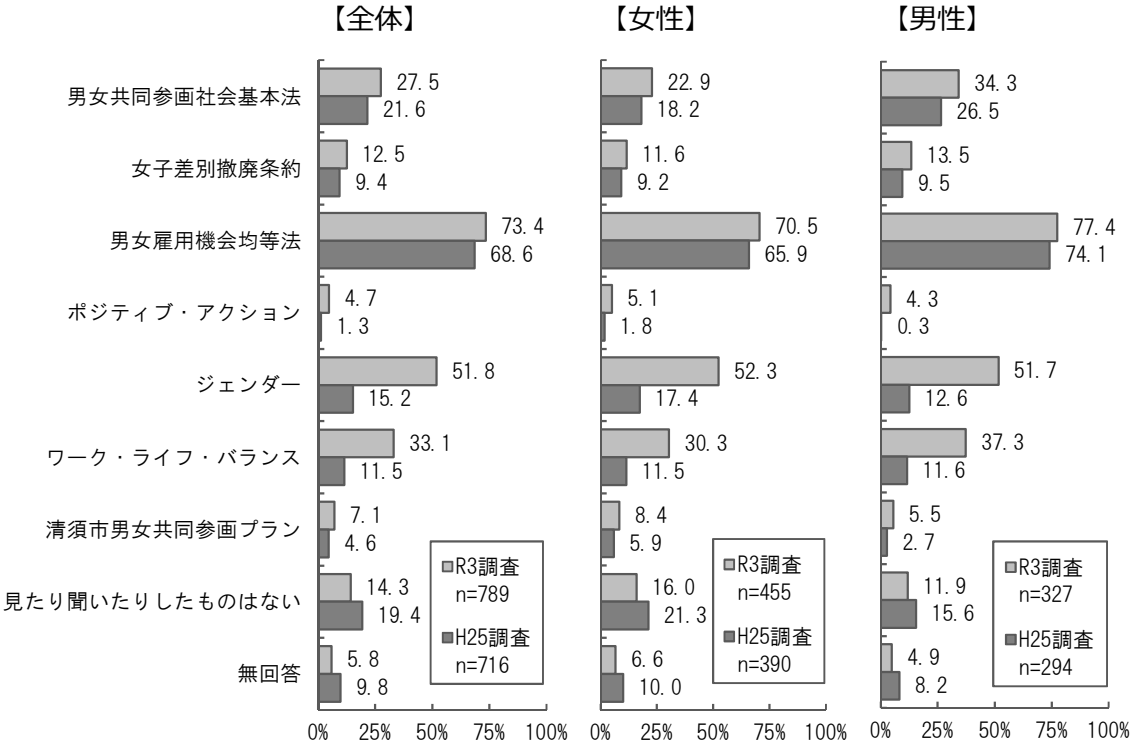
問35　男女共同参画社会に関する用語の認知状況【年代別】

単位：%

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
男女共同参画社会基本法	67.3	37.7	23.3	22.7	21.6	24.2	17.8	25.0
女子差別撤廃条約	15.4	20.2	15.8	9.1	8.2	10.7	8.2	0.0
男女雇用機会均等法	76.9	**82.5**	**79.5**	**78.2**	**79.1**	**67.1**	**42.5**	37.5
ポジティブ・アクション	5.8	7.0	8.2	6.4	3.7	1.3	0.0	0.0
ジェンダー	**84.6**	74.6	65.1	65.5	49.3	24.2	11.0	12.5
ワーク・ライフ・バランス	73.1	54.4	45.2	35.5	26.1	10.1	8.2	0.0
清須市男女共同参画プラン	0.0	6.1	6.8	9.1	8.2	7.4	9.6	0.0
見たり聞いたりしたものはない	7.7	9.6	13.7	12.7	11.9	18.8	21.9	50.0
無回答	0.0	0.9	0.7	1.8	4.5	8.7	30.1	12.5

○H25調査と比較すると、R3調査では全体・女性・男性ともに、すべての用語で認知度が上がっています。特に「ジェンダー」は女性が34.9ポイント、男性が39.1ポイント、「ワーク・ライフ・バランス」は女性が18.8ポイント、男性が25.7ポイント上回っています。

問35　男女共同参画社会に関する用語の認知状況（経年比較）



（２）この10年間の男女共同参画の進展

① 家庭

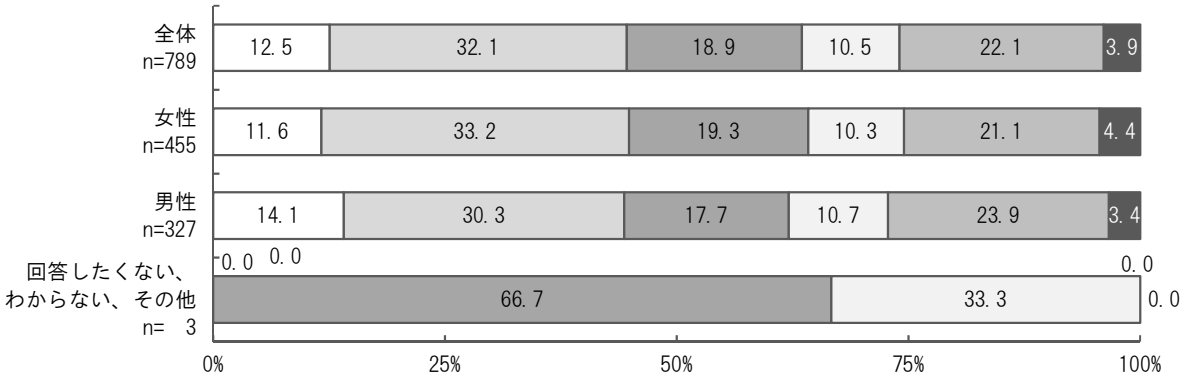
○この10年間の家庭における男女共同参画の進展をみると、全体では『進展した』は44.6%、『進展していない』は29.4%となっています。性別では、『進展した』は女性が44.8%、男性が44.4%、『進展していない』は女性が29.6%、男性が28.4%となっています。

○年代別では、50代で『進展していない』が42.8%で、『進展した』を4.6ポイント上回っています。20～40代・60～80代は『進展した』が『進展していない』より高く、特に20代では44.3ポイント上回っています。

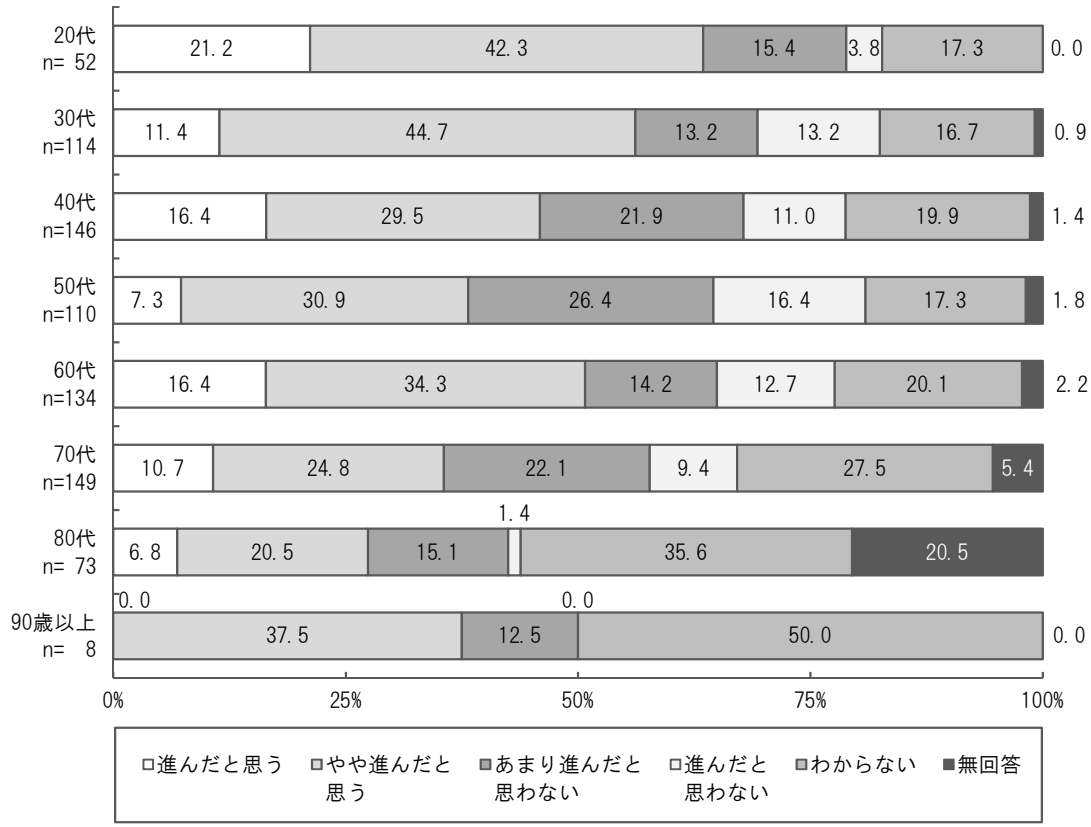
※『進展した』:「進んだと思う」＋「やや進んだと思う」
『進展していない』:「進んだと思わない」＋「あまり進んだと思わない」

問36-Ａ　家庭における男女共同参画の進展状況

【全体・性別】



【年代別】



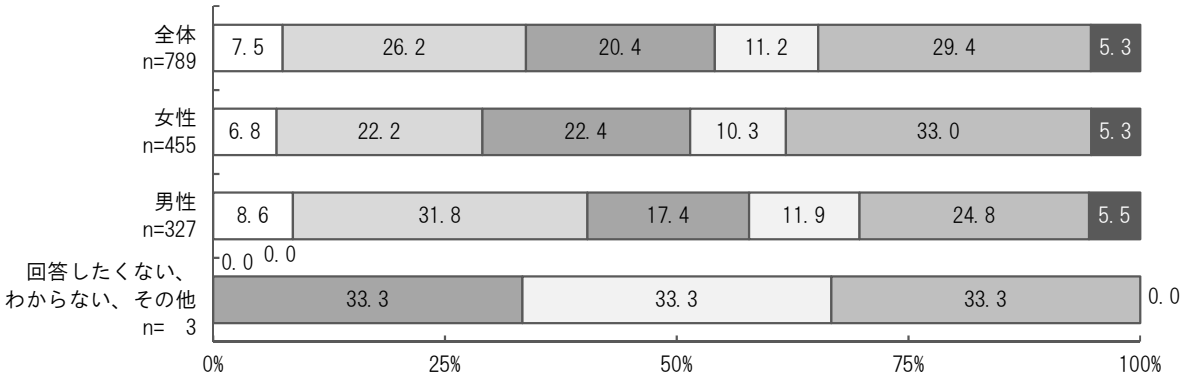
② 職場

○この10年間の職場における男女共同参画の進展をみると、全体では『進展した』は33.7%、『進展していない』は31.6%となっています。性別では、『進展した』は女性が29.0%、男性が40.4%で、男性が11.4ポイント上回っています。

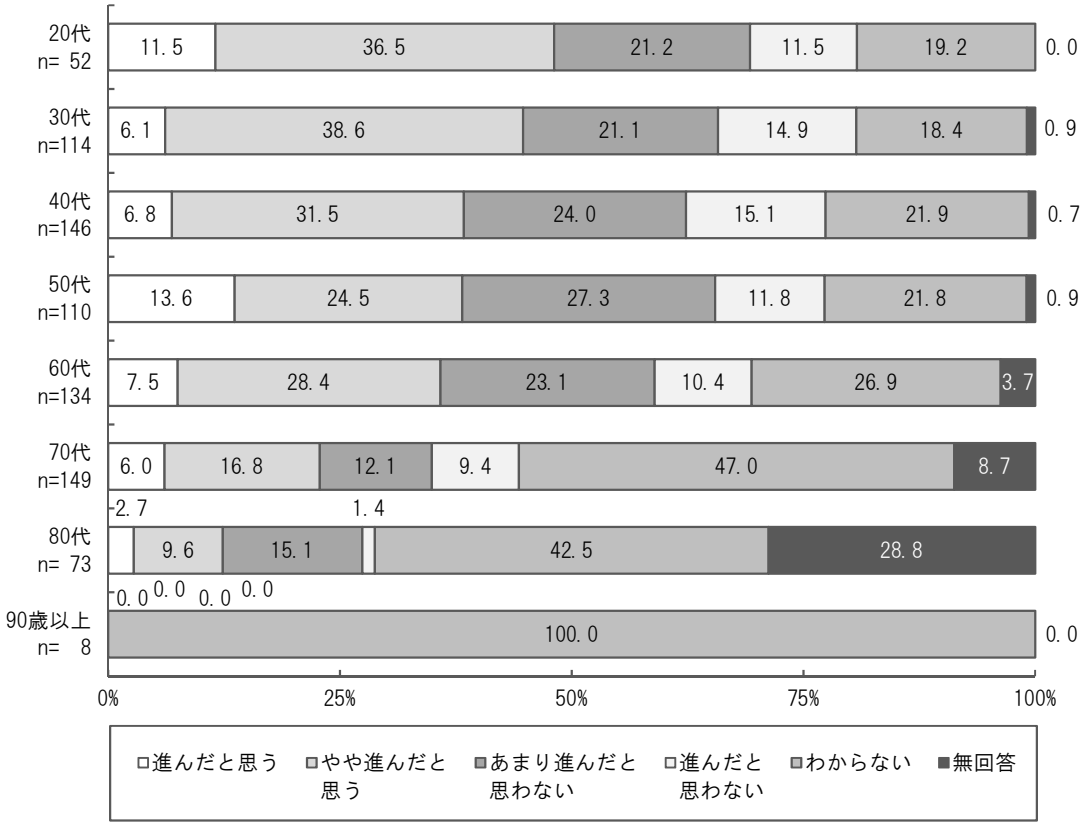
○年代別では、40代・50代・80代で『進展していない』が『進展した』より高く、20代・30代・60代・70代は『進展した』が『進展していない』より高くなっています。

問36-Ｂ　職場における男女共同参画の進展状況

【全体・性別】



【年代別】



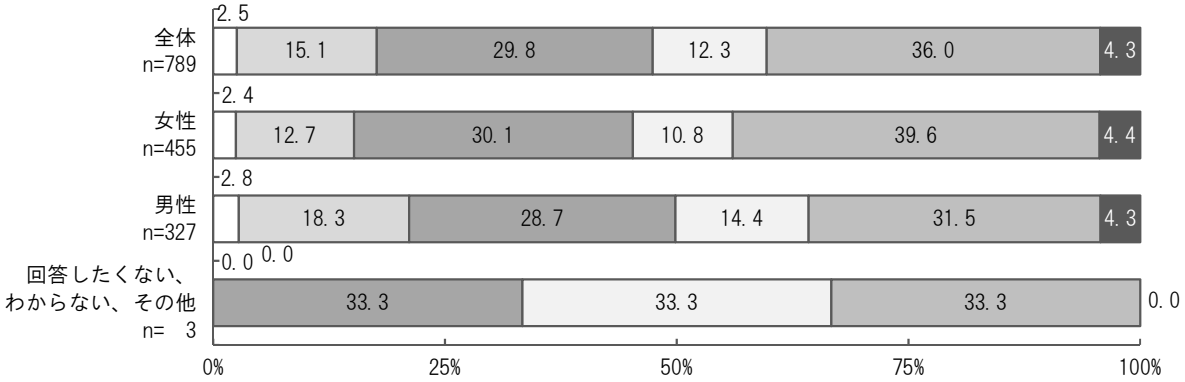
③ 地域

○この10年間の地域における男女共同参画の進展をみると、全体では『進展した』は17.6%、『進展していない』は42.1%で、『進展していない』が24.5ポイント上回っています。性別では、『進展した』は女性が15.1%、男性が21.1%となっています。

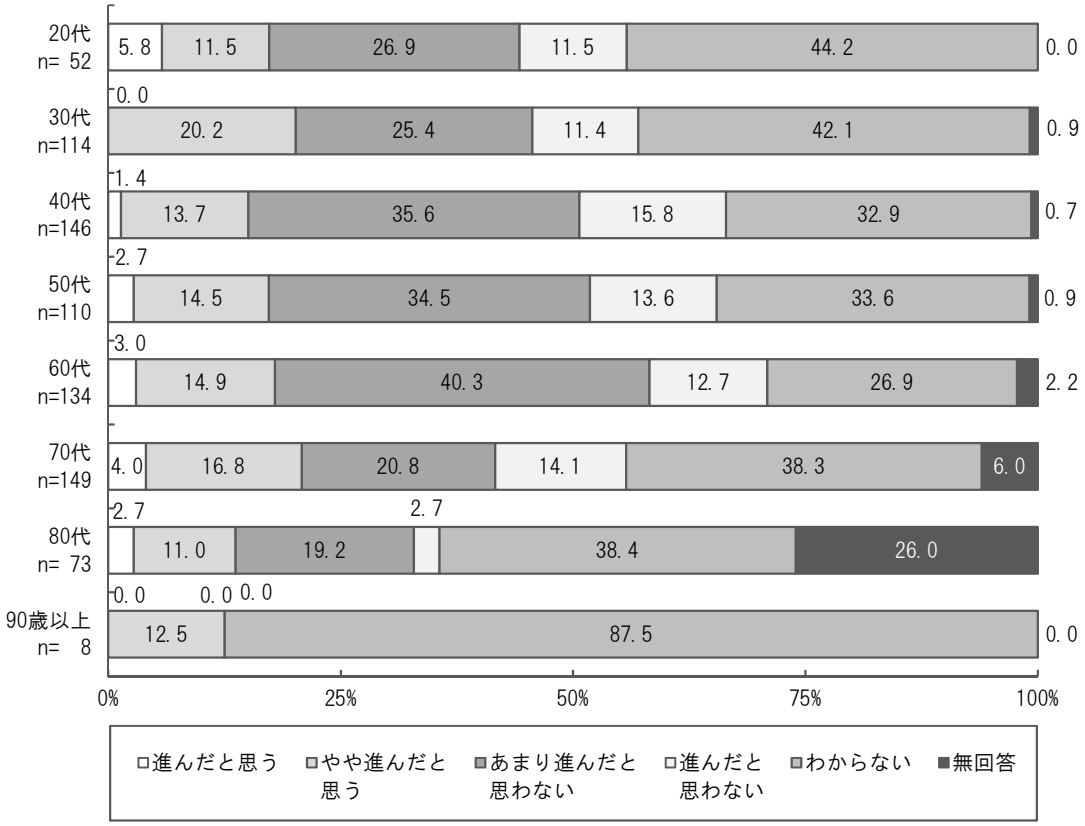
○年代別では、いずれの年代も『進展していない』が『進展した』より高く、特に40～60代では『進展していない』が30ポイント以上上回っています。

問36-C　地域における男女共同参画の進展状況

【全体・性別】



【年代別】

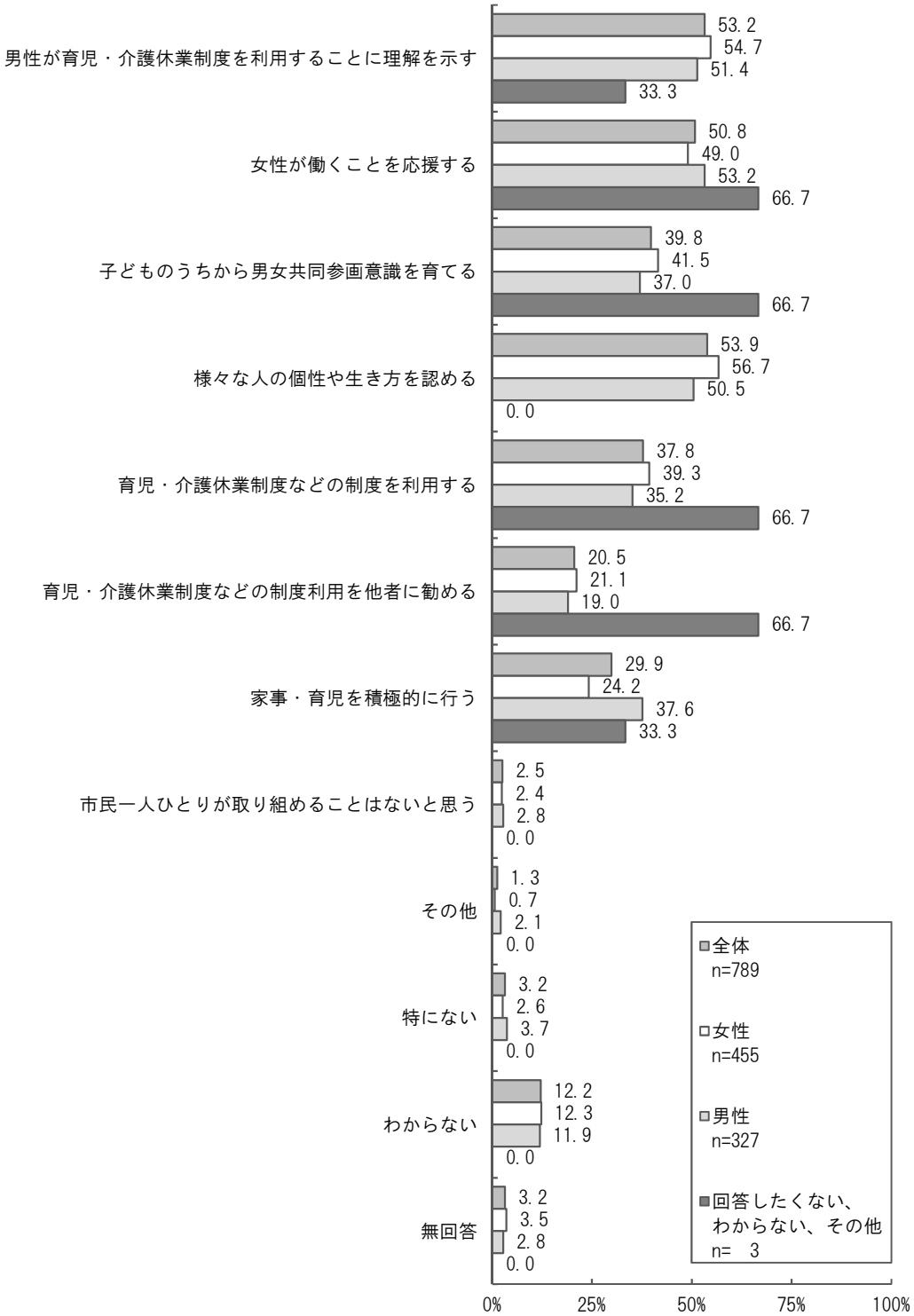


（３）男女共同参画社会の実現に向けて

① 市民が取り組めること

○今後、男女共同参画推進のために取り組めることをみると、全体では「様々な人の個性や生き方を認める」が53.9%で最も高く、次いで「男性が育児・介護休業制度を利用することに理解を示す」が53.2%となっています。女性は「様々な人の個性や生き方を認める」が56.7%、男性は「女性が働くことを応援する」が53.2%で最も高くなっています。

問37　今後、男女共同参画推進のために取り組めること
【全体・性別】



○年代別にみると、20～50代・70代で「様々な人の個性や生き方を認める」が最も高く、20代で71.2%、30～50代で６割を超えています。60代・80代では「男性が育児・介護休業制度を利用することに理解を示す」が最も高くなっています。

問37　今後、男女共同参画推進のために取り組めること【年代別】

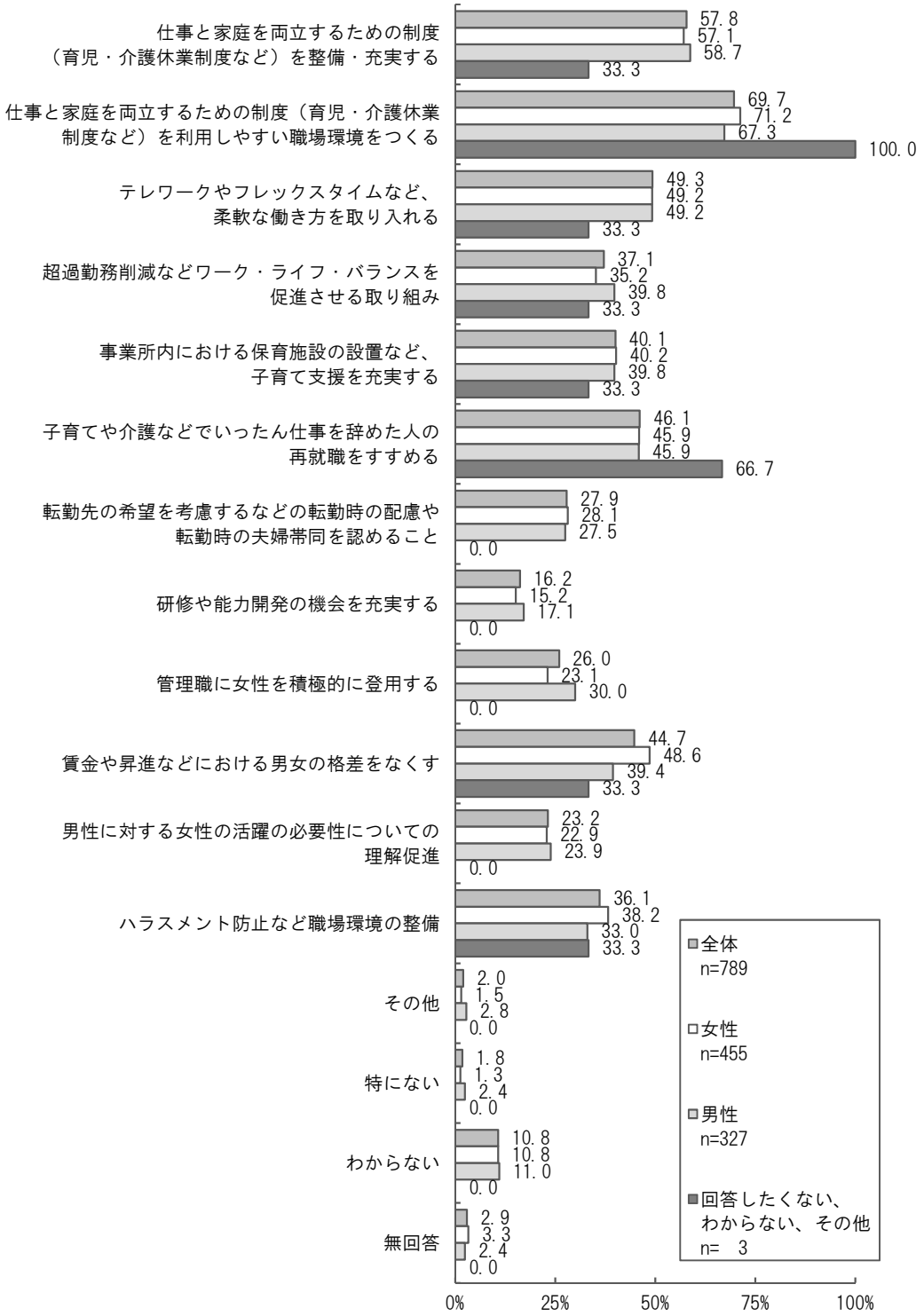
単位：%

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
男性が育児・介護休業制度を利用することに理解を示す	69.2	57.9	58.2	56.4	**58.2**	41.6	**34.2**	50.0
女性が働くことを応援する	65.4	58.8	50.0	51.8	60.4	39.6	32.9	50.0
子どものうちから男女共同参画意識を育てる	57.7	49.1	44.5	40.0	38.8	29.5	23.3	50.0
様々な人の個性や生き方を認める	**71.2**	**61.4**	**61.6**	**60.0**	53.7	**44.3**	24.7	37.5
育児・介護休業制度などの制度を利用する	57.7	48.2	38.4	35.5	33.6	31.5	27.4	50.0
育児・介護休業制度などの制度利用を他者に勧める	34.6	30.7	20.5	17.3	21.6	11.4	11.0	50.0
家事・育児を積極的に行う	50.0	36.8	32.2	26.4	23.9	28.9	16.4	37.5
市民一人ひとりが取り組めることはないと思う	1.9	1.8	2.7	1.8	3.7	2.7	1.4	12.5
その他	5.8	1.8	2.1	0.9	0.7	0.0	0.0	0.0
特にない	1.9	0.9	2.1	2.7	1.5	5.4	9.6	0.0
わからない	3.8	7.0	8.2	10.9	8.2	16.1	31.5	50.0
無回答	0.0	0.9	0.7	0.9	2.2	6.0	13.7	0.0

② 企業が力を入れていくべきこと

○男女共同参画社会を実現するために、今後、企業が力を入れていくべきことをみると、全体・女性・男性いずれも「仕事と家庭を両立するための制度（育児・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる」が最も高く、次いで「仕事と家庭を両立するための制度（育児・介護休業制度など）を整備・充実する」、「テレワークやフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる」となっています。

問38　今後、企業が力を入れていくべきこと
【全体・性別】



○年代別にみると、20～80代で「仕事と家庭を両立するための制度（育児・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる」が最も高くなっています。特に20代では84.6%と８割を超え、30～60代で７割を超えています。

問38　今後、企業が力を入れていくべきこと【年代別】

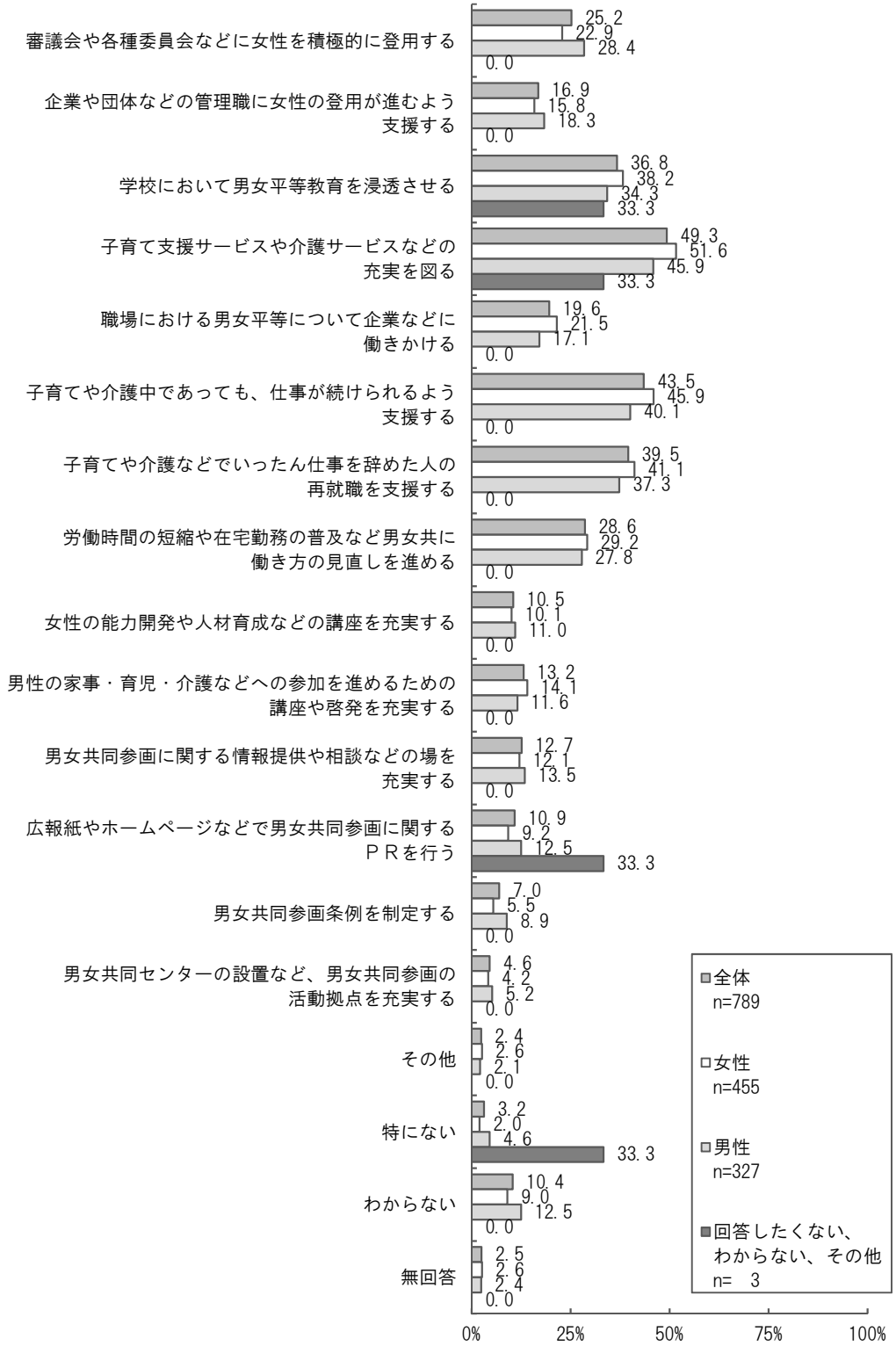
単位：%

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
仕事と家庭を両立するための制度（育児・介護休業制度など）を整備・充実する	78.8	67.5	67.8	60.9	59.7	43.6	27.4	62.5
仕事と家庭を両立するための制度（育児・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる	**84.6**	**74.6**	**73.3**	**72.7**	**76.1**	**65.8**	**37.0**	62.5
テレワークやフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる	65.4	65.8	59.6	54.5	47.8	33.6	17.8	50.0
超過勤務削減などワーク･ライフ･バランスを促進させる取り組み	55.8	53.5	47.3	38.2	33.6	19.5	16.4	50.0
事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する	51.9	47.4	39.0	43.6	44.0	35.6	16.4	50.0
子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職をすすめる	53.8	47.4	44.5	45.5	54.5	48.3	20.5	62.5
転勤先の希望を考慮するなどの転勤時の配慮や転勤時の夫婦帯同を認めること	42.3	30.7	30.1	30.9	34.3	16.1	12.3	50.0
研修や能力開発の機会を充実する	19.2	15.8	15.1	11.8	17.9	16.1	16.4	37.5
管理職に女性を積極的に登用する	34.6	26.3	32.2	24.5	29.1	19.5	13.7	50.0
賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす	53.8	49.1	50.7	45.5	50.7	36.2	21.9	50.0
男性に対する女性の活躍の必要性についての理解促進	28.8	29.8	26.7	26.4	23.9	14.8	8.2	50.0
ハラスメント防止など職場環境の整備	42.3	40.4	41.8	42.7	41.0	24.8	17.8	37.5
その他	1.9	5.3	2.1	2.7	2.2	0.0	0.0	0.0
特にない	1.9	0.0	0.7	0.9	0.7	4.7	4.1	0.0
わからない	3.8	3.5	5.5	7.3	9.7	16.8	30.1	37.5
無回答	0.0	0.9	0.7	0.9	1.5	5.4	13.7	0.0

② 清須市が力を入れていくべきこと

○男女共同参画社会を実現するために、今後、清須市が力を入れていくべきことは、全体・女性・男性いずれも「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が最も高く、次いで「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」となっています。

問39　今後、清須市が力を入れていくべきこと
【全体・性別】



○年代別にみると、20代・60～80代では「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」、40代・50代では「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」、30代では「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」が最も高くなっています。

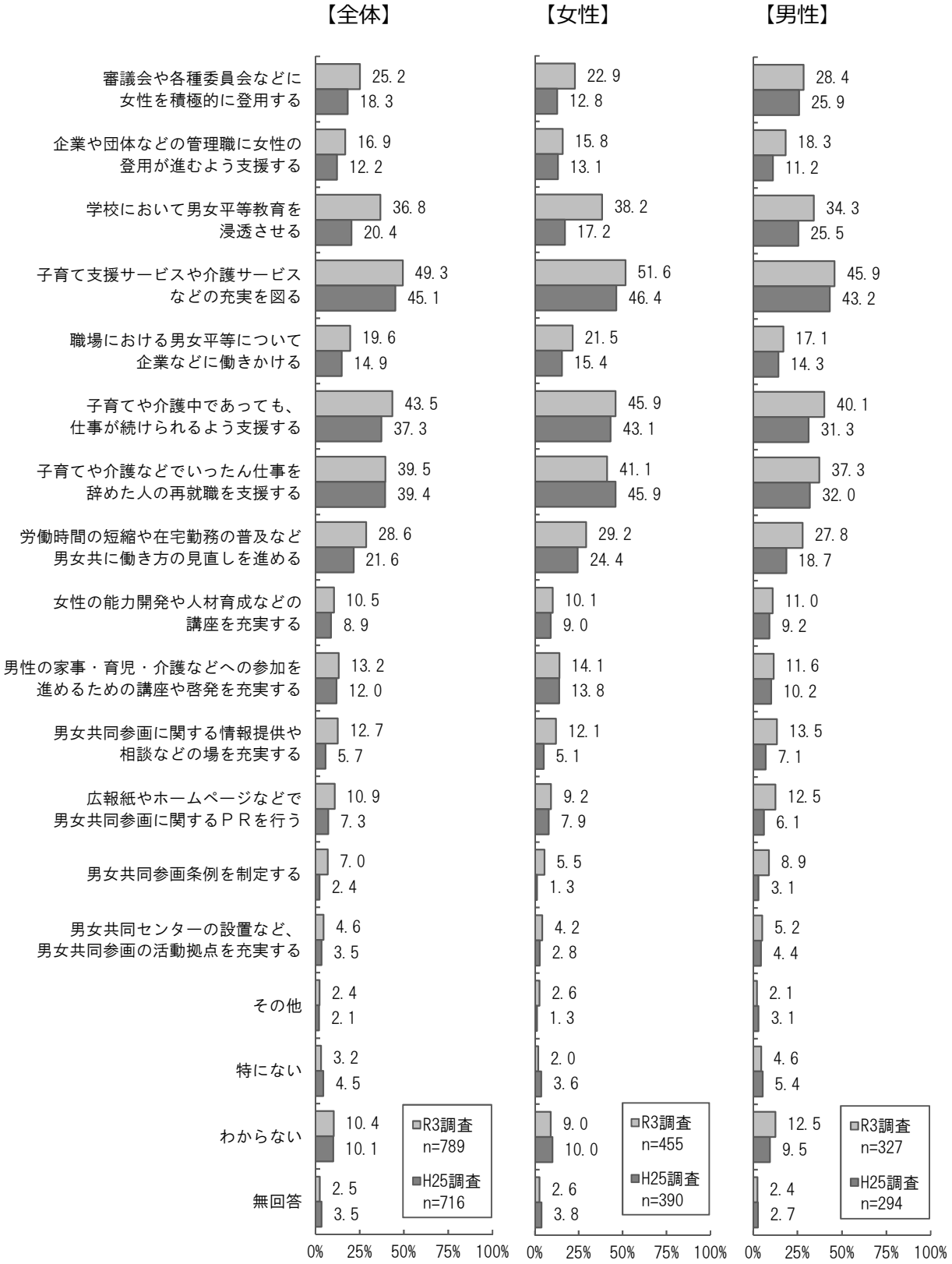
問39　今後、清須市が力を入れていくべきこと【年代別】

単位：％

	20代 n=52	30代 n=114	40代 n=146	50代 n=110	60代 n=134	70代 n=149	80代 n=73	90歳以上 n=8
審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する	15.4	16.7	24.7	21.8	29.1	32.2	24.7	50.0
企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	21.2	17.5	19.2	17.3	15.7	14.8	13.7	12.5
学校において男女平等教育を浸透させる	46.2	43.0	37.0	37.3	34.3	38.3	23.3	0.0
子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る	**67.3**	**54.4**	52.1	47.3	**53.0**	**45.0**	**30.1**	25.0
職場における男女平等について企業などに働きかける	38.5	18.4	26.7	22.7	13.4	12.8	15.1	0.0
子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する	50.0	**54.4**	**54.8**	**50.9**	38.1	34.2	19.2	12.5
子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	46.2	38.6	47.9	34.5	45.5	35.6	26.0	12.5
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める	50.0	40.4	37.0	30.9	29.1	12.1	8.2	12.5
女性の能力開発や人材育成などの講座を充実する	17.3	13.2	8.9	9.1	7.5	12.1	6.8	12.5
男性の家事・育児・介護などへの参加を進めるための講座や啓発を充実する	15.4	14.9	13.0	13.6	15.7	9.4	11.0	0.0
男女共同参画に関する情報提供や相談などの場を充実する	9.6	6.1	11.6	17.3	14.2	16.8	9.6	0.0
広報紙やホームページなどで男女共同参画に関するＰＲを行う	7.7	9.6	7.5	9.1	14.2	12.8	12.3	25.0
男女共同参画条例を制定する	3.8	7.0	8.9	10.0	7.5	4.7	4.1	0.0
男女共同センターの設置など、男女共同参画の活動拠点を充実する	3.8	4.4	2.1	4.5	9.7	4.0	2.7	0.0
その他	5.8	5.3	2.1	2.7	2.2	0.0	0.0	12.5
特にない	3.8	3.5	0.7	4.5	2.2	3.4	5.5	12.5
わからない	3.8	5.3	8.9	7.3	9.0	14.1	26.0	12.5
無回答	1.9	0.9	1.4	0.9	0.0	3.4	13.7	0.0

○H25調査と比較すると、R3調査の「学校において男女平等教育を浸透させる」は全体で16.4ポイント、女性で21.0ポイント、男性で8.8ポイント上回っています。また、「審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する」は女性で10.1ポイント上回っています。

問39　今後、清須市が力を入れていくべきこと（経年比較）



資料編

資料編

（１）調査票

清須市　男女共同参画に関する市民意識調査

【調査ご協力のお願い】

日頃から、市行政に格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、誰もが生きやすい様々な多様性を受容する「男女共同参画社会」の実現をめざして、平成 21 年 3 月に「男女共同参画プラン」（平成 26 年 3 月に見直し）を策定し、市民の皆さまとともに取り組んでまいりました。このたび、「男女共同参画プラン」の計画期間が令和 3 年度をもって終了することから、計画の見直しを含め、新たに「第 2 次清須市男女共同参画プラン」を策定します。

今回の調査は、男女共同参画に関する市民の皆さまのお考えや実態などをお寄せいただき、「第 2 次清須市男女共同参画プラン」へ反映させるための貴重な資料とさせていただきます。調査票は、満 20 歳以上の市民の皆さまの中から 2,000 人を無作為に選び送付させていただきました。

なお、回答にはお名前をご記入いただく必要はありません。また、お答えいただいた内容については統計的に処理し、計画策定の目的以外で使用することはございません。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和 3 年 7 月

清須市長　永田　純夫

【記入に際してのお願い】

1．本アンケートは、封筒のあて名の**ご本人**がご回答ください。ご本人でのご回答が困難な場合は、ご家族の協力などによりご回答ください。
2．設問には、令和 3 年 7 月 1 日現在の内容をご記入ください。
3．回答方法は、選択肢のあてはまる番号に○をつけてください。
4．設問によっては、回答数が 1 つの場合と複数の場合がありますので、（　　）内の指示に従ってご回答ください。
5．選択肢「その他」に○をつけられた場合は、（　　）内になるべく具体的にご記入ください。

【提出方法】

ご回答いただきました調査票は、無記名のまま同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、**7 月 16 日（金）**までに郵便ポストに投函してください。

<このアンケートに関するお問い合わせ先>

清須市教育委員会事務局　教育部生涯学習課
電話番号 ： 052-400-2911（代表）
ＦＡＸ： 052-400-2963
電子メール ： shogaigakushu@city.kiyosu.lg.jp

男女共同参画社会とは・・・

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ共に責任を担うべき社会」（男女共同参画社会基本法第 2 条）のことです。

1　あなた（回答者）ご自身のことについておたずねします。

問 1　あなたの性別を教えてください。（○は 1 つ）

1．男性　2．女性　3．回答したくない、わからない、その他

問 2　あなたの年齢はおいくつですか。（○は 1 つ）

1．20 代　2．30 代　3．40 代　4．50 代
5．60 代　6．70 代　7．80 代　8．90 歳以上

問 3　あなたの職業は何ですか。兼業等の場合は主なものを 1 つお答えください。（○は 1 つ）

1．会社員・公務員（会社役員等を含む）　2．派遣・契約社員
3．パート・アルバイト　4．自営業・農漁業（家族従事者を含む）
5．自由業（医師・弁護士・芸術家など）　6．家事専業（主婦・主夫）
7．無職　8．学生
9．その他（　　）

問 4　あなたは、現在結婚（事実婚を含む）をしていますか。（○は 1 つ）

1．既婚（事実婚を含む）　**➡問 4－1 へ**
2．離別
3．死別　**➡問 5 へ**
4．未婚

【問 4 で「1．既婚（事実婚を含む）」と回答された方にお聞きします。】

問 4-1　共働きをしていますか。（○は 1 つ）

1．している　2．していない

問５　子どもの有無についてお答えください。（○は１つ）

1．同居している子どもがいる
2．子どもはいるが同居していない
3．子どもはいない

問６　あなたの家族構成はどれですか。（○は１つ）

1．ひとり暮らし（単身世帯）　2．夫婦（パートナー）のみ（１世代世帯）
3．親と子（２世代世帯）　4．親と子と孫（３世代世帯）
5．その他（　　）

問７　お住まいの地区（小学校の通学区域）はどちらですか。（○は１つ）

1．西枇杷島小学校区　2．古城小学校区　3．清洲小学校区
4．清洲東小学校区　5．新川小学校区　6．星の宮小学校区
7．桃栄小学校区　8．春日小学校区　9．わからない

2　男女平等感についておたずねします。

問８　あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
A～H それぞれの分野についてお答えください。（○はそれぞれの分野に１つずつ）

分野＼選択肢	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
A　家庭生活	1	2	3	4	5	6
B　職場	1	2	3	4	5	6
C　学校教育の場	1	2	3	4	5	6
D　地域活動の場	1	2	3	4	5	6
E　政治の場	1	2	3	4	5	6
F　法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
G　社会通念・習慣・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
H　社会全体として	1	2	3	4	5	6

3　家庭生活についておたずねします。

問９　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはどうお考えですか。（○は１つ）

1．賛成
2．どちらかといえば賛成
➡問９－１へ
3．どちらかといえば反対
4．反対
➡問９－２へ
5．どちらともいえない・わからない　**➡問 10 又は問 11 へ**

【問９で「１．賛成」または「２．どちらかといえば賛成」と回答された方にお聞きします。】

問９-１　「賛成」、「どちらかといえば賛成」の理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
2．自分の両親も役割分担をしていたから
3．夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4．妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
5．家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
6．その他（　　）
7．特にない
8．わからない

【問９で「３．どちらかといえば反対」または「４．反対」と回答された方にお聞きします。】

問９-２　「反対」、「どちらかといえば反対」の理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．男女平等に反すると思うから
2．自分の両親も外で働いていたから
3．夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4．妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
5．家事、育児、介護は妻だけの役割ではないから
6．その他（　　）
7．特にない
8．わからない

【問４で「１．既婚（事実婚を含む）」と回答した方にお聞きします。】

問 10　あなたの家庭では、次にあげる家事は主に誰が分担していますか。
A～H それぞれの分野についてお答えください。（○はそれぞれの分野に１つずつ）

分野＼選択肢	夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人	わからない	該当なし
A　食事のしたく	1	2	3	4	5	6	
B　食事の後かたづけ・食器洗い	1	2	3	4	5	6	
C　掃除	1	2	3	4	5	6	
D　洗濯	1	2	3	4	5	6	
E　買い物	1	2	3	4	5	6	
F　家計の管理	1	2	3	4	5	6	
G　子育て（子どもの世話・しつけ・教育など）	1	2	3	4	5	6	7
H　介護（介護の必要な親の世話・病人の介護など）	1	2	3	4	5	6	7

【全員にお聞きします。】

問 11　今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1．男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2．男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3．夫婦が家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4．夫婦の両親など、まわりの人が夫婦の役割分担等を尊重すること
5．労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること
6．男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
7．国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
8．男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
9．家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
10．その他（　　）
11．すでに参加しているため、必要なことは特にない
12．必要なことは特にない
13．わからない

問 12　生活の中で、あなたが実際に優先しているものは次のどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

1．仕事　2．家庭生活　3．地域生活
4．個人の生活　5．その他（　　）　6．わからない

問 13　生活の中で、あなたが希望する優先したいものは次のどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

1．仕事　2．家庭生活　3．地域生活
4．個人の生活　5．その他（　　）　6．わからない

問 14　あなたが、平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間はどのくらいですか。
（○は１つ）

1．まったく関わっていない　2．30 分未満
3．30 分～１時間未満　4．１時間～3時間未満
5．３時間～５時間未満　6．５時間以上

4　地域や社会との関わりについておたずねします。

問 15　あなたが住んでいる地域では、地域活動の役割分担はどのようになっていますか。
A～F それぞれの分野についてお答えください。（○はそれぞれの分野に１つずつ）

分野＼選択肢	主に女性が担当している	女性が多いが男性も分担している	男性と女性が同程度	男性が多いが女性も分担している	主に男性が担当している	わからない
A　地域役員や催しものの企画、決定	1	2	3	4	5	6
B　集会などの運営、取り仕切り	1	2	3	4	5	6
C　集会などでのお茶くみ、調理	1	2	3	4	5	6
D　祭りや葬儀の運営、取り仕切り	1	2	3	4	5	6
E　ＰＴＡや保護者会の運営、取り仕切り	1	2	3	4	5	6
F　会長などの役職	1	2	3	4	5	6

問 16　あなたは、地域活動に参加していますか。（○は１つ）

１．している　**➡問 16－１へ**	２．していない　**➡問 16－２へ**

【問 16 で「１．している」と回答された方にお聞きします。】

問 16-１　地域活動の中で、男女が不平等であると感じることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

１．女性のみがお茶くみや片づけなどの雑務をしている
２．仕事を持つ男性の地域活動への参画が少ない
３．役職者には男性が就き、女性は補助的な役割であることが多い
４．女性が役職に就きたがらない
５．女性が発言しづらい、表に出づらい雰囲気がある
６．不平等であると感じることはない
７．その他（　　）
８．わからない

【問 16 で「２．していない」と回答された方にお聞きします。】

問 16-２　地域活動に参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

１．自分に適した活動がない	２．経済的な余裕がない
３．時間に余裕がない	４．一緒に参加する仲間がいない
５．家族の協力がない	６．人間関係がわずらわしい
７．健康や体力に自信がない	８．地域活動に関心がない
９．特に理由はない	10．その他（　　）

©清須市

問 17　あなたは、自治会長やＰＴＡ会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

１．女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
２．女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと
３．社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること
４．女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと
５．女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取り組みを進めること
６．その他（　　）
７．特にない
８．わからない

問 18　あなたは、防災分野における男女共同参画の推進のために、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

１．防災対策に男女共同参画の支援を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること
２．避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること
３．女性消防団の入団を促進すること
４．市民、消防団、自治防災組織などを対象とした研修訓練の実施にあたり、男女共同参画の視点からの内容を盛り込むこと
５．地域防災計画や避難所運営マニュアルに男女共同参画の支援を、より具体的に記述すること
６．地域の防災を担う女性リーダーなどの人材を育成すること
７．必要なことは特にない
８．その他（　　）
９．わからない

©清須市

5　仕事についておたずねします。

問 19　あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

1．専門知識が生かせる	2．性格、能力が適している
3．仕事にやりがいがある	4．能力本位で実績が評価される
5．業種に将来性がある	6．給与の条件が良い
7．勤務時間、勤務場所の条件が良い	8．職場の雰囲気が良い
9．育児や介護への理解や制度が整っている	10．その他（　　）
11．特にない	12．わからない

問 20　あなたは、管理職以上に昇進することについて、どのようなイメージを持っていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．やりがいのある仕事ができる	2．賃金が上がる
3．能力が認められた結果である	4．能力本位で実績が評価される
5．自分自身で決められる事柄が多くなる	6．やるべき仕事が増える
7．責任が重くなる	8．やっかみが出て足を引っ張られる
9．仕事と家庭の両立が困難になる	10．その他（　　）
11．特にない	12．わからない

問 21　次にあげる、仕事と家庭生活を両立するための制度を知っていますか。
A～D それぞれの分野についてお答えください。（○はそれぞれの分野に１つずつ）

選択肢 ＼ 分野	内容を知っている	内容は知らないが制度名は聞いたことがある	知らない
A　育児休業制度	1	2	3
B　子の看護休暇制度	1	2	3
C　介護休業制度	1	2	3
D　介護休暇制度	1	2	3

【問３で「１．会社員・公務員（会社役員等を含む）」「２．派遣・契約社員」「３．パート・アルバイト」「４．自営業・農漁業（家族従事者を含む）」「５．自由業（医師・弁護士・芸術家など）」と回答された方（現在働いている方）にお聞きします。】

問 22　あなたは、職場で以下のような制度を使って休暇等を取ったことがありますか。
A～D それぞれの分野についてお答えください。（○はそれぞれの分野に１つずつ）

選択肢 ＼ 分野	取ったことがある	取りたかったが、取ったことはない	取る希望がなく、取ったことはない	今まで必要となったことがない
A　育児休業 （育児のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4
B　子の看護休暇 （病気等の子どもを看護するための年５日程度の休暇）	1	2	3	4
C　介護休業 （介護のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4
D　介護休暇 （短期の介護のための年５日程度の休暇）	1	2	3	4

【全員にお聞きします。】

問 23　あなたの就業（就職活動などを含む）に新型コロナウイルスの影響は出ていますか。
（○は１つ）

1．とても影響している
2．やや影響している
3．影響は出ていないが、今後は出ると思う
4．影響は出ておらず、今後も出ないと思う
5．わからない

6　女性の社会進出についておたずねします。

問 24　女性が職業（仕事）をもつことについて、どう思いますか。（○は１つ）

1．結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい
2．結婚するまでは、職業（仕事）をもつ方がよい
3．子どもができるまでは、職業（仕事）をもつ方がよい
4．子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
5．女性は職業（仕事）をもたない方がよい
6．その他（　　）
7．わからない

問 25　女性が増える方がよいと思う職業や役職は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．企業の管理職
2．国家公務員、地方公務員の管理職
3．小学校、中学校、高等学校の管理職
4．弁護士、医師などの専門職
5．大学、企業などの研究者
6．自治会、ＰＴＡなどの役員
7．都道府県、市町村の首長
8．国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員
9．その他（　　）
10．特にない
11．わからない

問 26　あなたは、女性が結婚や出産後も離職せず働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1．保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
2．介護支援サービスの充実
3．家事・育児支援サービスの充実
4．男性の家事参加への理解・意識改革
5．女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
6．働き続けることへの女性自身の意識改革
7．男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
8．職場における育児・介護の両立支援制度の充実
9．短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
10．育児や介護による仕事への制約を理由として昇進などへの不利益な取扱いの禁止
11．その他（　　）
12．必要なことは特にない
13．わからない

問 27　出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活動する仕方として、あなたがいいと思うものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．これまでの知識・経験を活かして働けることを重視し、正社員として再就職する
2．仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する
3．これまでの知識・経験を活かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する
4．働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する
5．家事・育児・介護の経験を活かした仕事により地域に貢献する（ヘルパー、保育補助、家事代行）
6．これまでの経験を活かしてボランティアやNPO活動で地域に貢献する（育児・介護ボランティア、PTA、防災・治安パトロール、リサイクル活動など）
7．これまでの経験を活かして企業またはNPOの立上げを行う（小売店経営、ＩＴ企業設立、ボランティア財団設立など）
8．家事以外で活動する必要はない
9．その他（　　）
10．特にない
11．わからない

©清須市

7　DV（ドメスティック・バイオレンス）についておたずねします。

問 28　あなたは、ＤＶに関する次のことについて知っていますか。（あてはまるものすべてに○）

1．配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティックバイオレンス（ＤＶ）」と呼ぶこと
2．ＤＶには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること
3．ＤＶ被害者を支援するために、法律（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）が制定されていること
4．県が設置している配偶者暴力相談支援センターにおいて、相談や被害者の一時保護を行っていること
5．ＤＶを受けている者を発見した者は、配偶者暴力相談支援センターまたは警察に通報するように努めなければならないこと
6．その他（　　）
7．何も知らない

問 29　あなたは、ＤＶについて相談できる窓口があることを知っていますか。（○は１つ）

1．知っている　**➡問 29－１へ**　　2．知らない　**➡問 30 へ**

【問 29 で「1．知っている」と回答された方にお聞きします。】

問 29-1　相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）
2．ウィルあいち（愛知県女性総合センター）
3．清須市の相談窓口
4．警察署
5．民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）
6．法務局、人権擁護委員、法テラス
7．その他（　　）
8．何も知らない

問 30　あなたは、配偶者や恋人から何らかの暴力を受けた経験がありますか。（○は１つ）

1．ある　**➡問 30－１へ**　　2．ない　**➡問 31 へ**

【問 30 で「1．ある」と回答された方にお聞きします。】

問 30-1　暴力を受けた場合に誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
（あてはまるものすべてに○）

1．愛知県の相談窓口（配偶者暴力相談支援センターやウィルあいちなど）
2．清須市の相談窓口
3．警察署
4．民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）
5．法務局、人権擁護委員、法テラス
6．医療関係者（医師、看護師など）　　7．家族や親戚などの身内
8．友人・知人　　9．誰にも相談しなかった　**➡問 30－２へ**
10．その他（　　）

【問 30-1 で「9．誰にも相談しなかった」と回答された方にお聞きします。】

問 30-2　相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから
2．恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3．相談しても無駄と思ったから
4．相談したことがわかると仕返しなどがあるから
5．自分さえがまんすればよいから
6．世間体が悪いと思ったから
7．他人を巻き込みたくなかったから
8．自分にも悪いところがあると思ったから
9．相談するほどのことでもなかったから
10．その他（　　）

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは・・・

身体的暴力（なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど）、精神的暴力（大声で怒鳴る、長期間無視する、ののしる、脅迫するなど）や性的暴力（性行為を強要する、嫌がっているのにポルノ雑誌やビデオを見せる、避妊に協力しない、中絶を強要するなど）、経済的暴力（生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、相談なく無計画な借金を重ねるなど）、社会的暴力（外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックするなど）などの暴力のことをいいます。

8　ハラスメントについておたずねします。

問 31　あなたは、この３年間にハラスメントと思う行為を受けた経験がありますか。
（○は１つ）

１．受けたことがある　**➡問 31－１へ**	２．受けたことはない　**➡問 32 へ**

【問 31 で「１．受けたことがある」と回答された方にお聞きします。】

問 31-1　それはどのようなハラスメントですか。（あてはまるものすべてに○）

１．セクシュアル・ハラスメント（性的な言動による嫌がらせ）
２．パワー・ハラスメント（権力や立場を利用した嫌がらせ）
３．モラル・ハラスメント（言葉や態度などにより人の心を傷つける精神的な嫌がらせ）
４．マタニティ・ハラスメント（妊産婦に対する嫌がらせ）
５．パタニティ・ハラスメント（育児休業・時短勤務を取得する男性への嫌がらせ）
６．その他（　　）

9　性の多様性（ＳＯＧＩＥ）についておたずねします。

問 32　ＳＯＧＩＥという言葉を知っていますか。（○は１つ）

１．言葉を聞いたことがあるが、意味は知らない
２．言葉の意味を知っている
３．知らない
４．その他（　　）

問 33　ＬＧＢＴＱという言葉を知っていますか。（○は１つ）

１．言葉を聞いたことがあるが、意味は知らない
２．言葉の意味を知っている
３．知らない
４．その他（　　）

問 34　性的少数者（ＬＧＢＴＱなど）の人たちが暮らしやすい社会にするために、あなたはどのような意識啓発や支援が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

１．性的少数者の人が相談できる窓口の設置
２．幼少期からの教育の充実
３．行政による啓発講座やパンフレットの配布
４．いじめや差別を禁止する法律や条例の制定
５．パートナーシップ制度※の導入
６．気持ちや情報を共有できる居場所づくり
７．行政職員や教職員に対する研修の実施
８．更衣室やトイレなど男女で区別されているものに対する配慮
９．その他（　　）
10．必要なことは特にない
11．わからない

※パートナーシップ制度とは、自治体が同性カップルにパートナーシップ証明書を発行する制度。この証明書は、事業所などに最大限の配慮を求めるもので、これまで対象外であったサービスなどを受けられるようにするための支援策です。

ＳＯＧＩＥとは・・・

ＳＯＧＥＩとは、性的指向（Sexual Orientation：好きになる性）、性自認（Gender Identity：自分の性別についての認識）、性表現（Gender Expression：服装や髪形、一人称など性別についての表現）のそれぞれのアルファベットの頭文字を組み合わせた「人の属性を表す略称」です。異性愛の人なども含めすべての人が持っている属性のことであり、性の多様性を表す際に使われます。

現在の恋愛感情などの性的な意識が同性や両性に向かう人（同性愛、両性愛）や、性別違和（「体の性」と「心の性」が一致しない）の人、身体的な性別が不明瞭な人などの性的少数者（セクシャルマイノリティ）の方の中には、日常生活で様々な精神的な苦痛や孤独感をはじめとした、生きづらさを感じている方もいます。

また、ＬＧＢＴＱとは、レズビアン（Lesbian：女性同性愛者）、ゲイ(Gay：男性同性愛者)、バイセクシュアル(Bisexual：両性愛者)、トランスジェンダー(Transgender：性同一性障害者などで、心と体の性が一致しない人)、クエスチョニング（Questioning：「自身の性を何と考えるか」や「どんな性を好きになるか」ということが定まっていない、もしくは意図的に定めていない人）の頭文字をとった、性的少数者の総称の一つです。

©清須市

10　男女共同参画全般についておたずねします。

問 35　次にあげる男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1．男女共同参画社会基本法	2．女子差別撤廃条約
3．男女雇用機会均等法	4．ポジティブ・アクション※1
5．ジェンダー※2	6．男女雇用機会均等法
7．ワーク・ライフ・バランス※3	8．清須市男女共同参画プラン
9．見たり聞いたりしたものはない	

※1　ポジティブ・アクション（積極的改善措置）とは、様々な分野において、活動に参画する機会の男女間の格差を改善するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものであり、個々の状況に応じて実施していくもの。
（例：国の審議会等委員への女性の登用のための目標の設定や、女性国家公務員の採用・登用の促進等）

※2　ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）とは、「社会的・文化的に形成された性別」のこと。生まれついての生物学的な性別（Sex：セックス）のほかに、社会によってつくり上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（Gender：ジェンダー）という。

※3　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは、仕事と家庭生活、地域生活との調和（バランス）が取れて、誰もが生き生きと生活している状態を指す。

問 36　この 10 年間で家庭、職場、地域のそれぞれの場において、あなたは男女共同参画が進んだと思いますか。A～C それぞれの分野についてお答えください。
（○はそれぞれの分野に 1 つずつ）

選択肢 ＼ 分野	進んだと思う	やや進んだと思う	あまり進んだと思わない	進んだと思わない	わからない
A　家庭	1	2	3	4	5
B　職場	1	2	3	4	5
C　地域	1	2	3	4	5

問 37　今後、あなたが男女共同参画推進のために取り組めることは何だと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．男性が育児・介護休業制度を利用することに理解を示す
2．女性が働くことを応援する
3．子どものうちから男女共同参画意識を育てる
4．様々な人の個性や生き方を認める
5．育児・介護休業制度などの制度を利用する
6．育児・介護休業制度などの制度利用を他者に勧める
7．家事・育児を積極的に行う
8．市民一人ひとりが取り組めることはないと思う
9．その他（　　）
10．特にない
11．わからない

問 38　あなたは、男女共同参画社会を実現するために、今後、企業はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1．仕事と家庭を両立するための制度（育児・介護休業制度など）を整備・充実する
2．仕事と家庭を両立するための制度（育児・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる
3．テレワークやフレックスタイム※など、柔軟な働き方を取り入れる
4．超過勤務削減などワーク・ライフ・バランスを促進させる取り組み
5．事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する
6．子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職をすすめる
7．転勤先の希望を考慮するなどの転勤時の配慮や転勤時の夫婦帯同を認めること
8．研修や能力開発の機会を充実する
9．管理職に女性を積極的に登用する
10．賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす
11．男性に対する女性の活躍の必要性についての理解促進
12．ハラスメント防止など職場環境の整備
13．その他（　　）
14．特にない
15．わからない

※フレックスタイムとは、労働者が日々の始業・就業時刻を自身で決定して働くことができる制度で、労働者が仕事とプライベートのバランスを取りながら、充実感を持って働けるようにすることを目的としています。

問 39　あなたは、男女共同参画社会を実現するために、今後、清須市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（○は３つまで）

1．審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する
2．企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する
3．学校において男女平等教育を浸透させる
4．子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る
5．職場における男女平等について企業などに働きかける
6．子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する
7．子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
8．労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
9．女性の能力開発や人材育成などの講座を充実する
10．男性の家事・育児・介護などへの参加を進めるための講座や啓発を充実する
11．男女共同参画に関する情報提供や相談などの場を充実する
12．広報紙やホームページなどで男女共同参画に関するＰＲを行う
13．男女共同参画条例を制定する
14．男女共同センターの設置など、男女共同参画の活動拠点を充実する
15．その他（　　）
16．特にない
17．わからない

問 40　男女共同参画についてご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力いただき、ありがとうございました。
この調査票を同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、
7月 16 日（金）までに郵便ポストに投函してください。

清須市

男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書

発行日：令和３年10月
発　行：清須市教育委員会事務局　教育部生涯学習課
住　所：〒452-8569　愛知県清須市須ケ口1238番地
ＴＥＬ：052-400-2911（代表）
ＦＡＸ：052-400-2963
ＵＲＬ：https://www.city.kiyosu.aichi.jp/